



# Citrix Analytics for Performance

Machine translated content

## Disclaimer

このコンテンツの正式なバージョンは英語で提供されています。Cloud Software Group ドキュメントのコンテンツの一部は、お客様の利便性のみを目的として機械翻訳されています。Cloud Software Group は機械翻訳されたコンテンツを管理していないため、誤り、不正確な情報、不適切な用語が含まれる場合があります。英語の原文から他言語への翻訳について、精度、信頼性、適合性、正確性、またはお使用の Cloud Software Group 製品またはサービスと機械翻訳されたコンテンツとの整合性に関する保証、該当するライセンス契約書またはサービス利用規約、あるいは Cloud Software Group とのその他すべての契約に基づき提供される保証、および製品またはサービスのドキュメントとの一致に関する保証は、明示的か黙示的かを問わず、かかるドキュメントの機械翻訳された範囲には適用されないものとします。機械翻訳されたコンテンツの使用に起因する損害または問題について、Cloud Software Group は責任を負わないものとします。

## Contents

新機能	3
既知の問題	51
データソース	51
パフォーマンス向上のための <b>Citrix Analytics</b> を使用したオンプレミスの <b>Citrix Virtual Apps and Desktops</b> サイトの構成	56
データガバナンス	62
オブザーバビリティプラットフォームへのデータエクスポート (プレビュー)	93
<b>Splunk</b> と <b>Citrix Analytics</b> の統合によるパフォーマンスの向上	96
<b>Elasticsearch</b> インテグレーション	105
<b>Grafana</b> 統合	114
セッションイベントのデータ構造	120
マシンイベントのデータ構造	133
<b>REST API</b> によるデータエクスポート (プレビュー)	138
<b>Citrix Analytics ODATA API</b>	138
ユーザーイベントのデータ構造	148
セッションイベントのデータ構造	152
マシンイベントのデータ構造	158
<b>Citrix</b> パフォーマンス分析のための <b>Power BI</b> 統合	161
制限	168
パフォーマンス分析の管理者ロールを管理する	169
ユーザーエクスペリエンス分析	170
ユーザーエクスペリエンススコア	181
ユーザーエクスペリエンス ( <b>UX</b> ) の要因	184

インフラストラクチャ分析	194
コネクタ統計	199
セッション詳細	202
マシン統計	206
該当なしまたは分類されていないメトリック	218
セルフサービス検索	229
セルフサービス検索によるパフォーマンス	246
識見	268
アラート	281
カスタムレポート (プレビュー)	302
<b>Citrix Analytics</b> オファリング	<b>308</b>

## 新機能

February 14, 2024

Citrix の目標は、新機能と製品のアップデートを、利用可能なときに顧客に配信することです。新しいリリースでは、より便利な機能をご利用いただけます。今すぐ更新してください。

このプロセスは、お客様向けのわかりやすいものになっています。最初の更新は、Citrix 内部サイトのみに適用され、その後徐々にお客様の環境に適用されます。更新を段階的に提供することで、製品の品質を確保し、可用性を最大化できます。

このドキュメントに記載されている更新が公開中で、すべてのお客様が同時にアクセスできるわけではない可能性があります。

Citrix Analytics for Performance で導入された新機能により、Citrix Virtual Apps and Desktops のオンプレミスサイトおよびクラウド上の Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) サイトでのユーザーエクスペリエンスに影響するパフォーマンスパラメータについてインサイトを提供します。

**2023 年 12 月 28 日**

### CSV 形式でのカスタムレポートのエクスポート

未加工データを PDF 形式とは別に CSV 形式の添付ファイルとしてカスタムレポートの電子メールにエクスポートできるようになりました。

セッションとマシンのさまざまなレポートを作成し、カスタムレポート (プレビュー) タブから未加工データをダウンロードできます。レポートは PDF、CSV、またはその両方の形式でダウンロードできます。

この機能により、関係者は Citrix Analytics for Performance に直接アクセスしなくても、生データに定期的にアクセスできます。詳細については、「[カスタムレポート](#)」を参照してください。

### ハイブリッドモードで起動された **Windows** バージョン **2311** セッション向け **Citrix Workspace** アプリのエンドポイントネットワークテレメトリ

Citrix Analytics for Performance は、ハイブリッドモードで起動された仮想アプリおよびデスクトップセッションの主要なエンドポイントネットワークテレメトリへの可視性を拡張しました。エンドポイントネットワークテレメトリは、Windows バージョン 2311 以降の Citrix Workspace アプリからのセッションで Citrix Analytics for Performance で使用できます。使用可能なエンドポイントネットワークテレメトリには、ネットワークインターフェースタイプ (イーサネット/WiFi)、エンドポイントリンク速度、エンドポイントスループット (受信と発信)、および WiFi 信号強度があります。

Web ブラウザー向け Citrix Workspace アプリから Citrix Workspace アプリにログオンし、ネイティブの Citrix Workspace アプリからアプリケーションまたはデスクトップを起動すると、仮想セッションはハイブリッドモードで起動されると言われます。

利用可能な指標の詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

## 2023年12月19日

ハイブリッドモードで起動された **Linux** バージョン **2311** セッション向け **Citrix Workspace** アプリのエンドポイントネットワークテレメトリ

Citrix Analytics for Performance は、ハイブリッドモードで起動された仮想アプリおよびデスクトップセッションの主要なエンドポイントネットワークテレメトリへの可視性を拡張しました。エンドポイントネットワークテレメトリは、Linux バージョン 2311 以降の Citrix Workspace アプリからのセッションで Citrix Analytics for Performance で使用できます。使用可能なエンドポイントネットワークテレメトリには、ネットワークインターフェースタイプ (イーサネット/WiFi)、エンドポイントリンク速度、エンドポイントスループット (受信と発信)、および WiFi 信号強度があります。

Web ブラウザー向け Citrix Workspace アプリから Citrix Workspace アプリにログオンし、ネイティブの Citrix Workspace アプリからアプリケーションまたはデスクトップを起動すると、仮想セッションはハイブリッドモードで起動されると言われます。

利用可能な指標の詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

## 2023年12月12日

ユーザーとマシンの簡易検索

ユーザー名またはマシン名をそれぞれ使用して、過去 1 週間にアクティブだったセッションまたはマシンをダッシュボードから検索できるようになりました。ユーザーエクスペリエンスダッシュボードとインフラストラクチャーダッシュボードの上部ナビゲーションバーに、このための新しい検索ボックスが追加されました。このシンプルな検索機能により、ユーザーまたはマシンに関連する情報を簡単に発見し、問題の優先順位を判断できます。セルフサービスビューでの既存の検索では、検索結果を細かく絞り込むフィルターを備えた高度な検索機能が引き続き提供されます。

マシン統計表示の強化

これで、選択した期間にマシン上で正常に実行されたセッションを、マシン統計ビューから表示できるようになりました。[マシン統計] > [セッション] タブに [合計セッション数] フィールドが追加されました。合計セッション数をクリックすると、セッションセルフサービスビューが開き、対応するセッションセットが表示されます。セッションの詳細ビューからセッションメトリックをさらに掘り下げて調べることができます。

また、セッション障害番号、セッション障害を表示するグラフのバー、および分類されたセッション数をクリックして、セッションを表示できるようになりました。この機能により、マシン統計には、マシンとマシン上で実行されているセッションに関連する問題の優先順位付けと修正に必要なすべてのマシン関連メトリックが包括的に表示されます。詳細については、「[マシンの統計](#)」を参照してください。

**2023年11月15日**

セッションセルフサービスビューに表示されるセッション状態に関連するメトリック

セッションセルフサービスビュー> データテーブルビューの行を展開すると、対応するセッションメトリックが表示されます。これで、セッション状態に関連するメトリックのみが表示されます。選択した時間間隔中にセッションが切断状態だった場合、切断されたセッションには適用されない応答性と帯域幅に関連するセッションメトリックは表示されません。失敗したセッションでは、失敗の理由とタイプが表示され、セッションが失敗した理由を判断しやすくなります。セッション状態に関係のないテーブルに追加された列は、すべて「-」として表示されます。

この機能により、表示されるセッションメトリックがセッション状態に関連していることが保証されます。詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

**2023年10月26日**

セッションセルフサービスビューの追加指標

セッション関連の問題の優先順位付けをサポートするために、セッションベースのセルフサービスビューのオプション列として、次のセッションおよび障害関連のメタデータがオプション列として使用できるようになりました。これにより、個々のセッションレベルでの障害の詳細をより詳細に把握できます。

- 障害タイプ—以下の値の中からセッション障害の種類を示します：
- 障害の理由—障害の正確な理由を示します。[Citrix Directorの「障害の理由とトラブルシューティング」の該当する推奨手順を使用して、障害を解決できます。](#)
- セッションタイプ—セッションがアプリケーションセッションかデスクトップセッションかを示します。
- セッション状態—セッションの状態を示します。
- セッション終了時刻—セッションが終了した時刻を示します。

これらの追加列を使用してビューをフィルタリングできます。列の値はエクスポートレポートに含まれ、セッションベースのカスタムレポートの作成時にディメンションパラメータとして使用できます。

障害メトリクスは、セッション障害の原因と失敗を解決するための推奨手順を理解するのに役立ちます。この機能は、ダッシュボードの失敗したセッション数から、セッションセルフサービスビューでフィルタリングされた失敗したセッションセットに移動する場合に特に役立ちます。詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

セッションスコアやその他のセッションメトリックの精度が向上しました

セッション詳細ビューのセッションスコアおよびその他のセッションパフォーマンスとファクターのメトリックチャートでは、セッションの切断時間が考慮されるようになりました。この考慮事項により、全体的なセッションスコアと関連するメトリックがセッションのパフォーマンスを正確に表すことができます。セッション切断間隔は、すべてのグラフとツールチップに表示されます。詳細については、「[セッションの詳細](#)」の記事を参照してください。

**2023 年 9 月 25 日**

#### アラートパラメータのカスタマイズ

Citrix Analytics for Performance では、アラートパラメータをカスタマイズできるようになりました。

アラートポリシーは、デフォルトのパラメータ値で事前に構築されています。アラートパラメータを変更するには、アラートポリシー名をクリックして [ **Modify Alert** ] ウィンドウを開き、リストされているパラメータの値を環境に合わせて変更します。それ以降のアラート通知は、カスタム条件に基づいて生成されます。

アラートパラメーターを更新すると、UX ダッシュボード上の対応するインサイトの計算も変更されます。

再アラートがサポートされているアラートでは、再アラート設定を制御することもできます。再アラートプリファレンスが「有効」に設定されていて、再アラートプリファレンスで指定された条件が維持されている場合、アラート通知は再送信されます。

カスタマイズされたアラートは、環境との関連性が高く、異常を簡単に特定するのに役立ち、プロアクティブな監視の信頼性が高くなります。

詳細については、「[アラート](#)」を参照してください。

**2023 年 9 月 14 日**

#### Linux 向け **Citrix Workspace** アプリからのエンドポイントメトリックのサポート

Citrix Analytics for Performance は、ネイティブモードで起動された Linux バージョン 2308 以降向けの Citrix Workspace アプリからのエンドポイントメトリックの可用性をサポートするようになりました。Linux 向け Citrix Workspace アプリからのエンドポイントリンク速度、エンドポイントスループット受信、エンドポイントスループット送信と WiFi 信号強度、エンドポイントスループット受信、エンドポイントスループット送信などのメトリックを確認できます。

詳しくは、[Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックス](#)を参照してください。

**2023 年 9 月 5 日**

#### 新しいカスタムレポートテンプレート

ユーザーとマシンのデータソースに基づく 2 つの新しいカスタムレポートテンプレートが、Citrix Analytics for Performance で利用できるようになりました。新しいテンプレートには、[ **レポート (プレビュー)** ] タブからアクセスできます。

- 過去 **7** 日間のユーザーエクスペリエンスカテゴリトレンドテンプレートは、ユーザーデータソースに基づいています。このテンプレートに基づくカスタムレポートには、過去 7 日間のユーザーエクスペリエンススコアに基づく「優秀」、「普通」、「不良」のユーザーの傾向が含まれます。

- 過去 7 日間のマシン状態トレンドテンプレートは、マシンデータソースに基づいています。このテンプレートに基づくカスタムレポートには、過去 7 日間のマシンの状態 (使用可能、アクティブ、メンテナンス、未登録、失敗) に基づくマシンの傾向が含まれます。

また、プロットパラメータとして選択できるメトリクスを選択肢も広がりました。テンプレートを使用してカスタムレポートを作成する方法の詳細については、「[カスタムレポート](#)」を参照してください。

#### デリバリーグループをアラートの受信から除外

アラート通知の受信から除外するデリバリーグループを指定できるようになりました。未使用のデリバリーグループまたはテスト目的で作成されたデリバリーグループをアラートプロセスから削除できます。この機能は、アラートの疲労を軽減し、アラートの関連性を高めるのに役立ちます。詳細については、「[アラート](#)」を参照してください。

## 2023 年 8 月 31 日

#### 異常セッションによりベースラインインサイトとアラートが切断される

異常なセッション切断の回数とベースライン値からの偏差を示すためにベースラインインサイトが導入されました。ユーザー固有のベースライン値は、過去 30 日間に測定されたセッション切断の P80 カウントを使用して計算されます。詳細については、「[インサイト](#)」を参照してください。

セッション切断の回数を追跡するために、「異常なセッション切断」の既成アラートポリシーが導入されました。セッション切断数がベースライン値を 30% 以上超え、セッションの 5% 以上が切断の影響を受けている場合、設定されたチャンネルを使用してアラート通知が送信されます。詳細については、「[アラート](#)」を参照してください。

#### ベースラインインサイトに基づく新しいアラートポリシー

既存のベースラインインサイトに基づくすぐに使える新しいアラートポリシーが、次のものに対して定義されるようになりました:

- ログオン時間が短いセッション
- 応答性が低いセッション
- セッション障害

アラートは、影響を受けるセッションの数が 30 日間のベースライン値を 30% 以上上回り、セッションの 5% 以上がこの増加の影響を受けた場合に生成されます。アラートは、他の Performance Analytics アラートと同様に、メールまたは Webhook で通知されるように設定できます。アラートポリシーは [アラートポリシー] タブにあります。詳細については、「[アラート](#)」を参照してください。



2023 年 8 月 18 日

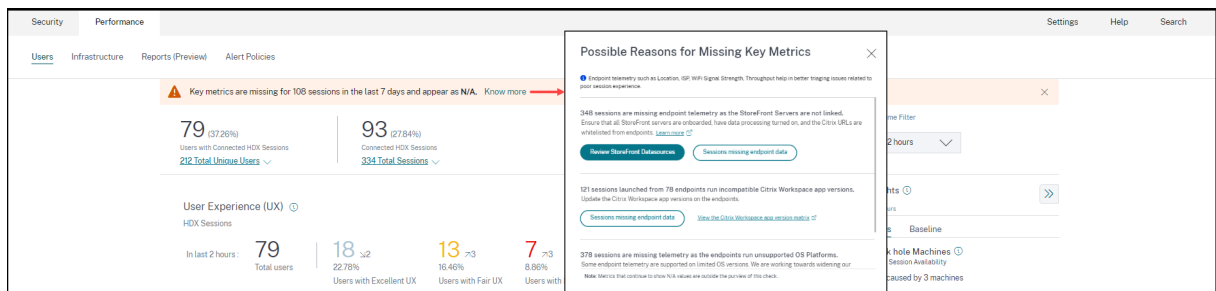
エンドポイントメトリクスが欠落している理由を確認

Citrix Virtual Apps and Desktops 環境を最適に分析するには、データの可用性が重要です。ロケーション、ISP、WiFi 強度、スループットなどのエンドポイントメトリックは、セッションエクスペリエンスの低下を優先順位付けするのに役立つ重要な指標です。適切な前提条件が満たされていないと、エンドポイントのメトリック値が欠落する可能性があります。

この機能により、エンドポイントのメトリクスが N/A 値になってしまう問題を簡単に特定し、適切なアクションを提案できます。

ダッシュボードからのドリルダウン ユーザーエクスペリエンスダッシュボードには、過去 7 日間にエンドポイントメトリクスが利用できなかったセッションの数を表示するバナーが含まれています。

「**Know more**」をクリックすると、セッションにエンドポイントメトリックがない主な理由、過去 7 日間に各理由で影響を受けたセッション数、およびそれらを修正するために実行できるアクションを含むモーダルボックスが表示されます。



- エンドポイントテレメトリが欠落する主な理由の 1 つは、StoreFront のオンボーディングです。StoreFront を正しくオンボーディングし、データ処理を有効にし、適切な URL を許可リストに登録する必要があります。[**StoreFront** データソースの確認] をクリックすると、[データソース] ページが表示されます。このページでは、Workspace アプリのデータ収集に必要な StoreFront のオンボーディングプロセスを実行できます。Citrix Workspace を使用している場合、サービスは自動的に検出され、オンボーディングは不要です。
- エンドポイントテレメトリは、サポートされていない OS プラットフォームまたは互換性のない Citrix Workspace アプリバージョンを実行しているエンドポイントから起動されたセッションでは使用できません。「セッション欠落エンドポイントデータ」をクリックすると、セッションセルフサービスビューが開き、特定の理由によりエンドポイントテレメトリが欠落しているセッションのリストが表示されます。詳細については、[各機能の OS バージョンと、サポートされている Workspace アプリの必須バージョンを一覧表示するバージョンマトリクスを参照してください](#)。

詳細については、「[未分類](#)」の記事を参照してください。

セッションセルフサービスビューのツールチップ N/A 値の理由を詳しく説明するツールチップが、次のエンドポイント関連メトリックのセッションセルフサービスビューで利用できるようになりました：

- Workspace App バージョン
- エンドポイントの国 (最後に確認された国)
- エンドポイントシティ (最後に知られたもの)
- エンドポイントのリンク速度 (P95)
- エンドポイント受信スループット (P95)
- エンドポイントスループット発信 (P95)
- ISP (インターネットサービスプロバイダー)

ツールチップは、StoreFront のオンボーディングが正しくない、サポートされていない OS プラットフォームを実行しているエンドポイントから起動されたセッション、または互換性のない Citrix Workspace アプリバージョンを実行するエンドポイントから起動されたセッションなどの理由とともに、これらのメトリックの N/A 値に表示されます。

この機能は、N/A 値の理由を把握して、必要なアクションを実行できるようにするのに役立ちます。セッションセルフサービスビューで利用できるメトリックの詳細については、「[セッションのセルフサービスビュー](#)」を参照してください。

**2023 年 8 月 1 日**

アラート情報をメーラーの **CSV** 添付ファイル

ブラックホールマシン、オーバーロードマシン、およびゾンビセッションのアラートメールに、影響を受けるマシンとセッションに関する情報を含む CSV ファイルが添付されるようになりました。

添付ファイルには次のデータが含まれます。

- マシン名
- サイト ID
- カタログ名
- デリバリーグループ名
- 障害数 (該当する場合、障害が発生したマシンまたはセッションの数)。

アラートメーラーの CSV 添付ファイルを使用すると、Citrix Analytics for Performance にログオンしなくても、障害が発生しているマシンやセッションを特定できます。これにより、チケットを作成して問題の迅速な解決を担当する利害関係者に転送するための自動化パイプラインを確立できます。この機能はコミュニケーションと効率の向上に役立ち、仮想アプリとデスクトップ環境をプロアクティブに監視するための次のステップです。

利用可能なアラートの詳細については、「[アラート](#)」を参照してください。

## 2023年6月6日

### 管理者以外の **Citrix Cloud** アカウントのアラートメール通知

Citrix Cloud アカウントへの管理者アクセス権を持たない利害関係者への Citrix Analytics for Performance アラートメール通知を有効にできるようになりました。これにより、Citrix Cloud アカウントを持たない組織のセキュリティチームや監査チームのメンバーもアラート通知を受け取ることができます。

今回の更新により、アラート状態を軽減するための措置を講じた管理者がアラート通知を利用できるようになります。これにより、問題を迅速に解決し、仮想アプリケーションとデスクトップ環境の最適なパフォーマンスを確保できます。詳細については、[メール配布リストを参照してください](#)。

Citrix Analytics for Performance からのアラートについて詳しくは、「[アラート](#)」を参照してください。

## 2023年6月5日

### セッションセルフサービスビューのユーザー数

セッションセルフサービスビューのビジュアルサマリーに、ユーザー数とセッション数が表示されるようになりました。この機能により、インシデントや特定の問題が原因で影響を受けたユーザー数の概要を簡単に確認できます。また、特定のクエリのユニークユーザー数を把握するのにも役立ちます。詳しくは、「[セッションのセルフサービス](#)」の記事を参照してください。

## 2023年5月22日

### コネクタゲートウェイの **PoP** 遅延

コネクタ-ゲートウェイの PoP 遅延が [コネクタ統計] ページに表示されるようになりました。値は、仮想アプリおよびデスクトップ環境で使用可能な Gateway POP について計算された合成レイテンシの P95 値を表します。

この情報は、最適なセッションエクスペリエンスを実現するために最も近いゲートウェイ PoP を選択して設定するのに役立ちます。詳細については、「[コネクタ統計](#)」を参照してください。

コネクタ-ゲートウェイの PoP 遅延は、オプション列としてセッションセルフサービスビューでも表示できます。[セッションセルフサービスビューに表示されるメトリックの詳細については、「セッションセルフサービス」の記事を参照してください](#)。

## 2023年5月16日

### ブラックホールマシンインサイトで検出されたパターン

環境内の一部のマシンは、登録されていて正常であるように見えますが、そのマシンに仲介されたセッションにサービスを提供できず、障害が発生する場合があります。4回以上連続してセッション要求を処理できなかったマシンは、

ブラックホールマシンと呼ばれます。ブラックホールマシンのインサイトには、選択した期間中に環境内で特定されたブラックホールマシンの数が表示されます。

これで、デリバリーグループ、シングル OS およびマルチ OS セッションマシンに関して検出された上位の障害パターンが、ブラックホールマシンのインサイトパネルとアラートメールに表示されるようになりました。これらのパターンは、この問題が発生している特定のユーザーコホートが存在するかどうかを見極めるのに役立ちます。コホートが分散しているためにシステムがパターンを強調できない場合は、ドリルダウンして自己分析することをお勧めします。

詳細については、「[診断インサイト: ブラックホールマシン](#)」および「[ブラックホールマシンのアラート](#)」を参照してください。

### ユーザー固有のベースライン値に基づく異常遅延アラート

**Sessions with Anomalous** のレイテンシーアラートは、機械学習モデルに基づいて特定の顧客のすべてのデリバリーグループとロケーションのペアのレイテンシー値を決定していましたが、ユーザーレベルのベースラインレイテンシー値を使用するように再開されました。ユーザー固有のベースラインは、過去 30 日間に測定された P95 ICARTT 値を使用して計算されます。

セッション中の応答性が悪いという不満は、ほとんどのユーザーによく見られるセッションエクスペリエンスの低下です。異常レイテンシーのプロアクティブアラートは、管理者が自身の 30 日間のベースラインレイテンシーからずれているユーザーのみを特定するのに役立ちます。ユーザー固有のベースラインを設定することで、固定的なしきい値に照らし合わせてチェックする場合と比較して、有意義な比較と適切なアラートが可能になります。

Performance Analytics からの異常遅延アラート通知を、電子メールで受け取るだけでなく、優先する Webhook リスナーに公開できるようになりました。

詳細については、「[アラート](#)」の記事を参照してください。

## 2023 年 4 月 28 日

### データアベイラビリティ

パフォーマンス分析の精度は、エンドポイント、マシン、ゲートウェイ、Delivery Controller などのさまざまなサイトインフラストラクチャから収集されたデータに依存します。必要な指標を十分に活用することで、Performance Analytics によって提供されるデータや洞察が、サイトの実際のパフォーマンスを正確に表していることを確認できます。

データ可用性機能は、エンドポイントのパフォーマンスを監視するのに必要なデータがないセッションを特定するのに役立ちます。エンドポイント固有の問題を分析するために重要な、エンドポイントのリンク速度、ロケーション、スループット、ISP、ネットワークインターフェースタイプ、OS、エンドポイントのレシーバーバージョンなどのエンドポイントメトリクス。

エンドポイントのメトリックでは、StoreFront /Citrix Workspace が正しくオンボードされていること、およびエンドポイントにインストールされている Citrix Workspace アプリのバージョンが正しいことが必要です。ユーザーエクスペリエンス (UX) ダッシュボードのデータ可用性アイコンをクリックすると、過去 7 日間にエンドポイントメトリックがないすべてのオンボーディングサイトのセッション数が表示されます。セッション番号をクリックすると、セッションを一覧表示するセッションセルフサービスビューが開きます。

データ可用性を向上させるには:

- 対応する StoreFront/Citrix Workspace が、「[StoreFront を使用した Citrix Virtual Apps and Desktops のオンプレミスサイトのオンプレミスサイトへのオンボーディング](#)」の説明に従って正しくオンボーディングされているかどうかを確認します。
- Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックスに従って、[エンドポイントがエンドポイントネットワーク統計機能に適した Citrix Workspace アプリバージョンにあるかどうかを確認してください](#)。

詳細については、「[パフォーマンス分析](#)」の記事を参照してください。

### エンドポイント IP と名前

エンドポイント IP と名前は、セッションセルフサービスビューの列として追加されます。これにより、クライアント側ネットワークの可視性が高まります。詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

**2023 年 4 月 13 日**

### **Citrix Analytics for Performance と Splunk オブザーバビリティプラットフォームの統合 (プレビュー)**

Citrix Analytics for Performance が Splunk Observability プラットフォームと統合されました。データエクスポート機能を使用して、パフォーマンスデータやイベントを **Citrix Analytics for Performance** から Splunk にエクスポートできます。

オブザーバビリティプラットフォーム上の Citrix Analytics for Performance サービスにオンボーディングされたすべてのオンプレミスの Citrix Virtual Apps and Desktops サイトと DaaS クラウドサービスのパフォーマンスメトリックを全体的に把握できます。さらに、Citrix Analytics for Performance データのパフォーマンスメトリックを、Splunk インスタンス内で接続された外部データソースと組み合わせて関連付けることができます。

定期的にダッシュボードやレポートを作成して、仮想アプリやデスクトップサイトのパフォーマンスに関する実用的なビジネスインサイトを引き出すことができます。

詳細については、「[データエクスポート](#)」の記事を参照してください。

この機能を利用するには、[このフォームを使用してテクニカルプレビューにサインアップして登録してください](#)。

**2023年4月4日**

#### **Citrix Cloud** 管理者グループのカスタムロールサポート

Azure AActive Directory 内の Citrix Cloud 管理者グループに、Citrix Analytics for Performance にアクセスするためのカスタムロールを割り当てることができるようになりました。管理者グループは、Citrix Cloud で [ID とアクセス管理] > [管理者] を使用して構成する必要があります。詳しくは、「[ID およびアクセス管理](#)」を参照してください。

この統合により、管理者ユーザーとグループのサービスアクセス権限を効率的に管理できます。

役割の管理の詳細については、「[パフォーマンス分析の管理者役割の管理](#)」を参照してください。

**2023年2月20日**

#### **10万台のマシンをサポート**

Citrix Analytics for Performance が 10万台のマシンをサポートするように最適化されました。Citrix Analytics for Performance の推奨構成と使用制限については、「[制限](#)」の記事を参照してください。

**2023年2月1日**

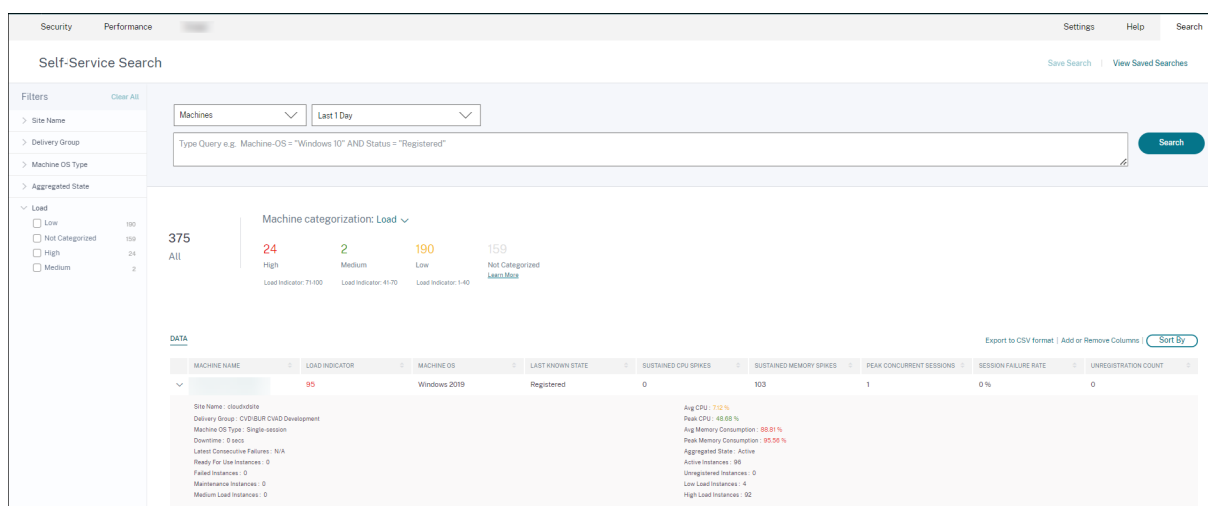
#### **ISP、エンドポイントのリンク速度、エンドポイントの位置の可視性**

セッションの詳細ページには、ISP、エンドポイントのリンク速度、およびエンドポイントの位置情報が表示されるようになりました。これらの追加セッション属性は、トリアージを容易にします。この機能は、ヘルプデスク管理者が Director から Citrix Analytics for Performance にアクセスしてセッション関連の問題のトラブルシューティングを行う場合に役立ちます。すべてのセッション属性の詳細については、「[セッション詳細](#)」の記事を参照してください。

**2023年1月23日**

#### マシンセルフサービスビューのマシン負荷インジケータ

負荷インジケータに基づくマシン負荷メトリックは、マシンセルフサービスビューに追加されます。これらのメトリックは、CPU 使用率、メモリ使用率、マシン上のセッション数などの複数のマシンパラメータにドリルダウンしなくても、マシンの負荷をすばやくチェックするのに役立ちます。



1. マシンのセルフサービスビューに、マシンの負荷インジケータに基づくマシン分類が表示されるようになりました。マシンの負荷インジケータは、リソース使用率、マシン上の全体的なユーザーエクスペリエンス、およびマルチセッション OS マシンの場合にホストされるセッション数に基づいて計算されます。値は、選択した期間にわたって集計されます。

マシンセルフサービスビューで、マシン分類ドロップダウンから「ロード」を選択します。マシンは次のように分類されます。

- 高 (赤)-負荷インジケータが 71~100 の範囲のマシン
- 中 (緑) —負荷インジケータが 41-70 の範囲のマシン
- 低 (黄) —負荷インジケータが 1~40 の範囲にあるマシン。
- 未分類-マシンがシャットダウン、未登録、または障害状態にある場合、またはマシンでリソースデータを使用できない場合、マシンが分類されない場合があります。

2. [高]、[中]、[低]、[未分類] のオプションを含む負荷ファセットは、マシンをフィルタリングしてさらに分析するのに役立ちます。
3. マシンのセルフサービスビューには、マシンの負荷スコアを示す負荷インジケータ列があります。マシン行を拡張する際に使用可能なマシンパフォーマンスパラメータに、選択した期間の高負荷、中負荷、低負荷インスタンスの数が表示されるようになりました。これにより、特定のマシンの負荷を定量化および評価できます。

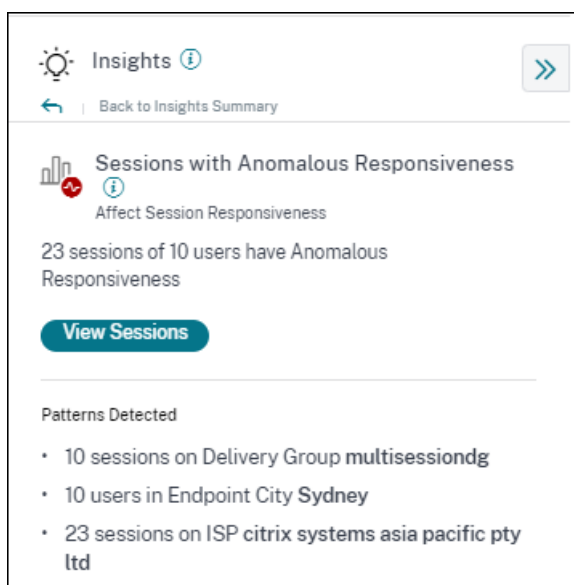
この機能は、使用率が低いマシンや過負荷になっているマシンを特定するのに役立ちます。これにより、インフラストラクチャを最適に使用し、マシン全体のパフォーマンスを向上させるための積極的なアクションがさらに可能になります。詳細については、[セルフサービスの記事を参照してください](#)。

## 2023 年 1 月 2 日

応答性が異常なセッションに関するベースラインインサイト

異常応答性があるセッションのベースラインインサイトには、ユーザーのベースライン ICARTT よりも高い ICARTT 値が記録されたセッションの数が表示されます。ユーザー固有のベースラインは、過去 30 日間に測定された P95

ICARTT 値を使用して計算されます。応答性が異常なセッションは、セッションの現在の ICARTT 測定値をユーザー固有のベースラインと比較することで検出されます。



このインサイトは、以前のユーザー体験と比較してセッション中のエクスペリエンスが悪いユーザーをすばやく特定するのに役立ちます。この機能は、環境を積極的に監視し、セッションパフォーマンスに関連する問題を迅速にトラブルシューティングするのに役立ちます。

詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

### 2022 年 12 月 14 日

#### カスタムレポート (プレビュー)

Citrix Analytics for Performance のパフォーマンス指標を使用してカスタムレポートを作成およびスケジュールできるようになりました。カスタムレポートを使用すると、特定の関心のある情報を抽出し、データをグラフィカルに整理できます。エグゼクティブレポートを定期的に作成し、環境のパフォーマンスを経時的に分析するのに役立ちます。詳細については、「[カスタムレポート](#)」を参照してください。

### 2022 年 11 月 18 日

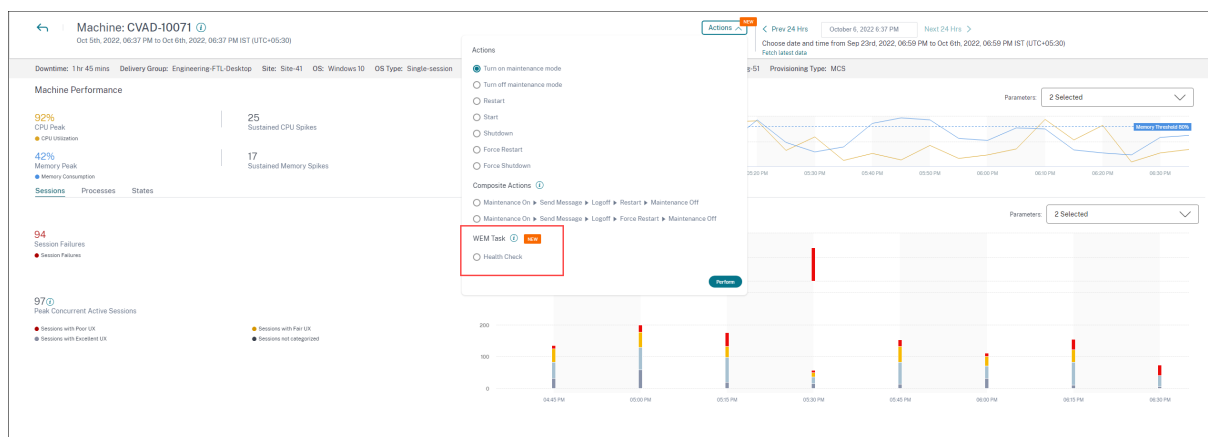
#### マシンカタログ、ハイパーバイザー、**Provisioning** タイプの可視性

マシン統計ページには、マシンの主要なパラメータの一部として、マシンのハイパーバイザー名、カタログ名、Provisioning タイプが表示されるようになりました。このデータは、マシンのパフォーマンスに関連する問題の優先順位付けに役立ちます。具体的には、このデータは、ハイパーバイザー、カタログ、または Provisioning タイプの属性を使用して、パフォーマンスの問題がある可能性のある類似のマシンを見つけるのに役立ちます。詳細については、「[マシンの統計](#)」を参照してください。



**2022 年 10 月 13 日****WEM** ヘルスチェック

パフォーマンス分析からマシンのヘルスチェックを実行できるようになりました。Workspace Environment Management (WEM) は、デスクトップを最適化して最高のユーザーエクスペリエンスを実現するのに役立つユーザー環境管理ツールです。マシン統計ページに導入された新しい WEM タスクヘルスチェックアクションは、WEM スクリプトを実行してマシンのステータスに関する情報を取得するのに役立ちます。



これにより、WEM ターミナルに行かなくても、一般的なマシンの問題を簡単に根本的に引き起こすことができます。

WEM ヘルスチェックの詳細なレポートと、それらを修正するために実行できるアクションも提供されています。

WEM アクションは、WEM へのフルアクセスと有効な権限を持つクラウド管理者だけが利用できます。

パフォーマンス分析での WEM タスクヘルスチェックアクションの使用方法的詳細については、[WEM タスクヘルスチェックを参照してください](#)。

WEM タスクヘルスチェックの詳細については、Workspace Environment Management [ドキュメントのスクリプト記事](#)を参照してください。

**2022 年 10 月 11 日**

## プロセス可視性の向上

シングルセッション OS マシンで実行されているプロセスは、マルチセッション OS マシンで実行されているプロセスとともに、マシン統計ビューの「プロセス」タブにも表示されるようになりました。この機能は、クラウド環境とオンプレミス環境で実行されているマシンで使用できます。

[プロセス] タブには、リソースを大量に消費するプロセスが最大 10 個表示されます。

選択した期間中にメモリや CPU の急上昇がない場合でも、リソースを最も消費しているプロセスが表示されます。

この機能を使用するには、シングルセッション OS マシンとマルチセッション OS マシンの両方で Citrix **Studio** のプロセス監視ポリシーを有効にする必要があります。このポリシーは、デフォルトでは無効になっています。マシン

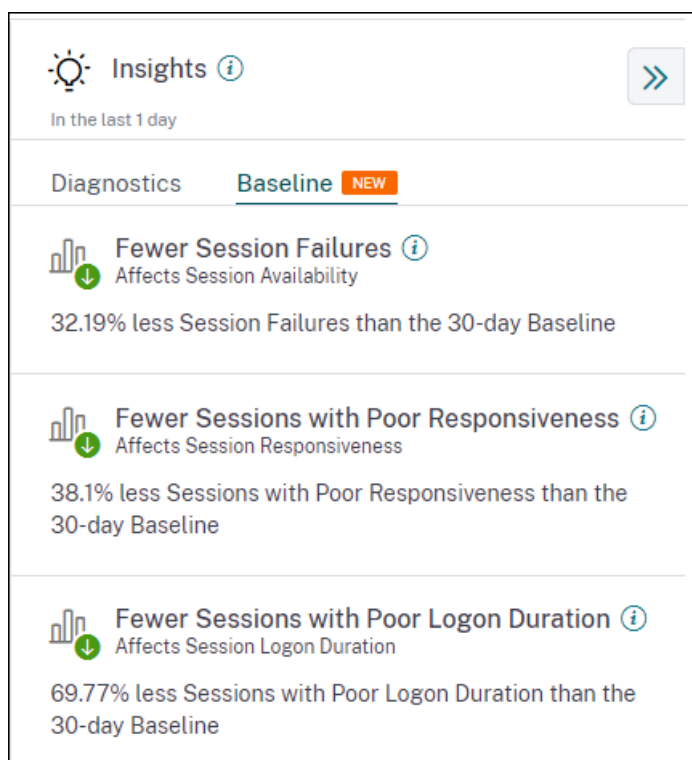
で実行されているプロセスを表示するには、明示的に有効にする必要があります。詳細については、「[マシンの統計](#)」を参照してください。

**2022年9月30日**

ベースラインインサイト

インサイトは次の2つのカテゴリで表示されるようになりました。

- **診断情報:** ブラックホールマシン、ゾンビセッション、オーバーロードマシン、通信エラー診断インサイトは、診断サブペインで利用できます。これらの洞察により、サイトで発生した障害に関する重要な最新情報が得られます。
- **ベースラインインサイト:** ベースラインインサイトは、主要なパフォーマンス指標と過去のベースラインとの偏差を示すために導入されました。これらの洞察により、主要な指標が改善しているのか、悪化しているのかを一目で確認できます。インシデント指標をすばやく特定し、環境のパフォーマンスを向上させるための積極的な対策を講じるのに役立ちます。



セッション障害の低下、セッションの応答性、およびセッションログオン時間に関するベースラインインサイトは、ベースラインサブペインに表示されます。

ベースラインからの逸脱は、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードにも表示されます。これらは、「ユーザーセッション」セクションの「セッション障害」、および「セッション応答性」セクションと「セッションログオン時間」セ

クシヨンの「貧弱なセッション」セクションで使用できます。偏差をクリックすると、それぞれのベースラインインサイトが表示されます。

詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

## 2022年9月28日

### アラート通知の **webhook** サポート

Performance Analytics からのアラート通知をお好みの Webhook リスナーに公開できるようになりました。この機能により、Slack や JIRA などの選択したチャンネルで通知を受け取ることができます。これにより、企業のお客様はインシデントの検出から終了までのフローを自動化できるため、パフォーマンス分析のアラート通知に対応するワークフローを簡単に推進できます。Webhook によるアラートポリシーの設定について詳しくは、「[アラート通知の Webhook サポート](#)」を参照してください。

## 2022年9月7日

### CSV エクスポートのエクスポート制限が増加しました

セルフサービスページの **CSV** 形式へのエクスポート機能を使用してエクスポートできる行数の上限が、10,000 行から 100 K 行に引き上げられました。エクスポート機能の詳細については、[セルフサービス検索の記事を参照してください](#)。

## 2022年8月5日

### ブラックホールマシンアラート


Citrix Analytics for Performance は、15 分ごとにブラックホールマシンをスキャンし、アラートを送信して、ブラックホールマシンが原因でユーザーが直面するセッション障害を管理者がプロアクティブに軽減できるようにします。4 回以上連続してセッション要求を処理できなかったマシンは、ブラックホールマシンと呼ばれます。ブラックホール障害アラートを使用すると、管理者は Performance Analytics にログインしなくても、ブラックホールマシンが原因で発生したセッション障害を知ることができます。

マシンの詳細とそれらによって引き起こされたセッション障害は、管理者への警告メールで送信されます。これらのメールを受信するには、**Black Hole Machines** アラートポリシーを有効にする必要があります。

**citrix**

## Citrix Analytics for Performance has detected New Black hole Machines

[View latest Insights on Analytics](#)

 Citrix Analytics for Performance detected new black hole machines from June 27 2023, 11:00:00 to June 27 2023, 11:15:00 UTC

Customer Name: [REDACTED]  
Organization ID: [REDACTED]

Attention,

We have identified machines in black hole state which are currently leading to multiple consecutive session failures resulting in poor user experience.

**1** BLACK HOLE MACHINE CAUSED **6** SESSION FAILURES

[View machines](#)

**Patterns Detected**

- 0 single-session OS machines
- 1 multi-session OS machines
- 1 machines on Delivery Group: **DGN-15th-June**






We recommend you to take following actions from Analytics console:

1. Check RDS license on multi-session OS machines.
2. Put the machine on maintenance mode.
3. Reboot.

[View latest Insights on Analytics](#)


Regards  
Citrix Analytics for Performance team

PS: Insights on the User Experience dashboard might differ and will reflect the latest counts.

© 2021 Citrix Systems, Inc. All right reserved. 4988 Great America Parkway, Santa Clara, CA 95054 USA \*All trademarks are the property of their respective owners.

[Privacy](#) | [Set Email Preferences](#) | [Unsubscribe](#)

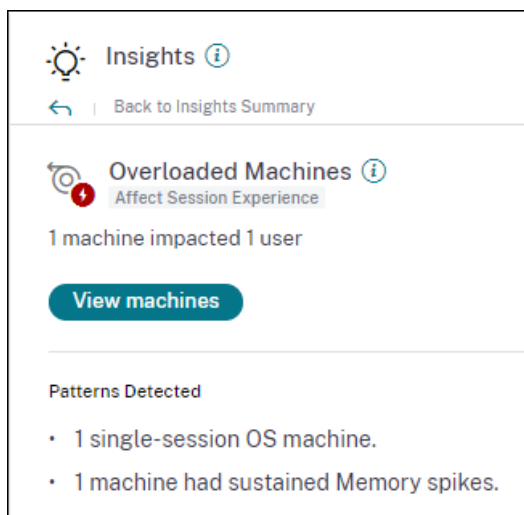


ブラックホールマシンアラートの詳細については、アラート ([Alerts](#)) の記事を参照してください。

**2022年7月29日**

### 過負荷のマシン-インサイトとアラート

過負荷のマシンに関する洞察は、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードで利用できます。



持続的な CPU スパイク、高メモリ使用率、あるいはその両方を経験し、5分以上継続してユーザーエクスペリエンスが低下したマシンは、過負荷と見なされます。[過負荷のマシン] インサイトには、ユーザーエクスペリエンスの低下を引き起こしている過負荷のマシンの数と、選択した期間中に影響を受けたユーザーの数が表示されます。

詳細については、「[過負荷状態のマシンインサイト](#)」を参照してください。

環境内で新しい過負荷状態のマシンが 15 分間隔で検出されると、オーバーロードされたマシンアラートメールが管理者に送信されます。24 時間経っても同じマシンが過負荷状態のままであれば、再警告メールが送信されます。管理者は、過負荷状態が続いているマシンについて最大 3 回再警告されます。プロアクティブなアラートは、現在 Citrix Analytics for Performance にログオンしていない管理者が、過負荷のリソースを検出して処理するのに役立ちます。

**citrix**

## Citrix Analytics for Performance has detected new Overloaded Machines

[View latest Insights](#)

Citrix Analytics for Performance has detected new overloaded machines from July 27 2023, 13:06:00 to July 27 2023, 13:21:00UTC

Attention,

We have identified machines with high resources utilisation impacting the user experience.

Please find the attachment for the list of affected machine details.

**1** OVERLOADED MACHINE      IMPACTED      **1** USER

[View machines](#)

**Patterns Detected**

- 1 single-session OS machines
- 0 multi-session OS machines
- 1 machines on Delivery Group CVD/BUR CVAD Development
- 0 machines had sustained CPU spikes
- 1 machines had sustained Memory spikes

[View latest Insights](#)

Regards  
Citrix Analytics for Performance team

PS: Insights on the User Experience dashboard might differ and will reflect the latest counts.

© 2022 Citrix Systems, Inc. All right reserved. 4968 Great America Parkway, Santa Clara, CA 95054 USA \*All trademarks are the property of their respective owners.

[Privacy](#) | [Set Email Preferences](#) | [Unsubscribe](#)

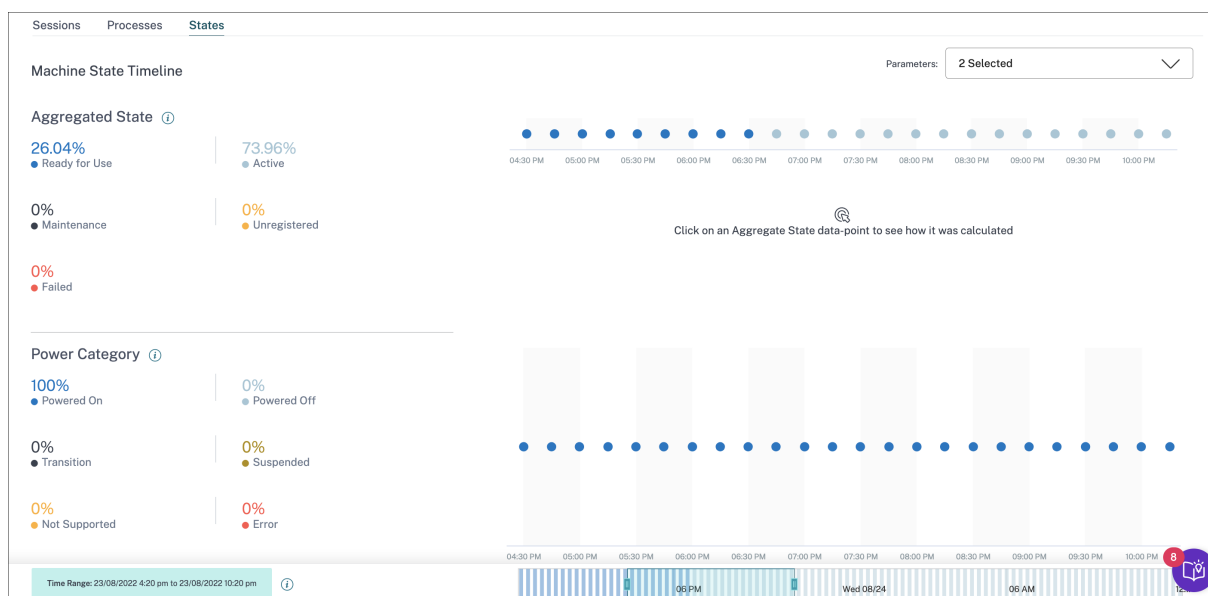
詳細については、「[過負荷状態のマシンアラート](#)」を参照してください。

2022年7月18日

## マシンステート

[マシン統計] ページに、マシンの状態に関する情報が表示されるようになりました。[状態] タブには、過去 24 時間の 15 \*\* 分間隔でプロットされたマシン集約ステートとマシン電力カテゴリのタイムラインが表示されます \*\*。集約ステートデータポイントをクリックすると、その計算方法を理解するのに役立ちます。集約された状態がプロットされた結果となった、マシン状態とメンテナンスモードの実際の値の内訳が表示されます。これは、時間の経過に伴うマシンの状態の変化を把握するのに役立ちます。障害タイプと登録解除の理由は、マシンの問題のデバッグに役立ちます。

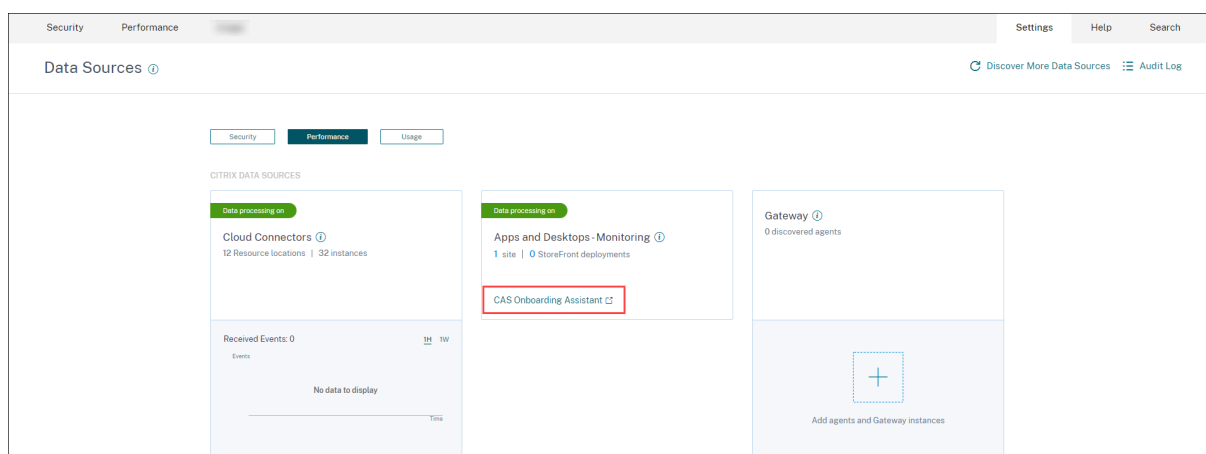
電源カテゴリデータポイントにカーソルを合わせると、マシンが実際に使用されている電源状態が表示されます。この機能は、環境内のマシンに関する重要なパラメータを細かく切り分け、非効率性を簡単に特定するのに役立ちます。このビューですでに表示されているセッションとプロセスの情報に加えて、状態と電力カテゴリの集約を経時的に変化させることで、マシンの問題をトラブルシューティングするための詳細な情報が得られます。



詳細については、「[マシンの統計](#)」を参照してください。

## Citrix Analytics サービス (CAS) オンボーディングアシスタント

Citrix Analytics サービスオンボーディングアシスタントツールは、StoreFront に Citrix Analytics サービスをオンボーディングする際の問題のトラブルシューティングに役立ちます。Citrix Analytics から StoreFront サーバーに構成設定をインポートした後、StoreFront サーバーが Citrix Analytics に接続できないことがあります。CAS オンボーディングアシスタントは、ドキュメント「[StoreFront サーバーを Citrix Analytics に接続できない](#)」に記載されているすべてのチェックと前提条件を自動化します。使用方法およびツールのダウンロードの詳細については、Knowledge Center 記事「[Citrix Analytics Service Onboarding Assistant](#)」を参照してください。



ユーザーまたはセッションが分類されない理由

構成上の問題または依存関係により、優良、公正、または不十分なカテゴリに分類できないユーザーおよびセッションは、「未分類」に分類されます。ユーザーエクスペリエンスおよびセッション応答性トレンドの「未分類」分類の下にある「詳細情報」リンクには、特定のユーザーとセッションが分類されていない主な理由が表示されます。この機能は、構成上の問題を迅速に検出して修正するために必要な明確さを提供します。

## Users Not Categorized ✕

Users were not categorized due to one or more of the following reasons:

REASON	ACTION
EUEM service not active	<a href="#">Check service status</a>
Unsupported CWA version	<a href="#">Check CWA version</a>
Unsupported VDA version	<a href="#">Check VDA version</a>
UPM service not active	<a href="#">Check service status</a>

For more information on other reasons, click [Learn more](#).

詳細については、「[未分類](#)」の記事を参照してください。

**2022年6月8日**

ユーザーとセッションの分類 (パーセンテージ)

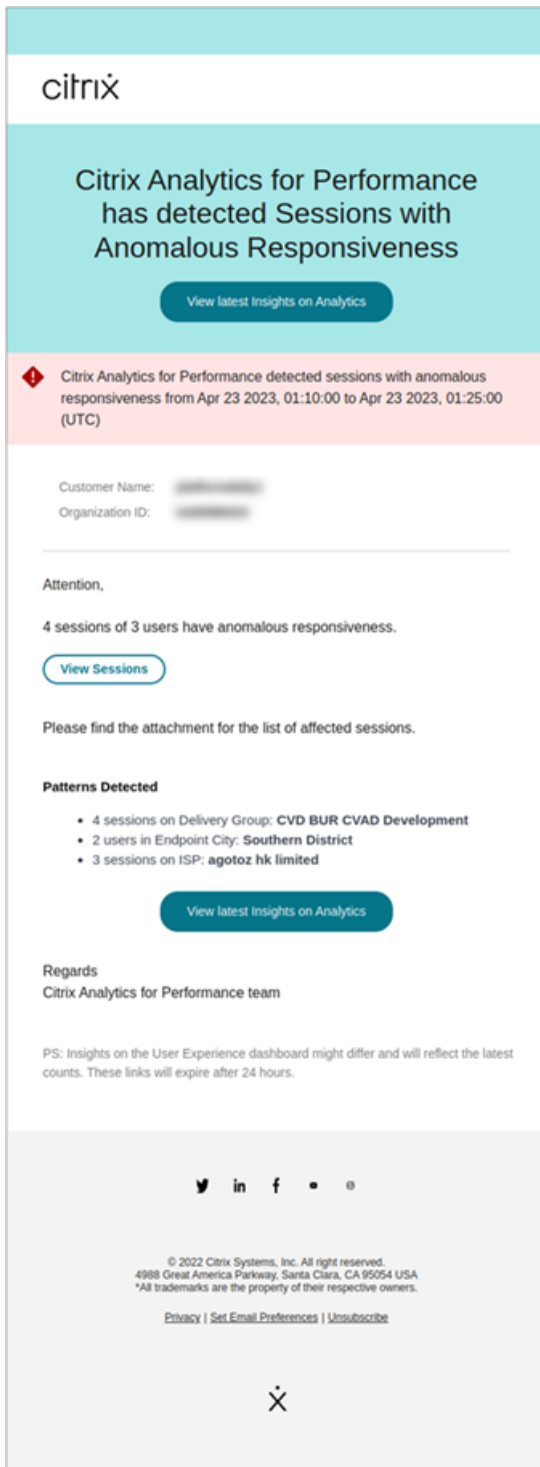
ユーザーエクスペリエンスダッシュボードには、接続されている HDX ユーザーとセッションが「優良」、「公正」、「不良」に分類されます。これらの数値もパーセンテージで表示されるようになりました。



**2022年4月28日**

#### 異常レイテンシーアラート

セッション中の反応が悪いことが、セッション体験の低下の主な原因です。異常レイテンシーアラート機能は、セッションレイテンシ値に大幅な偏差がある場合に管理者に警告します。プロアクティブなアラート機能により、管理者は不適切なセッションが発生している可能性のある特定の場所またはデリバリーグループを特定できます。



機械学習モデルは、特定の顧客のすべてのデリバリーグループと場所のペアのベースライン遅延値を決定するために使用されます。ベースラインレイテンシ値は、過去 3 日間の ICARTT 値に基づいて毎日調整されます。ICARTT の外れ値の測定値は無視されます。測定された ICARTT がベースラインレイテンシ値から 60%以上の偏差がある場合、アラートが生成されます。

詳細については、「[アラート](#)」の記事を参照してください。

**2022 年 4 月 20 日**

#### パフォーマンス分析固有のカスタムアクセスロール

Citrix Analytics for Performance に固有のカスタムアクセスロールが利用可能になりました。フルアクセス権限を持つ Citrix Cloud 管理者は、次の役割を使用して、組織内の Performance Analytics を管理するよう他の管理者を招待できます。

- パフォーマンス分析-すべての管理者 -パフォーマンス分析の Citrix Cloud 管理者にフルアクセス権限を割り当てます。
- パフォーマンス分析-読み取り専用管理者 -パフォーマンス分析の Citrix Cloud 管理者に読み取り専用アクセス許可を割り当てます。

管理者に読み取り専用または完全アクセス権を付与して、Performance Analytics のさまざまな機能を管理者に許可できます。このアップデートにより、管理者を作成し、特定の Citrix Analytics オファリングに基づいてアクセスを提供できます。

以前使用可能だった読み取り専用管理者の役割を持つユーザーは、[セキュリティとパフォーマンス-読み取り専用管理者] に名前が変更されました。

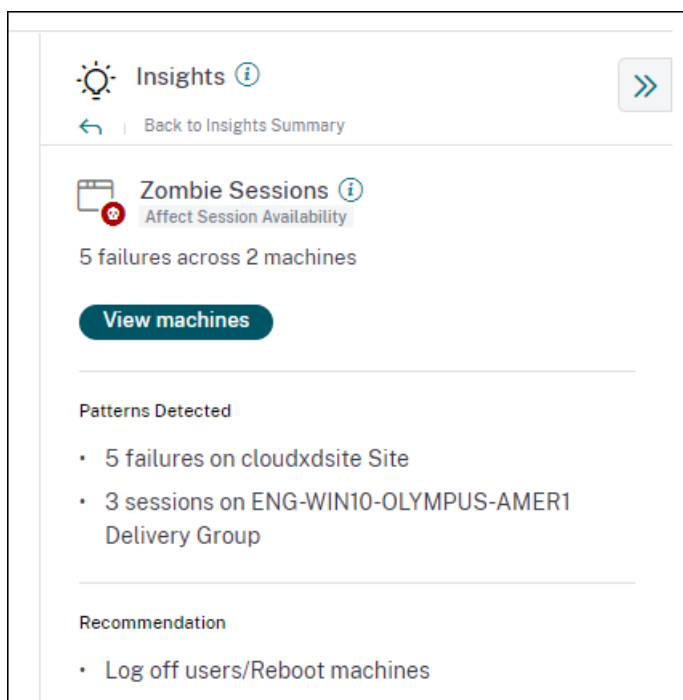
読み取り専用 Performance Analytics ユーザーは、すべての管理者と同じように、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードとインフラストラクチャダッシュボードにアクセスして使用できます。ただし、「マシン統計」ページのマシンアクションは、読み取り専用ユーザーには無効になっています。読み取り専用アクセス権を持つ管理者は、Citrix Analytics からアラート通知を受信しません。

セルフサービスビューで許可されるアクションの詳細については、[セルフサービスの記事を参照してください](#)。

**2022 年 4 月 14 日**

#### ゾンビインサイトとアラート

[Zombie Sessions] サブペインには、環境内のゾンビセッションが原因で発生したセッション障害に関する情報が表示されます。ゾンビセッションとは、単一セッション OS マシン上で放棄されたセッションで、そのマシンでの新しいセッションの起動が失敗する原因となります。このマシンでセッションを起動しようとする、放棄されたセッションが終了するまで「使用不可のキャパシティ」エラーが表示されて失敗します。Zombie Sessions インサイトは、セッションが放棄されたマシンを特定し、障害をプロアクティブに軽減できるようにすることを目的としています。



ゾンビセッションの警告メールは、15分間隔で環境内でゾンビセッションを持つ新しいマシンが検出された場合に生成されます。アラートメールは、Citrix Cloudで電子メール通知を有効にしている管理者全員に送信されます。同じマシンでの再アラートは、同じ放棄されたセッションが最初に検出されてから24時間以上同じマシンで継続する場合にのみ行われます。

[マシンの表示] をクリックすると、ゾンビセッションを含むマシンのリストでフィルタリングされた [セルフサービス] ビューが表示されます。ここで、Failure Count は、選択した間隔で発生したセッション障害の数を表します。最後の失敗タイプと理由は、ゾンビセッションを含むマシンの根本原因となる原因となります。

[アラートポリシー] タブから [ゾンビセッションのあるマシン] アラートを無効にできます。

Alert Policies		
2 Alerts defined		Last updated April 12, 2022, 16:24 IST (UTC+0530)
Search Policies...		
NAME	OCCURRENCE...	LAST MODIFIED
Machines with Zombie Sessions	2	4/11/2022

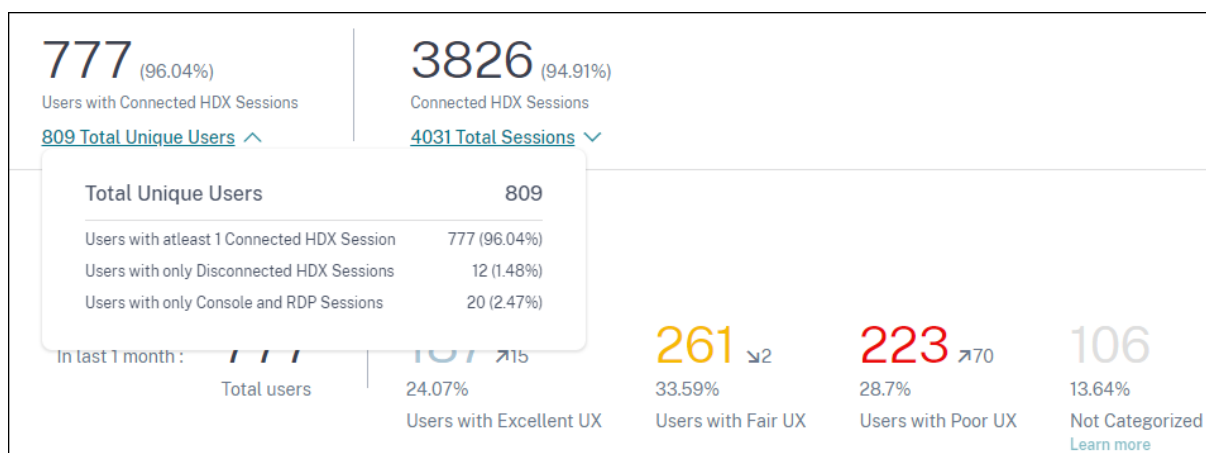
詳細については、「[ゾンビセッション](#)」を参照してください。

## 2022年4月14日

### ユニークユーザー数とセッション数の分割

この機能により、[ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードの [未分類] の数値がより明確になります。ダッシュボードには、セッションプロトコルと接続ステータスに基づいて、仮想アプリケーションおよびデスクトップ環境のコ

ユーザーとセッションの分割が表示されるようになりました。



ダッシュボードには、接続されている HDX セッションについてのみパフォーマンス指標が表示されます。選択した期間中にセッションが切断された場合は、そのユーザーが選択した期間全体にわたってアクティブでなかったことを示します。そのため、セッションとユーザーエクスペリエンスのスコアは、切断されたセッションには適用されません。

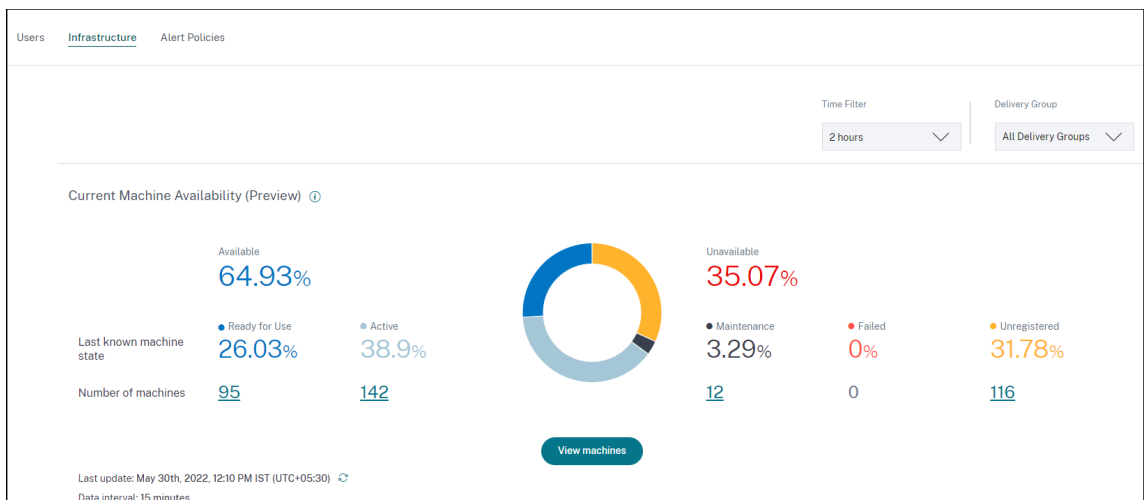
この機能により、切断されたセッションとユーザーは「未分類」分類から除外されます。それらは分割で利用可能になりました。これにより、「未分類」分類全体のユーザーとセッションの数が減少します。詳細については、「[ユーザーとセッションの分割](#)」を参照してください。

## 2022 年 4 月 14 日

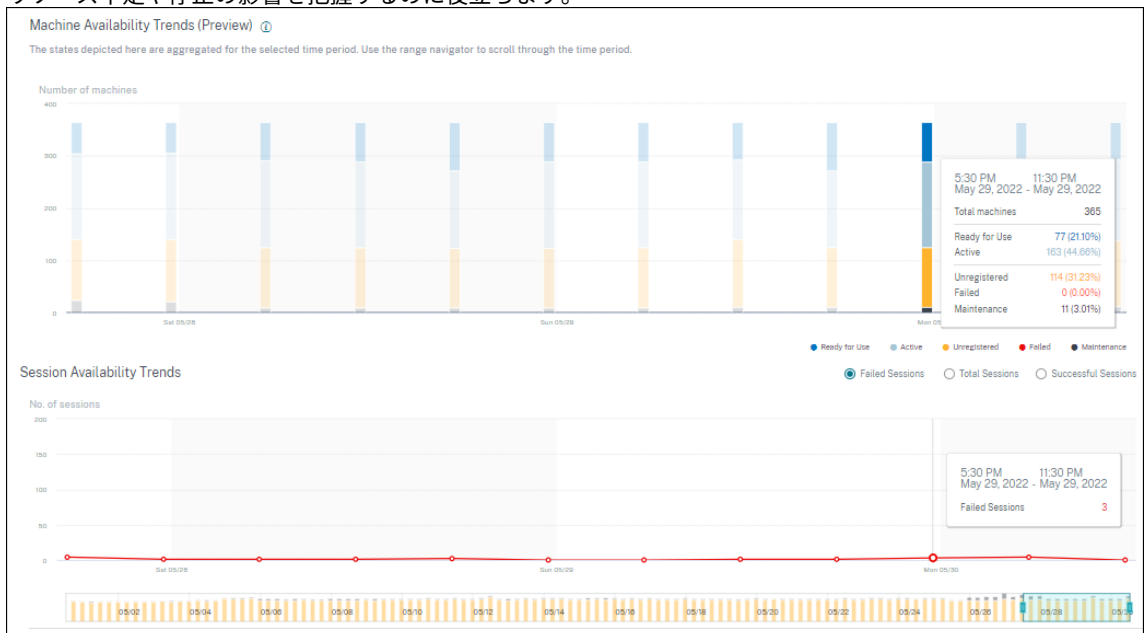
### インフラストラクチャダッシュボードの機能拡張

アプリケーションおよびデスクトップ環境内の仮想マシンの可用性とパフォーマンスの分析を表示するインフラストラクチャダッシュボードには、次の拡張機能があります。

- インフラストラクチャダッシュボードが拡張され、仮想マシンの現在の可用性が表示されるようになりました。この機能強化により、現在ユーザーにサービスを提供しているマシンの数と、さまざまな理由で利用できないマシンの数の概要がわかります。最後のインスタンス（15 分）について、最後に認識された「使用可能」マシン状態（「使用可能」、「アクティブ」）および「使用不可」のマシン状態（メンテナンス、未登録、失敗）のマシン数が表示されます。



- マシ数をクリックすると、[マシンセルフサービス] ビューが開き、過去 15 分間選択した状態のマシンのリストが表示されます。
- マシンの可用性トレンドでは、選択した期間のマシ数が集約された状態でプロットされるようになりました。集約状態は、[使用準備完了]、[アクティブ]、[メンテナンス]、[未登録]、[失敗] のいずれかの状態の中で、マシンが現在最も好ましくない状態です。グラフの特定のセクションからドリルダウンすると、マシンセルフサービスビューに特定の集約状態のマシンの詳細を表示できます。マシンの可用性の傾向は、ある時点で集約された状態にあるマシンの数を確認するのに役立ちます。セッション可用性の傾向と併せて使用すると、リソース不足や停止の影響を把握するのに役立ちます。



- 1 か月と 1 週間のトレンドが 6 時間単位でプロットされるようになりました。タイムナビゲーターを使用し、3 ~ 7 日の範囲で 1 か月間のマシンとセッションの可用性の傾向を拡大できます。
- タイムナビゲータに [マシンの可用性] の傾向が反映されるようになりました。これにより、使用できないマシンが多数存在する期間を特定できるため、トレンドに合わせて必要な期間を簡単にナビゲートしてズームイン

できます。

- マシンの可用性の傾向に関するツールヒントが同期され、使用できないマシンと失敗したセッションの相関関係を把握しやすくなります。
- マシンセルフサービスビューには、Aggregated State という新しいファセットが追加され、マシンの状態ベースのフィルタリングが可能になりました。ビューには、選択した集約状態のマシン数が表示されます。[Aggregated State] ファセットを使用するか、[Availability] トレンドからをクリックして、選択した期間に特定の集約状態にあったマシンのリストを表示できるようになりました。
- [マシン] セルフサービスビュー-[最新の既知の状態] と、選択した各集約状態のマシン数に新しい列が追加されます。

これらの機能強化により、マシンセルフサービスビューで現在または過去の期間に特定の状態にあるマシンを識別できます。データの粒度が高くなり、注意が必要なマシンを簡単に特定できるため、マシンのトラブルシューティングが向上します。詳細については、「[マシンのセルフサービス検索](#)」および「[インフラストラクチャ分析](#)」の記事を参照してください。

## 2022年3月8日

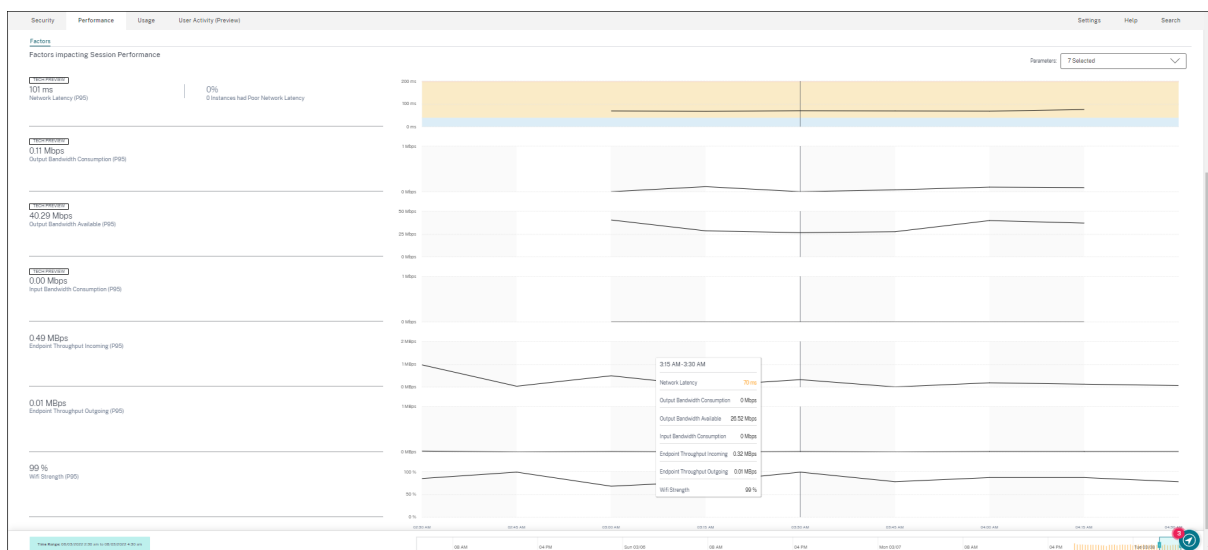
### エンドポイントネットワーク統計

この機能により、セッションセルフサービスビューとセッション統計ビューにいくつかの関連メトリックが追加されるため、クライアント側ネットワークの可視性が向上します。

セッションセルフサービスビューのオプション列として、エンドポイントリンク速度 (**P95**)、エンドポイントスループット受信スループット (**P95**)、エンドポイントスループットアウトゴング (**P95**) が導入されました。

SESSION EXPERIENCE	ENDPOINT CITY (LAST KNOWN)	ENDPOINT LINK SPEED (P95)	ENDPOINT THROUGHPUT INCOMING (P95)	ENDPOINT THROUGHPUT OUTGOING (P95)
> N/A	Brighton	8589934592.00 GBps	243.88 KBps	40.51 KBps
> 79	Portland	8589934592.00 GBps	434.23 KBps	199.74 KBps
> 45	Pompano Beach	8589934592.00 GBps	129.92 KBps	18.99 KBps
> 30	Chelmsford	1.12 GBps	153.10 KBps	308.48 KBps
> N/A	Fort Lauderdale	953.67 MBps	291.31 KBps	24.72 KBps
> 39	Athens	953.67 MBps	497.98 KBps	29.83 KBps

[セッション統計] ページの [要因] タブに [WiFi 信号強度]、[エンドポイントスループット受信]、および [エンドポイントスループット発信] の **P95** 値が表示されます。これらのメトリックのグラフは、セッション期間全体にわたってプロットされます。



エンドポイントネットワークのメトリックを表示するには、Windows バージョン 7 2108 以降の Citrix Workspace アプリを実行しているエンドポイントが必要です。

これらのメトリックは、ネットワークインターフェイスの種類、ISP、帯域幅、ネットワーク遅延、ゲートウェイ、コネクタ、およびコネクタのパフォーマンス統計の既存の値とともに、セッションエクスペリエンスの低下の根本原因をよりの確にトリアージするのに役立ちます。

詳細については、「[セルフサービス検索](#)」と「[セッションの詳細](#)」の記事を参照してください。

**2022 年 3 月 7 日**

### Connection リースされたセッションの可視性

この機能により、Connection リースを介して起動されたセッションが表示されます。クラウドサービスの停止中、Citrix DaaS はサービスの継続性を維持するために、Connection リースを介してセッションを起動することをサポートします。

接続リースセッションは、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードの「未分類」分類に表示されます。ICA RTT およびログオン時間メトリックは、Connection リースセッションでは使用できません。



The screenshot displays the 'Self-Service Search' interface. On the left, there are filters for Session Experience, Factors affecting Session Experience, Endpoint OS, Workspace App Version, Delivery Group, Site Name, Location, Session Protocol, and Connection Type. The 'Launch Type' filter is expanded, showing 'ICA' (117) and 'ConnectionLease' (6). The search results table has columns for Session ID, Date, Status, and Launch Type. A red box highlights the 'Launch Type' column in the table.

Session ID	Date	Status	Launch Type
> N/A	Feb 10, 2022, 16:...	Succeeded	ICA
> 0	Feb 17, 2022, 11:...	Failed	ICA
> 0	Feb 16, 2022, 16:...	Failed	ICA
> 0	Feb 10, 2022, 12:...	Failed	ConnectionLease
> N/A	Feb 10, 2022, 12:...	Succeeded	ICA
> 0	Feb 16, 2022, 15:...	Failed	ICA
> 0	Feb 10, 2022, 12:...	Failed	ConnectionLease
> 0	Feb 17, 2022, 11:...	Failed	ICA
> 0	Feb 9, 2022, 18:1...	Failed	ICA

セッションのセルフサービスビューの「起動タイプ」ファセットを使用して、セッションを ICA ベースまたは接続リリースとして分類できます。

セッションセルフサービステーブルのオプション列「起動タイプ」には、セッションが ICA ベースか接続リリースかが表示されます。

この機能は、接続リリースを介して起動されたセッションの数を調べるのに役立ちます。失敗の理由を使用して、Connection でリリースされたセッションの起動に失敗した場合のトラブルシューティングを行うことができます。

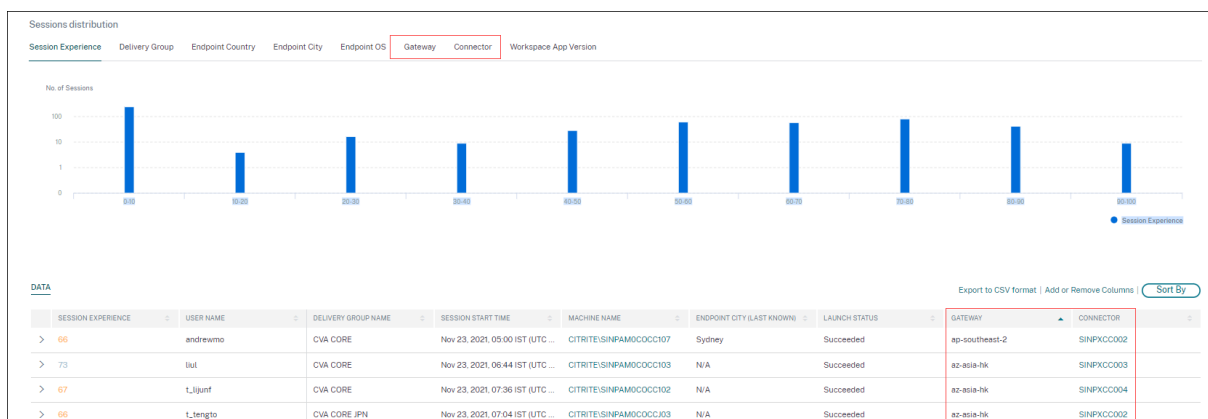
## 2022 年 2 月 21 日

### コネクタとゲートウェイ PoP 統計

Citrix Analytics for **Performance** では、起動したすべてのセッションのオプション列として、セッションセルフサービスビューにコネクタ名とゲートウェイポイントオブプレゼンス (**POP**) 名が表示されるようになりました。

このデータは、セッションがルーティングされるコネクタとゲートウェイ POP を特定するのに役立ちます。この情報は、応答性の悪いセッションが特定のコネクタまたはゲートウェイ POP を経由してルーティングされているかどうかを確認するのに役立ちます。ユーザーの場soに基づいて、最適なパフォーマンスを得るために、ユーザーセッションが適切な Gateway PoP を経由してルーティングされたかどうかをさらに特定できます。セッションがロケーションから遠く離れたゲートウェイ PoP を経由してルーティングされている場合は、DNS 設定を確認できます。

ビジュアルサマリーの「コネクタ」と「ゲートウェイ PoP」のピボットは、すべてが単一のゲートウェイ PoP またはコネクタを経由してルーティングされる可能性のある、質の悪いセッションを優先順位付けするのに役立ちます。



次のいずれかの理由により、**Connector** の値が N/A になることがあります。

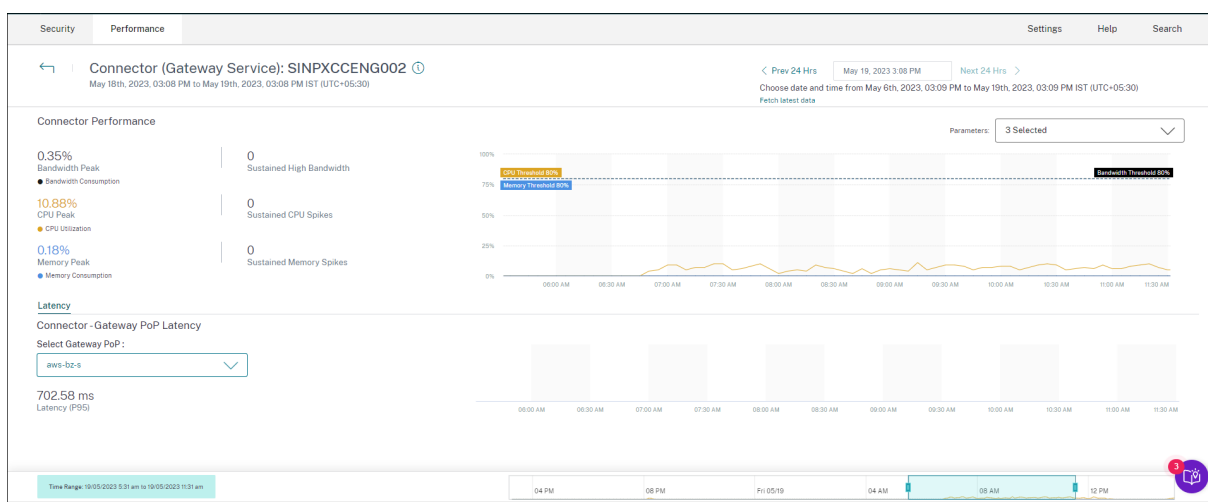
- コネクタイベントの受信に遅延が発生しました。
- Cloud Connector のバージョンは 16.0.0.7 より前です。

また、Cloud Connector を介したデータ処理がオンになっていることを確認します。これを行うには、**Citrix Analytics** > \*\* データソースの [**\*\* パフォーマンス**] タブから [Cloud Connectors] タイルの [データ処理オン**\*\***] 状態を確認できます。

詳細については、「[セルフサービス検索](#)」の記事の「コネクタとゲートウェイ」列の説明を参照してください。

## コネクタ統計ビュー

コネクタのパフォーマンスメトリックの包括的なビューが、Citrix Analytics for Performance で利用できるようになりました。コネクタ名をクリックすると、[コネクタ統計] ビューが表示されます。



[コネクタ統計 (Connector Statistics) ] ビューには、選択したコネクタで過去 24 時間に消費された帯域幅、CPU、メモリなどのリソースに関するコネクタパフォーマンスのサマリーが表示されます。コネクタで消費された各メトリックのピークパーセンテージと、メトリックがしきい値を超えたときのインスタンス数が表示されます。グラフは、このデータを 24 時間にわたって 15 分の粒度でプロットします。

コネクタのリソース消費は、セッションの起動とエンドユーザーエクスペリエンスに影響します。この機能は、管理者がコネクタのリソース消費量が多いため、セッションの失敗や遅延の低下の根本原因となる問題に役立ちます。詳細については、「[コネクタ統計](#)」の記事を参照してください。

**2021年12月20日**

クライアント側の統計: インターネットサービスプロバイダー (ISP)

エンドポイントにサービスを提供している ISP の名前は、セッション行を展開すると、セッションセルフサービスビューに表示されます。

SESSION EXPERIENCE	USER NAME	DELIVERY GROUP NAME
60		Remote PC - London
<p>I/P Bandwidth Consumed (P95): 617 Bps (TECH PREVIEW) O/P Bandwidth Used (P95): 29.61 KBps (TECH PREVIEW) O/P Bandwidth Utilization (%): 2.41 % (TECH PREVIEW) Workspace App Version : 21.9.1.4048 Endpoint OS : Windows Brokering : N/A HDX Connection : N/A GPOs : N/A Profile Load : N/A Site Name : N/A WAN Latency : N/A Data Center Latency : N/A Gateway : GLOBAL.G.NSSVC.NET Session Duration : 146 hrs 30 min Gateway-Connector Latency : N/A ISP : british telecommunications plc</p>		

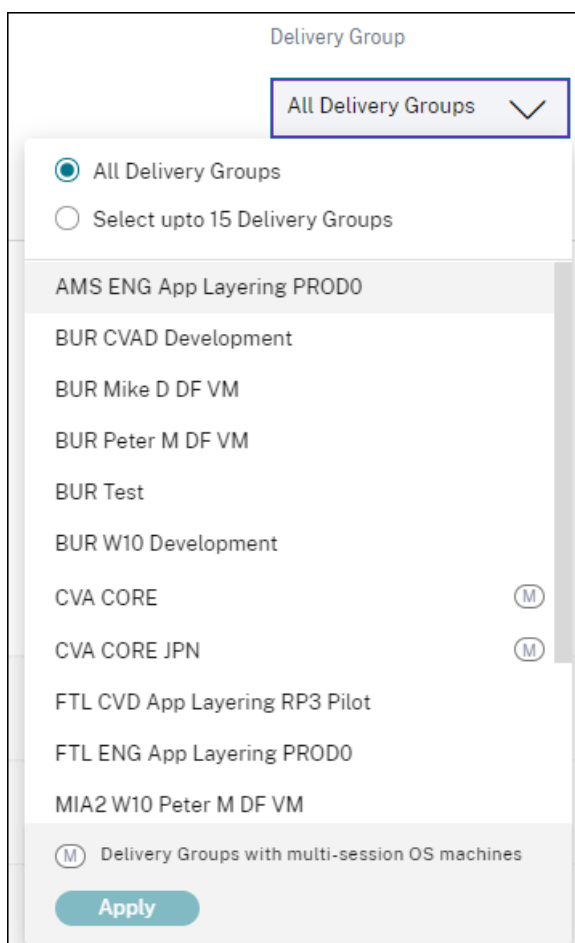
この機能は、特定の ISP に関連する可能性があるセッションパフォーマンスの問題を特定するのに役立ちます。この情報は、Windows バージョン 1912 以降の Citrix Workspace アプリで利用できます。他の OS 向け Citrix Workspace アプリでこの機能を利用できるかどうかについては、[Workspace アプリマトリックス](#)を参照してください。セッションセルフサービスビューに表示されるメトリックの詳細については、「[セッションセルフサービス](#)」の記事を参照してください。

**2021年12月17日**

デリバリーグループベースのフィルタリング

Citrix Analytics for Performance には、既存のサイトおよび時間ベースのフィルターに加えて、デリバリーグループベースのフィルターが追加されました。デリバリーグループベースのフィルタリングでは、選択したデリバリーグループに属するパフォーマンスデータを表示できます。このフィルターは、特定のデリバリーグループのセットに

焦点を当てるのに役立つ、その結果、そのデリバリーグループで実行されているセッションでのセッションエクスペリエンスの低下を根本的に解決するのに役立ちます。



[デリバリーグループ] ドロップダウンリストは、[ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードに表示されます。ここでは、「すべてのデリバリーグループ」オプションがデフォルトで選択されています。[最大 **15** 個のデリバリーグループを選択] オプションを選択することもできます。検索バーでは、リストから特定のデリバリーグループ名を検索できます。

フィルタを適用すると、これらのデリバリーグループに関連するデータが分析され、ダッシュボードに表示されます。ダッシュボードから [要因] ページにドリルダウンしてからセルフサービスビューにドリルダウンしても、選択内容は保持されます。すべてのビューとレポートには、選択したデリバリーグループに属するデータが表示されます。

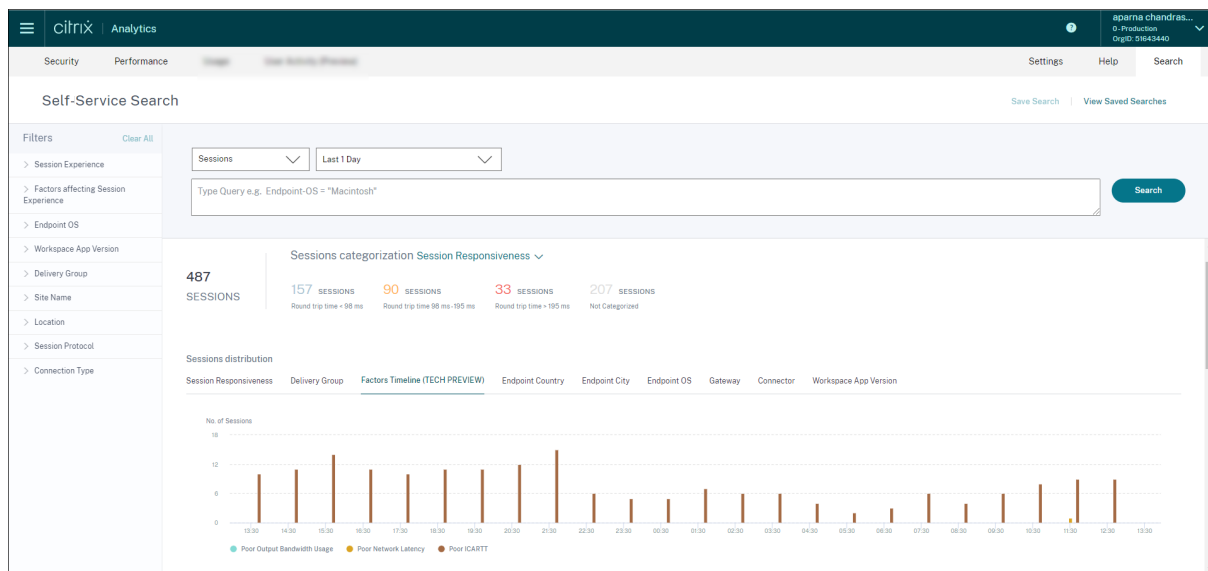
デリバリーグループの更新（追加、削除、名前変更など）をドロップダウンリストで使用できるようにするには、変更後 15 分以上経過してからページを更新します。

ユーザーエクスペリエンスダッシュボードの使用方法について詳しくは、「[ユーザーエクスペリエンス分析](#)」の記事を参照してください。

### 帯域幅とネットワーク遅延のメトリック (プレビュー)

クラウド環境のセッション応答性を構成する詳細な帯域幅とレイテンシ関連のメトリックが、Citrix Analytics for Performance で利用できるようになりました。

ファクタータイムライン] ピボットは、[\*\* セッションの応答性] カテゴリの [セッションセルフサービス] ビューの [セッション分布 \*\*] セクションに追加されます。このピボットは、出力帯域幅の使用率の低さ、ネットワークレイテンシーの低さ、および ICARTT の低さに基づいてセッションを分析するのに役立ちます。



セッションセルフサービスビューで選択したセッション行を展開すると、次の帯域幅とネットワーク遅延のメトリックが表形式で表示されます。

- 帯域幅メトリックの P95 値-消費された入力帯域幅、使用可能な出力帯域幅、使用された出力帯域幅、
- 出力帯域幅使用率のパーセンテージ値、および
- ネットワーク遅延の P95 値

Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2112 以降を実行しているマシンが必要です。これらのメトリックは Citrix DaaS ですぐに使用でき、特別な構成は必要ありません。

The screenshot displays the 'Self-Service Search' interface. On the left, there are filters for Session Experience, Factors affecting Session Experience, Endpoint OS, Workspace App Version, Delivery Group, Site Name, Location, Session Protocol, and Connection Type. The search criteria include 'Sessions' and 'Last 1 Week'. The search results show a session with a count of 61. The detailed view for this session includes various performance metrics. Two red boxes highlight the following metrics:

- I/P Bandwidth Consumed (P95): 35 Bps (TECH PREVIEW)
- O/P Bandwidth Available (P95): 4.22 MBps (TECH PREVIEW)

出力帯域幅使用率とネットワーク遅延のメトリックは、「悪い」、「普通」、「優れている」のいずれのカテゴリに属するかに基づいて色分けされています。

帯域幅とネットワーク遅延のメトリクスは、特定のメトリクスがセッション応答性の低下を引き起こしているかどうかを分析するのに役立ちます。これらのメトリックを追加することで、Citrix Analytics for Performance は、セッションパフォーマンスの問題をトラブルシューティングするための単一の情報コンソールとして機能するようになります。

セッションセルフサービスビューに表示されるメトリックの詳細については、「セッションセルフサービス」の記事を参照してください。

### セッションセルフサービスビューでのセッション継続時間

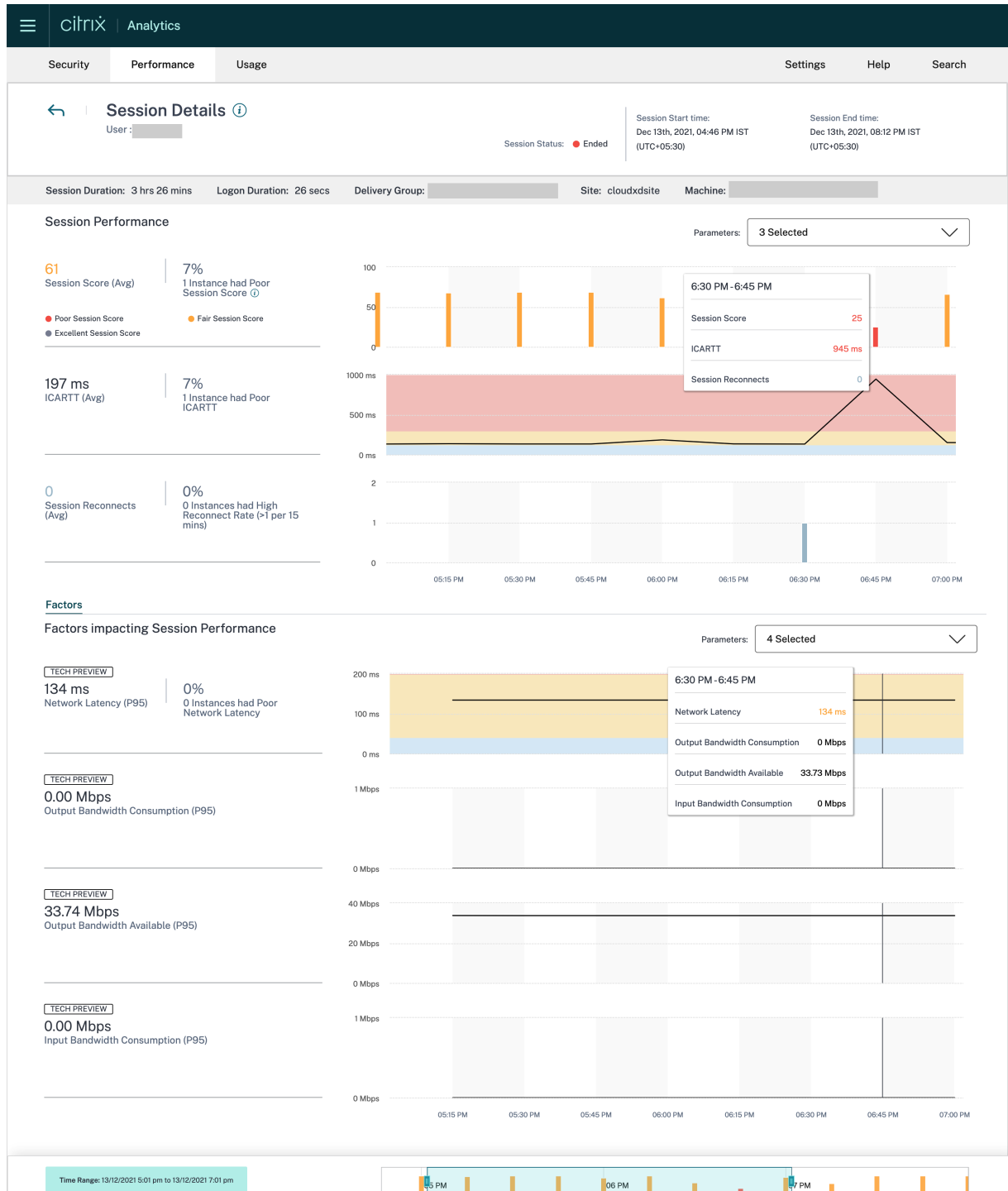
セッション期間がセッションセルフサービスビューで利用できるようになりました。[列の追加と削除]を使用して、セッション期間を追加します。この指標を追加すると、セッションセルフサービスビューからセッション指標の全体像を把握できます。

SESSION EXPERIENCE	USER NAME	DELIVERY GROUP NAME	SESSION START TIME	MACHINE NAME	ENDPOINT CITY (LAST KNOWN)	LAUNCH STATUS	SESSION DURATION
> 50		CVA CORE	Dec 15, 2021, 04:49 IST (UTC...		Boca Raton	Succeeded	4 hrs 59 min
> N/A		CVA CORE	Dec 14, 2021, 19:07 IST (UTC...		Chennai	Succeeded	3 min
> 0		CVA CORE	Dec 14, 2021, 18:17 IST (UTC...		N/A	Failed	N/A

セッションセルフサービスビューに表示されるメトリックの詳細については、「セッションセルフサービス」の記事を参照してください。

セッション詳細

「セッションの詳細」ページには、セッション・パフォーマンス・メトリックの全体像が表示されます。セッション期間中、包括的なセッションの詳細とセッションパフォーマンスに影響する要因が表示されます。



このビューでは、ICARTT、セッション再接続、帯域幅メトリック、ネットワーク遅延などのセッション要因を可視化できます。これらの因子は、選択した期間のセッションスコアとともにプロットされます。[Session Details] ビュ

ーは、利用可能な帯域幅とネットワーク遅延が ICARTT とセッションスコアに与える影響を相互に関連付けるのに役立ちます。

帯域幅とネットワーク遅延のメトリックを表示するには、Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2112 以降を実行しているマシンが必要です。[セッションの詳細] ページの詳細については、「[セッションの詳細](#)」を参照してください。

### 2021 年 12 月 6 日

#### アジア太平洋南部リージョンの自動オンボーディング

Citrix Analytics for Performance は、アジア太平洋南部 (APS) 地域のトライアル版のお客様とサブスクリプションベースのお客様向けに自動的にオンボーディングされるようになりました。このアクセスには、お客様のリクエストや手動でのオンボーディングは必要ありません。Citrix Cloud でサポートされているリージョンの詳細については、「[地理的考慮事項](#)」を参照してください。

APS リージョンからパフォーマンス分析にアクセスするには、テナントを Citrix Cloud にオンボーディングする際にアジア太平洋南部リージョンを選択します。Citrix Cloud にログオンしたら、Citrix Cloud の APS リージョンでテナントを選択し、<https://analytics-aps.cloud.com> URL を使用して Citrix Cloud Citrix Analytics クラウドサービスにアクセスします。

- Citrix Analytics for Performance は、組織のユーザーイベントとメタデータをホームリージョンとして選択すると、アジア太平洋南部リージョンに保存されるようになりました。詳しくは、「[データガバナンス](#)」を参照してください。
- アジア太平洋南部リージョンのネットワーク要件については、「[テクニカルセキュリティの概要](#)」を参照してください。

Performance Analytics へのアクセスについて詳しくは、「[アクセス](#)」を参照してください。

### 2021 年 11 月 18 日

#### オーバーロードされたマシンファクターの可用性

[過負荷マシン係数] セクションは、2 時間、12 時間、および 1 日の範囲でのみ使用できるようになりました。最適化のため、この機能は 1 週間と 1 か月間無効になります。詳細については、「[オーバーロードされたマシン](#)」を参照してください。



**2021年9月13日**

アジア太平洋南部リージョンのサポート

Citrix Analytics for Performance が、アジア太平洋南部（APS）リージョンをサポートするようになりました。Citrix Cloud でサポートされているリージョンの詳細については、「[地理的考慮事項](#)」を参照してください。

APS リージョンからパフォーマンス分析にアクセスするには、

1. テナントを Citrix Cloud にオンボーディングするときに、アジア太平洋南部リージョンを選択します。
2. APS リージョンのテナントからパフォーマンス分析の試用版または有料の資格を得るには、[APS プレーン Podio フォーム](#)で Citrix Analytics for Performance への登録を入力します。割り当てが成功すると、メールで通知されます。
3. Citrix Cloud にログオンしたら、Citrix Cloud の APS リージョンでテナントを選択し、その URL (<https://analytics-aps.cloud.com>) を使用して Citrix Analytics クラウドサービスにアクセスします。

Performance Analytics へのアクセスについて詳しくは、「[アクセス](#)」を参照してください。

**2021年8月12日**

クライアント側の統計: ネットワークインターフェースタイプ

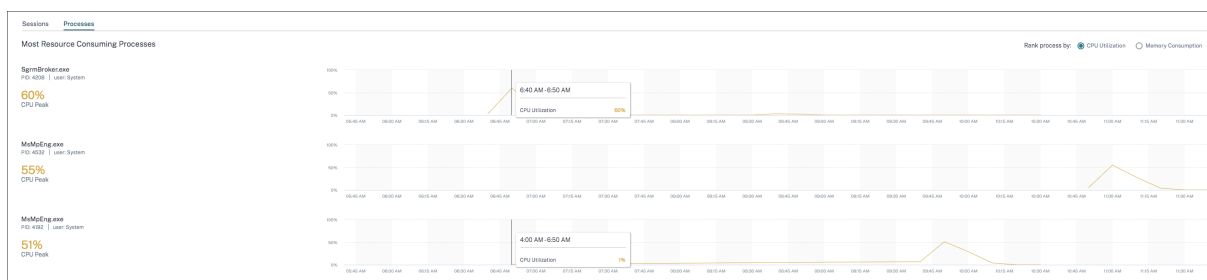
ネットワークインターフェースタイプ列は、セッションセルフサービスビューの表形式データに追加されます。このフィールドは、クライアント側ネットワークを可視化し、セッションエクスペリエンスの低下がエンドポイントデバイスまたはクライアント側ネットワークの問題による場合の根本原因に役立ちます。2105 より前の Windows バージョンの Citrix Workspace アプリを実行しているエンドポイントの場合、このフィールドの値は該当しません。詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」セクションを参照してください。

**2021年7月29日**

ほとんどのリソースを消費するプロセスを可視化

Citrix Analytics for Performance は、リソース消費量の増加に寄与するプロセスを可視化します。これは、管理者がこれらのプロセスがユーザーパフォーマンスに与える影響を分析するための重要な洞察です。

この機能は、[プロセス] タブの [マシン統計] ページで、マルチセッション OS マシンで使用できます。**CPU** 使用率またはメモリ消費量ごとにランク付けされたプロセスを表示するように選択できます **\*\***。リソースを最も消費する **3** つのプロセスが、**CPU** またはメモリピークの割合で選択されて表示されます。チャートには、選択した期間におけるプロセス別の **CPU** 使用率またはメモリ消費がプロットされます。この機能を使用するには、**Citrix \*\*Studio** でプロセス監視ポリシーを有効にする必要があります。



詳細については、「[プロセスの可視性](#)」を参照してください。

## 2021年6月10日

### セッションベースのセルフサービスビューの色分け

セッションベースのセルフサービスビューの表形式のデータは、指標が属する「優れている」、「普通」、「悪い」カテゴリを示すように色分けされています。この分類は、メトリックの個々のしきい値レベルに基づいています。しきい値は動的に計算されます。詳細については、[\[動的しきい値の計算方法\]](#)を参照してください。

Session Based Self-Service ビューで行を展開すると、同じような色分けがメトリックに適用されます。

視覚的な色分けは、パフォーマンスの低下に寄与している要因に焦点を当て、識別するのに役立ちます。また、現在のビューに表示されるようにフィルタリングされたセッションのさまざまな要因にわたるパフォーマンスの概要も示します。

### マシンアクションと複合アクション

Citrix Analytics for Performance は、クラウド上の Citrix DaaS サイトの電源管理対象マシンで実行できるアクションを提供します。完全管理者アクセス権を持つ管理者は、特定されたマシンでマシンアクションを実行できます。この機能により、パフォーマンスの問題があるマシンで管理者が監視して一連のアクションを実行する必要があるタスクが簡素化されます。

マシンアクション（開始、再起動、メンテナンスモードのオン/オフの切り替え、マシンのシャットダウン）は、各マシンの [\[マシン分析\]](#) ページからアクセスできます。また、複数のアクションを組み合わせた複合アクションも用意されており、管理者がワンクリックで影響を受けるマシンを可用性に戻すのに役立ちます。

この機能により、管理者が Web Studio や Citrix Director などの他のコンソールに移動してこれらの操作を実行する必要がなくなります。この機能は、マシンのパフォーマンスに関連する問題のトラブルシューティングと解決に関して、ループを閉じるための鍵です。

詳細については、「[マシンアクションと複合アクション](#)」を参照してください。

**2021年5月12日**

#### インフラストラクチャ分析ダッシュボード-機能強化

このリリースでは、Citrix Analytics for **Performance** にインフラストラクチャ分析ダッシュボードが強化され、マシンの全体的な可用性の可視性が向上しました。新しい [マシンの可用性] ページには、サイトおよびデリバリーグループ間でマシンが使用可能または使用できない時間数が表示されます。[マシンの可用性] には、[利用可能] と [使用不可] のマシンに関する情報が表示されます。使用可能なマシンは、さらに [使用可能] と [アクティブ] 状態に分類されます。使用できないマシンは、「未登録」、「失敗」、「メンテナンス」の状態に分類されます。この情報は、セッションを提供するプロビジョニングされたマシンの可用性を判断するのに役立ちます。

マシンの可用性トレンドは、選択した期間におけるさまざまな状態のマシンの分布を示します。また、成功したセッションと失敗したセッションを示すセッションチャートも利用できます。これは、使用できないマシンと失敗したセッションを関連付けるのに役立ちます。

[マシンのパフォーマンス] セクションには、マルチセッション OS マシンのパフォーマンスに関する情報が表示されます。

さらに、カスタム時間選択フィルターを使用して、選択した期間内の特定の期間におけるマシンの可用性とマシンのパフォーマンスをズームインできます。

詳細については、「[インフラストラクチャ分析](#)」を参照してください。

**2021年4月23日**

#### 失敗の洞察-コミュニケーションエラー

このリリースでは、Citrix Analytics for Performance が、障害インサイトの一部として通信エラーに関する洞察を提供します。

[ **Communication Error** ] サブペインには、エンドポイント (ユーザーがセッションを起動した場所) とマシン間の通信エラーが原因で発生したセッションエラーの数が一覧表示されます。これらのエラーは、不正なファイアウォール構成またはネットワークパス上のその他のエラーが原因で発生する可能性があります。

通信エラーには、次の2つのカテゴリがあります：

- エンドポイントからマシン-エンドポイントとマシンの間で通信エラーが発生したセッションを一覧表示します。
- マシンへのゲートウェイ-ゲートウェイとマシンの間で通信エラーが発生したセッションを一覧表示します。

また、[通信エラー] サブペインには、エラーを解決するための次の推奨事項が表示されます。

- マシンとゲートウェイのファイアウォール設定を確認します。
- マシンとゲートウェイ間のネットワーク接続を確認する

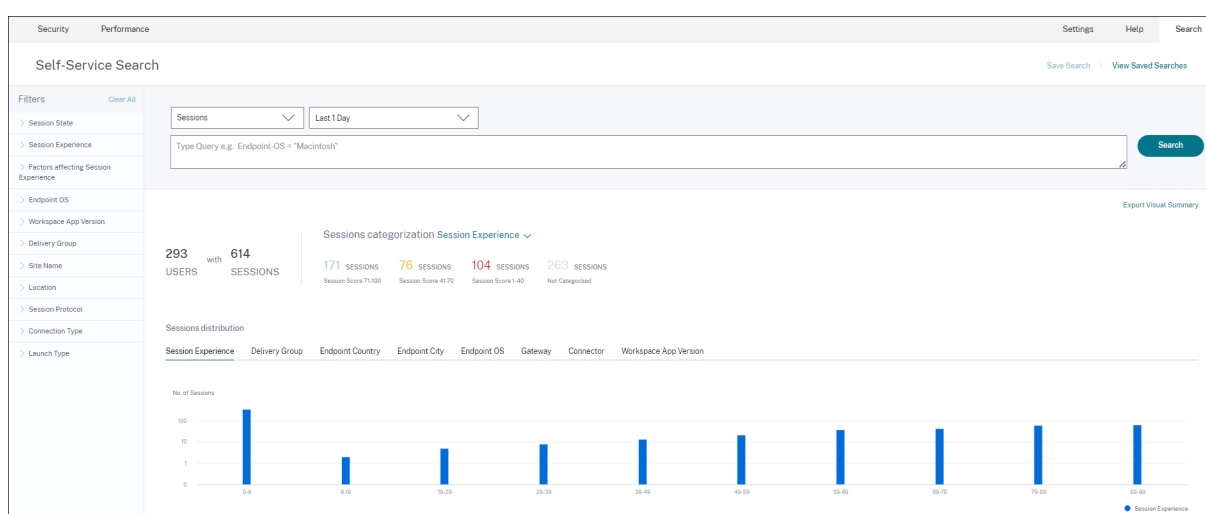
この機能は、Citrix Workspace アプリ 2103 以降でのみサポートされています。

詳細については、「[通信エラー](#)」を参照してください。

### 2021 年 2 月 2 日

#### ビジュアルサマリー **io** セッションセルフサービスビュー

データの視覚的な概要は、セッションのセルフサービスビューで確認できます。Visual Summary は、ユーザーエクスペリエンスの可視性を高めることを目的として、未加工のデータをセルフサービステーブルのグラフとして表示します。



[ビジュアルサマリー (Visual Summary) ] グラフには、選択した基準に基づいてセッションの分類が表示されます。さらに、特定のパラメーターを軸にしたセッション分布を表示するように選択できます。このビューは、ピボットに関連するセッションパフォーマンスの問題を特定するのに役立ちます。

視覚化を使用して、特定の問題のトラブルシューティングに役立つデータのパターンを特定します。

詳細については、「[セルフサービス](#)」記事の「[セッションのセルフサービス検索](#)」セクションを参照してください。

### 2021 年 1 月 28 日

#### 過負荷マシン係数

リソースが過負荷になると、レイテンシが長くなり、ログオン時間が長くなり、障害が発生し、ユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。[ユーザーエクスペリエンス (UX) ファクタ] ページに追加された [オーバーロードマシン] ファクタは、エクスペリエンスの低下を引き起こす過負荷のリソースを可視化します。

CPU スパイクが持続するか、メモリ使用量が多い、またはその両方が 5 分以上続き、選択した期間のユーザーエクスペリエンスが低下したマシンは、過負荷と見なされます。



[オーバーロードされたマシン] セクションには次の情報が表示されます。

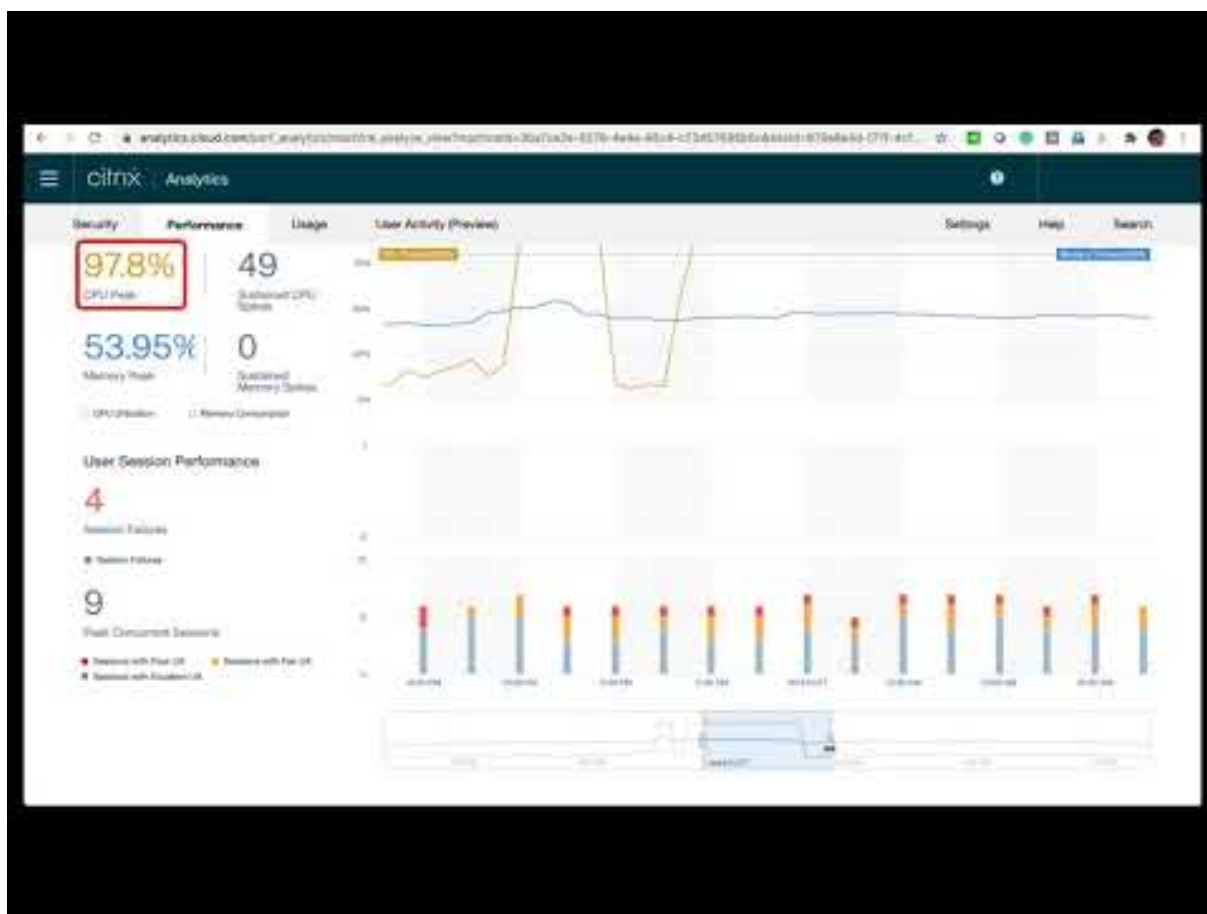
- CPU またはメモリの使用量が少なくとも 1 つの不良セッションに影響を与えたマシンの数。
- オーバーロードされた CPU またはメモリがセッションエクスペリエンスに与える影響によって影響を受けるユーザー数。
- の内訳:
  - リソースの過負荷が原因で、エクスペリエンスの低いユーザーに影響を及ぼしているマシンの数。
  - CPU スパイクと高いメモリ使用量によって影響を受けるエクスペリエンスの低いユーザーの数。

詳しくは、「ユーザーエクスペリエンスの要因」ドリルダウン記事の「[オーバーロードされたマシン](#)」セクションを参照してください。

- 過負荷のユーザー数をクリックすると、ユーザーセルフサービスビューがフィルターされ、過負荷のリソースの影響を受けるセッションのユーザーが表示されます。
- 過負荷のマシンの数をクリックすると、マシンのセルフサービスビューがフィルタリングされ、分類に基づいて、または過負荷のリソース、CPU、またはマシンに基づいて、選択した過負荷のマシンのセットが表示されます。

マシンのセルフサービスビューは、[過負荷のマシン] と [過負荷の CPU/メモリ] ファセットによって強化され、リソースが過負荷になっているマシンをフィルタリングするのに役立ちます。詳細については、「パフォーマンスのセルフサービス検索」の記事の「[過負荷のマシン](#)」を参照してください。

このビデオでは、[オーバーロードされたマシン] ファクタを使用した典型的なトラブルシューティングシナリオを示します。



2020年12月16日

ユーザーエクスペリエンスダッシュボード: セッション数の強化

プロトコルに基づくセッションブレイクアップパネルが [ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードに追加されます。この分割により、サイト上で起動されたセッションの合計数と、Performance Analytics で分析されたセッションの数が明確になります。

選択した期間、パネルには以下が表示されます：

- 選択したサイト内のユニークユーザーの総数
- アクティブだったセッションの合計数。
- 個別の HDX、コンソール、および RDP セッション。

HDX セッションのみに関連する分析がダッシュボードに表示されます。ダッシュボードのさまざまなセクションの詳細については、[User Analytics](#) の記事を参照してください。

プロトコルに関係なく、すべてのセッションのパフォーマンスメトリックは、ユーザーおよびセッションベースのセルフサービスビューで確認できます。Protocol ファセットを使用して、セッションプロトコルに基づいて結果をフィルタリングします。

詳細については、「[パフォーマンスのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

### ユーザーエクスペリエンスダッシュボード: セッション分類の明確性

分類されていないユーザーとセッションは、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードに別のセッションカテゴリとして表示されます。[ユーザーエクスペリエンススコア]、[セッションの応答性]、および[セッションログオン期間]セクションのこのカテゴリは、パフォーマンスが優れている、公平な、または低いと分類できないユーザーおよびセッションを識別するのに役立ちます。古いバージョンの Workspace アプリを実行しているマシンからセッションを起動した場合、またはログオン中にセッションが失敗した場合は、セッションが分類されないことがあります。ダッシュボードの個々のセクションで [Non **Categorized**] セッションの特定の理由の詳細については、次を参照してください。

- [分類されていないユーザー](#)
- [応答性のために分類されていないセッション](#)
- [ログオン期間に分類されないセッション](#)

### 接続情報

接続障害は、一般に、パフォーマンス低下の重要な原因です。接続関連のパラメーターがセッションのセルフサービスビューで使用できるようになり、接続障害の特定とトラブルシューティングが容易になりました。セッションの「セルフサービス」ビューには、「接続タイプ」ファセットと列があります。接続タイプには次の値があります。

- 内部—Gateway なしで直接接続されている場合
- 外部—接続がゲートウェイ経由の場合

また、セッションのセルフサービスビューの列には、ゲートウェイの **FQDN**（外部接続用）とマシンアドレス（内部接続用）があります。

接続の詳細は、Windows 用の Citrix Workspace アプリバージョン 20.12.0 以降を実行しているエンドポイントで確認できます。他のすべてのエンドポイントでは、[接続タイプ] は [N/A] と表示されます。

詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

### エンドポイント情報の機能強化

エンドポイントパラメータは、既存のエンドポイントファセットに加えて、ユーザーおよびセッションベースのセルフサービスビューの列に追加されます。この機能は、場所、OS、Workspace アプリケーションのバージョンなどのエンドポイントパラメータに基づいてユーザーとセッションを検索するのに役立ちます。パラメーターは、エクスポートされた CSV ファイルでも使用できます。

さらに、位置アルゴリズムが拡張され、エンドポイントの最新の位置が解決されない場合に、最後に既知の場所が返されるようになりました。

- [ユーザーとセッション] セルフサービスビューには、ロケーションパラメーター [エンドポイントの国] (前回既知の) と [エンドポイントの都市] (前回既知の) が含まれています。
- [セッション] セルフサービスビューには、[エンドポイントの国] (前回既知の)、[エンドポイントの都市] (前回既知の)、Workspace アプリのバージョン、および [エンドポイント OS] の場所パラメーターが含まれています。

これらの列を追加すると、エンドポイントパラメータを使用してクエリを定義できます。場所、Workspace アプリのバージョン、OS など、エンドポイント固有のパフォーマンスに関する問題を簡単に特定できます。

詳細については、「[パフォーマンスのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

**2020 年 12 月 15 日**

プロファイル負荷インサイトへのドリルダウン

プロファイルロードインサイトはドリルダウンで更新され、プロファイルサイズが大きいためログオンエクスペリエンスが低下しているユーザーを特定するのに役立ちます。



[ 関連の表示 ] リンクには、優れた公平なプロファイルロード経験を持つユーザーのプロファイルサイズを使用して計算された、ユーザーの平均プロファイルサイズが表示されます。プロファイルサイズが平均より大きいユーザーは、プロファイルのロード時間が短くなる可能性があります。

ビュー分析リンクには、プロファイルサイズがユーザーベースのセルフサービスビューの平均よりも大きいユーザーが表示されます。ファセットを使用してこのデータをさらにフィルター処理し、プロファイルサイズが大きく、ログオン時間が低いユーザーを表示します。

ユーザーとセッションの両方のセルフサービスビューには、「プロファイル負荷」フィールドと「平均プロファイルサイズ」フィールドが含まれます。これらのフィールドは、プロファイルのロード時間が長いユーザーを簡単にフィルタリングして識別するのに役立ちます。

詳細については、「ユーザーエクスペリエンス (UX) 要因」記事の「[プロファイル負荷インサイト](#)」セクションを参照してください。



**2020年12月11日**

ユーザーが終了したセッションの識別

セッションの失敗は、ほとんどの環境でユーザーエクスペリエンスに影響を与える重要な要素です。したがって、その精度は、環境内の全体的なユーザーエクスペリエンスを正確に測定する上で重要な役割を果たします。

ユーザーが終了したセッションの特定は、この方向への一歩前進です。失敗したセッションとは別に、ユーザーが自発的に終了したセッションを識別します。セッションセルフサービスビューの「起動ステータス」フィールドには、既存の **Succeeded** ステータスとは別の **User Terminated** ステータスと **Failed** ステータスが表示されます。個別の **User Terminated** ステータスを追加すると、セッション失敗カウントの精度が向上します。

この機能は、以下を実行しているエンドポイントでサポートされます。

- Android 向け Citrix Workspace アプリ 20.9.0 以降
- iOS 版 Citrix Workspace アプリ 20.8.0 以降
- Windows 用の Citrix Workspace アプリ 20.8.0 以降

この機能は、Web 上で Workspace を実行しているエンドポイントをサポートしていません。

詳細については、[セッションのセルフサービス検索を参照してください](#)。

**2020年10月19日**

マシンベースのセルフサービス検索

Citrix Analytics for Performance の既存のユーザーおよびセッションベースのセルフサービスビューに、マシンベースのセルフサービス検索が追加されました。

マシンベースのセルフサービスビューには、仮想マシンの主要パフォーマンス指標が表示されます。メトリックには、マシンのダウンタイム、最新の連続した障害、マシンリソース（CPU とメモリ）のパフォーマンスインジケータ（ピーク使用率、選択した期間のピーク数）が含まれます。リソースが過負荷になっていると、セッションの失敗、高レイテンシー、またはログオン時間が長くなり、ユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。このビューは、マシンリソースの使用率に関連するパフォーマンスの問題を簡単にトラブルシューティングするのに役立ちます。

マシンベースのセルフサービスビューには、Citrix Analytics サービスの [検索] メニューからアクセスできます。[検索] タブのサービスのリストで、[パフォーマンス] セクションで、[マシン] を選択します。マシンベースのセルフサービスビューは、ブラックホールマシンからドリルダウンする場合にも使用できます。このビューにアクセスするには、[ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードの [障害インサイト] セクションで、[ブラックホールマシン] 番号をクリックします。

マシンベースのセルフサービスビューの詳細については、「[マシンのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

### マシン統計ビュー

パフォーマンス向上の Citrix Analytics には、マシン統計ビューが用意されています。このビューには、選択した期間における、選択したマシンのリソース負荷とセッションエクスペリエンスの相関関係が表示されます。この情報は、CPU またはメモリの使用率が高いことがセッション障害に関連しているかどうかを理解するのに役立ちます。次に、アプリとデスクトップ環境のエクスペリエンスが悪いことを説明できます。

マシン統計ページにアクセスするには、マシンセルフサービスビューでマシン名のリンクをクリックします。

このページで利用できる主なデータポイントは次のとおりです。

- 関連するマシン属性 (OS、サイト、デリバリーグループ、過去 24 時間のマシンのダウンタイムなど)。
- CPU やメモリのピーク、過去 24 時間のスパイク数など、リソース使用率に関連するマシンのパフォーマンス統計。また、CPU とメモリの消費量の傾向も表示されます。
- セッションのパフォーマンス統計 (セッション障害の数、過去 24 時間のピーク同時セッション数など)。また、セッション障害の傾向とセッション分類も表示されます。

過去 14 日間の任意の 24 時間のマシン統計を表示するように選択できます。グラフは、デフォルトの 4 時間間隔で表示されます。時間ナビゲータは、この期間を変更し、選択した 24 時間内の任意の期間にズームインするのに役立ちます。

同じビューに表示されるマシンとセッションのパフォーマンス統計は、マシンリソースとその使用パターンを分析し、マシンリソースがパフォーマンスの低下のボトルネックになっている可能性があるかどうかを理解するのに役立ちます。

この機能の詳細については、「[マシンの統計](#)」を参照してください。

### 失敗の洞察-ブラックホールマシン

Citrix Analytics for **Performance** の障害インサイトは、選択した期間中に発生したセッション障害に関する洞察を提供します。この機能は、セッション障害のトラブルシューティングと解決を迅速に行ううえで重要です。これにより、セッションの可用性を向上させるために、セッションの失敗をトラブルシューティングする必要がある管理者のタスクが簡単になり、ユーザーエクスペリエンスが向上します。

このリリースでは、Citrix Analytics for Performance は、障害インサイトの一部としてブラックホールマシンに関する洞察を提供します。

環境内の一部のマシンは、登録済みで正常であるように見えますが、それらのマシンにブローカーされたセッションをサービスしないため、失敗する可能性があります。4 回以上連続してセッション要求を処理できなかったマシンは、ブラックホールマシンと呼ばれます。これらの障害の原因は、RDS ライセンスの不足、断続的なネットワークの問題、マシンの瞬間的な負荷など、マシンに影響を与える可能性のあるさまざまな要因に関連しています。

Failure Insights の [ブラックホールマシン] セクションには、選択した期間中に環境内で識別されたブラックホールマシンの数が表示されます。環境にブラックホールマシンが存在すると、セッションの可用性に影響します。環境内のブラックホールマシンの数を減らすための提案が提供されています。ブラックホールマシンの数をクリックする

と、[マシンベースのセルフサービス] ビューが開きます。このビューは、選択した期間中の環境内のブラックホールマシンを表示するようにフィルタリングされます。

詳細については、[ブラックホールマシンを参照してください](#)。

**2020年7月21日**

#### **GPO** インサイト

**GPO Insights** には、選択した期間中に処理時間が最も長いクライアント側拡張機能 (CSE) が表示されます。**GPO** インサイトは、[セッションログオン期間] サブファクターテーブルで利用できます。[ **GPO** ] 行の [ インサイト ] 列にある [ 考えられる理由 ] リンクをクリックします。

GPO Insights は、GPO の実行時間が長い、ユーザーセッションの分析に基づいています。GPO の実行時間の増加は、処理時間が長い CSE によるものです。CSE 処理を最適化すると、ユーザの全体的なセッションログオンエクスペリエンスが向上します。CSE の平均実行時間は、CSE に適用されるポリシーの数とタイプによって異なります。GPO インサイトに示されているように、処理時間が最も長い CSE に関連付けられたポリシーを確認および調整します。さらに、不要なものは削除することを検討してください。CSE の処理時間を改善するためのその他のポイントについては、「[GPO](#)」を参照してください。

**2020年6月16日**

#### ユーザーエクスペリエンススコアアルゴリズムの改善

ユーザーエクスペリエンススコア計算アルゴリズムが改善されました。セッションの可用性、セッションログオン時間、セッションの応答性、セッションの復元性などの要因に基づいてエクスペリエンスを定量化する方法が最適化されました。今では、セッション中のエクスペリエンスファクターに重点が置かれています。

この更新により、エクスペリエンスが優秀、公平、または貧弱なユーザーのより適切な分類になります。現在、公平または貧弱なエクスペリエンスを持っていると分類されるユーザーが増えていることがわかります。改善されたスコアアルゴリズムにより、貧弱なセッションを正確に特定し、問題を解決してユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。2020年6月以降、新しいユーザー分類データがユーザーエクスペリエンスの傾向に表示されます。この変更は、以前に行われた分類には影響しません。

ユーザーエクスペリエンススコアの計算の詳細については、「[ユーザーエクスペリエンス](#)」の記事を参照してください。

**2020年4月23日**

#### 場所とエンドポイントベースのセルフサービス検索

これで、ユーザーとセッションのパフォーマンスデータのセルフサービスビューで、エンドポイントの国または都市に基づいてイベントを検索できます。セッションパフォーマンスデータのセルフサービスビューには、セッションエ

エンドポイント OS とエンドポイントバージョンに基づくフィルタもあります。

この情報は、パフォーマンスの問題が特定の地域、エンドポイント OS、またはバージョンにローカライズされているかどうかを分析するのに役立ちます。これらのフィルターは、Windows バージョン 1912 以降向けの Citrix Workspace アプリで使用できます。

セルフサービス検索でのこれらのフィルタの使用の詳細については、「[パフォーマンスのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

**2020 年 1 月 10 日**

### **Citrix Analytics for Performance** 正式リリース

Citrix Analytics for Performance は、Citrix Analytics が提供する新しいサブスクリプションベースのサービスです。これにより、アプリとデスクトップ環境の主要業績評価指標を追跡、集計、視覚化できます。これを使用して、オンプレミスとクラウドの両方で、アプリとデスクトップサイトのパフォーマンスの問題を分析できます。詳細については、「[パフォーマンス分析](#)」を参照してください。

### 既知の問題

August 1, 2023

Citrix Analytics サービスプラットフォームに固有の既知の問題は、[Citrix Analytics サービスの既知の問題に関する記事に記載されています](#)。

パフォーマンス分析には次の既知の問題があります。

オンプレミスの Citrix Virtual Apps and Desktops バージョン 2109 を Citrix Director から Citrix Analytics for Performance にオンボードすると失敗する場合があります。

回避策: Citrix Virtual Apps and Desktops をバージョン 2112 にアップグレードして Citrix Analytics for Performance にオンボードします。[DIR-16070]

2022 年 9 月 14 日以前に Citrix Analytics for Performance にオンボーディングされたオンプレミスの NetScaler Gateway からのデータは、正確に処理されない可能性があります。回避策として、オンプレミスの NetScaler Gateway データソースを再度有効化またはオンボーディングします。[オンプレミスの NetScaler Gateway オンボーディングガイド \[WSA-13616\]](#) に従ってください。

### データソース

April 12, 2024

ここで説明するデータソースは、パフォーマンスのために Citrix Analytics にデータを送信するクラウドサービスとオンプレミス製品です。

パフォーマンス分析を使用して、オンプレミスサイトとクラウドサイトを監視できます。このサービスは、純粋なオンプレミスのお客様、クラウドの顧客、またはオンプレミスとクラウドのサイトが混在するハイブリッドのお客様のいずれでも使用できます。

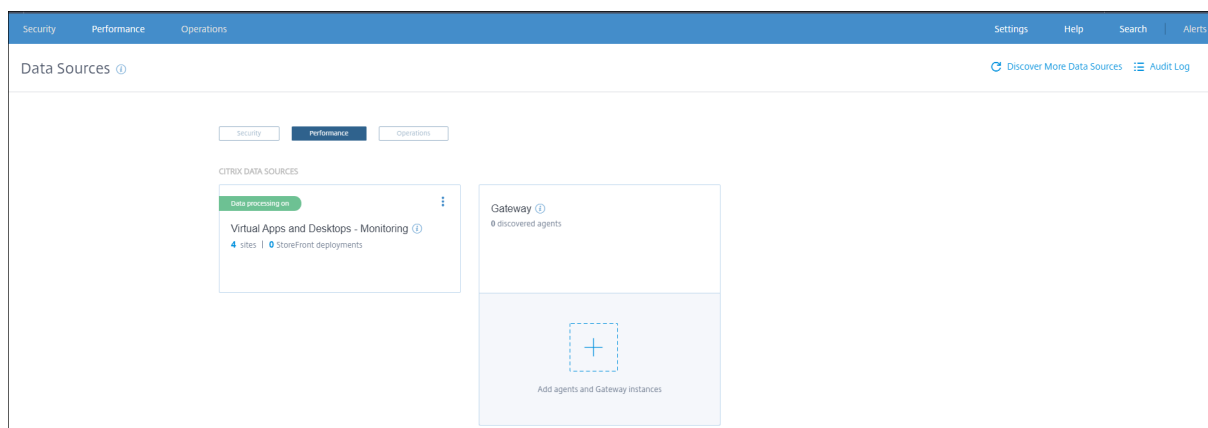
### サポートされているデータソース

次の表に、Citrix Analytics for Performance がサポートする Citrix データソースを示します。

[データソース]	必要なサービスサブスクリプション	製品コンポーネントとバージョン	オンボード	付加価値
Citrix DaaS (旧称: Citrix Virtual Apps and Desktops サービス)	Citrix Cloud ライセンス、Citrix DaaS サブスクリプション	Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックスを参照してください	自動的に検出されません。ネットワーク要件の説明に従って、すべてのエンドポイントから URL にアクセスできるようにする	パフォーマンス分析機能  セッションの応答性、UX スコア  ログオン時間、UX スコア
Citrix Virtual Apps and Desktops オンプレミス	Citrix Workspace サービス、Citrix Virtual Apps and Desktops	Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックスと CitrixVDA/マシンのバージョンマトリックスを参照してください	Director から 3 ステップのプロセスを経てオンボード	パフォーマンス分析機能  セッションの応答性、UX スコア
		エンドユーザーエクスペリエンス監視 (EUEM) サービスのインストールと実行 Citrix Profile Management がインストールされ、実行されている		
		エンドユーザーエクスペリエンス監視 (EUEM) サービスがインストールされ、実行されています。		

[データソース]	必要なサービスサブスクリプション	製品コンポーネントとバージョン	オンボード	付加価値
		Citrix Profile Management がインストールされ、実行されている		ログオン時間、UX スコア
		StoreFront 1906 以降 (StoreFront ユーザーの場合)、Citrix Workspace は自動的に検出されるため、オンボーディングは必要ありません。	<a href="#">StoreFront を使用した Virtual Apps and Desktops サイトのオンボーディング</a>	エンドポイントの場所、障害インサイト: 通信エラー、失敗したセッション: エンドポイント OS、Workspace アプリのバージョン、ユーザーが終了した起動ステータス
NetScaler Gateway オンプレミス Cloud Connector	アプリケーション配信管理エージェント	NetScaler Gateway 12.1.x.x 以降	<a href="#">ゲートウェイデータソース</a>  自動検出	セッション応答性 (レイテンシー) の内訳  コネクタ統計

パフォーマンス分析に関連するクラウドデータソースのステータスは、**Citrix Analytics Service > [設定] > [データソース] > [パフォーマンス]** で確認できます。



### Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックス

次の表に、パフォーマンス向上の Citrix Analytics 機能に最低限必要な Citrix Workspace アプリのバージョンを示します。すべてのエンドポイント (またはプロキシが設定されている場合はプロキシ) から、[https://\\*.cloud.com/](https://*.cloud.com/) および [https://\\*.windows.net/](https://*.windows.net/) URL にアクセスできることを確認します。

機能	UI パラメータ	Windows	Linux	Android	iOS	MAC	HTML5
ユーザーエクスペリエンススコア	ユーザーエクスペリエンスダッシュボード	1906	2104	2010.5	21.9	21.6.0	21.1
エンドポイントの場所、ISP (URL <a href="https://locus.analytics.cloud.com/api/locateip">https://locus.analytics.cloud.com/api/locateip</a> がエンドポイントにアクセス可能であることを確認する)	セッションセルフサービスビュー > エンドポイントの都市、エンドポイントの国	1912	2104	20.3.0	20.4.0	20.05.06	2004
ネットワークメトリック	セッションセルフサービスビュー > ネットワークインターフェースの種類	2105、2311 (ハイブリッドロ	2311 (ハイブリッドロ	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート
ゲートウェイ情報	セッションセルフサービスビュー > 接続タイプ、マシン FQDN、ゲートウェイアドレス	2012	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート

機能	UI パラメ	Windows	Linux	Android	iOS	MAC	HTML5
	ータ						
セッション 起動ステ ータス	セッション セルフサー ビスビュー > 起動ステ ータス	2008	2101	20.9.0	20.8.0	2101	未サポート
コミュニケ ーションエ ラーインサ イト	UX ダッシ ュボード > 障害インサ イト > コミ ュニケーシ ョンエラー	2103	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート
エンドポイ ントネット ワーク統計	セッション セルフサー ビスビュー > エンドポ イントリン ク速度 (P95)、エ ンドポイン トスループ ット着信 (P95)、エ ンドポイン トスループ ット発信 (P95)、お よびセッシ ョンの詳細 ページ > WiFi 信号 強度、エン ドポイント スループッ ト着信、エ ンドポイン トスループ ット発信	2108 (ネイ ティブロー ンチ)、 2311 (ハイ ブリッドロ ーンチ)	2308 (ネイ ティブ起 動)、2311 (ハイブリ ッド起動)	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート



## Citrix VDA のバージョンマトリックス

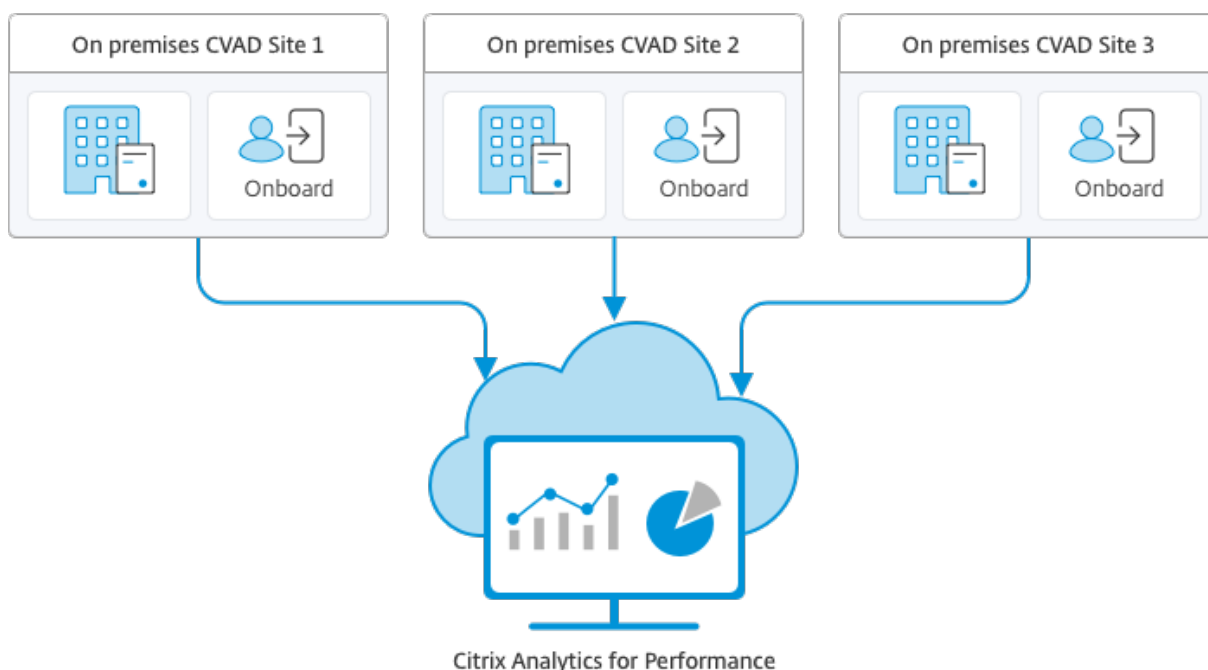
次の表に、特定の Citrix Analytics for Performance 機能のためにマシンで実行するために最低限必要な Citrix Virtual Apps and Desktops を示します。

機能	UI パラメータ	Citrix VDA バージョン
Citrix Analytics for Performance	—	Citrix Virtual Apps and Desktops 7.15 LTSR
帯域幅とネットワーク遅延のメトリック	セッションセルフサービスビューとセッション詳細ビューの帯域幅とネットワーク遅延メトリック	Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2112
マシン統計のプロセスデータ	マシン統計 > プロセスタブにあるリソース消費量の多いプロセスのリスト	Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2203 LTSR

## パフォーマンス向上のための Citrix Analytics を使用したオンプレミスの Citrix Virtual Apps and Desktops サイトの構成

April 12, 2024

オンプレミスの Citrix Virtual Apps and Desktops サイトから Citrix Cloud 上の Citrix Analytics for Performance にパフォーマンスデータを送信して、その高度なパフォーマンス分析機能を活用できます。パフォーマンス分析を表示して使用するには、まず、オンプレミスの監視ツールである [Citrix Director](#) の Citrix Analytics for Performance を使用してオンプレミスサイトを構成する必要があります。



パフォーマンス分析は安全な方法でデータにアクセスし、Citrix Cloud からオンプレミス環境にデータが転送されることはありません。

#### 前提条件

Director から Citrix Analytics for Performance を構成するには、新しいコンポーネントをインストールする必要はありません。次の要件が満たされていることを確認します：

- Delivery Controller と Director のバージョンは 1912 CU2 以降を使用しています。詳しくは、「[機能の互換性マトリックス](#)」を参照してください。

#### 注：

- Delivery Controller が 4.8 より前のバージョンの Microsoft .NET Framework を実行している場合、Director からの Citrix Analytics for Performance を使用したオンプレミスサイトの構成が失敗する可能性があります。この問題を回避するには、Delivery Controller の .NET Framework をバージョン 4.8 にアップグレードします。 [LCM-9255](#)
- Director から Citrix Analytics for Performance を使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops バージョン 2012 を実行しているオンプレミスサイトを構成すると、数時間後、または Delivery Controller で Citrix Monitor Service を再起動した後に構成が失敗する場合があります。この場合、[分析] タブには [未接続] ステータスが表示されます。回避策として、Delivery Controller レジストリに暗号化フォルダを作成します。場所: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\ソフトウェア\Citrix\xdServices\モニタフォルダ名: 暗号化 CitrixMonitor アカウントに、暗号化フォルダに対するフルコントロールアクセス権限があることを確認します。Citrix Monitor Service を再起動します。 [DIR-14324](#)

- この構成を実行するための **[Analytics]** タブには、すべての管理権限を実行できる管理者のみがアクセスできます。
- パフォーマンス分析でパフォーマンスメトリックにアクセスする場合、アウトバウンドインターネットアクセスは、すべての Delivery Controller、および Director がインストールされているマシンで利用できます。具体的には、「[ネットワーク要件](#)」で説明されているように URL にアクセスできるようにしてください。

Delivery Controller と Director マシンがイントラネット内にあり、送信用のインターネットアクセスがプロキシサーバーを経由している場合、以下を確認してください：

- プロキシサーバーは、前述の URL 一覧を許可する必要があります。
- Director の web.config ファイルと citrix.monitor.exe.config ファイルに次の構成を追加します。必ず設定タグに次の設定を追加してください。

```
1 <system.net>
2   <defaultProxy>
3     <proxy usesystemdefault = "false" proxyaddress = "http
4       ://<your_proxyserver_address>:80" bypassonlocal = "
5       true" />
6   </defaultProxy>
7 </system.net>
```

- Director web.config は、ディレクタがインストールされているマシンの `C:\inetpub\wwwroot\Director\web.config` にあります。
- citrix.monitor.exe.config は、Delivery Controller がインストールされているマシンの `C:\Program Files\Citrix\Monitor\Service\Citrix.Monitor.exe.Config` にあります。

この設定は Microsoft によって IIS で提供されます。詳しくは、<https://docs.microsoft.com/en-us/dotnet/framework/network-programming/proxy-configuration> を参照してください。

設定ファイルの **defaultproxy** フィールドは、Director およびモニタサービスのアウトバウンドアクセスを制御します。パフォーマンス分析の構成および通信で、**defaultproxy** フィールドを **true** に設定する必要があります。適用されるポリシーでこのフィールドを **false** に設定することもできます。この場合、フィールドを手動で **true** に設定する必要があります。変更を加える前に、構成ファイルのバックアップを取ってください。変更を有効にするには、Delivery Controller の Monitoring Service を再起動します。

注：

Citrix Virtual Apps and Desktops サイトを新しいバージョンにアップグレードする場合は、デリバリーコントローラーの `citrix.monitor.exe.config` ファイル内のプロキシが再構成されていることを確認してください。

- すべてのエンドポイント（またはプロキシが設定されている場合はプロキシ）から次の URL にアクセスできることを確認します：

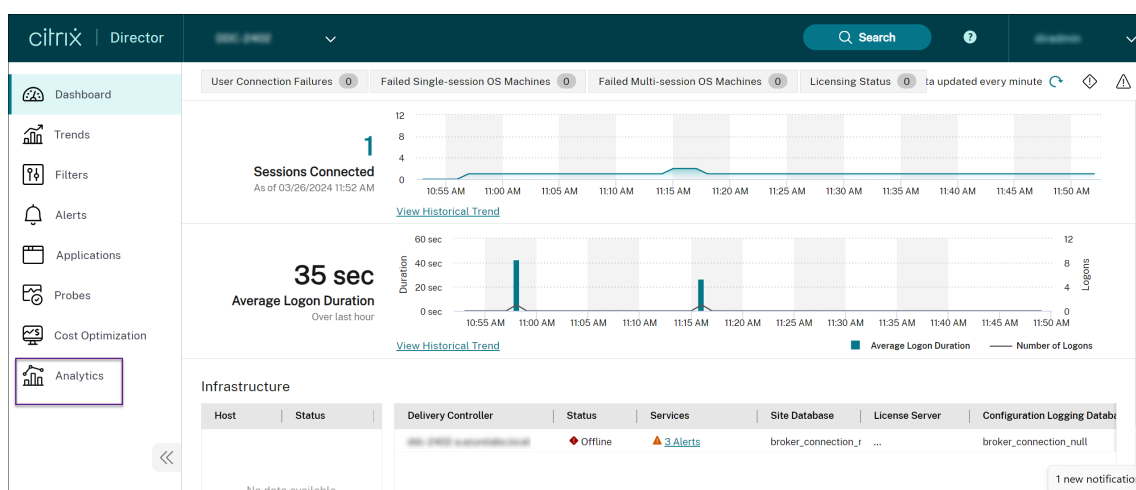
- Citrix Analytics: [https://\\*.cloud.com/](https://*.cloud.com/)
- Microsoft Azure: [https://\\*.windows.net/](https://*.windows.net/)

- Citrix Analytics for Performance を使用するアクティブな Citrix Cloud 使用権があります。
- Citrix Cloud アカウントは、製品登録操作の権限を持つ管理者アカウントです。管理者権限について詳しくは、「[管理者権限を変更する](#)」を参照してください。

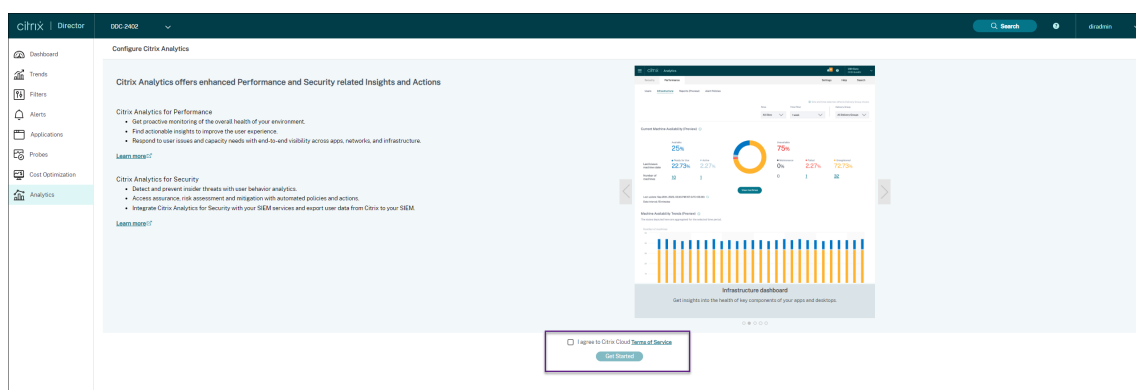
### 構成の手順

前提条件を確認したら、次の操作を行います：

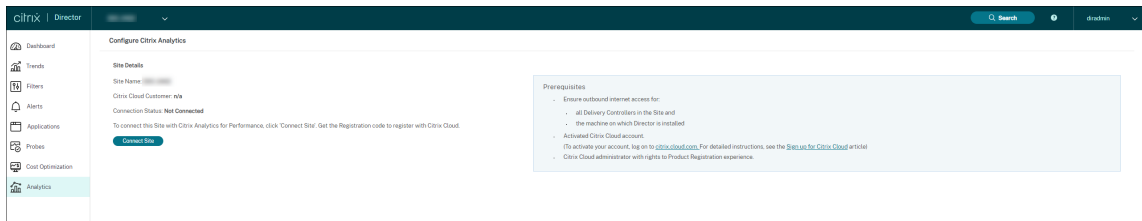
1. フル管理者として Director にサインインし、パフォーマンス分析で設定するサイトを選択します。「Director ダッシュボード」ページが表示されます。



2. **[Analytics]** タブをクリックします。**[Citrix Analytics の設定]** ページが表示されます。

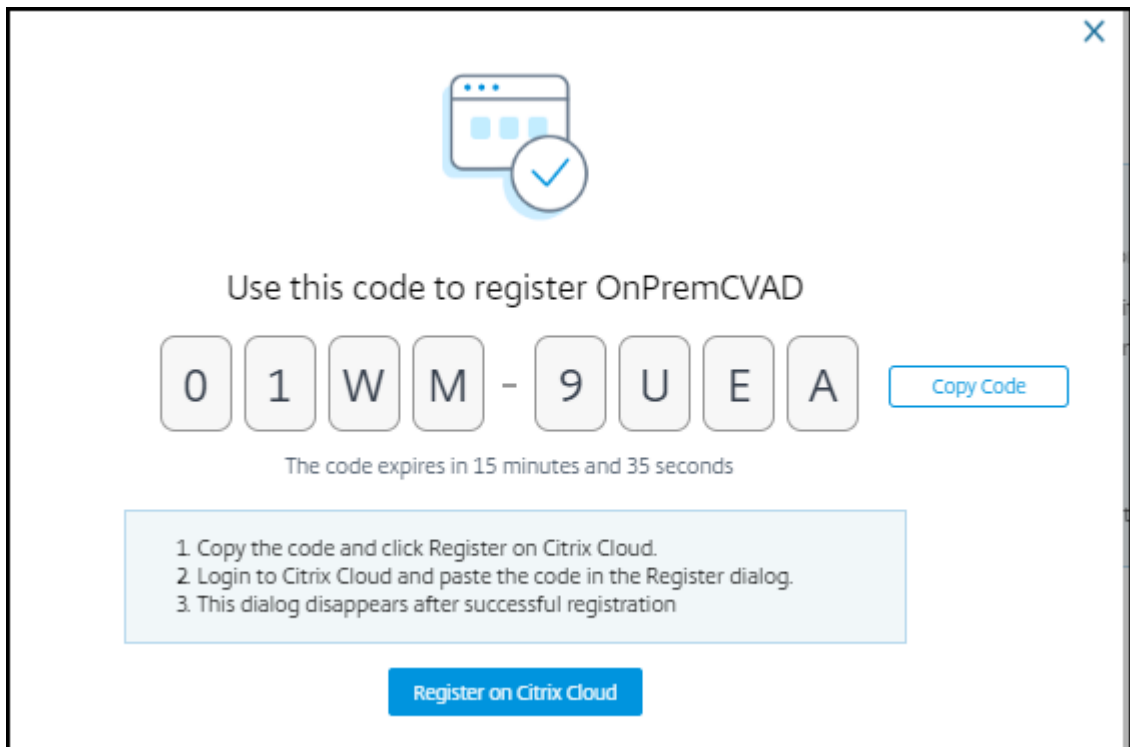


3. 手順を確認し、サービス利用規約を選択し、**[開始]** をクリックします。「サイトの詳細」ページが表示されます。

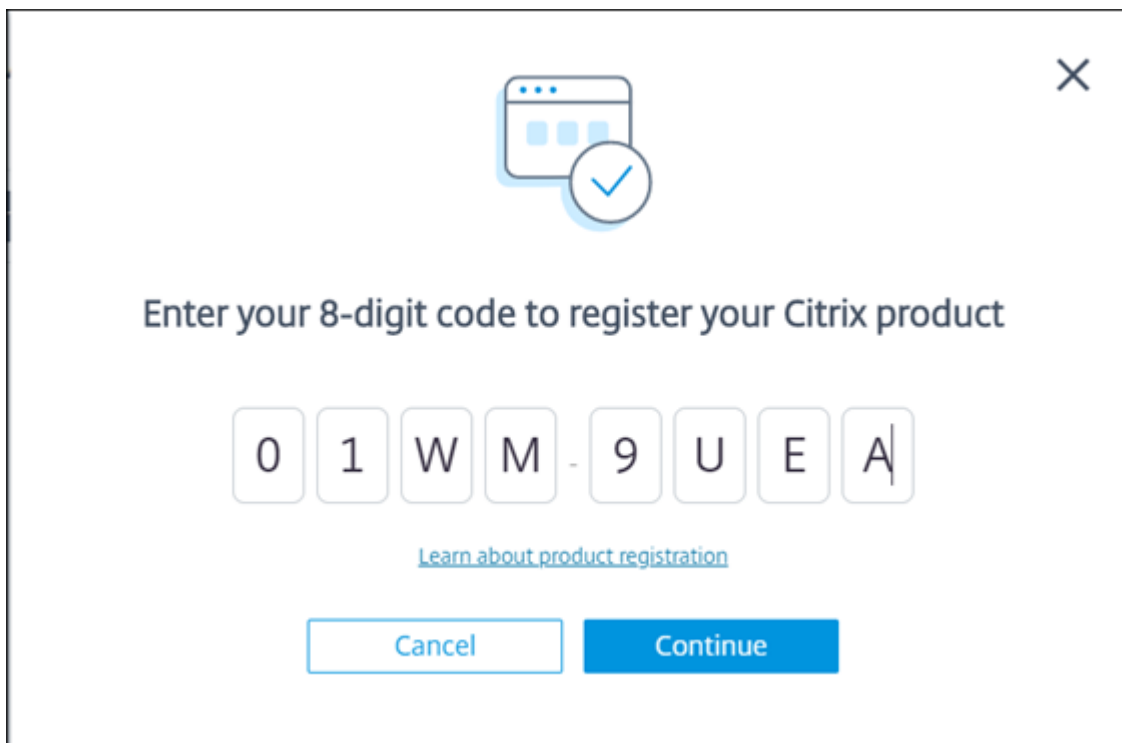


4. 前提条件を確認し、それらが満たされていることを確認します。サイトの詳細を確認してください。
5. [サイトを接続する] をクリックして、構成プロセスを開始します。

このサイトを Citrix Cloud に登録するために使用する一意の 8 桁の登録コードが生成されます。



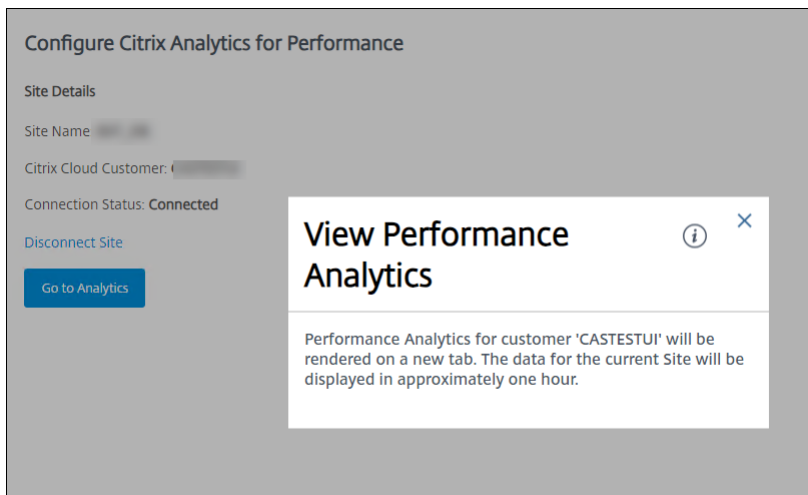
6. [コードのコピー] をクリックしてコードをコピーし、[Citrix Cloud に登録] をクリックします。Citrix Cloud の登録 URL にリダイレクトされます。
7. Citrix Cloud の認証情報を使用してサインインし、顧客を選択します。
8. コピーした登録コードを Citrix Cloud の [製品の登録] ページに貼り付けます。[続行] をクリックして登録します。登録の詳細を確認してから、[登録] をクリックします。



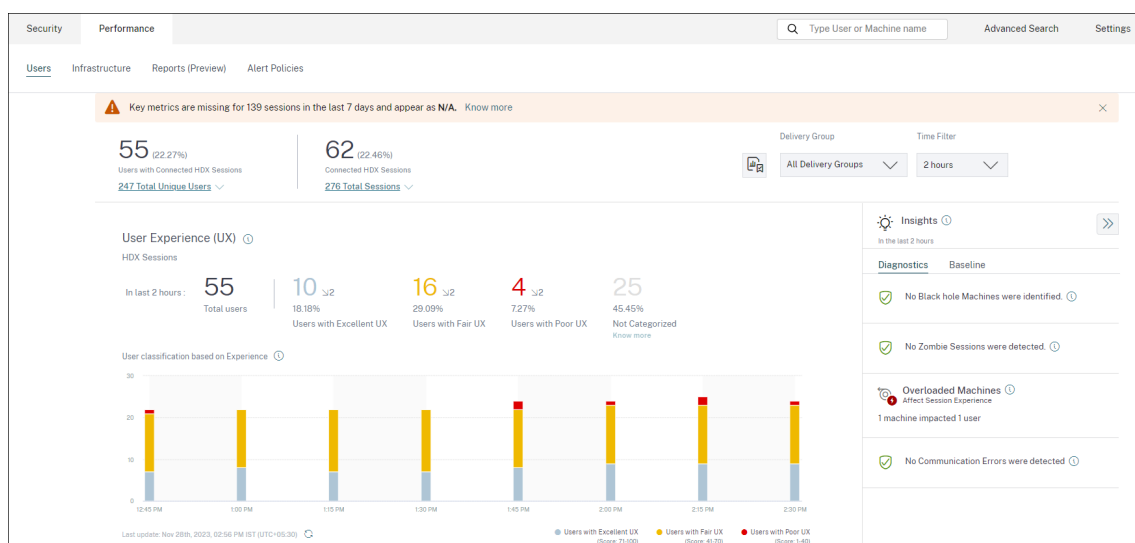
オンプレミスサイトが Citrix Cloud に登録されます。

登録入力が表示されない場合は、「[製品の登録](#)」で説明されている手順に従ってください。

9. **Director** から、[アナリティクス] タブの [**\*\* アナリティクスに移動 \*\***] をクリックします。



パフォーマンス分析は、ブラウザの新しいタブで開きます。



Citrix Cloud セッションの有効期限が切れている場合、Citrix.com または My Citrix アカウントのログオンページにリダイレクトされることがあります。

- 複数のサイトをパフォーマンス分析に登録するには、Director のサイトごとに前述の構成手順を繰り返します。すべての構成済みサイトのメトリックは、パフォーマンス分析ダッシュボードに表示されます。

サイトごとに複数の Director インスタンスが実行されている場合は、任意の Director インスタンスから構成します。サイトに接続されている他のすべての Director インスタンスは、構成プロセス後の次の更新時に更新されます。

- Citrix Cloud からサイトを切断するには、[サイトを切断する] をクリックします。このオプションは、既存の構成を削除します。

メモ:

サイトを初めて構成するときに、サイトからのイベントの処理に多少の時間（約 1 時間）がかかる場合があります。このため、パフォーマンス分析ダッシュボードでのメトリックの表示に遅延が生じます。その後、イベントは定期的に更新されます。

切断すると、新しいアカウントからのイベントが転送されるまで、古いアカウントからのデータ送信がしばらく継続されます。データ送信が停止してから約 1 時間、古いアカウントに関連する分析がパフォーマンス分析ダッシュボードに表示されたままになります。

Citrix Analytics サービスの使用権の有効期限が切れると、パフォーマンス分析へのサイトメトリックの送信を停止するまでに 1 日ほどかかります。

## データガバナンス

December 7, 2023

このセクションでは、Citrix Analytics サービスによるログの収集、保存、および保持に関する情報を提供します。「定義」セクションで定義されていない大文字の用語は、[Citrix エンドユーザーサービス契約で指定された意味を持ちます](#)。

Citrix Analytics は、Citrix コンピューティング環境でのアクティビティに関する洞察を顧客に提供するように設計されています。Citrix Analytics を使用すると、セキュリティ管理者は、監視するログを選択し、ログに記録されたアクティビティに基づいて指示されたアクションを実行できます。これらのインサイトは、セキュリティ管理者がコンピューティング環境へのアクセスを管理し、お客様のコンピューティング環境にあるカスタマーコンテンツを保護するのに役立ちます。

### データ所在地

Citrix Analytics ログはデータソースとは別に保持され、米国、欧州連合、およびアジア太平洋南部地域にある複数の Microsoft Azure Cloud 環境に集約されます。ログのストレージは、Citrix Cloud 管理者が組織を Citrix Cloud にオンボーディングするときに選択したホームリージョンによって異なります。たとえば、組織を Citrix Cloud にオンボーディングするときにヨーロッパリージョンを選択した場合、Citrix Analytics ログは欧州連合の Microsoft Azure 環境に格納されます。

詳しくは、「[Citrix Cloud Services の顧客コンテンツとログの処理](#)」および「[地理的考慮事項](#)」を参照してください。

### データ収集

Citrix Cloud サービスは、ログを Citrix Analytics に送信するようにインストールされています。ログは、次のデータソースから収集されます。

- NetScaler ADC (オンプレミス) と NetScaler Application Delivery Management サブスクリプション
- Citrix Endpoint Management
- NetScaler Gateway (オンプレミス)
- Citrix ID プロバイダー
- Citrix Secure Browser
- Citrix Secure Private Access
- Citrix Virtual Apps and Desktops
- Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス)
- Microsoft Active Directory
- Microsoft Graph Security



### データ送信

Citrix Cloud のログは、Citrix Analytics に安全に送信されます。顧客環境の管理者が Citrix Analytics を明示的に有効にすると、これらのログが分析され、顧客データベースに保存されます。Citrix Workspace Citrix Virtual Apps and Desktops

が構成されているデータソースにも同じことが当てはまります。

NetScaler ADC データソースの場合、ログ転送は、管理者が特定のデータソースに対して明示的に Citrix Analytics を有効にする場合にのみ開始されます。

### データ管理

Citrix Analytics に送信されるログは、管理者がいつでもオンまたはオフにすることができます。

NetScaler ADC オンプレミスデータソースに対してオフにすると、特定の ADC データソースと Citrix Analytics 間の通信が停止します。

他のデータソースですべてオフにすると、特定のデータソースのログは分析されなくなり、Citrix Analytics に保存されなくなります。

### データ保持

Citrix Analytics ログは、最大 13 か月または 396 日間、識別可能な形式で保持されます。すべてのログおよび関連する分析データ（ユーザーリスクプロファイル、ユーザーリスクスコアの詳細、ユーザーリスクイベントの詳細、ユーザーウォッチリスト、ユーザーアクション、ユーザープロファイルなど）は、この期間保持されます。

たとえば、2021 年 1 月 1 日にデータソースでアナリティクスを有効にした場合、デフォルトでは、2021 年 1 月 1 日に収集されたデータは、2022 年 1 月 31 日まで Citrix Analytics に保持されます。同様に、2021 年 1 月 15 日に収集されたデータは、2022 年 2 月 15 日まで保持されます。

このデータは、データソースのデータ処理をオフにした後や、Citrix Analytics からデータソースを削除した後でも、デフォルトのデータ保持期間にわたって保存されます。

Citrix Analytics は、サブスクリプションの有効期限または試用期間の 90 日後にすべてのカスタマーコンテンツを削除します。

### データのエクスポート

このセクションでは、セキュリティのための Citrix Analytics とパフォーマンスのための Citrix Analytics からエクスポートされたデータについて説明します。

Citrix Analytics for Performance は、[データソースからパフォーマンスメトリックを収集して分析します](#)。

セルフサービス検索ページから CSV ファイルとしてデータをダウンロードできます。

Citrix Analytics for Security は、さまざまな製品（データソース）からユーザーイベントを収集します。これらのイベントは、ユーザーの危険で異常な動作を可視化するために処理されます。ユーザーのリスクインサイトとユーザーのイベントに関連するこれらの処理済みデータを、システム情報およびイベント管理 (SIEM) サービスにエクスポートできます。

現在、データは Citrix Analytics for Security から次の 2 つの方法でエクスポートできます。

- Citrix Analytics for Security を SIEM サービスと統合する
- セルフサービス検索ページからデータを CSV ファイルとしてダウンロードします。

Citrix Analytics for Security を SIEM サービスと統合すると、北行きの Kafka トピックまたは Logstash ベースのデータコネクタのいずれかを使用して、データが SIEM サービスに送信されます。

現在、次の SIEM サービスと統合できます。

- Splunk (Citrix Analytics アドオンを介して接続することにより)
- Elasticsearch や Microsoft Azure Sentinel などの Kafka トピックまたは Logstash ベースのデータコネクタをサポートする SIEM サービス

CSV ファイルを使用して SIEM サービスにデータをエクスポートすることもできます。[セルフサービス検索] ページでは、データソースのデータ (ユーザーイベント) を表示し、そのデータを CSV ファイルとしてダウンロードできます。CSV ファイルの詳細については、「[セルフサービス検索](#)」を参照してください。

### 重要

SIEM サービスにデータがエクスポートされると、Citrix はエクスポートされたデータのセキュリティ、ストレージ、管理、および SIEM 環境での使用について責任を負いません。

Citrix Analytics for Security から SIEM サービスへのデータ転送をオンまたはオフにできます。

処理されたデータと SIEM 統合について詳しくは、「[SIEM \(セキュリティ情報およびイベント管理\) の統合](#)」および「[SIEM の Citrix Analytics データ形式](#)」を参照してください。

## Citrix Services Security Exhibit

アクセスと認証、セキュリティプログラム管理、ビジネス継続性、インシデント管理など、Citrix Analytics に適用されるセキュリティ制御に関する詳細情報は、Citrix Services のセキュリティに関する展示会に含まれています。

### 定義

顧客コンテンツとは、Citrix がサービスを実行するためのアクセスを提供されているお客様の環境におけるストレージまたはデータのためにお客様のアカウントにアップロードされるデータを意味します。

ログ: パフォーマンス、安定性、使用状況、セキュリティ、およびサポートを測定するレコードを含む、サービスに関連するイベントのレコードを意味します。

サービスとは、Citrix Analytics の目的で上記に概説した Citrix Cloud クラウドサービスを意味します。

### データ収集契約

お客様のデータを Citrix Analytics にアップロードし、Citrix Analytics の機能を使用することにより、お客様は、Citrix がお客様の Citrix 製品およびサービスに関する技術情報、ユーザー情報、または関連情報を収集、保存、送信、維持、処理、および使用することに同意し、同意するものとします。

Citrix は、[受信した情報を常に Citrix プライバシーポリシーに従って取り扱います。](#)

### 付録: 収集されたログ

- セキュリティログの Citrix Analytics
- パフォーマンス向け Citrix Analytics ログ

### セキュリティログの **Citrix Analytics**

#### 一般ログ

一般に、Citrix Analytics ログには次のヘッダー識別データポイントが含まれます。

- ヘッダーキー
- デバイス識別
- 識別
- IP アドレス
- 組織
- Product
- 製品バージョン
- システム時刻
- テナントの識別
- 種類
- ユーザー: 電子メール、ID、SAM アカウント名、ドメイン、UPN
- バージョン

### **Citrix Endpoint Management** サービスログ

Citrix Endpoint Management サービスのログには、次のデータポイントが含まれています。

- コンプライアンス
- 企業所有
- デバイス ID
- デバイスモデル
- デバイスの種類
- 地理緯度
- 地理経度
- ホスト名
- IMEI
- IP アドレス
- ジェイル・ブロークン
- 前回のアクティビティ
- 管理モード
- オペレーティングシステム
- オペレーティングシステムバージョン
- プラットフォーム情報
- 理由
- シリアル番号
- 監視対象

### **Citrix Secure Private Access** ログ

- AAA ユーザ名
- 認証ポリシーアクション名
- 認証セッション ID
- リクエスト URL
- URL カテゴリポリシー名
- VPN セッション ID

- 仮想サーバー IP
- AAA ユーザの電子メール ID
- 実際のテンプレートコード
- アプリ FQDN
- アプリ名
- アプリケーション名 Vserver LS
- アプリケーションフラグ
- 認証の種類
- 認証ステージ
- 認証ステータスコード
- バックエンドサーバー DST IPv4 アドレス
- バックエンドサーバー IPv4 アドレス
- バックエンドサーバー IPv6 アドレス
- カテゴリドメイン名
- カテゴリドメインソース
- クライアント IP
- クライアント MSS
- クライアント高速レトックスカウント
- クライアント TCP ジッター
- 再送信されたクライアント TCP パケット
- クライアント TCP RTO カウント
- クライアント TCP ゼロウィンドウカウント
- Clt フローフラグ Rx
- Clt フローフラグ Tx
- Clt TCP フラグ Rx
- Clt TCP フラグ Tx
- 接続チェーンホップカウント
- 接続チェーン ID
- 出力インターフェイス

- プロセス ID をエクスポート中
- フローフラグ Rx
- フローフラグ Tx
- HTTP コンテンツタイプ
- HTTP ドメイン名
- HTTP 要求認証
- HTTP 要求クッキー
- HTTP Req Forw FB
- HTTP Req Forw LB
- HTTP 要求ホスト
- HTTP 要求メソッド
- HTTP Req Rcv FB
- HTTP Req Rcv LB
- HTTP 要求リファラー
- HTTP リクエストの URL
- HTTP Req XForwarded For
- HTTP RES Forw FB
- HTTP Res Forw LB
- HTTP 解像度ロケーション
- HTTP 解像度 Rcv FB
- HTTP Res Rcv LB
- HTTP 解像度セットクッキー
- HTTP Rsp Len
- HTTP Rsp Status
- HTTP トランザクション終了時刻
- HTTP トランザクション ID
- IC Cont Grp Name
- IC フラグ
- IC ストアフラグなし

- IC ポリシー名
- Ingress インターフェイスクライアント
- NetScaler Gateway Service アプリ ID
- NetScaler Gateway Service アプリ名
- NetScaler Gateway Service アプリの種類
- NetScaler パーティション ID
- 観測ドメイン ID
- 観測ポイント ID
- 原点解像度ステータス
- オリジン Rsp レン
- プロトコル識別子
- レート制限識別子の名前
- レコードタイプ
- レスポンダーアクションタイプ
- レスポンスメディアタイプ
- Srv フローフラグ Rx
- Srv フローフラグ Tx
- サーブ高速レトックスカウント
- サーバー TCP ジッター
- 再送信されたサーバ TCP パケット
- サーバー TCP Rot カウント
- サーバー TCP ゼロウィンドウカウント
- SSL 暗号値 BE
- SSL 暗号値 FE
- SSL クライアント証明書サイズ BE
- SSL クライアント証明書サイズ FE
- SSL Clnt Cert Sig Hash BE
- SSL Clnt Cert Sig Hash FE
- SSL エラーアプリ名

- SSL エラーフラグ
- SSL フラグ
- SSL フラグ FE
- SSL ハンドシェイクエラーメッセージ
- SSL サーバ証明書サイズ BE
- SSL サーバ証明書サイズ FE
- SSL Session ID BE
- SSL セッション ID FE
- SSL Sig Hash Alg BE
- SSL Sig Hash Alg FE
- SSL Svr Cert Sig Hash BE
- SSL Svr Cert Sig Hash FE
- SSL iDomain Category
- SSL iDomain カテゴリグループ
- SSL ID ドメイン名
- SSL IDomain レピュテーション
- SSL i 実行アクション
- SSL iPolicy アクション
- SSL iReason for アクション
- SSL iURL セットが一致しました
- SSL iURL セットプライベート
- 加入者識別子
- Svr Tcp フラグ Rx
- Svr Tcp フラグ Tx
- テナント名
- Req 親スパン ID のトレース
- Req スパン ID のトレース
- トレーストレース ID
- トランスコルトダスト IPv4 アドレス



- トランスコルトダスト IPv6 アドレス
- トランス Clt Dst ポート
- トランス Clt フローエンドユーザーレックス
- トランス Clt フローエンドユーザー税
- トランス Clt フロー開始 Usec Rx
- トランス Clt フロー開始使用税
- トランス Clt IPv4 アドレス
- トランス Clt IPv6 アドレス
- トランスコルトパケット Tox Cnt Rex
- トランスコルトパケットトート Cnt Tx
- トランス・コルト RTT
- トランス Clt Src ポート
- トランス・コルト・トット・レックス 10 月 Cnt
- トランスコルトトート税 10 月 Cnt
- トランス情報
- トランスサーバ Dst ポート
- トランスサーバパケットトート Cnt Rx
- トランスサーバパケットトート Cnt Tx
- トランス Srv Src ポート
- トランス Svr フローエンドユーザー Rx
- Trans Svr フローエンドユーザー Tx
- Trans Svr Flow Start Usec Rx
- Trans Svr Flow Start Usec Tx
- Trans Svr RTT
- Trans Svr Tot Rx Oct Cnt
- Trans Svr Tot Tx Oct Cnt
- トランザクション ID
- URL カテゴリ
- URL カテゴリグループ

- URL カテゴリレピュテーション
- URL カテゴリアクションの理由
- 一致した URL セット
- URL セットプライベート
- URL オブジェクト ID
- VLAN 番号

### **Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS ログ**

Citrix Virtual Apps and Desktops、および Citrix DaaS ログには、次のデータポイントが含まれます。

- アプリ名
- ブラウザー
- カスタマー ID
- 詳細: フォーマットサイズ、フォーマットタイプ、イニシエータ、結果
- デバイス ID
- デバイスの種類
- フィードバック
- フィードバック ID
- ファイル名
- [ファイルパス]
- ファイルサイズ
- Is like
- ジェイル・ブロークン
- ジョブの詳細: ファイル名、フォーマット、サイズ
- 位置: 推定、緯度、経度

注

位置情報は都市レベルおよび国レベルで提供され、正確な地理的位置情報を表すものではありません。

- 長い CMD ライン
- モジュールファイルパス
- 操作

- オペレーティングシステム
- プラットフォームの追加情報
- プリンタ名
- 質問
- 質問 ID
- SaaS アプリケーション名
- セッションドメイン
- セッションサーバー名
- セッションユーザー名
- セッション GUID
- Timestamp
- タイムゾーン: バイアス、DST、名前
- 印刷部数の総数
- 総印刷ページ数
- 種類
- URL
- ユーザー エージェント

### **NetScaler ADC ログ**

NetScaler ADC ログには、次のデータポイントが含まれています。

- コンテナ
- ファイル
- 形式
- 種類

### **Azure ログ用 Citrix DaaS スタンドアード**

Azure 向け Citrix DaaS Standard ログには、次のデータポイントが含まれています。

- アプリ名
- ブラウザー

- 詳細: フォーマットサイズ、フォーマットタイプ、イニシエータ、結果
- デバイス ID
- デバイスの種類
- ファイル名
- [ファイルパス]
- ファイルサイズ
- ジェイル・ブロークン
- ジョブの詳細: ファイル名、フォーマット、サイズ
- 位置: 推定、緯度、経度

注

位置情報は都市レベルおよび国レベルで提供され、正確な地理的位置情報を表すものではありません。

- 長い CMD ライン
- モジュールファイルパス
- 操作
- オペレーティングシステム
- プラットフォームの追加情報
- プリンタ名
- SaaS アプリケーション名
- セッションドメイン
- セッションサーバー名
- セッションユーザー名
- セッション GUID
- Timestamp
- タイムゾーン: バイアス、DST、名前
- 種類
- URL
- ユーザー エージェント

## Citrix アイデンティティプロバイダーのログ

- ユーザーログイン:
  - 認証ドメイン: 名前、製品、IdP タイプ、IdP 表示名
    - \* IdP プロパティ: アプリケーション、認証タイプ、顧客 ID、クライアント ID、ディレクトリ、発行者、ロゴ、リソース、TID
    - \* 拡張機能:
      - ・ ワークスペース: 背景色、ヘッダーロゴ、ログオンロゴ、リンクの色、テキストの色、StoreFront ドメイン
      - ・ ShareFile: カスタマー ID、カスタマージオ
      - ・ 長寿命トークン: 有効、有効期限タイプ、絶対有効期限秒、スライディング有効期限秒
  - 認証結果: ユーザー名、エラーメッセージ
  - サインインメッセージ: クライアント ID、クライアント名
  - ユーザーの要求: AMR、アクセストークンハッシュ、Aud、認証時間、CIP Cred、認証エイリアス、認証ドメイン、グループ、製品、システムエイリアス、電子メール、検証済み E メール、Exp、ファミリー名、指定された名前、IAT、IdP、ISS、ロケール、名前、NBF、SID、サブ
    - \* 認証エイリアスの要求: 名前、値
    - \* ディレクトリコンテキスト: ドメイン、フォレスト、ID プロバイダ、テナント ID
    - \* ユーザー: 顧客、電子メール、OID、SID、UPN
    - \* IdP エクストラフィールド: Azure AD OID、Azure AD TID
- ユーザーログオフ: クライアント ID、クライアント名、ナンス、サブ
- クライアントアップデート: アクション、クライアント ID、クライアント名

## NetScaler Gateway ログ

- トランザクションイベント:
  - ICA アプリケーション: レコードタイプ、実際のテンプレートコード、観測ドメイン ID、観測ポイント ID、エクスポートプロセス ID、ICA セッション GUID、MSI クライアント Cookie、フロー ID Rx、ICA フラグ、接続 ID、パディングオクテット 2、ICA デバイスシリアル番号、IP バージョン 4、プロトコル識別子、送信元 IPv4 アドレス Rx、宛先 IPv4 アドレス Rx、ソーストランスポートポート Rx、宛先トランスポートポート Rx、ICA アプリケーションの起動期間、ICA 起動メカニズム、ICA アプリケーションの起動時間、ICA プロセス ID の起動、ICA アプリケーション名、ICA アプリケーションモジュールパ

- ス、ICA アプリケーションの終了タイプ、ICA アプリケーションの終了時間、アプリケーション名アプリケーション ID、ICA アプリケーションプロセス ID 終了、ICA アプリケーション
- ICA イベント: レコードタイプ、実際のテンプレートコード、ソース IPv4 アドレス Rx、宛先 IPv4 アドレス Rx、ICA セッション GUID、MSI クライアント Cookie、接続チェーン ID、ICA クライアントバージョン、ICA クライアントホスト名、ICA ユーザー名、ICA ドメイン名、ログオンチケットの設定、サーバー名、サーバーバージョン、フロー Id Rx、ICA フラグ、観察ポイント ID、エクスポートプロセス ID、監視ドメイン ID、接続 ID、ICA デバイスのシリアル番号、ICA セッションのセットアップ時間、ICA クライアント IP、NS ICA セッション状態のセットアップ、ソーストランスポートポート Rx、送信先トランスポートポート Rx、ICA クライアント起動ツール、ICA クライアントの種類、ICA 接続の優先度のセットアップ、NS ICA セッションサーバーポート、NS ICA セッションサーバ IP アドレス、IPv4、プロトコル識別子、接続チェーンホップカウント、アクセスタイプ
  - ICA 更新: レコードタイプ、実際のテンプレートコード、観測ドメイン ID、観測ポイント ID、エクスポートプロセス ID、ICA セッション GUID、MSI クライアント Cookie、フロー ID Rx、ICA フラグ、接続 ID、ICA デバイスシリアル番号、IPv4、プロトコル識別子、パディングオクテット 2、ICA RTT、クライアント側の RX バイト、クライアント側パケット再送信、サーバー側パケット再送信、クライアント側 RTT、クライアント側ジッター、サーバー側ジッター、ICA ネットワーク更新開始時刻、ICA ネットワーク更新終了時刻、クライアント側 SRTT、サーバー側遅延、サーバー側遅延、ホスト遅延、クライアント側ゼロウィンドウ数、サーバー側ゼロウィンドウ数、クライアントサイド RTO カウント、サーバー側 RTO カウント、L7 クライアント遅延、L7 サーバー遅延、アプリケーション名アプリケーション ID、テナント名、ICA セッション更新開始秒、ICA セッション更新終了秒、ICA チャンネル ID 1、ICA チャンネル ID 2、ICA チャンネル ID 2 バイト、ICA チャンネル ID 3 バイト、ICA チャンネル ID 3 バイト、ICA チャンネル ID 4 バイト、ICA チャンネル ID 5、ICA チャンネル ID 5 バイト
  - AppFlow 構成: レコードタイプ、実際のテンプレートコード、観測ドメイン ID、観測ポイント ID、エクスポートプロセス ID、システムルールフラグ 1、システム安全性インデックス、AppFlow プロファイル緩和フラグ、AppFlow プロファイルブロックフラグ、AppFlow プロファイルログフラグ、AppFlow プロファイル学習フラグ、AppFlow プロファイル統計フラグ、AppFlow プロファイル統計フラグ、AppFlow プロファイルなしフラグ、AppFlow アプリケーション名 ID、AppFlow プロファイル記号無効、AppFlow プロファイル符号ブロック数、AppFlow プロファイル符号ログ数、AppFlow プロファイル記号統計数、AppFlow 化身番号、AppFlow シーケンス番号、AppFlow プロファイル記号自動更新、AppFlow 安全性インデックス、AppFlow アプリケーション安全性インデックス、AppFlow プロファイル秒チェック安全性インデックス、AppFlow プロファイルタイプ、Iprep アプリケーション安全性インデックス、AppFlow プロファイル名、AppFlow シグネーム、AppFlow アプリケーション名 Ls、AppFlow シングルルール ID1、AppFlow シングルルール ID2、AppFlow シングルルール ID3、AppFlow シングルルール ID4、AppFlow シングルルール ID5、AppFlow シングルルール有効フラグ、AppFlow シングルルールログフラグ、AppFlow シングルルールファイル名、AppFlow シングルルールカテゴリ 1、AppFlow シングルルール Logstring1、AppFlow シングルルールカテゴリ 2、AppFlow シングルルール LogString2、AppFlow シングルルールカテゴリ 3、AppFlow シングルルールカテゴリ 4、AppFlow シングルルール Logstring4、AppFlow シングルルールカテゴリ 5、AppFlow シングルルール logString5

- AppFlow: 実際のテンプレートコード、観測ドメイン ID、観測ポイント ID、エクスポートプロセス ID、トランザクション ID、Appfw 違反発生時間、アプリ名アプリ ID、appfw 違反の重大度、appfw 違反タイプ、appfw 違反場所、appfw 違反脅威インデックス、appfw NS 経度、appfw NS 緯度、ソース IPv4 アドレス Rx、appfw Http メソッド、Appfw アプリケーション脅威インデックス、appfw ブロックフラグ、appfw 変換フラグ、appfw 違反プロファイル名、appfw セッション ID、appfw Req URL、appfw 地理ロケーション、appfw 違反タイプ名 1、appfw 違反名の値 1、appfw シグカテゴリ 1、appfw 違反タイプ名 2、appfw 違反名前値 2、appfw シグカテゴリ 2、appfw 違反タイプ名 3、appfw 違反名の値 3、appfw シグカテゴリ 3、Appfw 要望 X 転送対用、Appfw アプリケーション名 Ls、アプリケーション名 Ps、Iprep カテゴリ、iprep 攻撃時間、Iprep レピュテーションスコア、Iprep NS 経度、Iprep NS 緯度、Iprep 重大度、Iprep HTTP メソッド、Iprep アプリ脅威インデックス、iprep 地理ロケーション、Tcp Syn 攻撃センター、Tcp 低速リスクセンター、TCP ゼロウィンドウセンター、Appfw ログ Expr 名、Appfw ログ Expr 値、Appfw Log Expr コメント
- VPN: 実際のテンプレートコード、観測ドメイン ID、アクセスインサイトフラグ、観測ポイント ID、エクスポートプロセス ID、アクセスインサイトステータスコード、アクセスインサイトのタイムスタンプ、認証期間、デバイスタイプ、デバイス ID、デバイスの場所、アプリ名アプリ ID、アプリ名アプリ Id、アプリ名アプリ Id1、ソーストランスポートポート Rx、宛先トランスポートポート Rx、認証ステージ、認証タイプ、VPN セッション ID、EPA ID、AAA ユーザー名、ポリシー名、認証エージェント名、グループ名、仮想サーバ FQDN、Csec 式、送信元 IPv4 アドレス Rx、宛先 IPv4 アドレス Rx、CUR ファクタポリシーラベル、次の要素ポリシーラベル、アプリケーション名 Ls、アプリケーション名 1 Ls、AAA ユーザー電子メール ID、ゲートウェイ IP、ゲートウェイポート、アプリケーションバイト数、VPN セッション状態、VPN セッションモード、SSO 認証方式、IIP アドレス、VPN 要求 URL、SSO 要求 URL、バックエンドサーバ名、VPN セッションログアウトモード、ログオンチケットファイル情報、STA チケット、セッション共有キー、リソース名、SNIP アドレス、一時 VPN セッション ID
- HTTP: 実際のテンプレートコード、HTTP 要求メソッド、HTTP 要求 URL、HTTP 要求ユーザーエージェント、HTTP コンテンツタイプ、HTTP 要求ホスト、HTTP 要求承認、HTTP 要求クッキー、HTTP 要求リファラ、HTTP 解像度セットクッキー、IC 続き GRP 名、IC フラグ、IC Nostore フラグ、IC ポリシー名、応答メディアタイプ、入力インターフェイスクライアント、オリジン解像度ステータス、オリジン Rsp Len、Srv フローフラグ Rx、Srv フローフラグ Tx、フローフラグ Tx、フローフラグ Tx、アプリケーション名、観測ポイント ID、エクスポートプロセス ID、観測ドメイン ID、Http トランス終了時刻、トランザクション ID、Http Rsp ステータス、トランス clt Ipv4 アドレス、トランス clt dst Ipv4 アドレス、バックエンド Svr Ipv4 アドレス、Http Rsp Len, Trans Svr RTT, Trans Clt RTT, Http Req Rcv FB, Http Req Rcv LB, Http Res Rcv LB, Http Req Forw LB, Http Req Forw LB, Http Req X Forw 転送先、Http ドメイン名、HTTP Res ロケーション、プロトコル識別子、出力インターフェイス、バックエンド保存 IPv6 アドレス、SSL フラグ BE、SSL フラグ FE、SSL セッション IDBE、SSL セッション IDBE、SSL 暗号値 FE、SSL 暗号値 BE、SSL 署名ハッシュアルゴリズム BE、SSL サーバー証明書署名ハッシュ BE、SSL サーバー証明書署名ハッシュ FE、SSL クライアント証明書署名ハッシュ FE、SSL クライアント証明書署名ハッシュ BE、SSL サーバー証明書サイズ FE、SSL サーバー証明書サイズ BE、SSL クライアント証明書サイズ FE、SSL クライアント証明書サイズ BE、SSL エラーアプリケーション名、SSL エラーフラグ、SSL ハンドシェイクエラーメッセージ、

クライアント IP、仮想サーバー IP、接続チェーン ID、接続チェーンホップカウント、トランス clt TotT Rx Oct Cnt、トランス clt TotTx Oct Cnt、トランス clt Src ポート、トランス Srv Src ポート、トランス Srv Dst ポート、VLAN 番号、クライアント mss、トランス情報、トランス Clt フロー終了使用 Rx、トランス CLT フロー終了 Usec Tx、トランス clt フロー開始使用 Rx、トランス clt フロー開始使用 Tx、トランス Srv フロー終了使用 Rx、トランス Srv フロー終了使用 Tx、トランス Srv フロー開始 Usec、Trans Srv フロー開始 Usec Tx、Trans Srv Tot Rx Oct CNT、TransSrv Tit Tx Oct Cnt, clt フローフラグ Tx, clt フローフラグ Rx, トランス clt IPv6 アドレス, トランス CLT DST IPv6 アドレス, サブスクライバ識別子, SSLi ドメイン名, SSLi ドメインカテゴリ, SSLi ドメインカテゴリグループ, SSLI ドメインレピュテーション, SSLI ポリシーアクション, SSLI 実行アクション, SSLI アクションの理由, SSLI URL セット一致, SSLi URL セットプライベート, URL カテゴリ, URL カテゴリグループ, URL カテゴリレピュテーション, レスポンダアクションタイプ, 一致した URL セット, URL セットプライベート, カテゴリドメイン名, カテゴリドメインソース, AAA ユーザー名, VPN セッション ID, テナント名

- メトリクスイベント:

- vServer LB: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler ID、表現、スキーマタイプ、時間、CPU、GSLB サーバー、GSLB 仮想サーバー、インターフェイス、メモリプール、サーバーサービスグループ、サーバー Svc Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer Cs、vServer LB: RATE Si Tet 要求バイト、RATE SiTot レスポンスバイト、RATE Si Tot レスポンス、RATE Si TotT clt Ttlb トランザクション、RATE Si Tott clt ttlb Pkt Rcvd、RATE Si TotT clt Pkt Sent、RATE Vsvr TotT Hits、Si Cur クライアント、Si Cur Conn 確立、Si Cur サーバ、Si Cur State、Si Tot リクエストバイト、Si Tot レスポンス、Si Tot レスポンス、Si Tott clt ttlb、Si Tott clt ttlb トランザクション、Si TotPkt Rcvd、Si TotPkt Sent Sent、Si TottLb イライラするトランザクション、Si TottTtlb 許容トランザクション、VSVR アクティブ SVC、VSVR TotTot ヒット、Vsvr TotReq Resp 無効、Vsvr TottReq Resp 無効なドロップ
- CPU: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler ID、表現、スキーマタイプ、時間、Cc CPU 使用率、GSLB サーバー、GSLB 仮想サーバー、インターフェイス、メモリプール、NetScaler、サーバーサービスグループ、サーバー SVC Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer CS、vServer Lb、vServer SSL、仮想サーバーユーザー
- サーバーサービスグループ: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler ID、表現、スキーマタイプ、時間、Cc CPU 使用率、GSLB サーバー、GSLB 仮想サーバー、インターフェイス、メモリプール、NetScaler、サーバー Svc Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer CS、vServer Lb、vServer SSL、vServer ユーザー、サーバーサービスグループ: RATE Si Tot リクエストバイト、RATE Si Tot\_Response バイト、RATE Si Tot\_Response バイト、RATE Si Tott clt ttlb、RATE Si Tott clt Ttlb トランザクション、RATE Si Tott Si Tt SV ttfb トランザクション、RATE Si Tott Si Tvr ttfb トランザクション、RATE Si Tott Si Ttlb トランザクションイライラするトランザクション、RATE Si Tott Ttlb 許容トランザクション、Si Cur 状態、Si Tot リクエストバイト、Si Tot リクエスト、Si Tot レスポンスバイト、Si TotT clt Ttlb、Si TottClT Ttlb トランザクション、Si TotSvr ttfb、Si TotSvr Ttfb トランザクション、Si Tott Svr Ttlb トランザクション、Si Tott Svr Ttlb トランザクション、Si Tott Svr Ttlb トランザクション、Si Tots Svr Ttlb TotTtlb イライラするトランザクション、Si



TotTtlb 許容するトランザクション

- サーバー SVC CFG: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler ID、表現、スキーマタイプ、時間、CPU 使用率、GSLB サーバー、GSLB 仮想サーバー、インターフェイス、メモリプール、NetScaler、vServer Authn、vServer Cr、vServer CS、vServer Lb、vServer SSL、vServer ユーザー、サーバー SVC Cfg: RATE Si Totot 要求バイト、RATESi Tot 要求、RATE Si Tot 応答バイト、RATE Si Tot 応答、Si Tott clt ttlb、RATE Si Tott Pkt rcvd、RATE Si Tott Pkt Si Pkt Si Tkt Sd、RATE Si Tott SVR Busy Err、RATE Si Tott SVR Tfb、RATE Si Tott Si Ttr Ttlb、RATE Si Tott svr ttlb Transactions、RATE SiTotTtlb イライラするトランザクション、RATE Si Tott ttlb 許容トランザクション、Si Cur 状態、Si Cur トランスポート、Si Tot リクエストバイト、Si Tot リクエスト、Si Tot レスポンスバイト、Si Tott clt ttlb、Si Tott clt Ttlb トランザクション、Si TotPkt Rcvd、Si Tott Pkt Sent Svr ビジー----- Svr Ttfb トランザクション、Si TottSvr Ttlb、Si TotSvr Ttlb トランザクション、Si TottTtlb イライラするトランザクション、Si TottTtlb 許容トランザクション
- NetScaler: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler ID、表現、スキーマタイプ、時間、GSLB サーバー、GSLB 仮想サーバー、インターフェイス、メモリプール、サーバーサービスグループ、サーバー Svc Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer CS、vServer Lb、vServer SSL、vServer ユーザー、NetScaler: RATE すべてニックトット Rx メガビット、RATE すべて NIC トット Rx メガビット、レート Dns トットクエリ、レート Dns トット Nxdmn エントリ、レート Http トット Gets、レート Http トットその他、レート Http トット投稿、レート Http トットリクエスト、レート Http トットリクエスト 1.0、レート Http トットリクエスト 1.1、レート Http トットリクエスト、レート Http トットリクエスト Rx レスポンスバイト、RATE Ip Tt Rx Mbit、RATE Ip TotT Rx バイト、RATE Ip Tt Rx Pits、RATE Ip Tt Tx バイト、RATE Ip Tt Tx バイト、RATE SSL Tt Dec バイト、RATE SSL TotT End バイト、RATE SSL Tt SSL 情報セッションヒット、RATE SSL トット SSL 情報合計送信カウント、レート Tcp エラー Rst、RATE Tcp Top クライアントオープン、レート Tcp Tt サーバーオープン、レート Tcp トット Rx バイト、レート Tcp トット Rx ポート、レート Tcp トット Syn、レート Tcp トット Tx バイト、レート Tcp トット Tx バイト、レート UDP トット Rx バイト、レート UDP トット Rx バイト、レート UDP トット Tx バイト、レート UDP トット Tx バイト、レート UDP トット Tx バイト、すべて NIC トット送信メガビット、CPU 使用、DNS トットクエリ、DNS トットネグ Nxdmn エントリ、Http トット取得、Http トットその他、Http トット投稿、Http トットリクエスト、Http トット Requests1.0、Http トットレスポンス、Http トット受信リクエストバイト、Http トット受信レスポンスバイト、IP トット受信メガビット、IP トット受信バイト、IP トット Rx Pkts、IP トット送信バイト、IP トット Pkt TS、Mem cur フリーサイズ、Mem Cur Free 実際のサイズ、メモリ CUR 使用サイズ、使用可能なメモリトット、管理追加 CPU 使用、管理 CPU 使用、管理 CPU 使用、SSL トット Dec バイト、SSL トット Enc バイト、SSL トット SSL 情報セッションヒット、SSL トット SSL 情報合計送信回数、システム CPU、Tcp Cur クライアントコネクト、TCP CUR クライアント接続終了、TCP CUR クライアント接続終了、TCP CUR クライアント接続テスト、TCP Cur サーバーコネ、TCP CUR サーバー接続終了、TCP CUR サーバー接続テスト、TCP エラー最初、TCP おっとクライアントオープン、TCP トットサーバーオープン、TCP トット受信バイト、TCP トット受信ピクツ、TCP トット同列、TCP トット Tx バイト、Tcp トット送信バイト、Tcp トット Tx Pkts、Ucp

トット受信バイト、Udp トット送信バイト、Udp トット送信バイト

- メモリプール: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler ID、スキーマタイプ、時間、CPU、Gslb サーバー、Gslb 仮想サーバー、インターフェイス、NetScaler、サーバーサービスグループ、サーバー Svc Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer CS、vServer Lb、vServer SSL、vServer ユーザー、メモリプール: メモリコア割り当てサイズ、メモリエラーの割り当てに失敗しました。メモリメモリが使用可能
- 監視サービスバインド: バインドエンティティ名、エンティティ名、NetScalerId、schemaType、時間、CPU、Gslb サーバー、Gslb 仮想サーバー、インターフェイス、メモリプール、NetScaler、サーバーサービスグループ、サーバー Svc Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer CS、Vserver Lb、vServer SSL、vServer ユーザー、月サービスバインディング: レート月 Toto プロブ、月トットプロブ
- インターフェイス: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler Id、スキーマタイプ、時間、CPU、Gslb サーバー、Gslb 仮想サーバー、メモリプール、NetScaler、サーバーサービスグループ、サーバー Svc Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer Cs、Vserver Lb、vServer SSL、仮想サーバーユーザー、インターフェイス: レート NIC 合計受信バイト、RATE NIC tot 受信パケット、RATE NIC tot Tx バイト、RATE NIC tot Tx パケット、NIC tot Rx バイト、NIC ToT Rx パケット、NIC ToT Tx バイト、NIC ToT Tx パケット
- vServer CS: バインドエンティティ名、エンティティ名、月サービスバインド、NetScaler ID、スキーマタイプ、時間、CPU、Gslb サーバー、Gslb 仮想サーバー、メモリプール、NetScaler、サーバーサービスグループ、サーバー Svc Cfg、vServer Authn、vServer Cr、vServer CS、vServer Lb、vServer SSL、vServer ユーザー、vServer CS: RATE Si Totot 要求バイト、RATESi Tot リクエスト、RATE Si Tot レスポンスバイト、RATE Si Tot レスポンス、RATE Si Tott clt ttlb トランザクション、RATE Si Tott Pkt rcvd、RATE Si Tott Pkt Si Pkt 送信、RATE Si Tott ttlb イライラするトランザクション、RATE Si Tott ttlb 許容トランザクション、RATE Vsvr Tott Hits、Si Cur State、Si トット要求バイト数、SiTot リクエスト、Si Tot レスポンスバイト、Si Tot レスポンス、Si TotClT Ttlb トランザクション、Si TotPkt Rvd、Si TotPkt Sent、Si TottPit イライラするトランザクション、Si TottTlb 許容トランザクション、VSVR TotTotReq、VSVR TottReq Resp 無効ドロップされました

セキュリティで保護されたブラウザログ

- アプリケーションポスト:
  - 公開アプリケーションの前のログ: 認証、ブラウザ、ID の変更、作成済み、顧客名、宛先 URL、E-Tag、ゲートウェイサービス製品 ID、セッション ID、レガシーアイコン、アプリケーション名、ポリシー、公開アプリケーション ID、リージョン、リソースゾーン、リソースゾーン ID、サブスクリプション、セッションアイドルタイムアウト、セッションアイドルタイムアウト警告、ウォーターマーク、外部ホワイトリスト、ホワイトリスト内部、ホワイトリトリダイレクト

- 公開アプリケーションの後のログ: 認証、ブラウザ、ID の変更、作成済み、顧客名、宛先、E-Tag、ゲートウェイサービス製品 ID、セッション ID、レガシーアイコン、アプリケーション名、ポリシー、公開アプリケーション ID、リージョン、リソースゾーン、リソースゾーン ID、サブスクリプション、セッションアイドルタイムアウト、セッションアイドルタイムアウト警告、ウォーターマーク、ホワイトリスト外部 URL、ホワイトリスト内部 URL、ホワイトリトリダイレクト URL
- アプリケーションの削除:
  - 公開アプリケーションの前のログ: 認証、ブラウザ、ID の変更、作成済み、顧客名、宛先 URL、E-Tag、ゲートウェイサービス製品 ID、セッション ID、レガシーアイコン、アプリケーション名、ポリシー、公開アプリケーション ID、リージョン、リソースゾーン、リソースゾーン ID、サブスクリプション、セッションアイドルタイムアウト、セッションアイドルタイムアウト警告、ウォーターマーク、外部ホワイトリスト、ホワイトリスト内部、ホワイトリトリダイレクト
  - 公開アプリケーションの後のログ: 認証、ブラウザ、ID の変更、作成済み、顧客名、宛先、E-Tag、ゲートウェイサービス製品 ID、セッション ID、レガシーアイコン、アプリケーション名、ポリシー、公開アプリケーション ID、リージョン、リソースゾーン、リソースゾーン ID、サブスクリプション、セッションアイドルタイムアウト、セッションアイドルタイムアウト警告、ウォーターマーク、ホワイトリスト外部 URL、ホワイトリスト内部 URL、ホワイトリトリダイレクト URL
- アプリケーションの更新:
  - 公開アプリケーションの前のログ: 認証、ブラウザ、ID の変更、作成済み、顧客名、宛先 URL、E-Tag、ゲートウェイサービス製品 ID、セッション ID、レガシーアイコン、アプリケーション名、ポリシー、公開アプリケーション ID、リージョン、リソースゾーン、リソースゾーン ID、サブスクリプション、セッションアイドルタイムアウト、セッションアイドルタイムアウト警告、ウォーターマーク、外部ホワイトリスト、ホワイトリスト内部、ホワイトリトリダイレクト
  - 公開アプリケーションの後のログ: 認証、ブラウザ、ID の変更、作成済み、顧客名、宛先、E-Tag、ゲートウェイサービス製品 ID、セッション ID、レガシーアイコン、アプリケーション名、ポリシー、公開アプリケーション ID、リージョン、リソースゾーン、リソースゾーン ID、サブスクリプション、セッションアイドルタイムアウト、セッションアイドルタイムアウト警告、ウォーターマーク、ホワイトリスト外部 URL、ホワイトリスト内部 URL、ホワイトリトリダイレクト URL
- エンタイトルメントの作成:
  - エンタイトルメント作成前のログ: 承認済み、顧客 ID、データ保持日数、終了日、猶予期間日数、セッション ID、製品 SKU、数量、シリアル番号、開始日、状態、タイプ
  - エンタイトルメント作成後のログ: 承認済み、顧客 ID、データ保持日数、終了日、猶予期間日数、セッション ID、製品 SKU、数量、シリアル番号、開始日、状態、タイプ
- エンタイトルメントの更新:
  - エンタイトルメント更新前のログ: 承認済み、顧客 ID、データ保持日数、終了日、猶予期間日数、セッション ID、製品 SKU、数量、シリアル番号、開始日、状態、タイプ

- エンタイトルメント更新後のログ: 承認済み、顧客 ID、データ保持日数、終了日、猶予期間日数、セッション ID、製品 SKU、数量、シリアル番号、開始日、状態、タイプ
- セッションアクセスホスト: ホスト、クライアント IP、日時、ホスト、セッション、ユーザー名を受け入れる
- セッション接続:
  - セッション接続前のログ: アプリケーション ID、アプリケーション名、ブラウザ、作成済み、顧客 ID、期間、セッション ID、IP アドレス、最終更新日、起動ソース、ユーザー名
  - セッション接続後のログ: アプリケーション ID、アプリケーション名、ブラウザ、作成済み、顧客 ID、期間、セッション ID、IP アドレス、最終更新日、起動ソース、ユーザー名
- セッションの起動:
  - セッション起動前のログ: アプリケーション ID、アプリケーション名、ブラウザ、作成済み、顧客 ID、期間、セッション ID、IP アドレス、最終更新日、起動ソース、ユーザー名
  - セッション起動後のログ: アプリケーション ID、アプリケーション名、ブラウザ、作成済み、顧客 ID、期間、セッション ID、IP アドレス、最終更新日、起動ソース、ユーザー名
- セッションティック:
  - セッションティック前のログ: アプリケーション ID、アプリケーション名、ブラウザ、作成済み、顧客 ID、期間、セッション ID、IP アドレス、最終更新日、起動ソース、ユーザー名
  - セッションティック後のログ: アプリケーション ID、アプリケーション名、ブラウザ、作成済み、顧客 ID、期間、セッション ID、IP アドレス、最終更新日、起動ソース、ユーザー名

### Microsoft Graph セキュリティログ

- テナント ID
- ユーザー ID
- インジケータ ID
- インジケータ UUID
- イベント時間
- 時間を作成
- アラートのカテゴリ
- ログオンの場所
- ログオン IP
- ログオンの種類

- ユーザーアカウントタイプ
- ベンダー情報
- ベンダープロバイダ情報
- 脆弱性の状態
- 脆弱性の重大度

### **Microsoft Active Directory ログ**

- テナント ID
- 時間を集める
- 種類
- ディレクトリコンテキスト
- グループ
- ユーザー情報
- ユーザーの種類
- アカウント名
- 不正なパスワードカウント
- 市区町村
- コモンネーム
- 会社
- 国
- パスワードの有効期限までの日数
- 部署
- 説明
- 表示名
- 識別名
- メール
- ファックス番号
- 名
- グループカテゴリ

- グループスコープ
- 自宅電話
- イニシャル
- IP フォン
- アカウントは有効になっていますか
- アカウントはロックされているか
- セキュリティグループか
- 姓
- マネージャー
- のメンバー
- 携帯電話
- ポケベル
- パスワードは期限切れにならない
- 物理的な配達所名
- 私書箱
- 郵便番号
- プライマリグループ ID
- 状態
- 番地
- 役職
- ユーザーアカウント制御
- ユーザーグループリスト
- ユーザー プリンシパル名
- 勤務先の電話番号

#### パフォーマンス向け **Citrix Analytics** ログ

- actionid
- actionreason
- actiontype

- adminfolder
- agentversion
- allocationtype
- applicationid
- applicationname
- applicationpath
- applicationtype
- applicationversion
- associateduserfullnames
- associatedusername
- associatedusernames
- associateduserupns
- authenticationduration
- autoreconnectcount
- autoreconnecttype
- AvgendPoint スループット受信バイト数
- AvgendPoint スループットバイトが送信されました
- blobcontainer
- blobendpoint
- blobpath
- brokerapplicationchanged
- brokerapplicationcreated
- brokerapplicationdeleted
- brokeringdate
- brokeringduration
- brokerloadindex
- brokerregistrationstarted
- browsername
- catalogchangeevent

- catalogcreatedevent
- catalogdeletedevent
- catalogid
- catalogname
- catalogsync
- clientaddress
- clientname
- clientplatform
- clientsessionvalidatedate
- clientversion
- collecteddate
- connectedviahostname
- connectedviaipaddress
- connectionid
- connectioninfo
- connectionstate
- connectiontype
- controllerdnsname
- cpu
- cpuindex
- createddate
- currentloadindexid
- currentpowerstate
- currentregistrationstate
- currentsessioncount
- datetime
- deliverygroupadded
- deliverygroupchanged
- deliverygroupdeleted



- deliverygroupid
- deliverygroupmaintenancemodechanged
- deliverygroupname
- deliverygroupsync
- deliverytype
- deregistrationreason
- desktopgroupdeletedevent
- desktopgroupid
- desktopgroupname
- desktopkind
- disconnectcode
- disconnectreason
- disk
- diskindex
- dnsname
- domainname
- effectiveloadindex
- enddate
- errormessage
- establishmentdate
- eventreporteddate
- eventtime
- exitcode
- failurecategory
- failurecode
- failedata
- failedate
- failurereason
- failuretype

- faultstate
- functionallevel
- gpoenddate
- gpostartdate
- hdxenddate
- hdxstartdate
- host
- hostedmachineid
- hostedmachinename
- hostingservername
- hypervisorconnectionchangedevent
- hypervisorconnectioncreatedevent
- hypervisorid
- hypervisorname
- hypervisorsync
- icartt
- icarttms
- id
- idletime
- inputbandwidthavailable
- inputbandwidthused
- instancecount
- interactiveenddate
- interactivestartdate
- ipaddress
- isassigned
- isinmaintenancemode
- ismachinephysical
- ispendingupdate

- ispreparing
- isremotepc
- issecureica
- lastderegisteredcode
- launchedviahostname
- launchedviaipaddress
- lifecyclestate
- linkSpeed
- logonduration
- logonenddate
- logonscriptsenddate
- logonscriptsstartdate
- logonstartdate
- long
- machineaddedtodesktopgroupevent
- machineassignedchanged
- machinecatalogchangeevent
- machinecreateevent
- machinedeleteevent
- machinederegistrationevent
- machinednsname
- machinefaultstatechangeevent
- machinehardregistrationevent
- machineid
- machinemaintenancemodechangeevent
- machinename
- machinepvdstatechanged
- machineregistrationendedevent
- machineremovedfromdesktopgroupevent

- machinerole
- machinesid
- machineupdatedevent
- machinewindowsconnectionsettingchanged
- memory
- memoryindex
- modifieddate
- NGSCConnector.ICACConnection.Start
- ngsConnector.ngs シンセティックメトリック
- ngsConnector.ngspassive メトリック
- ngsConnector.ngs システムメトリック
- network
- networkindex
- networklatency
- networkinfoperiodic
- ネットワークインターフェースタイプ
- ostype
- outputbandwidthavailable
- 使用された出力帯域幅
- path
- percentcpu
- persistentuserchanges
- powerstate
- processname
- profileloadenddate
- profileloadstartdate
- protocol
- provisioningSchemeid
- provisioningtype

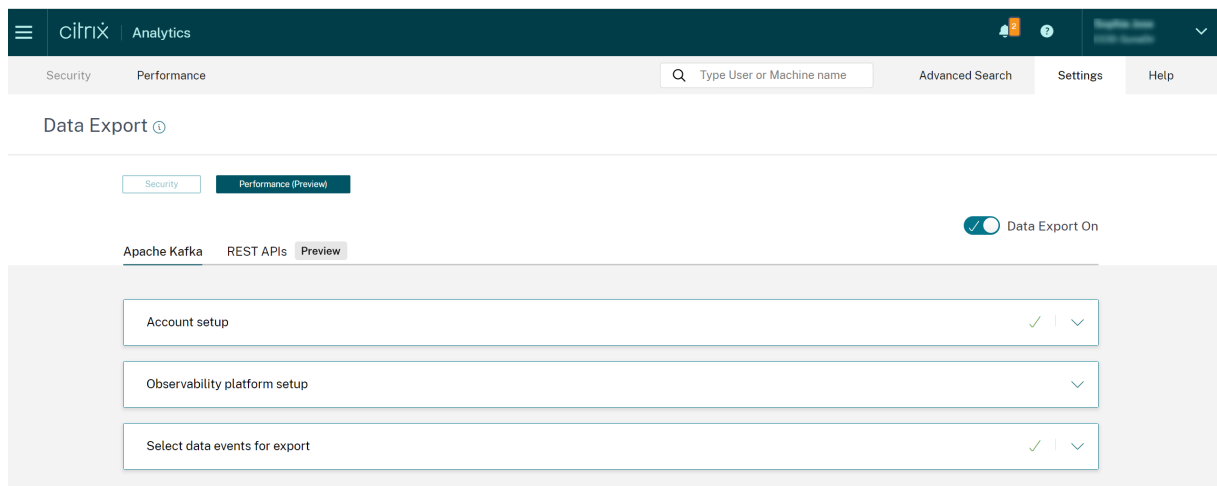
- publishedname
- registrationstate
- serversessionvalidatedate
- sessioncount
- sessionend
- sessionfailure
- sessionid
- sessionidlesince
- sessionindex
- sessionkey
- sessionstart
- sessionstate
- sessionsupport
- sessiontermination
- sessiontype
- sid
- 信号強度
- siteid
- sitename
- startdate
- totalmemory
- triggerinterval
- triggerlevel
- triggerperiod
- triggervalue
- usedmemory
- userid
- userinputdelay
- username

- usersid
- vdalogonDuration
- vdaprocesdata
- vdaresourceData
- version
- vmstartenddate
- vmstartstartdate
- windowsconnectionsetting
- xd.sessionStart

### オブザーバビリティプラットフォームへのデータエクスポート (プレビュー)

April 12, 2024

Citrix Analytics for Performance は、Splunk、Elasticsearch、Grafana オブザーバビリティプラットフォームと統合されるようになりました。データエクスポート機能を使用して、パフォーマンスデータとイベントを **Citrix Analytics for Performance** から Splunk、Elasticsearch、Grafana にエクスポートできます。



オブザーバビリティプラットフォームでは、オンプレミスの Citrix Virtual Apps and Desktops サイトと、Citrix Analytics for Performance サービスに登録されている DaaS クラウドサービスに属するパフォーマンスメトリックを全体的に把握できます。さらに、Citrix Analytics for Performance データのパフォーマンスメトリックを、オブザーバビリティプラットフォーム内で接続されている外部データソースからのデータと組み合わせて関連付けることができます。

オブザーバビリティプラットフォームで利用可能なデータを使用して、継続的な監視を通じて価値を引き出すことができます。仮想アプリやデスクトップサイトのパフォーマンスに関する実用的なビジネスインサイトを得るのに役立ちます。オブザーバビリティプラットフォームのデータを使用するいくつかの方法は次のとおりです。

- ダッシュボードとレポートを定期的に作成します。これらのダッシュボードとレポートは、環境のパフォーマンスを経時的に分析するのに役立ちます。
- 組織の KPI に関連する特定の情報を抽出し、ユーザーパフォーマンスの低下の原因となっているボトルネックを特定します。
- サイト内の使用率が低いマシンを特定し、使用量と使用量を最適化して全体的なコストを削減します。
- インフラストラクチャ内のユーザーが接続中およびセッション中に直面している特定の問題の優先順位付けとトラブルシューティングを行います。
- クライアント側のネットワークやエンドポイントデバイスの問題、またはゲートウェイやコネクタなどの特定のインフラストラクチャコンポーネントの問題の原因を簡単に突き止め、セッション中のエクスペリエンスの低下を特定できます。
- セッション障害や高いセッションレイテンシーのパターンを特定して、エクスペリエンスの低下が特定の場所や特定のサービスプロバイダーに限定できるかどうかを確認します。
- リソース不足の原因となっている特定のアプリやプロセスを特定します。

この機能を使用するには、この [フォーム](#) を使用してテクニカルレビューにサインアップし、登録してください。

### オブザーバビリティプラットフォームとの統合

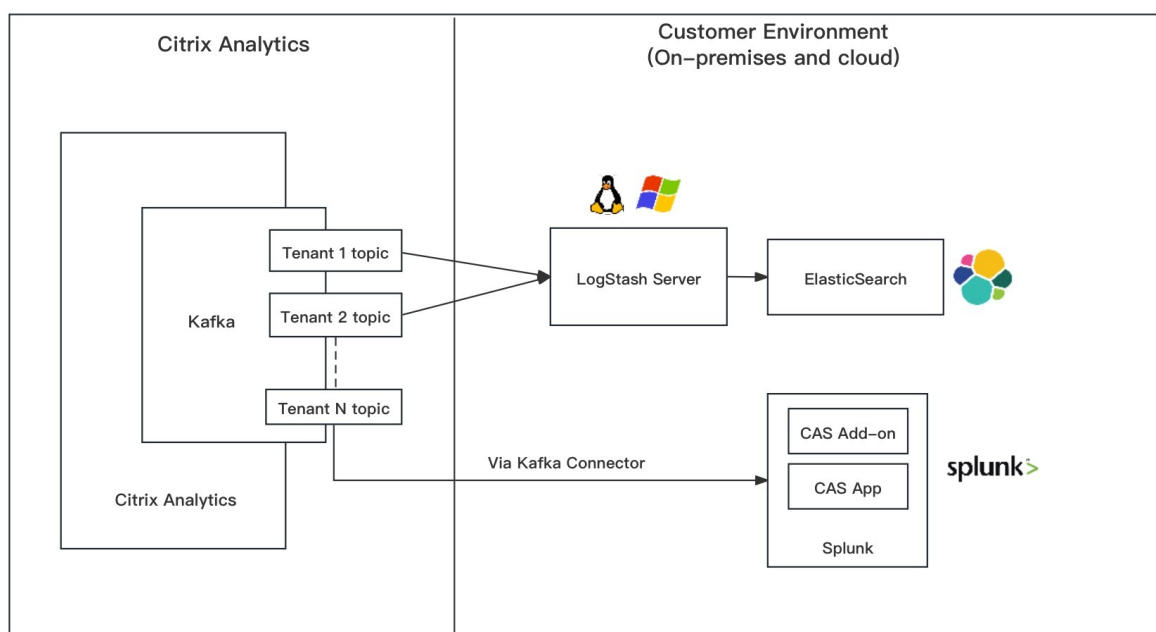
現在、Citrix Analytics フォーパフォーマンスがサポートしているオブザーバビリティプラットフォームは、Splunk、Elasticsearch、Grafana です。以下の機能と使用方法の詳細については：

- Splunk については、Splunk の [ドキュメント](#) を参照してください。
- エラスティックサーチ、エラスティックサーチの [ドキュメント](#) を参照してください
- [Grafana](#)、[Grafana ドキュメント](#) を参照してください

Splunk は、Kafka エンドポイントを使用して、Citrix Analytics for Performance クラウドにデプロイされたノースバウンドの Kafka に接続します。Citrix Analytics for Performance が提供するパラメータを使用して、Citrix Analytics for Performance と Splunk を統合します。Kafka エンドポイントを使用すると、Splunk に接続してデータを取り込むことができます。

Elasticsearch は、Logstash エンジンを使用して Citrix Analytics for Performance クラウドにデプロイされた Kafka に接続します。Citrix Analytics for Performance が提供するパラメーターを使用して、Citrix Analytics for Performance と Elasticsearch を統合します。Kafka エンドポイントを使用すると、データを接続して Elasticsearch に取り込み、組織のパフォーマンス状況についてより深い洞察を得ることができます。

次のアーキテクチャ図は、Citrix Analytics for Performance からオブザーバビリティプラットフォームへのデータフローを説明しています：



## データエクスポート入門

データエクスポート機能には、**Citrix Analytics Service** > 設定 > データエクスポート > パフォーマンスからアクセスして設定できます。オブザーバビリティプラットフォームへのデータエクスポートは、「データエクスポートオン」トグルでデフォルトでオンになっています。データエクスポートをオフに切り替えて、新しいデータイベントの送信を停止できます。

データエクスポートは次の手順で設定されます。詳細については、[Splunk インテグレーションと \[Elasticsearch\]\(/ja-jp/performance-analytics/data-export/elasticsearch-integration-casp\) インテグレーション](#)の記事を参照してください。

1. アカウント設定 -アカウントを作成するには、パスワードを指定します。アカウントを設定すると、Kafka の詳細が生成されます。これらの詳細は、Splunk と Elasticsearch の設定で使用されます。このセクションを使用して、パスワードをリセットしてください。
2. オブザーバビリティプラットフォームのセットアップ -前のステップで生成された Kafka の詳細を使用して、Splunk、Elasticsearch、および Grafana 向けの Citrix Analytics アドオンをインストールして設定します。
3. エクスポートするデータイベントの選択 -このセクションには、オブザーバビリティプラットフォームにエクスポートされたデータが一覧表示されます。セッションとマシンのデータソースからエクスポートする特定のイベントを選択できます。



## Splunk と Citrix Analytics の統合によるパフォーマンスの向上

November 26, 2023

Citrix Analytics for Performance を Splunk と統合すると、仮想アプリやデスクトップサイトのパフォーマンスデータを Splunk にエクスポートして、仮想アプリやデスクトップ環境のパフォーマンスについてより深い洞察を得ることができます。

統合の利点とオブザーバビリティプラットフォームに送信される処理データの種類について詳しくは、「[データエクスポート](#)」を参照してください。

### サポートされるバージョン

Citrix Analytics for Performance は、以下のオペレーティングシステムでの Splunk 統合をサポートしています。Citrix では、これらのオペレーティングシステムの最新バージョンまたは各ベンダーのサポート対象となっているバージョンを使用することをお勧めします。

- CentOS Linux 7 以降
- Debian GNU/Linux 10.0 以降
- Red Hat エンタープライズ Linux サーバー 7.0 以降
- Ubuntu 18.04 LTS 以降

### 注

Linux カーネル (64 ビット) オペレーティングシステムの場合は、Splunk がサポートするカーネルバージョンを使用してください。詳細については、[Splunk のドキュメント](#)を参照してください。

Splunk 統合は、次の Splunk バージョンで設定できます。

- Splunk クラウド入力データマネージャー (IDM)
- Splunk 8.1 (64 ビット) およびそれ以降

### 前提条件

**Splunk** 向け **Citrix Analytics** アドオンは、**Citrix Analytics for Performance** の次のエンドポイントに接続します。エンドポイントがネットワークの許可リストに含まれていることを確認します。エンドポイントのパブリック IP アドレスは変更される可能性があるため、IP アドレスではなくエンドポイント名を使用してください。

エンドポイント	米国リージョン	欧州連合地域	アジア太平洋南部リージョン
Kafka ブローカー	<code>casnb-0.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-0.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-0.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-1.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-1.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-1.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-2.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-2.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-2.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-3.citrix.com:9094</code>		

少なくとも 1 つのデータソースのデータ処理を有効にします。Citrix Analytics for Performance が Splunk の統合プロセスを開始するのに役立ちます。

### データエクスポート設定

#### アカウントセットアップ

1. [設定] > [ \*\* データエクスポート ] > [ パフォーマンス ] \*\* に移動します。
2. アカウント設定セクションで、パスワードを指定してアカウントを作成します。このアカウントは、Splunk 統合に必要な設定ファイルの準備に使用されます。

The screenshot shows the 'Configuration' page with the following sections:

- Account setup**: Includes a step instruction: 'Step 1: Create an account to allow Citrix Analytics to prepare the configuration required for the Observability platform.' Below this are input fields for 'USER NAME', 'PASSWORD \*', and 'CONFIRM PASSWORD \*', a 'Reset Password' button, and a 'Configure' button.
- Observability platform setup for Splunk**: A section with a checkmark and a dropdown arrow.
- Select data events for export**: A section with a checkmark and a dropdown arrow.

3. [構成] をクリックします。Citrix Analytics for Performance は、ユーザー名、ホスト、Kafka トピック名、グループ名などの構成の詳細を作成します。詳細をコピーして、以降の手順で Splunk 向け Citrix Analytics アドオンを構成する際に役立ててください。

### 注

これらの情報は機密情報であるため、安全な場所に保存する必要があります。

Account setup ✓ | ↓

Observability platform setup for Splunk ✓ | ↑

Step 2: Download and install the Citrix Analytics Add-on for Splunk  
For detailed instructions, see the [Splunk integration documentation](#).

Step 3: Configure Citrix Analytics Add-on with the following configuration in the Splunk environment > Add Data page

Username: [REDACTED]  
Host(s): [REDACTED]  
Topic name: [REDACTED]  
Group name: [REDACTED]

Select data events for export ✓ | ↓

### Splunk のオブザーバビリティプラットフォームのセットアップ

#### Splunk 向け Citrix Analytics アドオンをダウンロードしてインストールする

### 注

このアプリはプレビュー版です。

Splunk 向け Citrix Analytics アドオンを使用すると、Splunk Enterprise の管理者は、Citrix Analytics for Performance から収集されたパフォーマンスデータを表示できます。また、Citrix Analytics for Performance から収集されたデータを、Splunk に設定されている他のデータソースのデータと関連付けることもできます。この相関関係により、複数のソースからのパフォーマンスを可視化し、仮想アプリケーションとデスクトップ環境の使用率とパフォーマンスを向上させるための措置を講じることができます。

1. Splunk フォワーダまたは Splunk スタンドアロン環境にログオンします。
2. Splunk 用 Citrix Analytics アドオンをインストールするには、[Splunkbase](#) からダウンロードするか、[Splunk](#) 内からインストールします。

#### Splunkbase からアプリをインストールする

1. Splunk 用 Citrix Analytics アドオンファイルをダウンロードします。
2. Splunk Web ホームページで、[ アプリ ] の横にある歯車アイコンをクリックします。
3. [ ファイルからアプリをインストール ] をクリックします。
4. ダウンロードしたファイルを探し、[ アップロード ] をクリックします。

メモ

- 古いバージョンのアドオンを使用している場合は、[ アプリのアップグレード] を選択して上書きします。
- **Citrix Analytics Splunk for Splunk** を **2.0.0** より前のバージョンからアップグレードする場合は、アドオンインストールフォルダーの `/bin` フォルダー内にある以下のファイルとフォルダーを削除し、Splunk Forwarder または Splunk スタンドアロン環境を再起動する必要があります。
  - `cd $SPLUNK_HOME$/etc/apps/TA_CTXS_AS/bin`
  - `rm -rf splunklib`
  - `rm -rf mac`
  - `rm -rf linux_x64`
  - `rm CARoot.pem`
  - `rm certificate.pem`

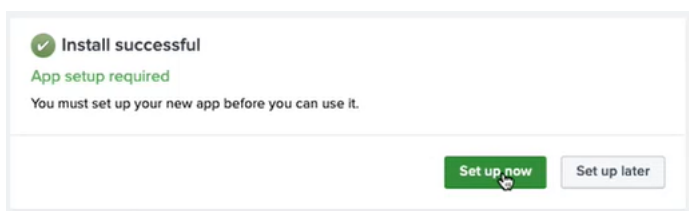
5. アプリが [アプリ] リストに表示されていることを確認します。

### Splunk 内からアプリをインストールする

1. Splunk Web ホームページから、[ + その他のアプリを検索] をクリックします。
2. [その他のアプリの参照] ページで、[Splunk] の [Citrix Analytics アドオン] を検索します。
3. アプリの横にある [インストール] をクリックします。
4. アプリが [アプリ] リストに表示されていることを確認します。

### データを相互に関連付けるためのインデックスとソースタイプの設定

1. アプリをインストールしたら、[今すぐ設定] をクリックします。



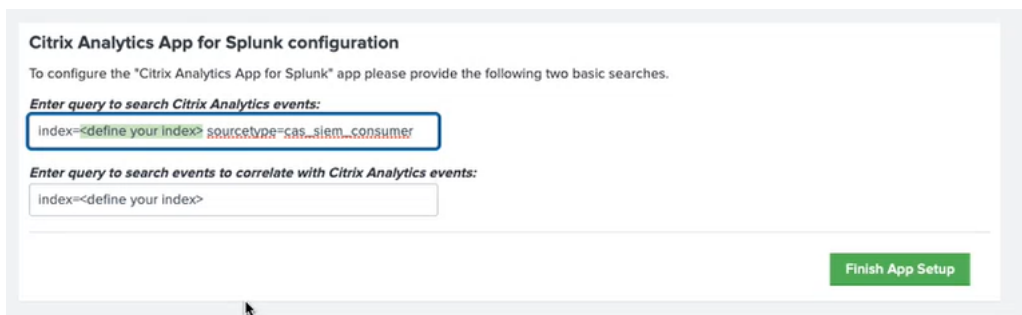
2. 次のクエリを入力します。
  - Citrix Analytics for Performance のデータが保存されるインデックスとソースタイプ。

注

これらのクエリ値は、Splunk 向け Citrix Analytics アドオンで指定されている値と同じである

必要があります。詳しくは、「Splunk 向け Citrix Analytics アドオンの構成」を参照してください。

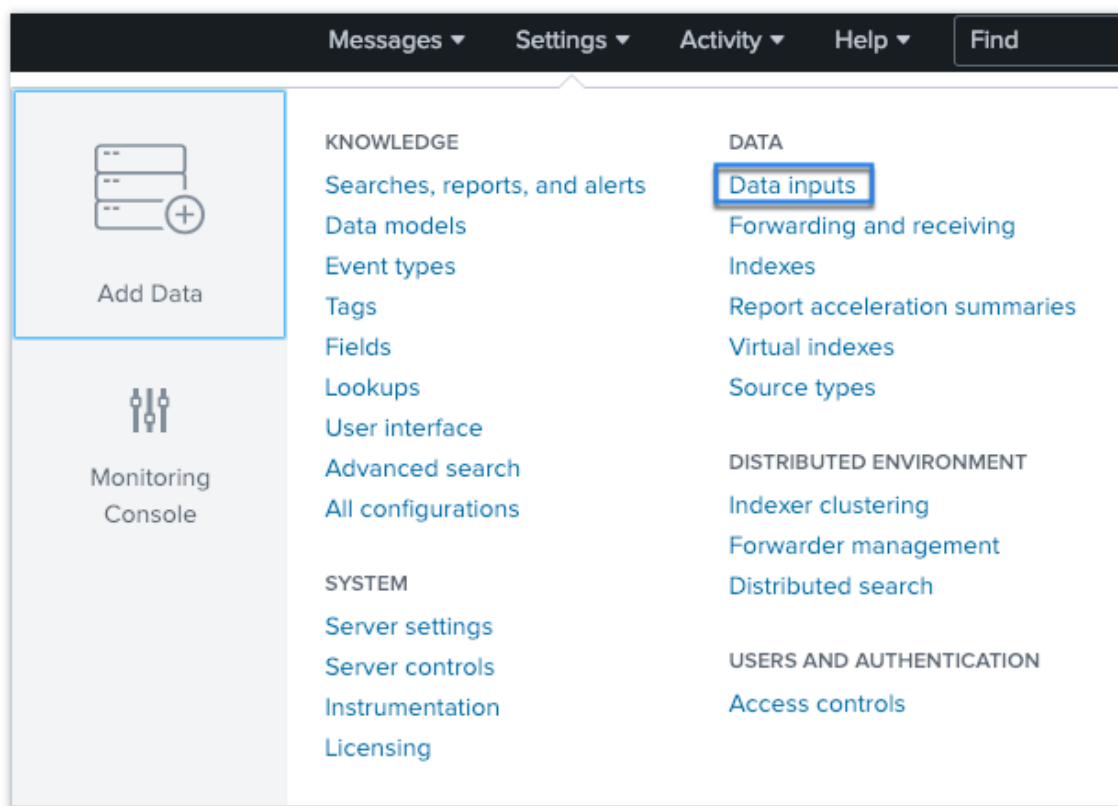
- データを Citrix Analytics for Performance と関連させたいインデックス。



3. [アプリのセットアップを終了] をクリックして、構成を完了します。

**Splunk** 向け **Citrix Analytics** アドオンの設定 Citrix Analytics for Performance が提供する構成の詳細を使用して、Splunk 向け Citrix Analytics アドオンを構成します。アドオンが正常に構成されると、Splunk は Citrix Analytics for Performance からのイベントの処理を開始します。

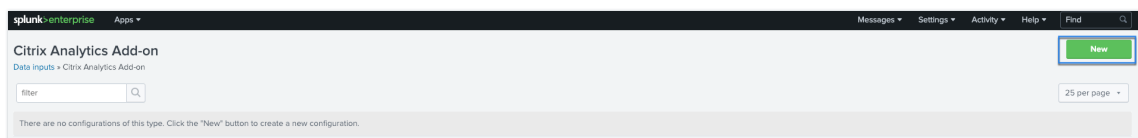
1. Splunk のホームページで、[設定] > [データ入力] の順に選択します。



2. [ローカル入力] セクションで、[Citrix Analytics アドオン] をクリックします。

Type	Inputs	Actions
<b>Files &amp; Directories</b> Index a local file or monitor an entire directory.	6	+ Add new
<b>HTTP Event Collector</b> Receive data over HTTP or HTTPS.	0	+ Add new
<b>TCP</b> Listen on a TCP port for incoming data, e.g. syslog.	0	+ Add new
<b>UDP</b> Listen on a UDP port for incoming data, e.g. syslog.	0	+ Add new
<b>Scripts</b> Run custom scripts to collect or generate more data.	5	+ Add new
<b>Citrix Analytics Add-on</b> Enable data inputs for Citrix Analytics	0	+ Add new

3. **[New]** をクリックします。

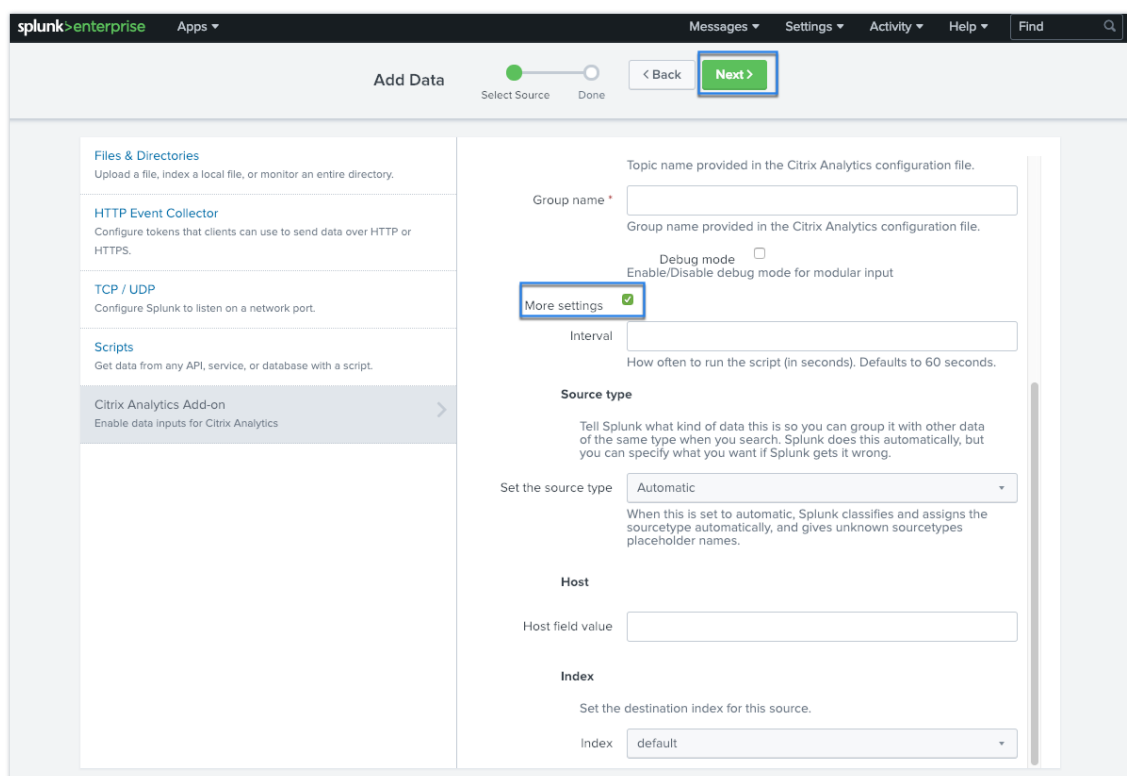


4. **[データの追加]** ページで、Citrix Analytics 構成ファイルに記載されている詳細を入力します。

The screenshot shows the 'Add Data' configuration page. The left sidebar has 'Citrix Analytics Add-on' selected. The main area is titled 'Add Data' and has a progress indicator 'Select Source' (green) and 'Done' (grey). There are '< Back' and 'Next >' buttons. The configuration form includes the following fields:

- Name \* (Name for this Citrix Analytics input.)
- User name \* (User name provided during Citrix Analytics configuration.)
- Password \* (Password provided during Citrix Analytics configuration.)
- Confirm password
- Host(s) \* (Combination of three host name ports (comma separated) provided in the Citrix Analytics configuration file.)
- Topic name \* (Topic name provided in the Citrix Analytics configuration file.)
- Group name \* (Group name provided in the Citrix Analytics configuration file.)
- Debug mode  (Enable/Disable debug mode for modular input)
- More settings

5. デフォルト設定をカスタマイズするには、**[詳細設定]** をクリックしてデータ入力を設定します。独自の Splunk インデックス、ホスト名、ソースタイプを定義できます。



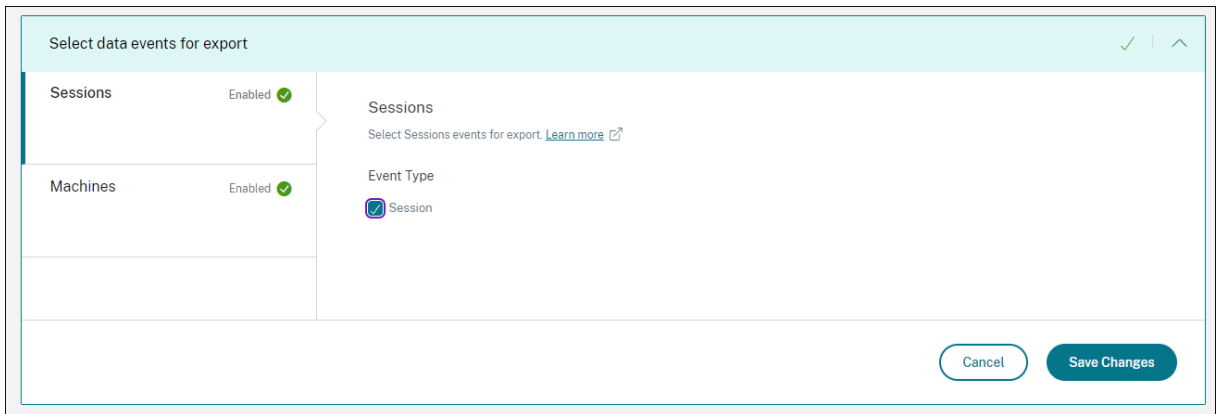
6. [次へ] をクリックします。Citrix Analytics データ入力が作成され、Splunk 用 Citrix Analytics アドオンが正常に構成されました。

### エクスポートするデータイベントを選択

このセクションには、オブザーバビリティプラットフォームにエクスポートされるデータが一覧表示されます。セッションとマシンのデータソースからエクスポートするイベントを選択できます。この選択内容を変更すると、エクスポートされたデータに反映されるまでに最大で 2 時間かかります。

### Splunk でイベントを使用する方法

アドオンを構成すると、Splunk は Citrix Analytics for Performance からパフォーマンスデータとイベントの取得を開始します。設定したデータ入力に基づいて、Splunk 検索ヘッドで組織のイベントの検索を開始できます。



検索結果は次の形式で表示されます。

**New Search**

index=main

✓ 733 events (19/02/2023 11:30:00.000 to 20/02/2023 12:17:19.000) No Event Sampling ▾

Events (733) Patterns Statistics Visualization

Format Timeline ▾ - Zoom Out + Zoom to Selection × Deselect

List ▾ ✎ Format 20 Per Page ▾

i	Time	Event
>	20/02/2023 12:01:00.000	{ [-] authenticationDuration: 0.109 authenticationScore: 0 brokeringDuration: 0.2 brokeringScore: 0 capacityFailureCount: 0 cas_consumer_debug_details: { [+] } clientConnectionFailureCount: 0 communicationFailureCount: 0 configurationFailureCount: 0 dcLatency: 0 dcLatencyScore: 0 deliveryGroupId: 3c58a453-aa6d-4d3b-b411-41c59f7879fc deliveryGroupName: DGN endpointOS: Macintosh endpointReceiverVersion: 20.8.0.3 icaRttScore: 0

**eventType** ✕

2 Values, 100% of events Selected  Yes  No

**Reports**

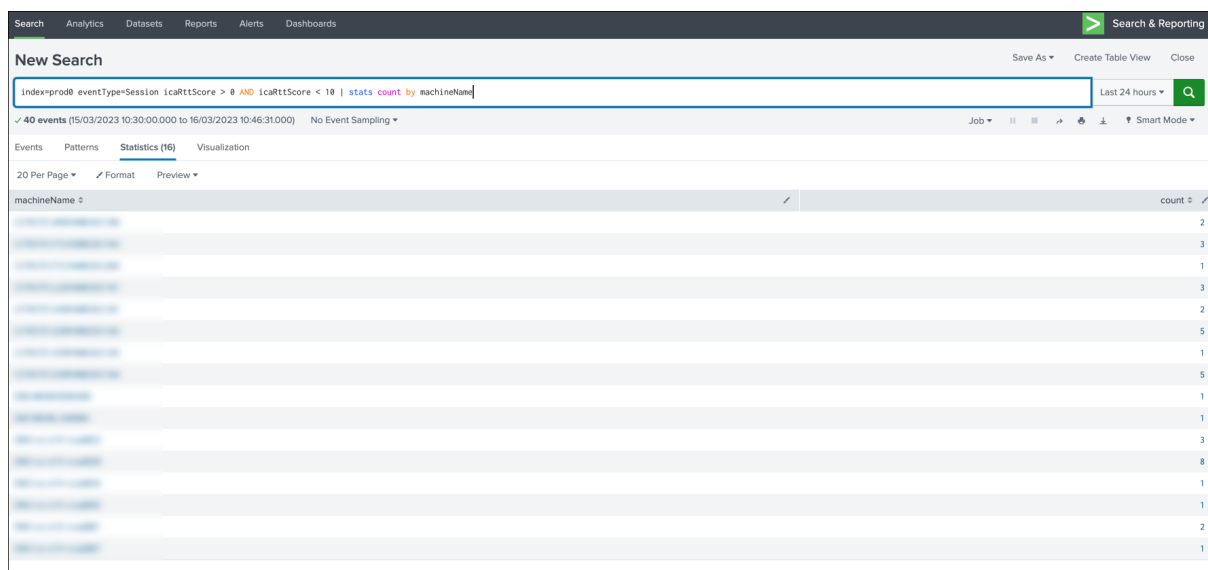
Top values Top values by time Rare values

Events with this field

Values	Count	%
Machine	693	94.543%
Session	40	5.457%



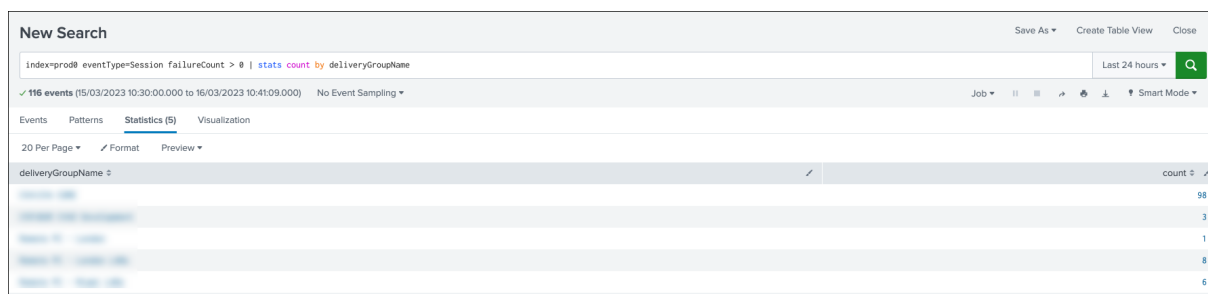
セッションの応答性が悪いセッションを実行しているマシンのリストを表示する例:



The screenshot shows a search interface with the following search criteria: `index=prod@ eventType=Session icaRttScore > 0 AND icaRttScore < 10 | stats count by machineName`. The results table is as follows:

machineName	count
...	2
...	3
...	1
...	3
...	2
...	5
...	1
...	5
...	1
...	1
...	3
...	8
...	1
...	1
...	2
...	1

失敗したセッションを表示する例:



The screenshot shows a search interface with the following search criteria: `index=prod@ eventType=Session failureCount > 0 | stats count by deliveryGroupName`. The results table is as follows:

deliveryGroupName	count
...	98
...	3
...	1
...	8
...	6

データ形式の詳細については、「[マシンイベントのデータ構造](#)」と「[\[セッションイベントのデータ構造\]\(/ja-jp/performance-analytics/data-export/data-structure-sessions.html\)](#)」を参照してください。

Splunk 統合の詳細については、次のリンクを参照してください。

- [Citrix Analytics と Splunk の](#)
- [Splunk の Citrix Analytics アドオンが Splunkbase に追加されました](#)

## Splunk 向け Citrix アナリティクスアドオンのトラブルシューティング

Splunk ダッシュボードにデータが表示されない場合や、Splunk 向け Citrix Analytics Add-on の設定中に問題が発生した場合は、デバッグ手順を実行して問題を解決してください。詳しくは、「[Splunk 用 Citrix Analytics アドオンの構成に関する問題](#)」を参照してください。

### 注

<CAS-PM-Ext@cloud.com> Splunk の統合、Splunk へのデータのエクスポートに関するサポート、またはフィードバックの提供については、お問い合わせください。

## Elasticsearch インテグレーション

April 12, 2024

注:

[CAS-PM-Ext@cloud.com](mailto:CAS-PM-Ext@cloud.com) Elasticsearch の統合、Elasticsearch へのデータのエキスポートに関するサポートのリクエスト、またはフィードバックの提供については、お問い合わせください。

Logstash エンジンを使用して、Citrix Analytics for Performance を Elasticsearch と統合できます。この統合により、ユーザーのデータを Citrix IT 環境から Elasticsearch にエキスポートして関連付け、組織のセキュリティ体制についてより深い洞察を得ることができます。

統合の利点とオブザーバビリティプラットフォームに送信される処理データの種類について詳しくは、「[データエキスポート](#)」を参照してください。

### 前提条件

- 少なくとも 1 つのデータソースのデータ処理を有効にします。これにより、Citrix Analytics for Performance が Elasticsearch の統合プロセスを開始できるようになります。
- ネットワークの許可リストに次のエンドポイントがあることを確認します。

エンドポイント	米国リージョン	欧州連合地域	アジア太平洋南部リージョン
Kafka ブローカー	<code>casnb-0.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-0.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-0.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-1.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-1.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-1.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-2.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-2.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-2.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-3.citrix.com:9094</code>		

### Elasticsearch との統合

1. **[設定]** > **[\*\* データエキスポート]\*\*** に移動します。
2. アカウント設定セクションで、ユーザー名とパスワードを指定してアカウントを作成します。このアカウントは、統合に必要な設定ファイルの準備に使用されます。

Account setup

Step 1: Create an account to allow Citrix Analytics to prepare the configuration required for the Observability platform.

USER NAME: splunkAdmin

PASSWORD \* : .....

CONFIRM PASSWORD \* : .....

Reset Password

Configure

3. パスワードが次の条件を満たしていることを確認します。

Password must :

- Be 6 to 32 characters long.
- Contain at least one upper case and one lower case letter.
- Contain at least one number.
- Contain at least one of these allowed special characters \_@#\$\$%^&\*.
- Not contain spaces.

4. [ **Configure** ] をクリックして Logstash 設定ファイルを生成します。

Step 2 : Download the necessary configuration files for Elasticsearch

[↓ Download the Logstash configuration file](#)

[↓ Download kafka.client.truststore.jks file](#)

5. オブザーバビリティプラットフォームセクションから「**Elastic Search**」タブを選択し、設定ファイルをダウンロードします:

- **Logstash** 構成ファイル: Logstash データ収集エンジンを使用して Citrix Analytics for Performance から Elasticsearch にイベントを送信するための構成データ（入力セクション、フィルターセクション、出力セクション）が含まれています。Logstash の設定ファイル構造については、Logstash の [ドキュメント](#) を参照してください。
- **JKS** ファイル: SSL 接続に必要な証明書が含まれます。

注

これらのファイルには機密情報が含まれています。安全な場所に保管してください。

Observability platform setup

⚠️ Configure one Data Export service at a time. If you configure multiple Data Export services simultaneously, you might face configuration issues.

Splunk Elasticsearch

Step 2 : Download the necessary configuration files for Elasticsearch

[Download the Logstash configuration file](#)  
[Download kafka.client.truststore.jks file](#)

Step 3 : Configure Logstash

1. Install **Logstash** on a Linux or a Windows host machine or use an existing Logstash instance.
2. On the Logstash configuration file, add your password and truststore location in the input section. Add the Elasticsearch host or cluster address in the output section of the file.
3. If you have used a Linux host machine to install Logstash, place the **kafka.client.truststore.jks** file in the **/etc/logstash/ssl/directory** and place the Logstash configuration file in the **/etc/logstash/config/** directory.
4. If you have used a Windows host machine to install Logstash, place the **kafka.client.truststore.jks** file and the Logstash configuration file in the C:\logstash-7.xx.x\config folder.
5. Restart Logstash to send the processed data from Citrix Analytics to Elasticsearch.

For detailed instructions, see the [Elasticsearch integration documentation](#)

## 6. Logstash を設定します。

- a) Linux または Windows ホストマシンに **Logstash** をインストールします。既存の Logstash インスタンスを使用することもできます。
- b) Logstash をインストールしたホストマシンで、次のファイルを指定したディレクトリに配置します。

ホストマシンタイプ	ファイル名	ディレクトリパス
Linux	CAS_Elasticsearch_LogStash_Config.conf	Debian パッケージと RPM パッケージの場合: /etc/logstash/conf.d/ .zip および .tar.gz アーカイブの場合: { extract.path } / config
	kafka.client.truststore.jks	Debian パッケージと RPM パッケージの場合: /etc/logstash/ssl/ .zip および .tar.gz アーカイブの場合: { extract.path } /ssl
Windows	CAS_Elasticsearch_LogStash_Config.conf	C:\logstash-7.xx.x\ config
	kafka.client.truststore.jks	

Logstash インストールパッケージのデフォルトのディレクトリ構造については、Logstash の [ドキュメント](#) を参照してください。

c) Logstash 設定ファイルを開き、次の操作を行います:

i. ファイルの input セクションに、次の情報を入力します:

- パスワード: 構成ファイルを準備するために Citrix Analytics for Performance で作成したアカウントのパスワード。
- **SSL** トラストストアの場所:SSL クライアント証明書 の場所。これは、ホストマシンの `kafka.client.truststore.jks` ファイルの場所です。

```
input {
  kafka {
    bootstrap_servers => "..."
    topics => [
      '...'
    ]
    group_id => "..."
    session_timeout_ms => 60000
    auto_offset_reset => "earliest"
    security_protocol => "SASL_SSL"
    sasl_mechanism => "SCRAM-SHA-256"
    ssl_endpoint_identification_algorithm => ""
    sasl_jaas_config => "org.apache.kafka.common.security.scram.ScramLoginModule required username='...' password='<your password>';"
    ssl_truststore_location => "/etc/logstash/ssl/kafka.client.truststore.jks"
  }
}
```

ii. ファイルの出力セクションに、Elasticsearch が実行されているホストマシンまたはクラスターのアドレスを入力します。

```
}
}
output {
  elasticsearch {
    hosts => ["<your logstash host : port>"]
    index => "citrixanalytics-%{+YYYY.MM.dd}"
  }
}
```

d) ホストマシンを再起動して、処理済みのデータを Citrix Analytics for Performance から Elasticsearch に送信します。

構成が完了したら、Elasticsearch で Citrix Analytics データを表示できることを確認します。

## ログスタッシュ設定

Logstash 構成のサンプルは、Citrix Analytics for Performance ページからダウンロードできます。

以下は、提供されているサンプル Kibana ダッシュボードをサポートできる Logstash パイプライン定義の小さなバリエーションです:

```
1 filter {
2
3   json {
4
5     source => "message"
6     remove_field => ["message"]
7   }
8
9   date {
```

```
10
11     match => [ "timestamp", "ISO8601", "yyyy-MM-dd HH:mm:ss" ]
12     target => "@timestamp"
13   }
14
15 }
16
17
18 filter {
19
20   mutate {
21
22     copy => ["eventType", "[@metadata][eventTypeIndex]"]
23   }
24
25 }
26
27
28 filter {
29
30   mutate {
31
32     lowercase => ["[@metadata][eventTypeIndex]"]
33   }
34
35 }
36
37
38 output {
39
40   elasticsearch {
41
42     hosts => ["<your logstash host : port>"]
43     index => "citrixanalytics-%{
44     [@metadata][eventTypeIndex] }
45     -%{
46     +YYYY.MM.dd }
47     "
48   }
49
50 }
51
52 <!--NeedCopy-->
```

以前の設定に基づいて、`eventType` Logstash はフィールドを使用してセッションイベントとマシンイベントを分離し、インデックスを分離します。

Citrix Analytics ページからダウンロードしたデフォルト構成ファイルの「フィルター」セクションと「出力」セクションを前述の内容に置き換えて、Logstash サービスを再起動できます。

## Kibana ダッシュボードサンプル

Citrix が提供するサンプル Kibana ダッシュボードをインポートできます。これには以下が含まれます。

- メトリックス
- タイムチャート
- セッションとインフラストラクチャのテレメトリに関するその他の便利な視覚化。

ダッシュボード定義（JSON ファイル）は、[Citrix Analytics のダウンロードページからダウンロードできます](#)。

ダッシュボードファイルは、Elasticsearch クラウドまたはエンタープライズアカウントのいずれかの Kibana インスタンスにインポートできます。

ダッシュボードをインポートする前に、Logstash、Elasticsearch、Kibana の各インスタンスを正しく設定し、[citrixanalytics Kibana インデックス管理ページ](#)でインデックスを表示できることを確認してください。

ダッシュボードと参照データビューをインポートするには、次の手順を実行します：

1. [管理] > [保存済みオブジェクト] に移動します。
2. [インポート] をクリックして、指定された圧縮ファイルに含まれる提供された `ndjson` ファイルを選択します。
3. オプションで [ランダム ID で新規オブジェクトを作成] を選択できます。
4. [インポート] をクリックします。

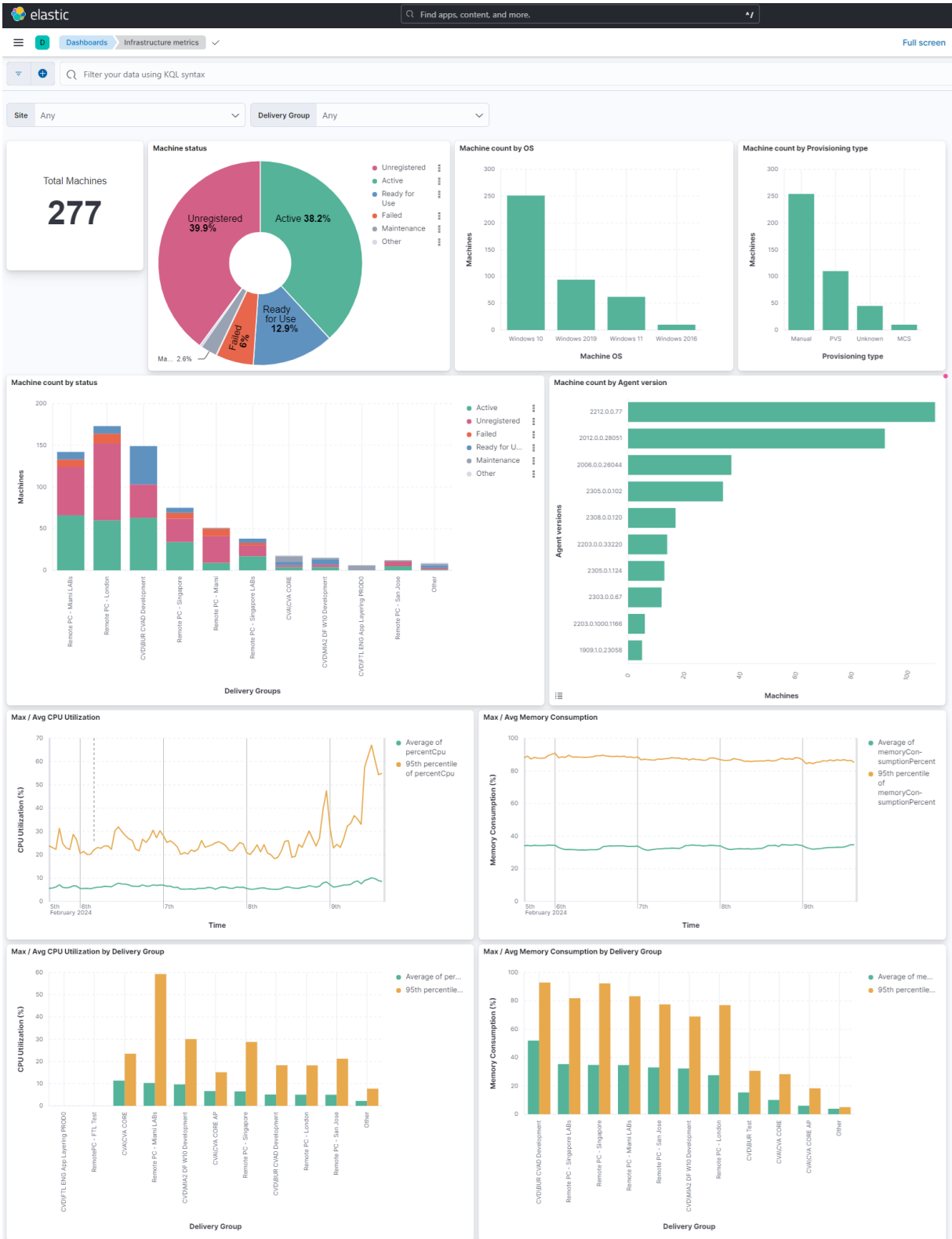
前のステップを完了すると、次の図に示すように、新しく保存された 4 つのオブジェクトを表示できます：

<input type="checkbox"/>	Type	Title	Tags	Spaces	Last updated ↓	Actions
<input type="checkbox"/>		Infrastructure metrics		—	19 hours ago	⋮
<input type="checkbox"/>		Performance metrics		—	20 hours ago	⋮
<input type="checkbox"/>		CASP-session-data-view			20 hours ago	⋮
<input type="checkbox"/>		CASP-machine-data-view			February 1, 2024	⋮

データビューはダッシュボードの視覚化によって参照され、前述の Logstash 設定で定義されたインデックスを参照しています。ダッシュボードを開くことができる必要があります。以下はサンプルダッシュボードです：





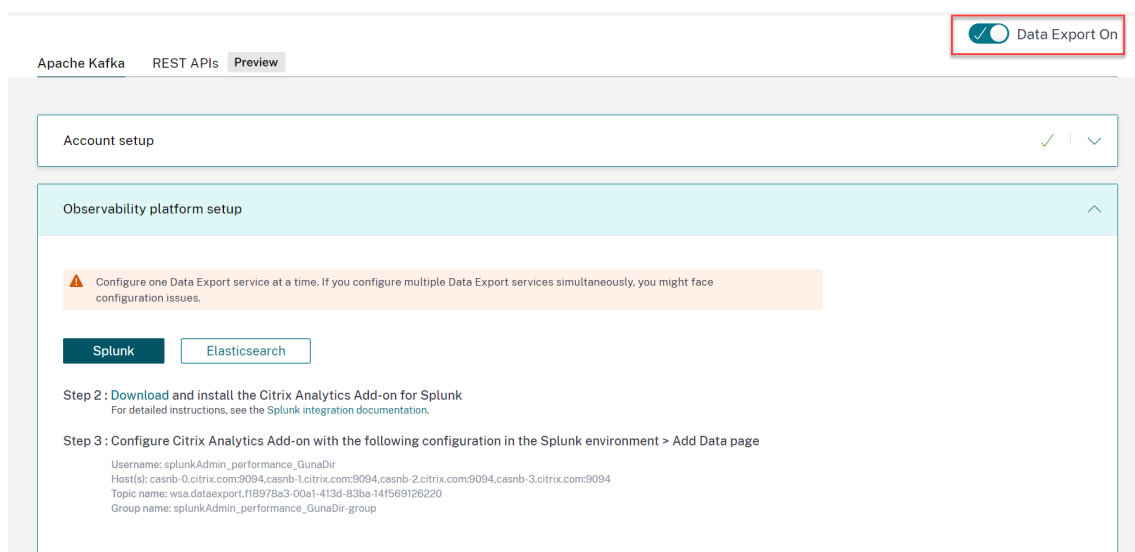


### データ伝送をオンまたはオフにする

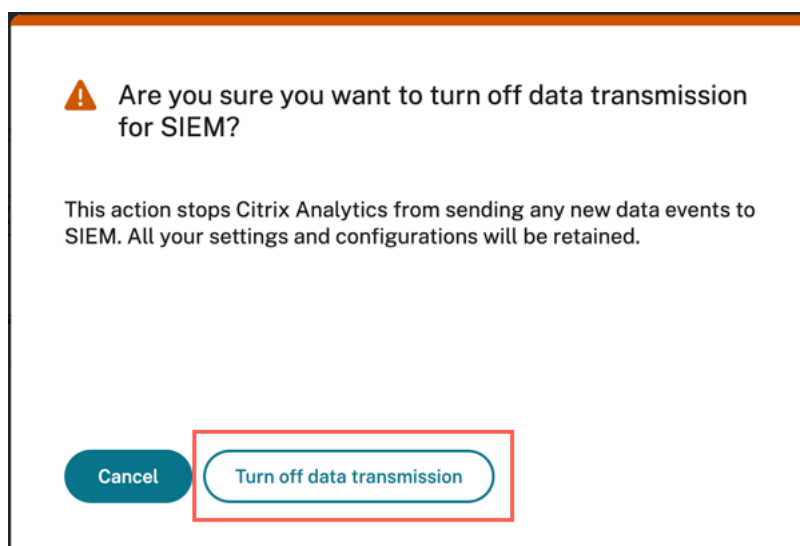
Citrix Analytics for Performance が設定ファイルを準備すると、Elasticsearch のデータ転送が有効になります。

Citrix Analytics for パフォーマンスからのデータ送信を停止するには:

1. [設定] > [ \*\* データエクスポート ] \*\* に移動します。
2. トグルボタンをオフにしてデータ転送を無効にします。デフォルトでは、データ転送は常に有効になっています。



3. 確認用の警告ウィンドウが表示されます。[ データ転送をオフにする ] をクリックして送信アクティビティを停止します。



データ転送を再度有効にするには、トグルボタンをオンにします。

## Grafana 統合

April 12, 2024

注:

<CAS-PM-Ext@cloud.com>Grafana 統合、Grafana へのデータのエクスポート、またはフィードバックの提供に関する支援をリクエストするには、お問い合わせください。

Promtail エージェントを使用して、Citrix Analytics for Performance を Grafana と統合できます。この統合により、セッションとインフラストラクチャのデータを Citrix IT 環境から Grafana にエクスポートして関連付けることができます。また、組織のセキュリティ体制についてより深い洞察を得ることができます。

以下の詳細については、「[データエクスポート](#)」を参照してください:

- 統合のメリット
- オブザーバビリティプラットフォームに送信される処理済みデータのタイプ

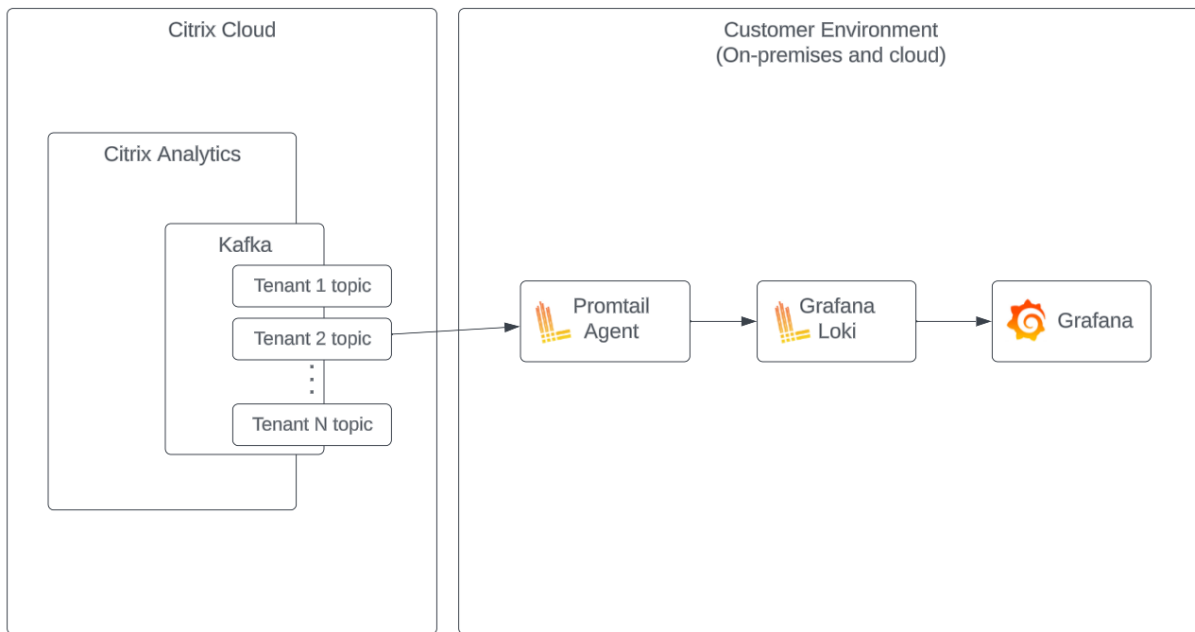
### 前提条件

- 少なくとも 1 つのデータソースのデータ処理を有効にします。これは、Citrix Analytics for Performance が Grafana 統合プロセスを開始するのに役立ちます。
- ネットワークの許可リストに次のエンドポイントがあることを確認します。

エンドポイント	米国リージョン	欧州連合地域	アジア太平洋南部リージョン
Kafka ブローカー	<code>casnb-0.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-0.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-0.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-1.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-1.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-1.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-2.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-eu-2.citrix.com:9094</code>	<code>casnb-aps-2.citrix.com:9094</code>
	<code>casnb-3.citrix.com:9094</code>		

### Grafana との統合

次のアーキテクチャ図は、Citrix Analytics for Performance から Grafana オブザーバビリティプラットフォームへのデータフローを説明しています:



データエクスポートアカウントのセットアップ

1. [設定] > [ \*\* データエクスポート ] \*\* に移動します。
2. アカウント設定セクションで、ユーザー名とパスワードを指定してアカウントを作成します。このアカウントは、統合に必要なPromtail設定ファイルで使用されます。

Account setup

Step 1: Create an account to allow Citrix Analytics to prepare the configuration required for the Observability platform.

USER NAME: splunkAdmin

PASSWORD: .....

CONFIRM PASSWORD: .....

Reset Password

Configure

3. パスワードが次の条件を満たしていることを確認します。

Password must :

- Be 6 to 32 characters long.
- Contain at least one upper case and one lower case letter.
- Contain at least one number.
- Contain at least one of these allowed special characters \_@#S%^&\*.
- Not contain spaces.

## Promtail 設定

Promtailは、ローカルログの内容をプライベートGrafana LokiインスタンスまたはGrafana Cloudに送信するエージェントです。Docker、Helm、aptを使用してPromtail Agentをインストールすることも、手でインストールすることもできます。

プロムテールはYAMLファイル(通常はconfig.yamlと呼ばれます)で設定されます。このYAMLファイルには、Promtailサーバーに関する情報、位置の保存場所、およびファイルからログを取得する方法が含まれています。

以下は、Citrix Analytics for Performanceのレコードを利用するためのスクレイブ構成のサンプルPromtailです:

```
1 scrape_configs:
2   - job_name: kafka
3     kafka:
4       brokers:
5         - [Citrix Analytics Kafka broker1]
6         - [Citrix Analytics Kafka broker2]
7         ...
8       topics:
9         - [Citrix Analytics for Performance Kafka topic]
10      group_id: [Citrix Analytics Kafka group ID]
11      authentication:
12        type: sasl
13        sasl_config:
14          mechanism: SCRAM-SHA-256
15          user: [Citrix Analytics Kafka account username]
16          password: [Citrix Analytics Kafka account password]
17          ca_file: [Path to the Citrix Analytics certificate file (.pem)]
18          use_tls: true
19          insecure_skip_verify: true
20      labels:
21        job: kafka_casp
22      relabel_configs:
23        - action: replace
24          source_labels:
25            - __meta_kafka_topic
26          target_label: topic
27      pipeline_stages:
28        - match:
29          selector: '{
30 job = "kafka_casp" }
31 |= "sessionKey"'
32          stages:
33            - json:
34              expressions:
35                eventType: eventType
36                siteName: siteName
37                deliveryGroupName: deliveryGroupName
38                protocol: protocol
39                timestamp: timestamp
40            - timestamp:
```

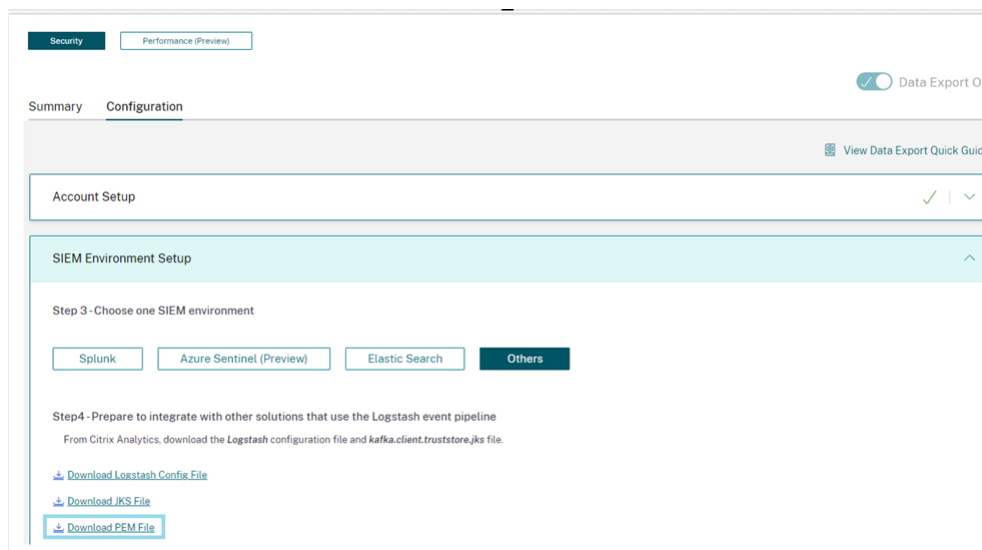
```
41     source: timestamp
42     format: 2006-01-02T15:04:05Z
43   - labels:
44     eventType:
45     siteName:
46     deliveryGroupName:
47     protocol:
48   - match:
49     selector: '{
50 job = "kafka_casp" }
51 != "sessionKey"'
52     stages:
53   - json:
54     expressions:
55     eventType: eventType
56     siteName: siteName
57     deliveryGroupName: deliveryGroupName
58     machineName: machineName
59     timestamp: timestamp
60   - timestamp:
61     source: timestamp
62     format: 2006-01-02 15:04:05
63   - labels:
64     eventType:
65     siteName:
66     deliveryGroupName:
67     machineName:
68
69 <!--NeedCopy-->
```

上記の構成に基づいて、**Promtail**はCitrix Analyticsブローカーに接続し、Citrix Analytics for Performanceレコードを使用します。利用されるKafkaトピックには、セッションレコードとマシンレコードが含まれます。

**Promtail**は、**eventType**ラベルを使用してセッションとマシンの詳細を分離しますが、**siteName**や**deliveryGroupName**などのラベルも追加します。イベントのタイムスタンプフィールドが解析され、**Loki**に保存されているログの最終時間値が上書きされます。

前述の設定で参照されている証明書ファイルは、次の手順を使用してダウンロードできます：

1. **Citrix Analytics** > 設定 > データエクスポート > セキュリティに移動します。
2. **SIEM** 環境設定ペインをクリックし、「その他」オプションを選択します。
3. PEM ファイルをダウンロードして、**Promtail** エージェントをホストするシステムに保存します。



## Grafana ダッシュボードサンプル

Citrix が提供するサンプルの Grafana ダッシュボードをインポートできます。これには以下が含まれます：

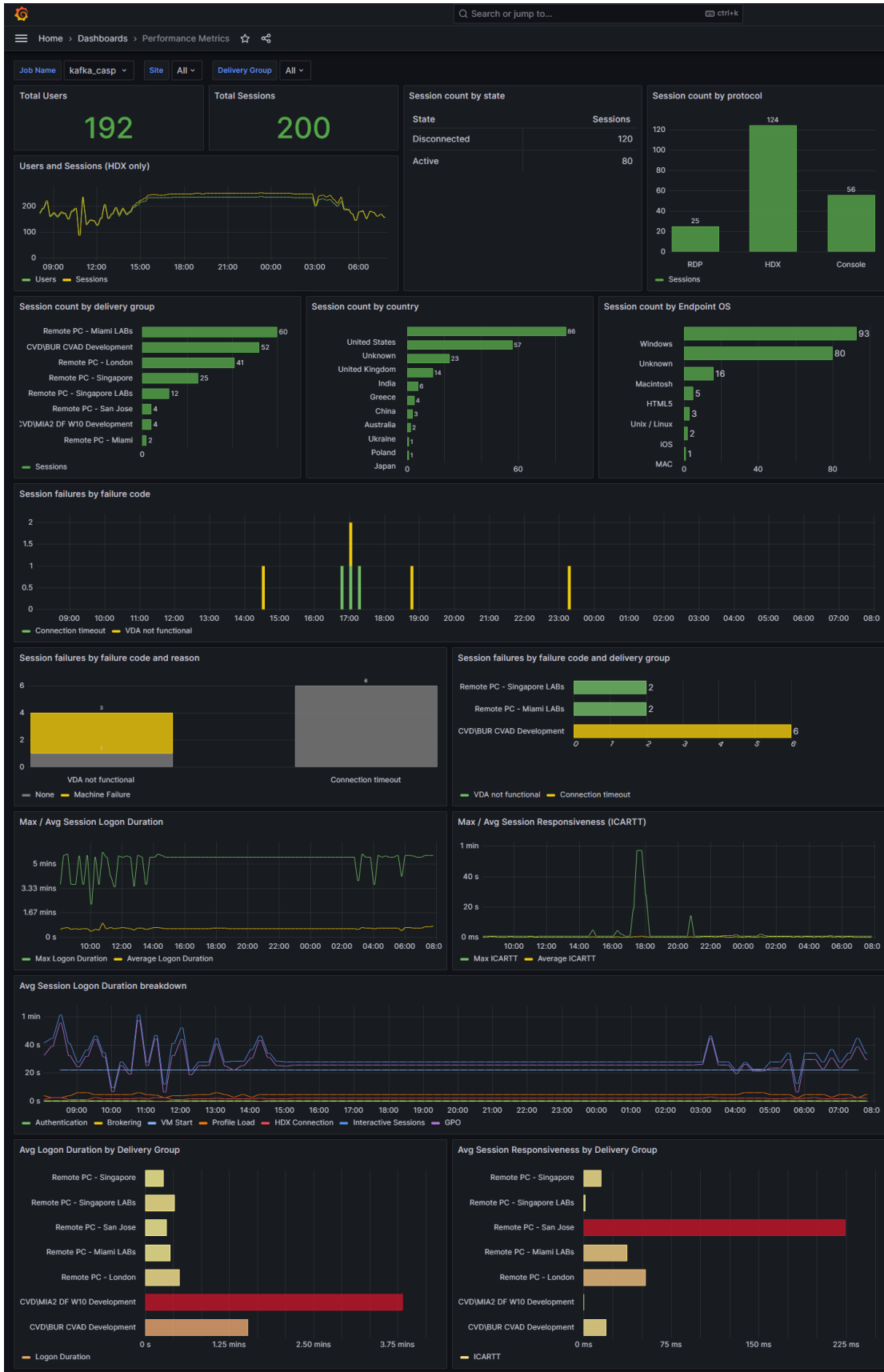
- メトリックス
- タイムチャート
- セッションとインフラストラクチャのテレメトリに関するその他の便利な視覚化。

ダッシュボード定義（JSON ファイル）は、[Citrix Analytics のダウンロードページ](#)からダウンロードできます。

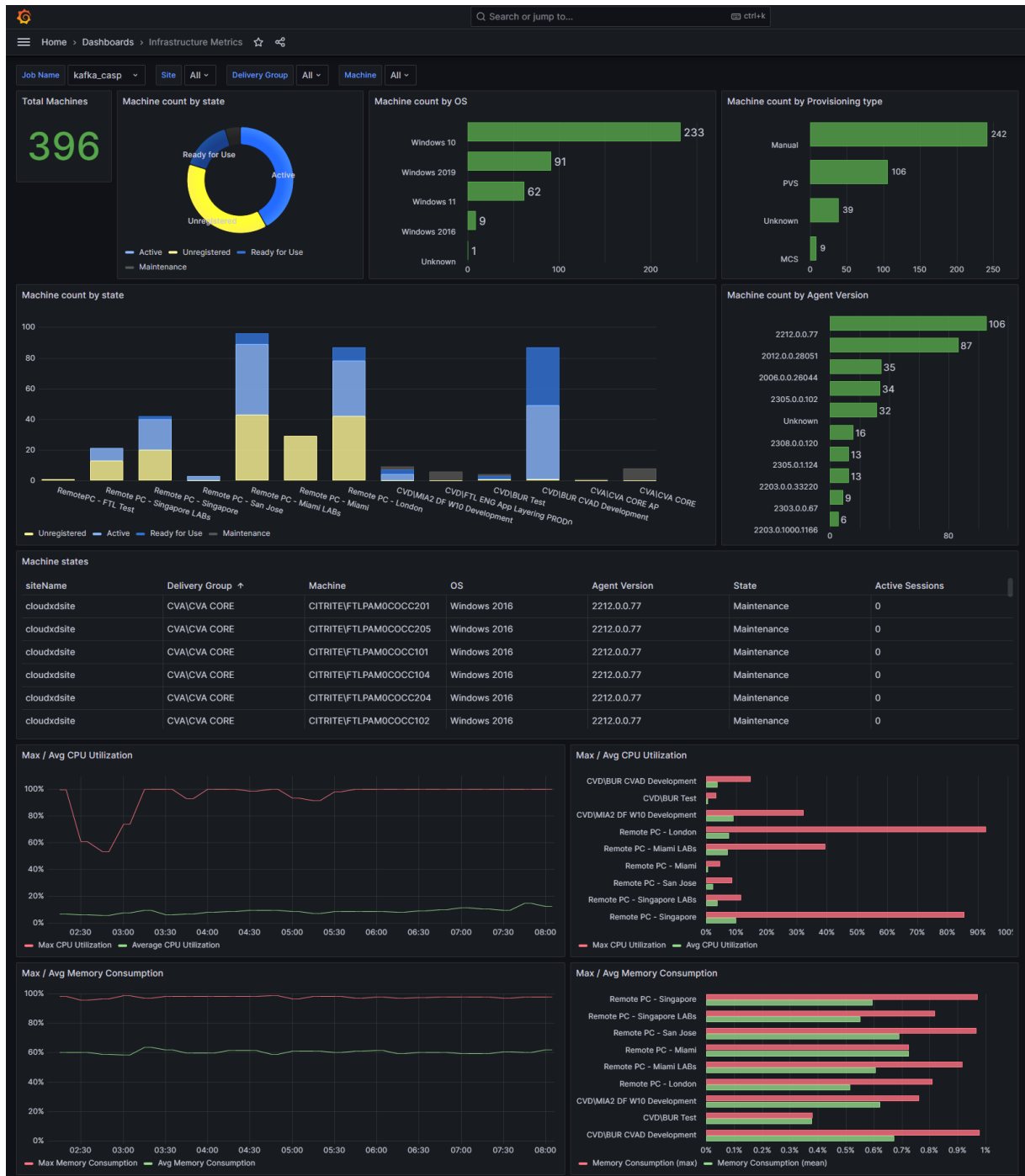
ダッシュボードファイルを Grafana インスタンスに Grafana クラウドまたはエンタープライズアカウントにインポートできます。

ダッシュボードをインポートする前に、Grafana でLokiデータソースが正しく設定されていることを確認してください。ダッシュボードのインポート中に、Loki データソースを選択するように求められます。ダッシュボードをインポートすると、Grafana でダッシュボードを表示できます。

以下はサンプルダッシュボードです：







## セッションイベントのデータ構造

April 12, 2024

## セッションディメンションデータソース

セッションメタデー				
タ	種類	無効化可能	説明	値
セッションキー	GUID	いいえ	仮想アプリまたはデスクトップセッションの識別子。	
ユーザ ID	文字列	いいえ	仮想アプリまたはデスクトップセッションのユーザー AD 識別子。	
<code>userName</code>	文字列	いいえ	仮想アプリまたはデスクトップセッションを起動したユーザーの名前。	
<code>deliveryGroupId</code>	GUID	いいえ	デリバリーグループ識別子	
<code>deliveryGroupName</code>	文字列	いいえ	デリバリーグループ名	
<code>siteId</code>	GUID	いいえ	Citrix Virtual Apps and Desktops のサイト識別子	
<code>siteName</code>	文字列	いいえ	Citrix Virtual Apps and Desktops のサイト名	
マシン ID	GUID	いいえ	セッションが開始されるマシンのマシン識別子。	
マシン ID	GUID	いいえ	セッションが開始されるマシンのマシン AD 識別子。	
<code>machineName</code>	文字列	いいえ	セッションが開始されるマシンの名前。	
セッション起動ステータス	文字列	いいえ	セッションの起動ステータス	0 (起動成功)、1 (セッション失敗)、2 (ユーザー終了)
<code>sessionStartTime</code>	Timestamp	いいえ	セッションが開始された時刻	値の形式は「yyyy-mm-ddthh:mm:ss」です

セッションメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
protocol	文字列	はい	セッションの起動に使用されたプロトコル	HDX、RDP、コンソール
sessionType	整数	はい	セッションの種類	値のマッピングは、0: デスクトップ、1: アプリケーション
セッション終了時間	Timestamp	はい	セッションが終了した時刻	値の形式は「yyyy-mm-ddthh:mm:ss」です
状態変更時刻	Timestamp	はい	セッションの状態が変更された時刻	値の形式は「yyyy-mm-ddthh:mm:ss」です
セッションステート	文字列	いいえ	セッションライフサイクルの状態	値のマッピングは、0: 不明、1: 接続、2: 切断、3: 終了、4: セッション準備中、5: アクティブ、6: 再接続中、7: 非仲介セッション、8: その他、9: 保留中です
セッション起動タイプ	文字列	いいえ	セッション起動タイプ	ICA、コネクションリリース
endpointOS	文字列	はい	Citrix Workspace アプリ-OS タイプ	指定できる値には、たとえば Windows、Unix または Linux、HTML5、Macintosh、ThinOS、iOS、Chrome、Android などがあります。ただし、OS タイプにはさらに多くのオプションを含めることができます。
エンドポイントレシーバーバージョン	文字列	いいえ	Citrix Workspace アプリのバージョン	

セッションメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
エンドポイントロケーション大陸	文字列	いいえ	セッションが開始された大陸。	
エンドポイントロケーション国	文字列	いいえ	セッションが開始された国。	
エンドポイントロケーションシティ	文字列	いいえ	セッションが開始された都市。	
エンドポイントの位置/緯度	文字列	いいえ	セッションが開始された緯度。	
終点位置経度	文字列	いいえ	セッションが開始された経度。	
エンドポイントロケーションタイムゾーン	文字列	いいえ	セッションが開始された場所のタイムゾーン。	
isp	文字列	はい	セッションの開始に使用した ISP。	
ゲートウェイ FQDN	文字列	はい	セッションが開始されたゲートウェイ FQDN。	
vdaIP	文字列	はい	セッションが開始された VDA の IP。	
connectionType	文字列	はい	Citrix Workspace アプリから確立された接続のタイプ	内部、外部
connectionViaAG	文字列	はい		
networkInterfaceType	文字列	いいえ	エンドポイントデバイスのネットワークインターフェースタイプ	Wi-Fi、イーサネットなど
failureReason	整数	いいえ	エラーが発生した障害カテゴリ	0- 「なし」 1- 「クライアント接続障害」 2- 「マシン障害」 3- 「空き容量がありません」 4- 「使用可能なライセンスはありません」

## セッションメタデー

タ	種類	無効化可能	説明	値
failureCode	整数	いいえ	障害の種類を指定します	5-「コンフィギュレーション」 6-「通信障害」 100-「ブラックホール VDA」 101-「ゾンビセッション」 0-「不明なエラー」 1-「障害なし」 2-「セッションの準備に失敗しました」 3-「登録タイムアウト」 4-「接続タイムアウト」 5-「ライセンスは使用できません」 6-「チケット発行に失敗しました」 7-「不明な障害」 8-「一般的な障害」 9-「メンテナンスモードのリソース」 10-「アプリケーションが無効になっています」 11-「必要な機能はライセンスされていません」 12-「VDA は利用できません」 13-「VDA は既に使用されています」 14-「要求されたプロトコルは許可されていません」

## セッションメタデー

タ	種類	無効化可能	説明	値
				15- 「リソースは利用できません」
				16- 「アクティブセッションの再接続は無効です」
				17- 「再接続するセッションが見つかりません」
				18- 「VDA の電源投入に失敗しました」
				19- 「セッションが拒否されました」
				20- 「構成の設定に失敗しました」
				21- 「アプリの合計同時使用制限に達しました」
				22- 「アプリの 1 ユーザーあたりの使用制限に達しました」
				23- 「VDA にアクセスできません」
				24- 「マシンあたりの使用制限に達しました」
				25- 「エンタイトルメントごとの使用制限が超過しました」
				51- 「エンドポイントからマシンへの通信エラー」
				52- 「ゲートウェイからマシンへの通信エラー」
				100- 「VDA は利用できません」
				101- 「VDA が機能していません」

## セッションメタデー

タ	種類	無効化可能	説明	値
failureReasonString	文字列	はい	失敗理由文字列が失敗理由の文字列値にマップされます。	
failureCodeString	文字列	はい	FailureCodeString は FailureCode の文字列値にマップされます。	
sessionScore	整数	いいえ	パフォーマンス要因に基づくセッションエクスペリエンスコア	-1-100
userScore	整数	いいえ	ユーザーエクスペリエンススコアは、セッションエクスペリエンスと失敗率に基づいて計算されます。	0-100
icaRtt	整数	いいえ	セッション応答性 (ミリ秒単位) は、過去 15 分間における ICA セッションの平均往復時間を定義します。	>= 0
icaRttScore	整数	いいえ	iCartt (セッション応答性) スコアは、現在の iCartt 値と、その指標のベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
reconnects	整数	いいえ	過去 15 分間に発生した自動再接続の数。	>= 0

セッションメタデー				
タ	種類	無効化可能	説明	値
reconnectScore	整数	いいえ	ReconnectScore (セッション・レジリエンシー) スコアは、現在の自動再接続の数と、その指標のベースライン閾値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
logonDuration	十進法	いいえ	このセッションの合計ログオン時間 (セッションの合計初期化時間) (秒単位)。	
brokerinDuration	十進法	はい	ブローカーがセッションを初期化するのにかかった合計時間 (秒単位)。	
vmStartDuration	十進法	はい	ログオンプロセス中に VM を起動するのにかかった合計時間 (秒単位)。	
hdxConnectionDuration	十進法	はい	ログオン処理中に HDX 接続にかかった合計時間 (秒単位)。	
authenticationDuration	十進法	はい	ログオン処理中の認証にかかった合計時間 (秒単位)。	
gpoDuration	十進法	はい	ログオン処理中の GPO 処理にかかった合計時間 (秒単位)。	
logonScriptsDuration	十進法	はい	ログオン処理中のログオンスクリプト処理にかかった合計時間 (秒単位)。	



## セッションメタデー

メタデータ	種類	無効化可能	説明	値
profileLoadDuration	十進法	はい	ログオン処理中のプロファイルのロードにかかった合計時間 (秒単位)。	
interactiveSessionsDuration	十進法	はい	シェルの初期化時間を含む対話セッションの初期化にかかった合計時間 (秒単位)。	
logonDurationScore	整数	いいえ	LogonDuration スコアは、現在の LogonDuration 値と、そのメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
gpoScore	整数	いいえ	GPO スコアは、現在の GPO 値と、その指標のベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
profileLoadScore	整数	いいえ	ProfileLoad スコアは、現在の ProfileLoadDuration 値と、そのメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
interactiveSessionScore	整数	いいえ	InteractiveSession スコアは、現在の InteractiveSessionDuration の値と、そのメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100

セッションメタデー				
タ	種類	無効化可能	説明	値
brokeringscore	整数	いいえ	仲介スコアは、現在の BrokeringDuration の値と、その指標のベースライン閾値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
vmStartScore	整数	いいえ	VMStart スコアは、現在の VMStartDuration 値と、そのメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
hdxConnectionScore	整数	いいえ	HDXConnection スコアは、現在の HDXConnectionDuration 値と、そのメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
authenticationScore	整数	いいえ	認証スコアは、現在の認証期間の値と、そのメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
logonScriptsScore	整数	いいえ	LogonScripts スコアは、現在の LogonScriptsDuration 値と、そのメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100

セッションメタデー				
タ	種類	無効化可能	説明	値
profileSize	整数	はい	ユーザーの合計プロファイルサイズ。	> 0
totalFileCount	整数	はい	そのプロファイル内の合計ファイル数。	> 0
largeFileCount	整数	はい	そのプロファイル内の大きなファイルの総数。	> 0
failureScore	整数	いいえ	過去 15 分間のセッション起動回数に対する障害数に基づいて計算されます。	0-100
failureCount	整数	いいえ	過去 15 分間に発生した障害の合計数。	>= 0
launchAttempts	整数	いいえ	過去 15 分間隔で試行された起動の合計数。	>=0
machineFailureCount	整数	いいえ	マシン障害の総数。	>=0
clientConnectionFailureCount	整数	いいえ	クライアント接続エラーの総数。	>=0
capacityFailureCount	整数	いいえ	容量障害の総数。	>=0
configurationFailureCount	整数	いいえ	設定エラーの総数。	いいえ
licenseFailureCount	整数	いいえ	ライセンス障害の総数。	>=0
communicationFailureCount	整数	いいえ	通信障害の総数。	>=0
inputBandwidthAvailable	整数	はい	過去 15 分間に ICA セッションによって消費された平均入力帯域幅。	>=0
inputBandwidthConsumed	整数	はい	過去 15 分間に ICA セッションによって消費された平均入力帯域幅。	>=0
outputBandwidthAvailable	整数	はい	過去 15 分間に使用可能な平均出力帯域幅。	>=0

セッションメタデー				
タ	種類	無効化可能	説明	値
outputBandwidthUsed	整数	はい	過去 15 分間に使用された平均出力帯域幅。	>=0
networkLatency	整数	はい	過去 15 分間の ICA セッションの平均ネットワーク遅延。	>=0
endpointLinkSpeed	整数	はい	Wi-Fi、イーサネットなどのエンドポイントデバイスのネットワークインターフェースのリンク速度	>=0
endpointSignalStrength	整数	はい	エンドポイントデバイスの信号強度。	>=0
avgEndpointThroughputBytesReceived	整数	はい	ネットワークインターフェイスで受信した合計バイト数。	>=0
avgEndpointThroughputBytesSent	整数	はい	ネットワークインターフェイスで送信された合計バイト数。	>=0
wanLatency	整数	はい	このサブファクターは、仮想マシンから Gateway まで測定されたレイテンシーです。WAN レイテンシーが高い場合は、エンドポイントマシンネットワークの動作が遅いことを示します。WAN 遅延は、ユーザがゲートウェイから地理的に離れているときに増加します。	>=0

## セッションメタデー

タ	種類	無効化可能	説明	値
dcLatency	整数	はい	このサブファクターは、Citrix Gateway からサーバー (VDA) まで測定されたレイテンシーです。データセンターのレイテンシーが高い場合は、サーバーネットワークが遅いために遅延が発生していることを示しています。このメトリックは、オンプレミス・ゲートウェイが CAS にオンボーディングされている場合にのみ使用できます。	$\geq 0$
hostDelay	整数	はい	このサブファクターは、サーバー OS によって誘発される遅延を測定します。ICA RTT が高く、データセンターと WAN のレイテンシーが低く、ホストレイテンシーが高い場合は、ホストサーバー上のアプリケーションエラーを示します。	$\geq 0$
wanLatencyScore	整数	いいえ	WAN レイテンシスコアは、WAN レイテンシー値と、同じメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100

セッションメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
dcLatencyScore	整数	いいえ	DC レイテンシスコアは、DC レイテンシー値と、同じメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100
hostDelayScore	整数	いいえ	ホスト遅延スコアは、ホスト遅延値と、同じメトリックのベースラインしきい値からの偏差に基づいて計算されます。	0-100

## マシンイベントのデータ構造

April 12, 2024

### マシンディメンションデータソース

マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
マシン ID	GUID	はい	マシン識別子。	
マシン ID	GUID	いいえ	マシン AD 識別子。	
machineName	文字列	いいえ	ユーザー定義のマシン名。	
machineIP	文字列	はい	マシンの IP アドレス。	
operatingSystem	文字列	いいえ	マシンのオペレーティングシステム。	
deliveryGroupId	GUID	いいえ	デリバリーグループ識別子。	

マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
deliveryGroupName	文字列	いいえ	デリバリーグループ名。	
siteId	GUID	いいえ	Citrix Virtual Apps and Desktops のサイト識別子。	
siteName	文字列	いいえ	Citrix Virtual Apps and Desktops のサイト名	
マシンプロビジョニングタイプ	整数	いいえ	マシンがどのようにプロビジョニングされたかを説明します	0: 不明、1: MCS-Machine Creation Services によってプロビジョニングされたマシン (マシンは VM である必要があります)、2: PVS-Provisioning Services によってプロビジョニングされたマシン (物理、ブレード、VM の場合もある)、3: 手動-自動プロビジョニングなし
ハイパーバイザー名	文字列	いいえ	ハイパーバイザーの名前	
ハイパーバイザー ID	GUID	いいえ	ハイパーバイザーの固有識別子	
カタログ名	文字列	いいえ	カタログブローカーの名前	
カタログ ID	GUID	いいえ	カタログの固有識別子	
エージェントバージョン	文字列	いいえ	マシンにインストールされている VDA バージョン	
ホストマシン名	文字列	はい		
ホスティングサーバー名	文字列	はい		

マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
セッションサポート	文字列	いいえ	カタログ内のマシンのセッションサポートを指定します	1: シングルセッション、2: マルチセッション
状態	整数	いいえ	過去 15 分間のマシンの最新の既知ステータス	1: 未登録、2: 登録済み、3: メンテナンス中、4: 障害、5: 電源オフ
ステータス変更時間	Timestamp	いいえ	過去 15 分間にマシンのステータスが変化した時刻	値の形式は「yyyy-mm-ddthh:mm:ss.sssz」です
マシンの実際のステータス	整数	いいえ	過去 15 分間に発生した複数の状態遷移を使用してマシステータスを計算しました。マシンが登録済み状態から未登録状態になった場合、MachineActual-Status は登録解除されます	1: 未登録、2: 登録済み、3: 失敗
マシン障害の理由	文字列	はい	マシンが故障状態になった障害理由	障害不明 障害なし（正常なマシン） マシンの最後の電源投入操作が失敗しました 電源投入後、マシンが起動していないようです（VM ツールは実行状態に移りませんでした） マシンが予定期間内に登録されなかったか、登録が拒否されました マシンは、最大容量に達していると報告しています



マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
機械故障タイプ	文字列	はい		値には、「不明」、「なし」、「起動失敗」、「起動停止」、「未登録」、「最大容量」のいずれかを使用できます 0: 不明
machinePowerState	整数	いいえ	マシンの電源状態を表します	1: 使用不可 2: オフ 3: オン 4: 一時停止 5: 電源オン 6: 電源を切る 7: 一時停止 8: 再開 9: 管理対象外 10: サポートされていません
未登録の開始時間	Timestamp	はい	マシンが未登録状態になった時刻	値の形式は「yyyy-mm-ddthh:mm:ss」です
未登録終了時間	Timestamp	はい	マシンが未登録状態から復帰した時刻	値の形式は「yyyy-mm-ddthh:mm:ss」です
メンテナンスモードです	ブーリアン型	はい	boolean フラグは、マシンがメンテナンスモードになっているかどうかを指定します	0: 真、1: 偽
isUnregistered	ブーリアン型	はい	boolean フラグは、マシンが未登録状態かどうかを指定します	0: 真、1: 偽
machineFailureTimeTimestamp		はい	マシンが故障状態になった時間	任意の日付/時刻値

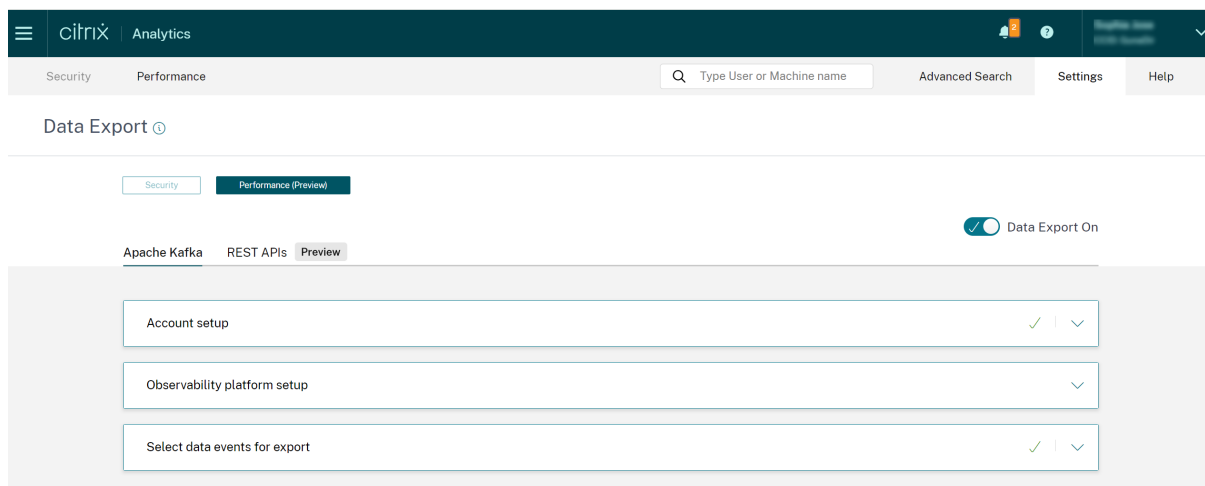
マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
CPU スパイクカウント	整数	はい	CPU 使用率が CPU のしきい値である 80% を超え、過去 15 分間に 5 分以上持続した回数を表示します。	
usedMemory	十進法	いいえ	使用済みメモリ (バイト)	
totalMemory	整数	いいえ	使用可能なメモリの総容量 (バイト)	
percentCpu	整数	いいえ	マシンの CPU 使用率の平均	
ramSpikeCount	整数	はい	メモリ消費量がメモリしきい値の 80% を超えた回数を表示します。また、直近の 15 分間の間隔で 5 分以上持続した。	
sessionCount	整数	はい	過去 15 分間にマシン上で起動されたセッション (成功 + 失敗) の合計数。	
downTime	整数	はい	マシンの合計ダウンタイムは秒単位で計算されます。	
consecutiveMachineFailure	整数	はい	過去 15 分間隔で既知のマシンで連続して障害が発生した。	
activeSessionCount	整数	はい	過去 15 分間におけるアクティブなセッションの数。	
successfulSessionCount	整数	いいえ	過去 15 分間隔で正常に起動されたセッションの数。	
machineFailureOccurrence	整数	はい	過去 15 分間隔でマシン上で発生したセッション障害。	

マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
unRegistrationCount	整数	いいえ	過去 15 分間に、マシンが登録状態になった回数。	

## REST API によるデータエクスポート (プレビュー)

April 12, 2024

Citrix Analytics for Performance が Power BI オブザーバビリティと統合されました。データエクスポート機能を使用すると、REST API を使用して Citrix Analytics for Performance から Power BI にパフォーマンスデータとイベントをエクスポートできます。



詳しくは、次の記事を参照してください:

- [Citrix Analytics ODATA API](#)
- [Citrix パフォーマンス分析用の増分更新による Power BI へのデータエクスポート](#)

## Citrix Analytics ODATA API

June 18, 2024

### 概要

CAS ODATA v4 REST API を使用すると、集約されたデータを簡単に取得できます。現在、CAS パフォーマンスデータソースからセッションデータを取得するユーザーをサポートしています。

この記事では、API の使用方法に関するガイダンスを提供します。

### API スペシフィケーション

#### 認証

この実装では、Citrix Cloud ベアラートークンを使用して認証を行います。

参照先ドキュメント:

[Citrix Cloud クライアント ID と Citrix Cloud クライアントシークレット](#)

以下は、トークンを取得するためのサンプルリクエストです。

リクエストのサンプル:

```
1   POST https://api.cloud.com/cctrustoauth2/{
2   customerid }
3   /tokens/clients
4   Accept: application/json
5   Content-Type: application/x-www-form-urlencoded
6   Body: grant_type=client_credentials&client_id={
7   client_id }
8   &client_secret={
9   client_secret }
10
11 <!--NeedCopy-->
```

応答サンプル:

```
1 HTTP/1.1 200 OK
2 Content-Type: application/json
3 ...
4 {
5
6   "token_type": "bearer",
7   "access_token": "eyJ1..",
8   "expires_in": "3600"
9   }
10
11 <!--NeedCopy-->
```

注:

ベアラートークンの有効期限は 1 時間です。1 時間後にクエリを実行する必要がある場合は、再生成してくだ

さい。

エンドポイント

グローバル: <https://api.cloud.com/casodata>

例:

<https://api.cloud.com/casodata/sessions?year=2023&month=04&day=14>は2023/04/14 (UTC) の集計されたセッションデータを取得します。

サービスパス

このセクションには、サービスパスと、セッション、マシン、ユーザーなどのエンティティ名に関する情報が含まれています。たとえば、次のサンプルサービスパスを参照してください:

```
1 /sessions?year=2023&month=04&day=14
2 <!--NeedCopy-->
```

年、月、日のパラメーターは必須で、UTC 形式で追加されます。

指定された時間のデータもサポートされています。パスは次のとおりです:

```
1 /sessions?year=2023&month=04&day=14&hour=10 (Fetch the data of
  2023/04/14 10:00)
2 <!--NeedCopy-->
```

## HTTP ヘッダー

キー	サンプル	値	固定
承認	CwsAuth bearer=		はい
Citrix-CustomerId			はい
Content-Type	application/json		はい
Citrix-TransactionId			いいえ
Accept-Encoding	gzip		いいえ

システムオペレーター

CAS ODATA API は、以下の基本的な ODATA システムオプションをサポートしています:

システムオプション	サンプル
\$select	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;select=score">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;select=score</a>
\$orderby	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;orderby=score desc">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;orderby=score desc</a>
\$top	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;top=5">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;top=5</a>
\$top&\$skip	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;top=5&amp;skip=10">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;top=5&amp;skip=10</a>
\$count	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;count=score">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;count=score</a>
\$filters	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=score ne 20">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=score ne 20</a>

**注意:**

\$select オプションの値にはスペースを入れないでください。

**\$filter operators and functions** CAS ODATA API は、\$filter オプションで次の ODATA 論理演算子と文字列関数をサポートしています:

カテゴリ	オペレーター	Samples
論理演算子	eq/ne/gt/lt/le/ge	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=score ge 20">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=score ge 20</a>
	not	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=score ne null">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=score ne null</a>
	and/or	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=(score eq '5' and (sessionScore le 20 or logonDuration gt 19.914))">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=(score eq '5' and (sessionScore le 20 or logonDuration gt 19.914))</a>
	in	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=sessionState in ( '5' , '3' )">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=sessionState in ( '5' , '3' )</a>
	not in	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=sessionState not in ( '5' , '3' )">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=sessionState not in ( '5' , '3' )</a>
文字列関数	contains	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=deliveryGroupName contains 'PRD'">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=deliveryGroupName contains 'PRD' )</a>
	startswith	<a href="https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=deliveryGroupName startswith 'CVAD Development'">https://casodata/sessions?year=2023&amp;month=04&amp;day=14&amp;filter=deliveryGroupName startswith('deliveryGroupName,' CVAD Development' )</a>







ユーザーは\$topオプションの値を設定して、クエリの結果行を制限できます。このシナリオでは、次のページのリンクがクエリ応答の下部に表示されます。

リクエストのサンプル:

```
1 curl --location 'https://api.cloud.com/casodata/sessions?year=2023&
   month=04&day=14&%24top=100' \
2 --header 'Authorization: CwsAuth bearer=eyJhbGciOiJSUzI1NiIsInR5....'
   \
3 --header 'Citrix-CustomerId: qt64gkrzji7h' \
4 --header 'Content-Type: application/json'
5 <!--NeedCopy-->
```

応答サンプル:

```
1 {
2
3   "@odata.context": "$metadata#sessions/$entity",
4   "value": [
5     {
6
7       "timestamp": "2023-03-28T00:00:00.000Z",
8       "sessionKey": "009e7f0f-5707-4083-934f-24d8ad5e91f8",
9       "sessionScore": 79.0,
10      "sessionState": "2",
11      "sessionType": "0",
12      "userName": "81
13         d0260b529c11fbb05c8dfabb3d312182e6af9deecfc6c036768df2ed3c3a39",
14      "sessionStartTime": "2023-03-28T17:38:38.000Z",
15      "machineName": "253
16         f6a031c9b65cbb7bcc3f137b9878fe0effef010757aec54420776a0d2dd71",
17      "deliveryGroupName": "CVD\\BUR CVAD Development",
18      "logonDuration": 18.69,
19      "brokeringDuration": 0.0,
20      "vmStartDuration": 0.0,
21      "hdxConnectionDuration": 0.0,
22      "authenticationDuration": 0.0,
23      "gpoDuration": 0.0,
24      "logonScriptsDuration": 0.0,
25      "profileLoadDuration": 0.0,
26      "interactiveSessionsDuration": 0.0,
27      "siteName": "cloudxdsite",
28      "icaRtt": 125.38,
29      "reconnects": 0.0,
30      "wanLatency": 0,
31      "hostDelay": 0,
32      "dcLatency": 0,
33      "endpointLocationCity": null,
34      "endpointReceiverVersion": "21.6.0.47",
35      "endpointOS": "Windows",
36      "endpointLocationCountry": null,
37      "endpointLinkSpeed": -1.0,
38      "endpointName": "64368231
```

```
    b5d925e40d67449640ca110e9658f63eef37d2579b09b975cc7f7e88",
37 "endpointIP": "850
    a4b2abc159a2f7d44dac564bda06afad0c558a070a2681f5cc0e1aa81991c",
38 "vdaIP": null,
39 "gatewayFQDN": null,
40 "connectionType": "External",
41 "connectorName": null,
42 "connectorGatewayLatency": 0.0,
43 "networkInterfaceType": null,
44 "isp": null,
45 "sessionLaunchType": "ICA",
46 "throughputBytesReceived": -1.0,
47 "throughputBytesSent": -1.0,
48 "inputBandwidthConsumed": -1.0,
49 "outputBandwidthAvailable": -1.0,
50 "outputBandwidthUsed": -1.0,
51 "networkLatency": -1.0,
52 "outputBandwidthUtilization": -1.0,
53 "siteId": "090e20c8-c852-4a92-9b3f-dfb8d8b2ab61",
54 "sessionLaunchStatus": 0,
55 "sessionLaunchStatusCustom": "Succeeded"
56 }
57 ,
58 ...
59 {
60
61 "timestamp": "2023-04-14T00:00:00.000Z",
62 "sessionKey": "ff0504e3-0867-414a-b0b2-beb73f06fdad",
63 "sessionScore": 0.0,
64 "sessionState": "5",
65 "sessionType": "0",
66 "userName": "
    aed8a56c38d5d2824d8699a48cdd1b19eb3b16f135c8d61bf2cd6acd465aa998",
67 "sessionStartTime": "2023-03-09T21:39:51.000Z",
68 "machineName": "5603
    b4dcad97424b6329cacc9cc6ad949b764bbc0015bc6e2a2b4938e4be954",
69 "deliveryGroupName": "Remote PC - Miami LABs",
70 "logonDuration": 0.0,
71 "brokeringDuration": 0.0,
72 "vmStartDuration": 0.0,
73 "hdxConnectionDuration": 0.0,
74 "authenticationDuration": 0.0,
75 "gpoDuration": 0.0,
76 "logonScriptsDuration": 0.0,
77 "profileLoadDuration": 0.0,
78 "interactiveSessionsDuration": 0.0,
79 "siteName": "cloudxdsite",
80 "icaRtt": 0.0,
81 "reconnects": 0.0,
82 "wanLatency": 0,
83 "hostDelay": 0,
84 "dcLatency": 0,
85 "endpointLocationCity": null,
```

```
86 "endpointReceiverVersion": null,
87 "endpointOS": "Windows 10",
88 "endpointLocationCountry": null,
89 "endpointLinkSpeed": -1.0,
90 "endpointName": "Precision 5550",
91 "endpointIP": "
    e74dbbbd20d20f971c0254c6680aad800ad3932c4740544b39a42bb422424272",
92 "vdaIP": null,
93 "gatewayFQDN": null,
94 "connectionType": "External",
95 "connectorName": null,
96 "connectorGatewayLatency": 0.0,
97 "networkInterfaceType": null,
98 "isp": null,
99 "sessionLaunchType": "ICA",
100 "throughputBytesReceived": -1.0,
101 "throughputBytesSent": -1.0,
102 "inputBandwidthConsumed": -1.0,
103 "outputBandwidthAvailable": -1.0,
104 "outputBandwidthUsed": -1.0,
105 "networkLatency": -1.0,
106 "outputBandwidthUtilization": -1.0,
107 "siteId": "090e20c8-c852-4a92-9b3f-dfb8d8b2ab61",
108 "sessionLaunchStatus": 0,
109 "sessionLaunchStatusCustom": "Succeeded"
110 }
111
112 ],
113 "@odata.nextLink": "https://api.cloud.com/casodata/sessions?year=2023&
    month=04&day=14&%
114 24skip=100&%24top=100"
115 }
116
117 <!--NeedCopy-->
```

特定のセッションのすべてのデータを取得する (**sessionkey** でデータをフィルタリングする)

リクエストのサンプル:

```
1 curl --location 'https://api.cloud.com/casodata/sessions?year=2023&
    month=04&day=14&%24filter=sessionKey%20eq%20%
2 27009e7f0f-5707-4083-934f-24d8ad5e91f8%27' \
3 --header 'Authorization: CwsAuth bearer=eyJhbGciOiJSUzI1NiIsInR5cCI6Ii
    \
4 --header 'Citrix-CustomerId: qt64gkrzji7h' \
5 --header 'Content-Type: application/json'
6 <!--NeedCopy-->
```

応答サンプル:

```
1 {
```

```
2
3 "@odata.context": "$metadata#sessions/$entity",
4 "value": [
5 {
6
7 "timestamp": "2023-04-14T00:00:00.000Z",
8 "sessionKey": "009e7f0f-5707-4083-934f-24d8ad5e91f8",
9 "sessionScore": -1.0,
10 "sessionState": "2",
11 "sessionType": "0",
12 "userName": "81
    d0260b529c11fbb05c8dfabb3d312182e6af9deecfc6c036768df2ed3c3a39",
13 "sessionStartTime": "2023-04-05T17:32:45.000Z",
14 "machineName": "253
    f6a031c9b65cbb7bcc3f137b9878fe0effef010757aec54420776a0d2dd71",
15 "deliveryGroupName": "CVD\\BUR CVAD Development",
16 "logonDuration": 21.2,
17 "brokeringDuration": 0.0,
18 "vmStartDuration": 0.0,
19 "hdxConnectionDuration": 0.0,
20 "authenticationDuration": 0.0,
21 "gpoDuration": 0.0,
22 "logonScriptsDuration": 0.0,
23 "profileLoadDuration": 0.0,
24 "interactiveSessionsDuration": 0.0,
25 "siteName": "cloudxdsite",
26 "icaRtt": 0.0,
27 "reconnects": 0.0,
28 "wanLatency": 0,
29 "hostDelay": 0,
30 "dcLatency": 0,
31 "endpointLocationCity": null,
32 "endpointReceiverVersion": "21.6.0.47",
33 "endpointOS": "Windows",
34 "endpointLocationCountry": null,
35 "endpointLinkSpeed": -1.0,
36 "endpointName": "64368231
    b5d925e40d67449640ca110e9658f63eef37d2579b09b975cc7f7e88",
37 "endpointIP": "8
    dbacd9197f4d3dc068fd44b4837828f8e10a19358b14e96d439cfc82042b70f",
38 "vdaIP": null,
39 "gatewayFQDN": null,
40 "connectionType": "External",
41 "connectorName": null,
42 "connectorGatewayLatency": 0.0,
43 "networkInterfaceType": null,
44 "isp": null,
45 "sessionLaunchType": "ICA",
46 "throughputBytesReceived": -1.0,
47 "throughputBytesSent": -1.0,
48 "inputBandwidthConsumed": -1.0,
49 "outputBandwidthAvailable": -1.0,
50 "outputBandwidthUsed": -1.0,
```

```

51 "networkLatency": -1.0,
52 "outputBandwidthUtilization": -1.0,
53 "siteId": "090e20c8-c852-4a92-9b3f-dfb8d8b2ab61",
54 "sessionLaunchStatus": 0,
55 "sessionLaunchStatusCustom": "Succeeded"
56 }
57
58 ]
59 }
60
61 <!--NeedCopy-->

```

特定の日のすべてのアクティブセッションをカウントします

リクエストのサンプル:

```

1 curl --location 'https://api.cloud.com/casodata/sessions?year=2023&
   month=04&day=14&%24count=true&%24filter=sessionState%
2 20eq%20%275%27' \
3 --header 'Authorization: CwsAuth bearer=eyJhbGciOiJSUzI1NiIsInR5cGU6IjY4ZjZjZjI7h' \
   \
4 --header 'Citrix-CustomerId: qt64gkrzji7h' \
5 --header 'Content-Type: application/json'
6 <!--NeedCopy-->

```

応答サンプル:

207

データソース

CAS セルフサービス検索ダッシュボードは、データを視覚化して顧客管理者に表示し、検索機能を有効にします。ODATA API は同じデータソースを使用するため、顧客管理者はより柔軟にデータを取得してフィルタリングできます。詳細については、「[表形式データ](#)」を参照してください。

ユーザーイベントのデータ構造

April 12, 2024

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
Timestamp	文字列	いいえ	API が呼び出された時刻。	

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
UserExperience	Double	いいえ	ユーザースコアに基づいて計算されるユーザーエクスペリエンスのスコア。	0-100
UserName	文字列	いいえ	仮想アプリまたはデスクトップセッションを起動したユーザーの名前。	
TotalSessions	整数	いいえ	ユーザーの合計セッション数。	>=0
ExcellentSessions	整数	いいえ	セッションスコアが 70 以上のセッション数。	>=0
FairSessions	整数	いいえ	セッションスコアが 40 以上でセッションスコアが 70 未満のセッション数。	>=0
PoorSessions	整数	いいえ	セッションスコアが 1 以上、セッションスコアが 40 未満のセッションの数。	>=0
SessionLogonDuration	Double	いいえ	このユーザーの合計ログオン時間 (ユーザーの合計初期化時間) (秒単位)。	>0
SessionResponsiveness	Double	いいえ	過去 15 分間におけるこのユーザーの ICA セッションの平均往復時間。	>=0

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
WANLatency	Double	はい	このサブファクターは、仮想マシンから Gateway まで測定されたレイテンシーです。WAN レイテンシーが高い場合は、エンドポイントマシンネットワークの動作が遅いことを示します。WAN 遅延は、ユーザがゲートウェイから地理的に離れているときに増加します。	$\geq 0$
HostDelay	Double	はい	このサブファクターは、サーバー OS によって誘発される遅延を測定します。ICA RTT が高く、データセンターと WAN のレイテンシーが低く、ホストレイテンシーが高い場合は、ホストサーバー上のアプリケーションエラーを示します。	$\geq 0$

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
DataCenterLatency	Double	はい	このサブファクターは、Citrix Gateway からサーバー (VDA) まで測定されたレイテンシーです。Data Center Latency が高い場合は、サーバーネットワークの速度が遅いために遅延が発生していることを示します。このメトリックは、オンプレミス・ゲートウェイが CAS にオンボーディングされている場合にのみ使用できます。	$\geq 0$
仲介	Double	はい	ブローカーがセッションを初期化するのにかかった平均時間 (秒単位)。	
VMStart	Double	はい	ログオンプロセス中に VM を起動するのにかかった平均時間 (秒単位)。	
HDXConnection	Double	はい	ログオン処理中に HDX 接続にかかった平均時間 (秒単位)。	
認証	Double	はい	ログオン処理中の認証にかかった平均時間 (秒単位)。	
GPO	Double	はい	ログオン処理中の GPO 処理にかかった平均時間 (秒単位)。	



フィールド	種類	無効化可能	説明	値
LogonScripts	Double	はい	ログオン処理中のログオンスクリプト処理にかかった平均時間 (秒単位)。	
ProfileLoad	Double	はい	ログオン処理中にプロファイルロードにかかった平均時間 (秒単位)。	
InteractiveSession	Double	はい	シェルの初期化時間を含むインタラクティブセッションの初期化にかかった平均時間 (秒単位)。	
FailureCount	整数	いいえ	過去 15 分間に発生した障害の合計数。	>=0
LaunchAttemptsCount	整数	いいえ	過去 15 分間に試行された起動の合計数。	>=0
SessionResiliency	Double	いいえ	過去 15 分間に発生した自動再接続の数。	
EndpointCity	文字列	はい	セッションが開始された都市。	
EndpointCountry	文字列	はい	セッションが開始された国。	
AverageProfileSize	Double	はい	ユーザーの平均プロファイルサイズ。	
ProfileSize	Double	はい	ユーザーの最新のプロファイルサイズ。	

## セッションイベントのデータ構造

April 12, 2024

セッションディメンションデータソース

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
Timestamp	文字列	いいえ	API が呼び出された時刻。	
SessionKey	文字列	いいえ	仮想アプリまたはデスクトップセッションの識別子。	
SessionExperience	Double	いいえ	セッションスコアに基づいて計算されたセッションエクスペリエンスのスコア。	
SessionStat	文字列	いいえ	セッションライフサイクルの統計情報。	値のマッピングは、 0: 不明、1: 接続、2: 切断、3: 終了、4: セッション準備中、5: アクティブ、6: 再接続中、7: 非仲介セッション、8: その他、9: 保留中です
SessionType	文字列	いいえ	セッションの種類	値のマッピングは、 0: デスクトップ、1: アプリケーション
UserName	文字列	いいえ	仮想アプリまたはデスクトップセッションを起動したユーザーの名前。	
SessionStartTime	文字列	いいえ	セッションが開始された時刻。	値の形式は「yyyy-MM-ddTHH:mm:ss」です
MachineName	文字列	いいえ	セッションが開始されるマシンの名前。	>=0
DeliveryGroupName	文字列	いいえ	デリバリーグループの名前。	>=0
SessionLogonDuration	Double	いいえ	このセッションの平均ログオン時間 (セッションの合計初期化時間) (秒単位)。	>=0

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
伸介	Double	はい	ブローカーがセッションを初期化するのにかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
VMStart	Double	はい	ログオンプロセス中に VM を起動するのにかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
HDXConnection	Double	はい	ログオン処理中に HDX 接続にかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
認証	Double	はい	ログオン処理中の認証にかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
GPO	Double	はい	ログオン処理中の GPO 処理にかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
LogonScripts	Double	はい	ログオン処理中のログオンスクリプト処理にかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
ProfileLoad	Double	はい	ログオン処理中にプロファイルロードにかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
InteractiveSessions	Double	はい	シェルの初期化時間を含むインタラクティブセッションの初期化にかかった平均時間 (秒単位)。	$\geq 0$
SiteName	文字列	いいえ	Citrix Virtual Apps and Desktops のサイト名	
SessionResponsiveness	Double	いいえ	過去 15 分間隔の ICA セッションの平均往復時間。	$\geq 0$

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
SessionResiliency	Double	いいえ	自動再接続の合計数。	
WANLatency	Double	はい	このサブファクターは、仮想マシンから Gateway までの平均レイテンシーです。WAN レイテンシーが高い場合は、エンドポイントマシンネットワークの動作が遅いことを示します。WAN 遅延は、ユーザがゲートウェイから地理的に離れているときに増加します。	
HostDelay	Double	はい	このサブファクターは、サーバー OS によって誘発された遅延の平均を測定します。ICA RTT が高く、データセンターと WAN のレイテンシーが低く、ホストレイテンシーが高い場合は、ホストサーバーでアプリエラーが発生していることを示します。	

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
DataCenterLatency	Double	はい	このサブファクターは、Citrix Gateway からサーバー (VDA) までの平均レイテンシーです。データセンターのレイテンシーが高い場合は、サーバーネットワークが遅いために遅延が発生していることを示しています。このメトリックは、オンプレミス・ゲートウェイがCAS にオンボーディングされている場合にのみ使用できます。	
EndpointCity	文字列	はい	セッションが開始された都市。	
WorkspaceAppVersion	文字列	いいえ	Citrix Workspace アプリのバージョン	
EndpointOS	文字列	はい	Citrix Workspace アプリ-OS タイプ	指定できる値には、たとえば Windows、Unix または Linux、HTML5、Macintosh、ThinOS、iOS、Chrome、Android などがあります。ただし、OS タイプにはさらに多くのオプションを含めることができます。
EndpointCountry	文字列	はい	セッションが開始された国。	

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
EndpointLinkSpeed	Double	はい	Wi-Fi、イーサネットなどのエンドポイントデバイスネットワークインターフェースの平均リンク速度	>=0
EndpointName	文字列	はい	セッションが開始されたクライアントの名前。	
EndpointIP	文字列	はい	セッションが開始されたクライアントのIP。	
MachineAddress	文字列	はい	セッションが開始されたVDAのIP	
Gateway	文字列	はい	セッションが開始されたゲートウェイFQDN。	
ConnectionType	文字列	はい	Citrix Workspace アプリから確立された接続のタイプ。	内部、外部
コネクタ	文字列	はい	ゲートウェイFQDNのコネクタ名。	
GatewayConnectorLatency	Double	はい	ゲートウェイコネクタの平均待ち時間。	
ネットワークインターフェースタイプ	文字列	いいえ	エンドポイントデバイスのネットワークインターフェースタイプ。	Wi-Fi、イーサネットなど
ISP	文字列	はい	セッションの起動に使用したISP	
LaunchType	文字列	いいえ	セッション起動タイプ	ICA、コネクションリリース
EndpointThroughputIn	Double	はい	ネットワークインターフェースで送信された合計バイト数。	
EndpointThroughputOut	Double	はい	ネットワークインターフェースで受信した合計バイト数。	>=0

フィールド	種類	無効化可能	説明	値
InputBandwidthConsumption	Double	はい	過去 15 分間に ICA セッションによって消費された平均入力帯域幅。	>=0
OutputBandwidthAvailability	Double	はい	過去 15 分間に ICA セッションによって消費された平均入力帯域幅。	>=0
OutputBandwidthUsage	Double	はい	過去 15 分間に使用された平均出力帯域幅。	>=0
NetworkLatency	Double	はい	過去 15 分間の ICA セッションの平均ネットワーク遅延。	>=0
OutputBandwidthUtilization	Double	はい	過去 15 分間の平均出力帯域幅使用率。	>=0
LaunchStatus	整数	いいえ	セッションの起動ステータス。	0 (起動成功)、1 (セッション失敗)、2 (ユーザー終了)

## マシンイベントのデータ構造

April 12, 2024

マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
Timestamp	文字列	いいえ	API が呼び出された時刻。	
SiteId	文字列	いいえ	Citrix Virtual Apps and Desktops のサイト識別子。	
SiteName	文字列	いいえ	Citrix Virtual Apps and Desktops のサイト名。	

マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
MachineName	文字列	いいえ	ユーザー定義のマシン名	
DeliveryGroupName	文字列	いいえ	デリバリーグループ名	
MachineOS	文字列	いいえ	オペレーティングシステム	
LatestConsecutiveFailures	整数	はい	過去 15 分間隔で既知のマシンで連続して障害が発生した。	
状態	文字列	いいえ	過去 15 分間におけるマシンの最新の既知ステータス。	1: 未登録、2: 登録済み、3: メンテナンス中、4: 障害、5: 電源オフ
UnRegistrationCount	整数	いいえ	過去 15 分間に、マシンが登録状態になった回数。	>=0
SustainedCpuSpikes	整数	はい	CPU 使用率が CPU しきい値の 80% を超えた回数を表します。また、直近の 15 分間の間隔で 5 分以上持続した。	>=0
SustainedMemorySpikes	整数	はい	メモリ消費量がメモリしきい値の 80% を超えた回数を表します。また、直近の 15 分間の間隔で 5 分以上持続した。	>=0
PeakConcurrentSessions	整数	はい	過去 15 分間隔でマシン上で起動されたセッション（成功および失敗）の合計数。	>=0
SessionFailureRate	Double	はい	マシンのセッション失敗率。	0-100
LoadIndicator	Double	いいえ	マシンスコア > 0 を持つマシンの数。	>=0



マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
DownTime	Double	はい	マシンの合計ダウンタイムは秒単位で計算されます。	
AvgMemoryConsumption	Double	いいえ	マシン上の平均使用メモリパーセンテージ。	0-100
PeakMemoryConsumption	Double	いいえ	マシンで使用可能なメモリの合計パーセンテージ。	0-100
AvgCPU	Double	いいえ	マシンで使用されている CPU の平均パーセンテージ。	0-100
PeakCPU	Double	いいえ	マシンで使用されている CPU の最大パーセンテージ。	0-100
MachineOSType	文字列	いいえ	カタログ内のマシンのセッションサポートを指定します。	1: シングルセッション、2: マルチセッション
LowLoadInstances	整数	いいえ	マシンスコアが 41 未満のマシンの数。	>=0
MediumLoadInstances	整数	いいえ	マシンスコアが 40 以上でマシンスコアが 70 未満のマシンの数	>=0
HighLoadInstances	整数	いいえ	マシンスコアが 70 以上のマシンの数。	>=0
AggregatedStatus	文字列	いいえ	ステータスの説明失敗、未登録、メンテナンス、アクティブ、使用準備完了。	
ReadyForUseInstances	整数	いいえ	「使用準備完了」ステータスのマシンの数。	>=0
ActiveInstance	整数	いいえ	ステータスが「アクティブ」のマシンの数。	>=0
UnregisteredInstances	整数	いいえ	ステータスが「未登録」のマシンの数。	>=0

マシンメタデータ	種類	無効化可能	説明	値
FailedInstance	整数	いいえ	ステータスが「失敗」のマシンの数。	>=0
MaintenanceInstance	整数	いいえ	「メンテナンス」ステータスのマシンの数。	>=0

## Citrix パフォーマンス分析のための Power BI 統合

June 18, 2024

Citrix Analytics サービスプラットフォームの ODATA API は、現在、パフォーマンス分析データのエクスポート機能をサポートしています。

このドキュメントでは、CAS ODATA API を Power BI に統合するために必要な手順について説明します。Power BI は以下もサポートしています：

1. インクリメンタルデータ更新 (このサポートは大規模なデータセットにとって重要です)
2. スケジュールされたデータ更新 (自動的にデータを取得して Power BI ワークスペースにエクスポートする)

### 前提条件

CAS ODATA フィードを接続するには、次のアイテムが必要です：

1. Citrix Cloud カスタマー ID (CCID)
2. グローバル CAS ODATA API エンドポイント: <https://api.cloud.com/casodata>
3. Citrix Cloud API クライアント。

CAS ODATA API は、認証に Citrix Cloud ベアラートークンを使用します。ベアラートークンを取得するには、Citrix Cloud API クライアントが必要です。Citrix Cloud API クライアントを作成し、クライアント ID とシークレットを保存する方法については、「[Citrix Cloud API を使ってみる](#)」ドキュメントを参照してください。

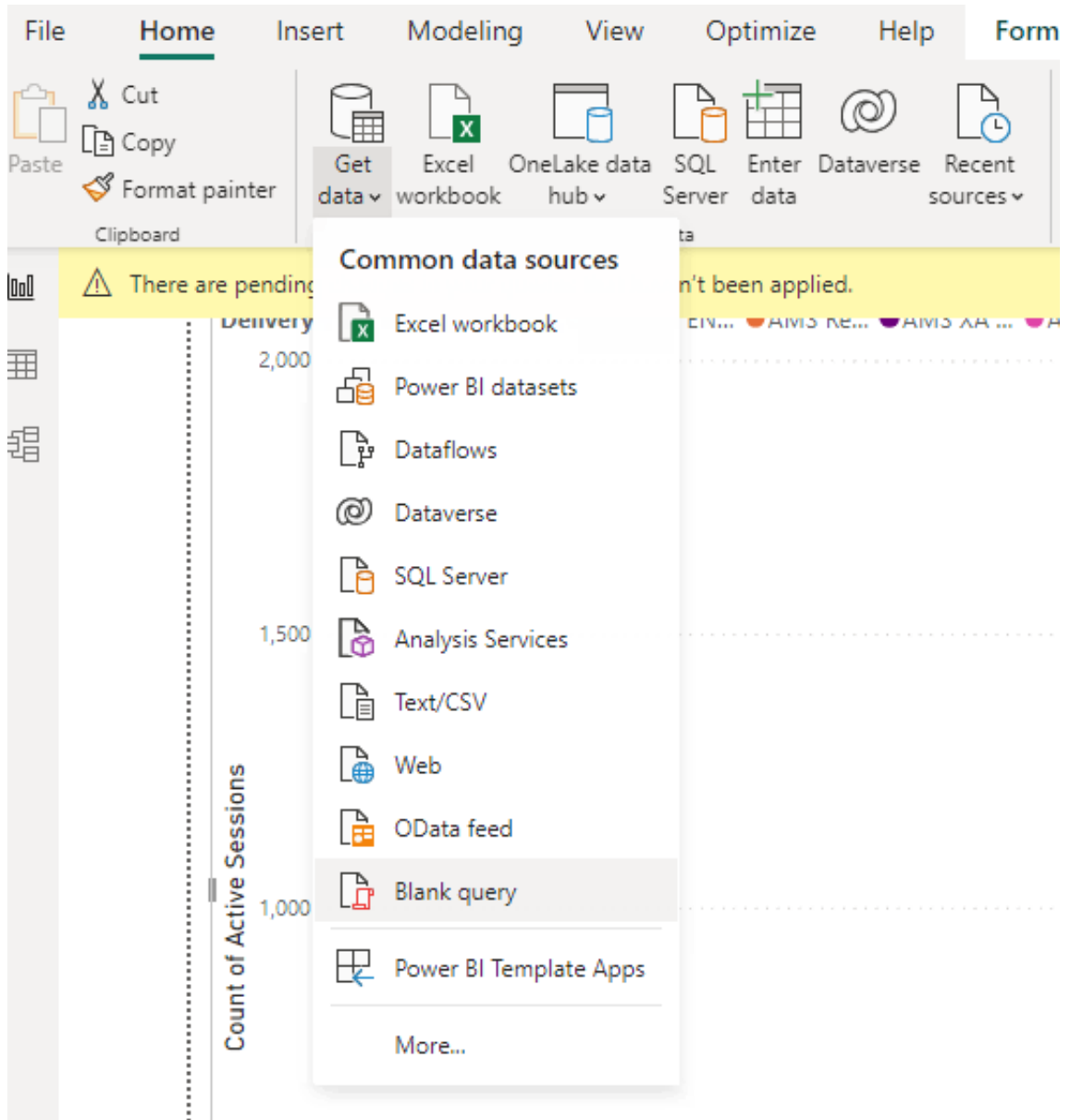
#### 注記:

API クライアントを作成する管理者には、Citrix Cloud Analytics サービスへの「読み取り専用」アクセス権または「フル管理者権限」が必要です。

### CAS ODATA フィードを Power BI に接続

次の手順を実行して、CAS ODATA フィードを Power BI に接続します：

1. Power BI デスクトップを開きます。
2. [ホーム]-> [データの取得]-> [空白のクエリ] を選択します。「パワークエリーエディター」ページが表示されます。



3. **Power Query Editor** 画面で、「パラメーターの管理」を選択し、次の2つのパラメーターを追加してインクリメンタル更新をサポートします：
  - RangeStart: 更新開始日 (「日付/時刻」タイプを使用する必要があります)
  - RangeEnd: リフレッシュ終了日 (「日付/時刻」タイプを使用する必要があります)

Manage Parameters

New

RangeStart

RangeEnd

Name

RangeStart

Description

Required

Type

Date/Time

Suggested Values

Any value

Current Value

01-07-2023 12.00.00 AM

OK Cancel

詳細については、[Microsoft のドキュメント](#)を参照してください。

4. [Power Query Editor] 画面で [Advanced Editor] を選択し、次のクエリを入力して Citrix Cloud を操作してベアラートークンを取得し、CAS ODATA フィードを操作して必要なデータを取得します。

注:

前のステップで取得したベアラートークンを認証に使用してください。

```
1 let
2   customerId = "placeholder_customerId",
3   // get citrix cloud API credential (bearer token)
4   tokenUrl = "placeholder_tokenUrl",
5   headers = [
6     #"customerId" = customerId,
7     #"Content-Type" = "application/x-www-form-urlencoded",
8     #"Accept" = "*/*"
9   ],
10  postData = [
11    grant_type = "client_credentials",
12    client_id = "placeholder_ApiClientId",
13    client_secret = "placeholder_ApiSecretKey"
14  ],
15  response = Json.Document(Web.Contents(tokenUrl, [Headers =
16    headers, Content = Text.ToBinary(Uri.
17    BuildQueryString(postData))])),
18  // get the CC bearer token from the response
19  token = "CwsAuth bearer=" & response[access_token],
20  reportDate = DateTime.AddZone(RangeStart, 0),
21  reportDateYear = Number.ToText(Date.Year(reportDate)),
22  reportDateMonth = Number.ToText(Date.Month(reportDate)),
23  reportDateDay = Number.ToText(Date.Day(reportDate)),
```

```
23 // CAS ODATA API endpoint and ODATA query. Sample below will
    // retrieve active sessions (non-terminated)
24 // apiURL = "https://api.cloud.com/casodata/sessions?$filter=
    // SessionState ne '3'",
25 apiURL = "placeholder_OdataApiUrl",
26 // have to separate api queries below to make PowerBI happy
27 apiQuery = [
28 # "year" = reportDateYear,
29 # "month" = reportDateMonth,
30 # "day" = reportDateDay
31 ],
32 apiHeaders = [
33 # "Authorization" = token,
34 # "Citrix-CustomerId" = customerId
35 ],
36 Source = OData.Feed(apiURL, null, [Query=apiQuery, Headers=
    apiHeaders]),
37 # "Filtered Rows" = Table.SelectRows(Source, each [Timestamp]
    >= DateTime.AddZone(RangeStart, 0) and [Timestamp] <=
    DateTime.AddZone(RangeEnd, 0))
38 in
39 # "Filtered Rows"
40 <!--NeedCopy-->
```

5. サイトに応じて、次のプレースホルダーを置き換えてください:

- Placeholder\_customerId: customer ID
- placeholder\_tokenUrl: 地域固有の CC 認証 URL  
<https://api.cloud.com/cctrustoauth2/root/tokens/clients>
- placeholder\_ApiClientId: API クライアント ID
- placeholder\_ApiSecretKey: API クライアントシークレットキー
- placeholder\_ODataAPIURL: オプションの ODATA クエリを含む CAS ODATA の API URL (例:  
"[https://api.cloud.com/casodata/sessions?\\$filter=SessionState ne '3'](https://api.cloud.com/casodata/sessions?$filter=SessionState ne '3')")

6. 完了したら、[完了] をクリックします。データソースアクセス認証情報の要求が表示されます。

7. [匿名] を選択し、[適用] をクリックします。データは次のように更新されます:

Timestamp	SessionKey	SessionExperience	SessionState	SessionType	SessionStartTime	MachineName
2023-07-01T00:00:00.0000	002337519-8460-4480-8000-1802645640	0	0	0	2023-06-30T17:15:17	CTRITTEUSEPFA01
2023-07-01T00:00:00.0000	0084589-2514-494c-efef-478ba7058f	90	2	0	2023-06-26T10:06:38	CTRITTEUSEPMD11
2023-07-01T00:00:00.0000	00c2a12c-798c-4e0a-8a7f-7f703b1044	0	0	null	2022-02-09T00:00:11.0000000	CTRITTEUSEPMD00
2023-07-01T00:00:00.0000	0180605-5c23-8407-fa8c-2a6090a11514	-1	-2	0	2023-06-26T05:15:22	CTRITTEUSEPMD01
2023-07-01T00:00:00.0000	0180211-6098-4948-9f04-0e6569043114	0	-1	0	2023-06-26T06:48:12	CTRITTEUSEPMD02
2023-07-01T00:00:00.0000	01a4aee4-1459-4189-9c0c-7e74f6202576	0	0	0	2022-02-09T03:13:24.0000000	CTRITTEUSEPMD03
2023-07-01T00:00:00.0000	01a5d278-084-4226-9e9f-1e4a070737a	-1	-2	0	2023-06-26T11:10:19	CTRITTEUSEPMD04
2023-07-01T00:00:00.0000	01a6a43-4b05-4287-8a0c-0c507a98941	51	2	0	2023-06-26T16:23:20	CTRITTEUSEPMD05
2023-07-01T00:00:00.0000	01c0646-15d-4867-eb4b-0b0407454533	0	0	null	2022-02-09T04:51:17.0000000	CTRITTEUSEPMD06
2023-07-01T00:00:00.0000	01d217f5-84c2-4845-9484-0ea239212d57	-1	-2	0	2023-06-26T13:31:59	CTRITTEUSEPMD07
2023-07-01T00:00:00.0000	021a9f79-8ee3-47e8-8a19-ae7c530e94a5	0	-1	0	2023-06-30T05:16:17	CTRITTEUSEPMD08
2023-07-01T00:00:00.0000	021a9f79-8ee3-47e8-8a19-ae7c530e94a5	88	2	0	2023-06-26T13:01:47	CTRITTEUSEPMD09
2023-07-01T00:00:00.0000	0220909e-0128-4079-9a60-70f6c0a9f9e0	-1	-2	0	2023-06-30T16:04:54	CTRITTEUSEPMD10
2023-07-01T00:00:00.0000	0241144-02d3-422c-803f-ef80a300874c	0	0	null	2022-02-10T14:25:58.0000000	CTRITTEUSEPMD11
2023-07-01T00:00:00.0000	028358b-4884-48f6-a830-6760b3108944f4e6d6-a900-4075-0bta-S-	0	0	null	2023-07-01T04:44:40	CTRITTEUSEPMD12
2023-07-01T00:00:00.0000	028618a-494a-474e-8454-1712a6027870	-1	-2	0	2023-06-26T14:15:50	CTRITTEUSEPMD13
2023-07-01T00:00:00.0000	0277c018-eaa4-4344-a037-4e18a3866640	-1	-2	0	2023-06-26T14:15:09	CTRITTEUSEPMD14
2023-07-01T00:00:00.0000	027a9fc-0ca-4163-4f29-1218896c2e9f	0	5	0	2023-06-24T22:39:24.8170000	CTRITTEUSEPMD15
2023-07-01T00:00:00.0000	0286464-609f-411a-a6c5-128678646540	88	2	1	2023-07-01T15:53:04	CTRITTEUSEPMD16
2023-07-01T00:00:00.0000	028c288-5833-8d97-8d92-47930a9c9c2e	0	0	null	2022-02-06T13:29:06:97	CTRITTEUSEPMD17
2023-07-01T00:00:00.0000	02f76bda-9b02-4494-9445-10c0bc7f93a6	0	0	null	2022-02-10T17:20:05:207	CTRITTEUSEPMD18
2023-07-01T00:00:00.0000	02f8e1c1e718-4848-4092-7910bda325b0	-1	-2	0	2023-06-26T13:13:20	CTRITTEUSEPMD19
2023-07-01T00:00:00.0000	030ea8c-118f-471a-8414-09619d0f62a	-1	-2	0	2023-06-26T06:56:34	CTRITTEUSEPMD20
2023-07-01T00:00:00.0000	03184693-cf95-4ef8-ba4c-c935548806c	-1	-2	0	2023-06-26T12:06:36	CTRITTEUSEPMD21
2023-07-01T00:00:00.0000	032f88e-4480-451a-8028-56933a007f0e	-1	-2	0	2023-06-30T00:41:04	CTRITTEUSEPMD22
2023-07-01T00:00:00.0000	032f88e-4480-451a-8028-56933a007f0e	56	2	0	2023-05-30T05:28:47	CTRITTEUSEPMD23
2023-07-01T00:00:00.0000	03513559-924c-4acc-9c4c-85440381a7c5776797f-bf9-4303-a1c2-8-	0	0	null	2023-07-01T11:41:41	CTRITTEUSEPMD24
2023-07-01T00:00:00.0000	03781f78-978c-86e8-8646-3e6366697159	0	0	null	2022-02-10T15:56:40.4000000	CTRITTEUSEPMD25
2023-07-01T00:00:00.0000	03864401-c370-4a48-896c-871d9121278f	0	5	0	2023-06-25T15:23:14	CTRITTEUSEPMD26
2023-07-01T00:00:00.0000	05c9982-1710-4417-9618-4cc2e94623e1	82	2	0	2023-06-20T14:15:58	CTRITTEUSEPMD27

インクリメンタル更新をサポートするように PowerBI を設定

Power Query がデータを取得できる場合は、データソースの増分更新を設定する必要があります。

データソースを右クリックして [増分更新] を選択し、増分更新を有効にするポリシーを設定します：

注：

増分更新をサポートするには、Power BI プレミアムライセンスまたはプロライセンスが必要です。

重要：

- インクリメンタル更新を有効にすると、最初の更新で ODATA API 呼び出しがトリガーされ、すべての履歴データが取得されます。ODATA API はデータを毎日集計するため、アーカイブされたデータには「日数」を使用することが重要です。

- PowerBI ワークスペースのディスク容量を節約するために、データを保存する適切な日数 (たとえば、「7 日間」) を検討してください。

## Power BI クラウドに公開し、定期更新を有効にする

上記の変更が完了したら、Power BI デスクトップの [ ホーム ]-> [ ファイル ]-> [ **Power BI に公開** ] を選択します。データセットとレポートは Power BI クラウドワークスペースに公開されます。

データセットの [ 設定 ] をクリックして、スケジュールされた更新を有効にします:

Settings for cas-odata-api-prod1

[View dataset](#) 

Last refresh succeeded: 7/6/2023, 8:46:29 AM

Next refresh: 7/7/2023, 8:30:00 AM

[Refresh history](#)

### Dataset description

Describe the contents of this dataset.

500 characters left

Apply

Discard

### Gateway connections

### Data source credentials

### Parameters

### Refresh

#### Configure a refresh schedule


Define a data refresh schedule to import data from the data source into the dataset. [Learn more](#)

On

#### Refresh frequency

Daily 

#### Time zone

(UTC+08:00) Beijing, Chongqing, Hor 

#### Time

8  30  AM  

[ データソース認証情報 ] セクションでデータソースへの匿名アクセスを設定し、[ 接続テストをスキップ ] を選択して、次のように [ サインイン ] をクリックします:



# Configure cas-odata-api-prod1

url

Authentication method

Privacy level setting for this data source

Skip test connection

最初のデータセット更新では履歴データが取得されますが、これには時間がかかる場合があります。そして、その後のインクリメンタル更新では、最新日のデータのみが取得されます。この更新は、前のセクションの増分更新ポリシーで設定されているとおりに実行されます。

更新履歴は以下のようになります：



## Refresh history

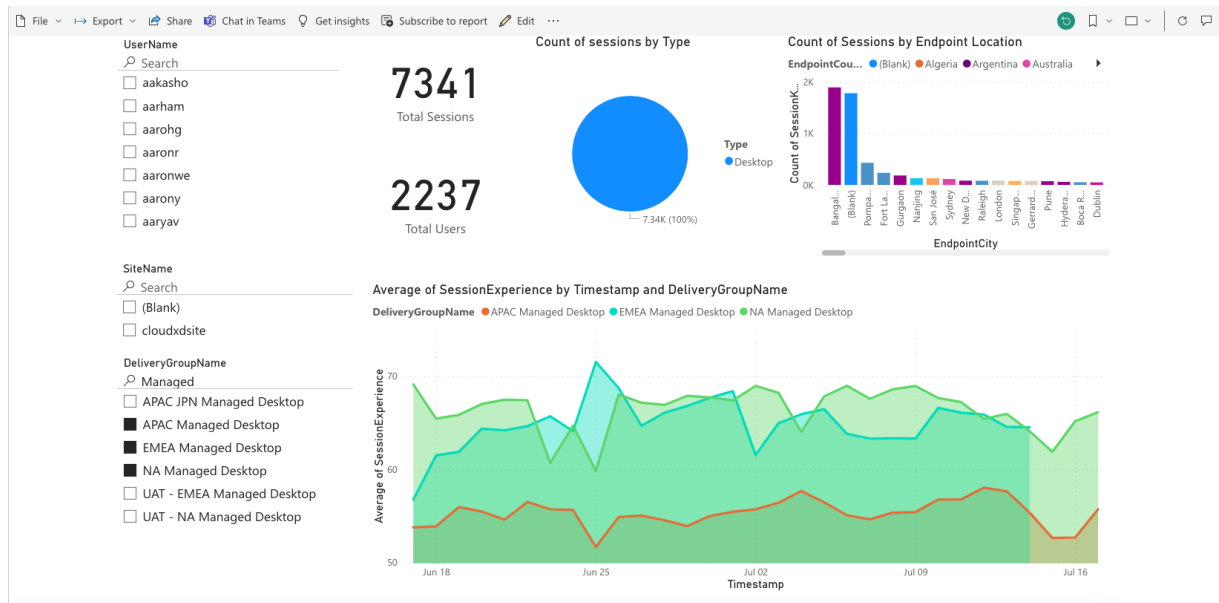


Scheduled OneDrive Direct Lake

Details	Type	Start	End	Status	Message
	Scheduled	7/6/2023, 8:30:20 AM	7/6/2023, 8:46:29 AM	Completed	
	On demand	7/5/2023, 7:17:33 PM	7/5/2023, 7:27:50 PM	Completed	
	On demand	7/5/2023, 2:02:45 PM	7/5/2023, 2:18:37 PM	Completed	
	On demand	7/5/2023, 1:47:08 PM	7/5/2023, 2:02:43 PM	Completed	
	On demand	7/5/2023, 1:31:45 PM	7/5/2023, 1:42:46 PM	Completed	
	On demand	7/5/2023, 1:21:02 PM	7/5/2023, 1:31:43 PM	Completed	
	Scheduled	7/5/2023, 8:30:23 AM	7/5/2023, 8:55:01 AM	Completed	
Show	On demand	7/4/2023, 10:43:01 PM	7/4/2023, 10:43:01 PM	Failed	Scheduled refresh has been disabled

Close

更新が完了すると、データを継続的に Power BI に自動的に取り込むことができます。



## 制限

August 1, 2023

この記事の値は、Citrix Analytics for Performance サービスインスタンスの顧客ごとのテスト済みおよび推奨される制限値です。これらの値は、製品のサイジングとスケーラビリティの評価に役立つように設計されています。こ

これらの制限に対応しない要件がある場合は、Citrix 担当者にお問い合わせください。

#### 構成の制限

---

リソース	上限
デリバリーグループ	1,000
マシン/VDA	100,000
[プロセス使用率のマシン] グループポリシー	10,000
オンプレミス CVAD サイトの数	20

---

#### 使用制限

---

リソース (すべての CVAD サイト間)	上限
同時管理者	8
エンドユーザー (同時)	100,000
同時セッション起動	100,000

---

#### パフォーマンス分析の管理者ロールを管理する

May 9, 2023

フルアクセス権限を持つ Citrix Cloud 管理者は、他のユーザーまたは Azure AActive Directory グループを招待してパフォーマンス分析サービスを管理することができます。ユーザーとグループは、[ID とアクセス管理] > [管理者] を使用して Citrix Cloud の管理者として構成する必要があります。詳しくは、「[ID およびアクセス管理](#)」を参照してください。

次のカスタムロールのいずれかを割り当てることができます。

- パフォーマンス分析-すべての管理者 -パフォーマンス分析の Citrix Cloud 管理者にフルアクセス権限を割り当てます。
- パフォーマンス分析-読み取り専用管理者 -パフォーマンス分析の Citrix Cloud 管理者に読み取り専用アクセス許可を割り当てます。

**Full access**  
Full access allows administrators management control of Citrix Cloud and its services, as well as adding or removing other administrators.

**Custom access**  
Custom access allows you to determine the exact part of Citrix Cloud your administrators can manage.  
ⓘ Switching to custom access will remove management access to certain services.

[Select all](#) | [Deselect All](#)

Analytics | 1 of 5 roles selected

- Performance Analytics - Full Administrator
- Performance Analytics - Read Only Administrator
- Security & Performance Analytics - Read Only Administrator
- Security Analytics - Full Administrator
- Security Analytics - Read Only Administrator

### 注:

- 管理者がユーザーとして設定され、同時にグループにも属している場合、ユーザーとしての権限がグループの権限よりも優先されます。
- ユーザーが複数のグループのメンバーである場合、その権限はユーザーが各グループで持っている権限の合計になります。
- グループに所属する管理者は電子メール ID で識別されません。そのため、アラート通知は届きません。

### カスタムロールの権限

パフォーマンス分析-すべての管理者の役割を持つ管理者は、パフォーマンス分析サービスのすべての機能にアクセスできます。

**Performance Analytics**-読み取り専用管理者の役割を持つ管理者は、すべての管理者と同じように、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードとインフラストラクチャダッシュボードにアクセスして使用できます。ただし、[マシン統計] ページのマシンアクションは、読み取り専用ユーザーに対して無効になっています。読み取り専用アクセス権を持つ管理者は、Citrix Analytics からアラート通知を受信しません。

[セルフサービスビューで許可されるアクションについて詳しくは、「セルフサービス」の記事を参照してください。](#)

### ユーザーエクスペリエンス分析

November 26, 2023

## ユーザーエクスペリエンス分析とは何ですか？

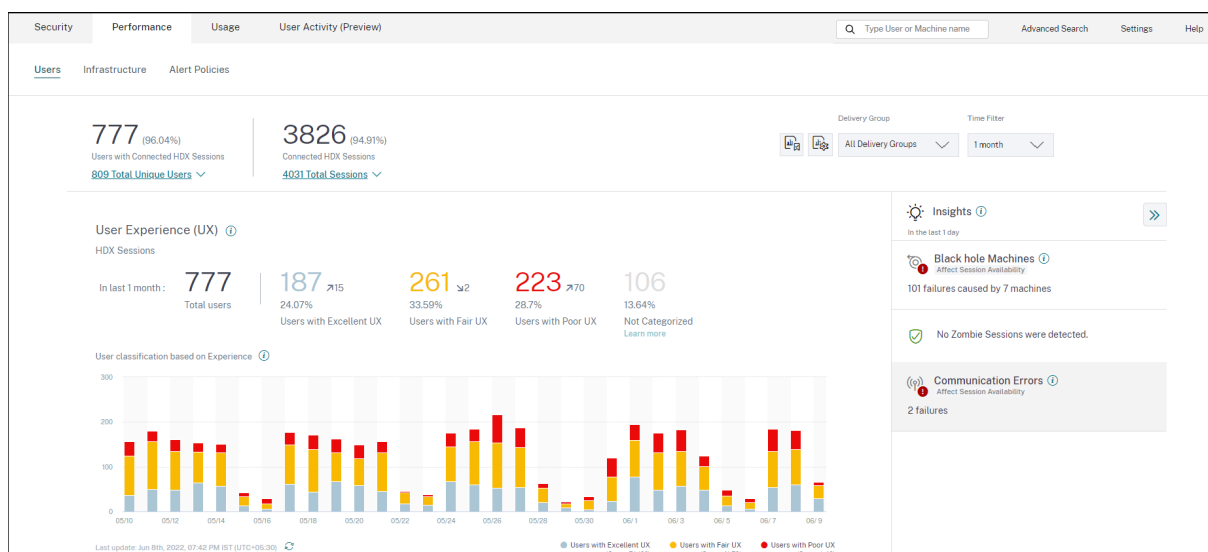
ユーザーエクスペリエンス分析は、環境のユーザーおよびセッションのパフォーマンスパラメーターに関する実用的な洞察を提供します。

- ユーザーエクスペリエンス分析は、単一の統合ダッシュボードで、組織全体のすべてのサイトに対する包括的な分析ソリューションを提供します。
- User Experience Analytics は、パフォーマンスを定義する重要なパラメーター（セッションログオン時間、セッションの応答性、セッションの可用性、セッションの復元性）に基づいてユーザーセッションを分析します。
- パフォーマンスメトリックは、動的しきい値を使用してベースライン化されます。しきい値は、セッションエクスペリエンススコアを測定し、セッションを「優良」、「公正」、「不良」のカテゴリに分類するのに役立ちます。
- ユーザーエクスペリエンス (UX) スコアは、個々のセッションエクスペリエンススコアで計算されます。UX スコアは、サイトにおける完全なユーザーエクスペリエンスを定量化し、ユーザーがエクセレントエクスペリエンス、フェア、またはプアーエクスペリエンスを持つものとして分離できるようにします。
- ドリルダウンビューでは、ファクターとサブファクターにわたるユーザーパフォーマンスの概要がさらに表示され、最適でないエクスペリエンスに直面しているユーザーに対して具体的な実用的なインサイトが提供されます。

## ユーザーエクスペリエンスダッシュボードにアクセスする方法

ユーザーエクスペリエンスダッシュボードを表示するには：

- Citrix Cloud にログインし、クラウド顧客を選択します。
- [分析サービス] タイルで、[管理] をクリックします。
- Analytics 概要ページで、パフォーマンスオフリングの下にある [管理] をクリックします。
- [ユーザー] タブをクリックします。



## ユーザーエクスペリエンスダッシュボードの使用方法

サイト選択は、環境に複数のサイトが存在する場合に使用できます。[時間フィルター] を使用して必要な期間を選択し、必要なデリバリーグループを選択します。ダッシュボードには、ユーザーエクスペリエンスとセッションエクスペリエンスの概要が表示されます。君は得て、

- ユーザーエクスペリエンスに基づいて HDX セッションを実行しているユーザーのユーザー分類。
- 選択した期間のユーザー分類の傾向。
- 選択した期間におけるユーザー・セッションとセッションの失敗のトレンド。
- セッション応答性およびセッションログオン時間の要因に基づくセッション分類。

次のセクションでは、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードのさまざまな要素について説明します。

## ユーザーエクスペリエンススコア

UX スコアは、ユーザーセッションに影響するパフォーマンス要因に基づいて計算される包括的なエンドユーザーエクスペリエンスインデックスです。セッションの起動試行から終了までのセッションライフサイクルを通じて測定されるメトリクスは、UX スコアの計算に貢献します。

- セッションログオン期間は、セッションの起動エクスペリエンスを表します。
- セッション応答性は、セッション内の応答性またはセッション遅延を表します。
- セッション可用性は、ユーザーがセッション接続を確立しようとしたときの成功率を表します。
- セッション復元力は、ユーザーが低迷しているネットワーク経路で接続しているときに Workspace アプリがネットワーク障害からどのように回復するかを示します。再接続率を測定します。

ユーザー分類の UX スコアの計算としきい値調整の詳細については、[UX スコアの記事を参照してください](#)。

データ収集の細分性は、選択した期間に基づきます。ダッシュボードとドリルダウン画面上のすべてのデータは、データ収集の細分性に従ってデータベースから取得およびリフレッシュされます。更新アイコンをクリックすると、データがすぐに更新されます。

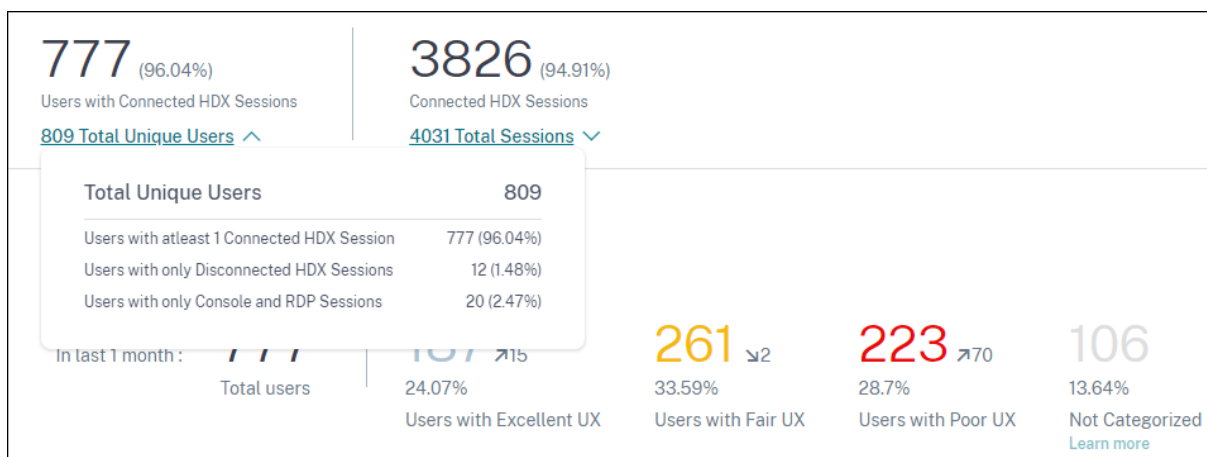
## ユーザーとセッションの分割

ダッシュボードには、セッションプロトコルと接続ステータスに基づいて、仮想アプリケーションおよびデスクトップ環境のユーザーとセッションの分割が表示されるようになりました。

ダッシュボードには、接続されている HDX セッションについてのみパフォーマンス指標が表示されます。選択した期間中にセッションが切断された場合は、そのユーザーが選択した期間全体にわたってアクティブでなかったことを示します。そのため、セッションとユーザーエクスペリエンスのスコアは、切断されたセッションには適用されません。

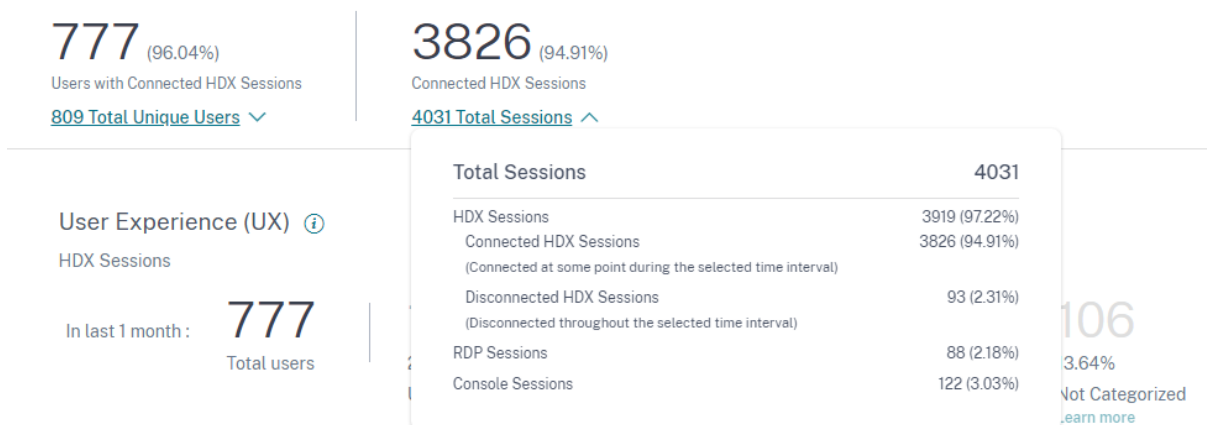
分割では次の指標を使用できます。

- HDX セッションに接続しているユーザーの数と割合
- 接続されている HDX セッションの数と割合
- 分割されたユニークユーザーの総数
- 分割されたセッションの合計数



セッションプロトコルと接続ステータスに基づいて、ユニークユーザーの合計は次のように分類されます。

- 接続された HDX セッションを 1 つ以上持つユーザー：これらのユーザーは、一定期間中のある時点で少なくとも 1 つの HDX セッションが接続状態でした。
- 切断された HDX セッションのみを持つユーザー：これらのユーザーのすべてのセッションは、一定期間中切断されています。
- コンソールと RDP セッションのみを持つユーザー



セッションプロトコルと接続ステータスに基づいて、合計セッションも次のように分類されます。

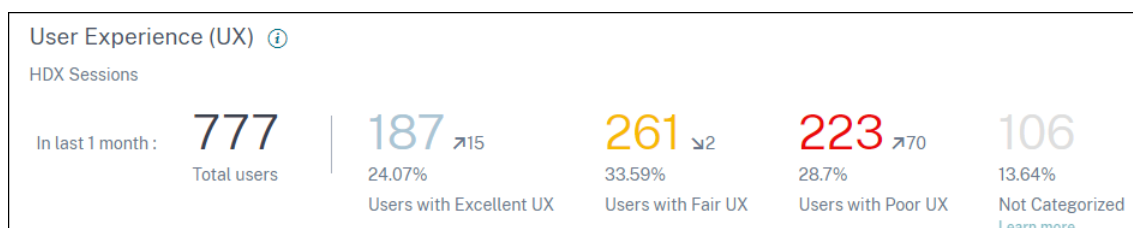
- HDX セッション
  - HDX 接続セッション：時間間隔のある時点で接続状態になっていたセッション。
  - HDX 切断セッション：その期間中に切断状態になっていたセッション。
- RDP セッション

- コンソールセッション

## エクスペリエンスによるユーザー分類

UXスコアに基づいてユーザーの分類を表示するには、次の手順を実行します。

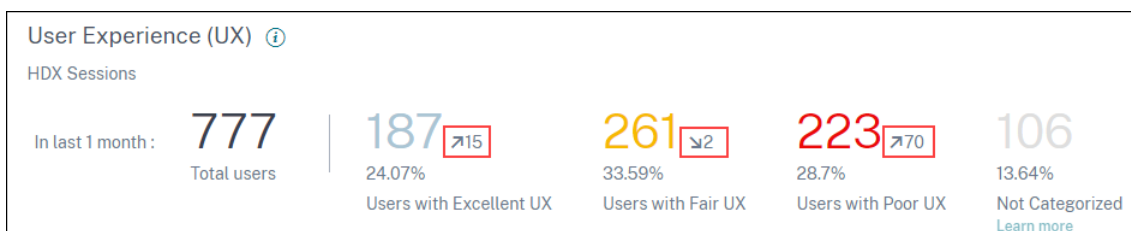
1. [ユーザー] タブで、ユーザーエクスペリエンスを表示する期間を選択します。デフォルトでは、最後の 2 時間 (2H) の期間が選択されています。
2. サイトグループとデリバリーグループを選択します。「すべてのサイト」を選択すると、すべてのサイトで統合されたメトリックが表示されます。



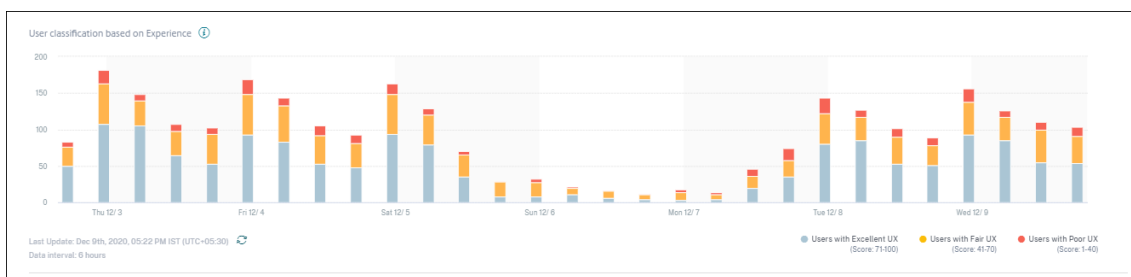
3. 選択した 1 つ以上のサイトおよびデリバリーグループで、選択した期間におけるアクティブユーザーの総数が表示されます。
4. UXスコアに基づく優秀、公正、および貧弱の各カテゴリにわたるユーザーの分布は、数字とパーセンテージで表示されます。ユーザー分類のユーザーエクスペリエンススコアのしきい値は、統計的手法を使用して計算されます。
  - **UX** が優れているユーザー:UXスコアが 71-100 のユーザーを表します。Excellent UX を使用しているユーザーは、すべての要素にわたって一貫して優れたエクスペリエンスを得ました。
  - 公平な **UX** を持つユーザー:UXスコアが 41 ~70 のユーザーを表します。これらのユーザーは、特定の要因で限られた期間、エクスペリエンスが低下していました。
  - **UX** が不十分なユーザー:**UX**スコアが 1 ~40 のユーザーを表します。これらのユーザーは、いくつかの指標にわたって長時間の劣化を示しました。
  - ユーザーが分類されていない: 未分類のユーザーについては、「[未分類の指標](#)」の記事を参照してください。

## ユーザー分類の傾向

1. 上下の矢印は、ユーザー数の傾向を示します。前回の期間と比較して、各カテゴリのユーザー数の増減を示します。たとえば、次のシナリオでは、



- 過去 1 か月間、サイトには合計 777 人のユーザーがログオンしました。
  - このうち、先月、187 人のユーザーが優れたユーザーエクスペリエンスを提供しました。この数は、前月に優れたユーザーエクスペリエンスを提供したユーザー数よりも 15 ユーザー多くなっています。そのため、前月には 172 人のユーザーがいて、優れたユーザーエクスペリエンスが得られました。
  - 先月、261 人のユーザーが公平なユーザーエクスペリエンスを提供しました。この数は、前月に公正な体験をしたユーザーよりも 2 ユーザー少ないです。
  - 先月、223 人のユーザーがユーザーエクスペリエンスが悪かった。153 人のユーザーが前月のエクスペリエンスが悪かった。
- 分類されたユーザー番号をクリックして、それらのユーザーに影響を与える要因をさらにドリルダウンします。詳細については、[ファクタードリルダウンの記事を参照してください](#)。
  - エクスペリエンスの傾向に基づくユーザー分類には、選択した期間中のカテゴリ全体のユーザーの分布が表示されます。バーの色の長さは、エクスペリエンスカテゴリのユーザー数を示します。



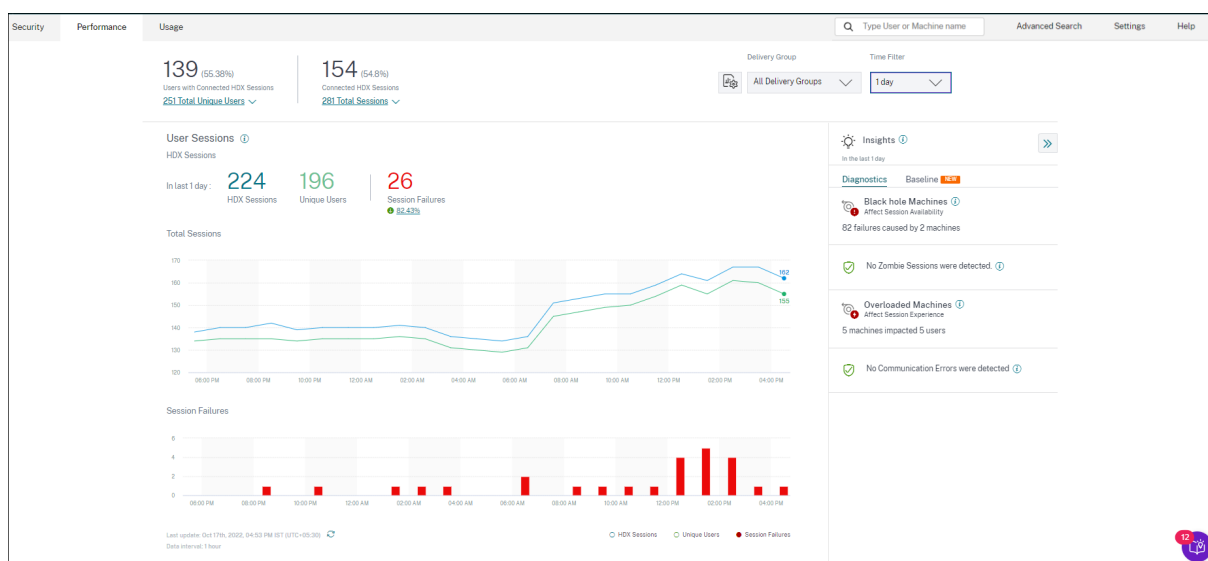
- グラフにカーソルを合わせると、特定のデータ間隔のユーザー分類を含むツールチップが表示されます。バーの「Excellent」、「Fair」、または「Poor」リージョンをクリックすると、バーで表されるデータ間隔の特定のユーザー・セットの分類を示すドリルダウンが表示されます。

## ユーザーセッション

ユーザーセッションは、Workspace アプリからアプリまたはデスクトップを起動したときに作成されます。ユーザーは、ユーザーセッションを通じてアプリまたはデスクトップを操作します。各セッションでのユーザーのエクスペリエンスが、アプリとデスクトップ環境におけるユーザーの全体的なエクスペリエンスに加わります。

[ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードの [ユーザーセッション] セクションには、選択した期間、サイト、およびデリバリーグループにおける HDX セッションの重要なセッションメトリックが表示されます。



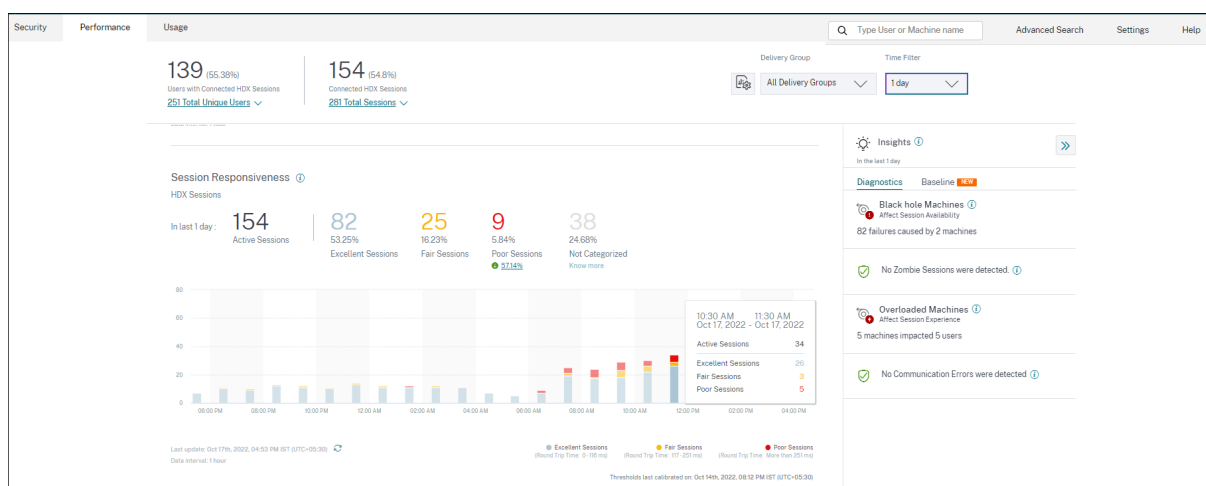


次のユーザーセッションデータを表示できます。

- Total Sessions:** 選択した期間におけるユーザーセッションの合計数。1人のユーザーが複数のユーザーセッションを確立できます。この数には、選択した期間中に起動された、またはアクティブになったすべてのセッションが含まれます。
- ユニークユーザーの合計:** 選択した期間中にセッションを開始したユニークユーザー数、またはアクティブなセッションを持つユニークユーザーの数。
- セッションの失敗:** この期間中に起動に失敗したユーザーセッションの数。失敗数をクリックすると、セッションベースのセルフサービス検索が開きます。グラフにカーソルを合わせると、特定の収集間隔の詳細情報が表示されます。グラフは、障害のパターンと接続されたセッションの総数を比較して識別するのに役立ちます。個別ユーザーの傾向は、サイトおよび選択したデリバリーグループのライセンス使用状況を分析するのに役立ちます。ベースラインからの偏差も表示され、偏差をクリックすると、それぞれのベースラインインサイトが表示されます。インサイトについて詳しくは、[インサイトの記事をご覧ください](#)。
- 障害インサイト:** セッション失敗の原因を把握し、障害が関連付けられている特定のユーザー、セッション、またはマシンにドリルダウンします。また、障害を軽減するための一連の推奨手順も利用できます。詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

## セッションの応答性

セッション応答性は、ICA ラウンドトリップ時間 (ICA RTT) を表します。ICA RTT は、応答時間を定量化するために使用されます。これは、ユーザー入力がサーバーに到達し、応答がエンドポイントマシンに表示されるまでにかかる時間です。セッション中のエクスペリエンスを測定し、仮想アプリまたはデスクトップとの対話中に発生した遅延を定量化します。



「セッションの応答性」セクションには、次の情報が表示されます。

**アクティブセッション:** アクティブセッションとは、現在運用中で、アプリとデスクトップに接続されているユーザーセッションです。

**セッション分類:** セッションは、選択した期間の ICA RTT 測定値に基づいて、優秀、公正、または貧弱に分類されます。分類番号をクリックすると、選択したセッション・セットの「セッション・ベースのセルフ・サービス」検索が表示されます。

分類のしきい値は、現在の顧客について計算され、動的に再調整されます。詳細については、[動的しきい値処理のドキュメント](#)を参照してください。

ベースラインからの偏差も表示され、偏差をクリックすると、それぞれのベースラインインサイトが表示されます。インサイトについて詳しくは、[インサイトの記事](#)をご覧ください。

未分類のセッションについて詳しくは、「[未分類の指標](#)」の記事を参照してください。

### セッション分類の傾向

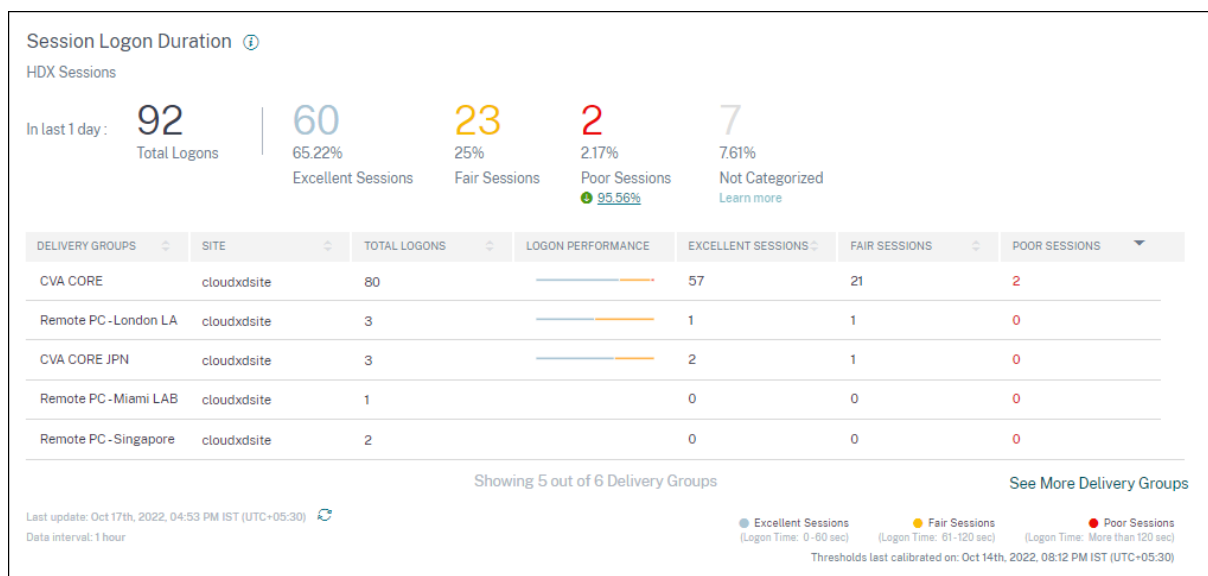
選択したサイトおよびデリバリーグループのセッション分類が、選択した期間にわたってプロットされます。凡例には、グラフのプロットに使用された現在のしきい値と、しきい値の最終更新時刻が表示されます。

セッション応答性に基づくセッション分類の傾向は、ネットワークの問題に直面しているセッションを識別するのに役立ちます。

### セッションログオン期間

ユーザーが Citrix Workspace アプリでアプリケーションまたはデスクトップをクリックした時点から、アプリケーションまたはデスクトップが使用可能になるまでの期間をログオン期間と呼びます。ログオン期間には、複雑な起動シーケンスのさまざまなプロセスにかかる時間が含まれます。合計ログオン時間には、仲介、仮想マシンの起動、HDX 接続、認証、プロファイルのロード、ログオンスクリプト、GPO、シェル起動などのフェーズが含まれます。

セッションログオン期間データを個々のフェーズに分割すると、トラブルシューティングに役立ち、ログオン時間が長くなる原因となる特定のフェーズを特定できます。



このセクションでは、次の情報について説明します。

**ログオン総数:** 選択した期間、サイト、およびデリバリーグループにおける仮想アプリケーションまたはデスクトップへのログオンの合計数。

**セッション分類:** セッションは、選択した期間におけるセッションログオン期間の測定値に基づいて、優良、公正、または不良に分類されます。分類番号をクリックすると、選択したセッション・セットの「セッション・ベースのセルフ・サービス」検索が表示されます。

分類のしきい値は、現在の顧客専用計算に計算され、動的に再調整されます。詳細については、[動的しきい値処理のドキュメントを参照してください](#)。凡例には、グラフのプロットに使用された現在のしきい値と、しきい値の最終更新時刻が表示されます。

ベースラインからの偏差も表示され、偏差をクリックすると、それぞれのベースラインインサイトが表示されます。インサイトについて詳しくは、[インサイトの記事をご覧ください](#)。

#### ログオン期間に分類されないセッション

セッションログオン時間のサブファクタで説明されているように、サブファクタが測定されるように構成されていない場合、**セッションは [ログオン期間]** で分類されないことがあります。

#### デリバリーグループでソートされたセッションログオン期間

セッションログオン期間データは、次の情報とともに表形式で表示されます。

- デリバリーグループと対応するサイト。
- パフォーマンスインジケータ（優良、公平、または不良）に基づくセッション分布グラフ。

- セッションの合計数。
- エクセレントセッション、フェアセッション、プアーセッションの数。

デフォルトでは、テーブルデータは [ **Poor Sessions** ] 列に基づいてソートされます。他の列に基づいて並べ替えるように選択できます。並べ替え基準に基づく最初の 5 つのデリバリーグループが表示されます。[その他のデリバリーグループを表示] をクリックすると、さらに多くのデータが表示されます。

この表は、セッションの劣化数が最大であるデリバリーグループを識別するのに役立ちます。さらにトラブルシューティングを行うことで、特定のデリバリーグループでのログオン時間が長くなるポリシーを特定できます。

## 近似モード

データサンプリングモードは、Citrix Analytics for Performance のユーザーエクスペリエンスダッシュボードで利用でき、ダッシュボードのメトリックをより速く読み込むことができます。このモードは、過去 30 日間にアクティブユニークユーザーが 25,000 人を超えるテナントで利用できます。

使用可能なデータサンプリングモードは次のとおりです。

- **高速応答モード:** このモードでは、データセットのサンプリングを使用して、すべての期間のパフォーマンスメトリクスを取得します。これにより、特に多数のユーザーがいるテナントで、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードにメトリクスをより速く読み込むことができます。メトリクスは、[Higher Precision] モードで使用できる数値から約 1% ずれています。  
Faster Response はデフォルトのサンプリングモードです。大規模テナントのページが更新されると、ダッシュボードはこのモードにリセットされます。
- **Higher Precision Mode:** このモードでは、完全なデータセットを使用してパフォーマンスメトリックに到達します。このモードを選択すると、ダッシュボードの読み込みが遅くなる場合があります。このモードを選

択すると、選択した正確な期間のより正確なメトリクスを表示できます。

データサンプリングモード機能は、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードにのみ適用されます。中級ドリルダウンページとセルフサービスページは、引き続き高速応答モードで動作します。

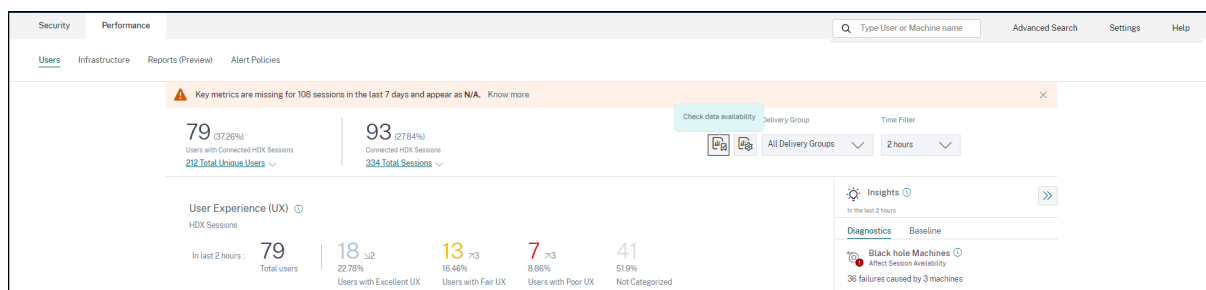
## データアベイラビリティ

パフォーマンス分析の精度は、エンドポイント、マシン、ゲートウェイ、Delivery Controller などのさまざまなサイトインフラストラクチャから収集されたデータに依存します。必要な指標を十分に活用することで、Performance Analytics によって提供されるデータや洞察が、サイトの実際のパフォーマンスを正確に表していることを確認できます。

データ可用性機能は、エンドポイントのパフォーマンスを監視するのに必要なデータがないセッションを特定するのに役立ちます。エンドポイント固有の問題を分析するために重要な、エンドポイントのリンク速度、ロケーション、スループット、ISP、ネットワークインターフェースタイプ、OS、エンドポイントのレシーバーバージョンなどのエンドポイントメトリクス。

エンドポイントメトリックでは、StoreFront が正しくオンボーディングされ、エンドポイントにインストールされている Citrix Workspace アプリのバージョンが正しい必要があります。Citrix Analytics for Performance を開くと、過去 7 日間にエンドポイントメトリックがないすべてのオンボードサイトのセッション数が表示されます。Citrix Workspace を使用している場合、サービスは自動的に検出され、オンボーディングは不要です。

「もっと知る」をクリックします。理由の詳細と、問題を解決するために実行できるアクションを含むモーダルボックスが表示されます。データ可用性アイコンをクリックしてモーダルを表示することもできます。



詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

- エンドポイントテレメトリが欠落する主な理由の 1 つは、StoreFront のオンボーディングです。StoreFront を正しくオンボーディングし、データ処理を有効にし、適切な URL をホワイトリストに登録する必要があります。**StoreFront** データソースを確認すると、[データソース] ページが表示されます。このページでは、Workspace アプリのデータ収集に必要な StoreFront のオンボーディングプロセスを順を追って説明します。[エンドポイントデータが不足しているセッション] をクリックすると、StoreFront Onboarding が正しくない、または存在しないためにエンドポイントメトリックが欠落しているセッションのリストを含むセッションセルフサービスビューが開きます。Citrix Workspace を使用している場合、サービスは自動的に検出され、オンボーディングは不要です。

- エンドポイントテレメトリは、サポートされていない OS プラットフォームまたは互換性のない Citrix Workspace アプリバージョンを実行しているエンドポイントから起動されたセッションでは使用できません。「セッション欠落エンドポイントデータ」をクリックすると、セッションセルフサービスビューが開き、特定の理由によりエンドポイントテレメトリが欠落しているセッションのリストが表示されます。詳細については、各機能、OS バージョン、およびサポートされている必須の Workspace アプリバージョンを一覧表示するバージョンマトリックスを参照してください。

## ユーザーエクスペリエンススコア

September 21, 2023

ユーザーエクスペリエンスとは何を表していますか

ユーザーエクスペリエンスは、アプリとデスクトップの使用中にユーザーが確立したセッションの品質を包括的に測定したものです。ユーザーエクスペリエンス (UX) スコアは、ユーザーエクスペリエンスの質を示します。UX スコアは、ユーザーセッションの品質を定義するパフォーマンス係数を使用して計算されます。ファクターメトリクスは、一定期間にわたって統計的手法を使用して分析および処理され、100 点満点のスコアに到達します。このスコアは、アプリとデスクトップの使用中にユーザーが実際に体験したことを定量的に反映したものです。

パフォーマンス係数メトリクスは、セッションの起動からセッション終了までのライフサイクル全体にわたるセッションのエクスペリエンスを表します。

- セッションログオン時間の係数は、セッションの起動エクスペリエンスを表します。
- セッション応答性係数は、セッション中の応答性または低速度を表します。
- セッション可用性は、ユーザーがセッション接続を確立しようとしたときの成功率を表します。
- **Session Resilience** は、ユーザーが低速なネットワークで接続しているときの再接続率を測定します。

パフォーマンス要因はさらにサブファクター/タイプに分類されます。たとえば、[セッションログオン期間] は、GPO、対話型セッション、プロファイルの読み込みなど、ログオン中に発生する個々のフェーズを使用して計算されます。ファクターとサブファクターのしきい値は、ユーザーとセッションを「優秀」、「普通」、または「不良」に分類するように調整されます。

UX スコアは、次のカテゴリにベンチマークされます。

- 優秀: UX スコア 71-100
- 公正: 41-70 の UX スコア
- 悪い: UX スコアが 1~40

## 動的しきい値はどのように計算されますか

動的しきい値の概念は、セッションログオン時間、セッション応答係数、およびそれらのサブファクターを顧客ごとに個別にベンチマークするために使用されます。統計的手法を使用して、ユーザを「優良」、「公正」、または「不良」に分類するしきい値を定期的に計算します。

- ファクターとサブファクターのしきい値の計算は、顧客ごとに行われます。この計算方法により、各顧客の特定の構成と許容される動作範囲が確実に満たされます。
- しきい値は、過去 30 日間に収集されたメトリクスに基づいて顧客ごとに計算されます。
- マシンの再構成やネットワークのアップグレードなど、環境の変化を反映するために、しきい値は 7 日ごとに再調整されます。再較正されたしきい値は、因子測定の結果として生じる変化を表します。



この例では、チャートの凡例には、セッション応答性の動的しきい値が次のように示されています。

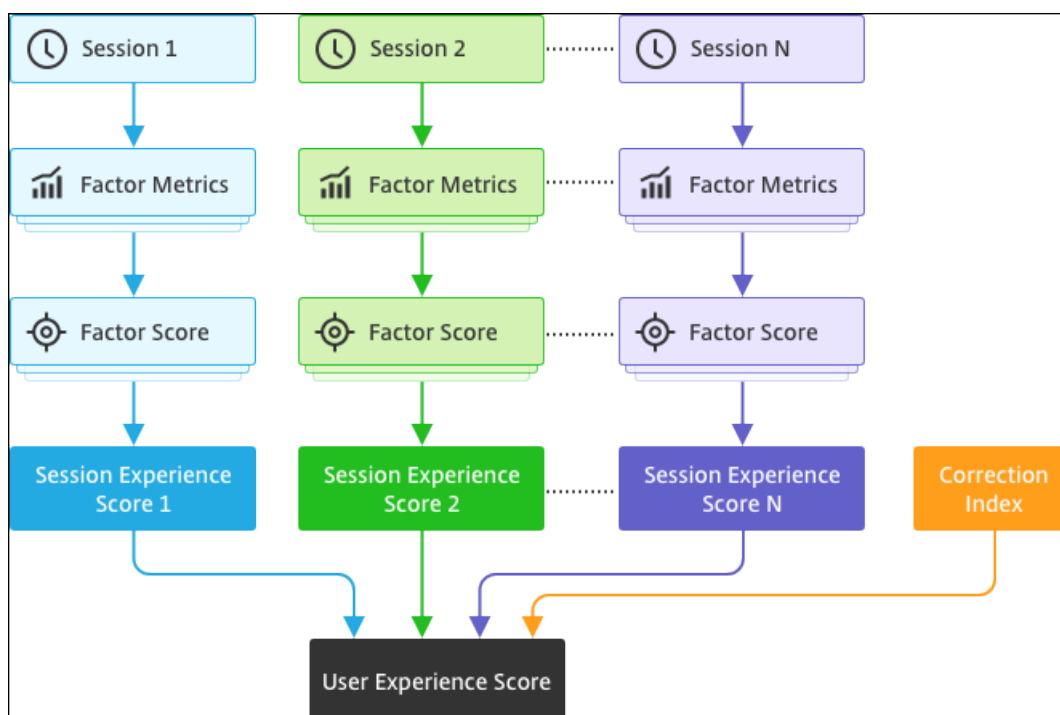
- 優秀なセッション-0 ~100 ミリ秒
- 公平なセッション-101~300 ミリ秒
- セッション不良-300 ミリ秒を超える

前回のしきい値更新のタイムスタンプは、グラフの凡例の下に表示されます。グラフは、最新のしきい値に基づいて再プロットされます。

動的しきい値により、セッションとユーザーの分類が、正確に分析されている環境を反映していることが保証されます。お客様の環境で経験が乏しいユーザは、さらなるトラブルシューティングのために正確に強調表示されます。

## UX スコアはどのように計算されますか

ユーザーエクスペリエンススコアは、ボトムアップアプローチを使用して寄与要因スコアから計算されます。



#### 1. ベンチマーク要因:

セッションごとに、セッションログオン時間とセッション応答性の係数とそのサブファクターが7日に1回動的に調整されます。これらのしきい値に基づいて、セッションは「優秀」、「公正」、または「不良」に分類されます。

測定値は、各セッションの因子スコア (100 点中) に到達するために使用されます。

#### 2. 因子の相対的な重み:

これらの要因がユーザーエクスペリエンスに影響を与える重大度は異なる場合があります。たとえば、セッションの復元力がセッションエクスペリエンスに与える影響は、セッションログオン期間の影響よりも大きくなります。したがって、各因子には相対的な重みが適用されます。

#### 3. セッション体験スコア:

セッションエクスペリエンススコアは、選択した期間に適用可能なさまざまなファクタースコアの加重平均として計算されます。

次に、ユーザーに適用可能な個々のセッションのセッションエクスペリエンススコアが照合されます。

#### 4. 補正係数:

セッションアベイラビリティ係数は、セッション接続が試行されたときの成功率を示します。この要因の影響はユーザーレベルであり、セッションレベルではありません。したがって、セッションアベイラビリティスコアは、個々のセッションスコアの合計に対する補正係数として適用され、ユーザーエクスペリエンス (UX) スコアに到達します。

UX スコアは、ユーザーエクスペリエンスに関する実用的なインサイトを提供します。ユーザーエクスペリエンス



コアが低いユーザーのメトリックをさらに掘り下げると、エクスペリエンスの低下を引き起こしている特定の要因またはサブファクターを特定できます。

## ユーザーエクスペリエンス (UX) の要因

February 14, 2024

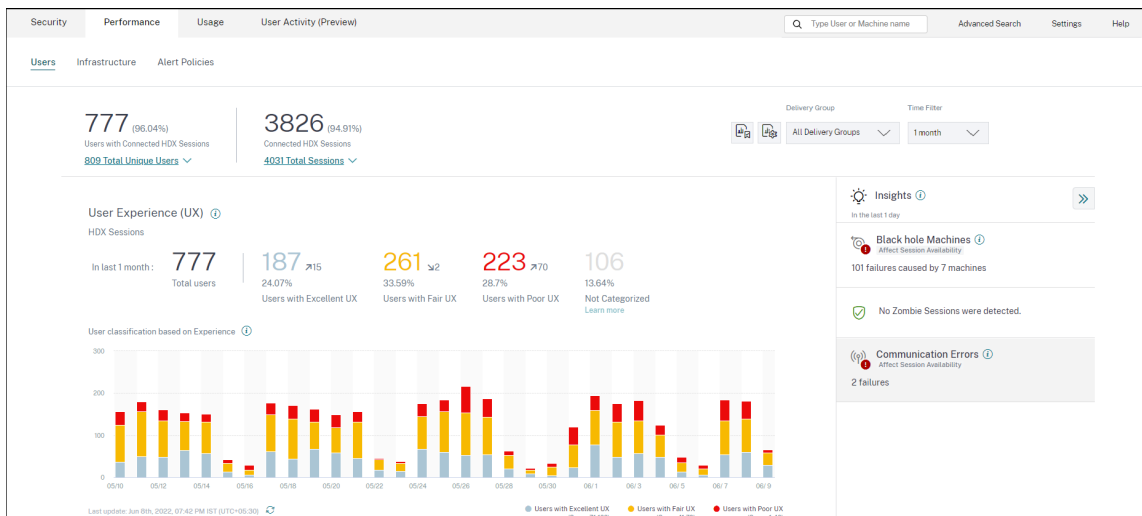
UX ファクターページには、UX ダッシュボードで選択したユーザーのファクターレベルとサブファクターレベルのエクスペリエンスに関するインサイトが表示されます。

UX ダッシュボードの「優れている」、「普通」、「悪い」カテゴリのいずれかをクリックして、「UX 要因」ページを開きます。ファクター指標とサブファクター指標がユーザーエクスペリエンスに与える影響を定量化します。このページでは、選択したユーザーのセットを、セッションの可用性、セッションの応答性、セッションの復元性、およびセッションログオン期間などの要素に関する経験に基づいて分類します。さらに、選択されたユーザーは、これらの要因内のサブファクターに関する経験に基づいて分類されます。このドリルダウンにより、環境内のユーザーのエクスペリエンスの低下の原因となる実際のサブファクターを特定できます。

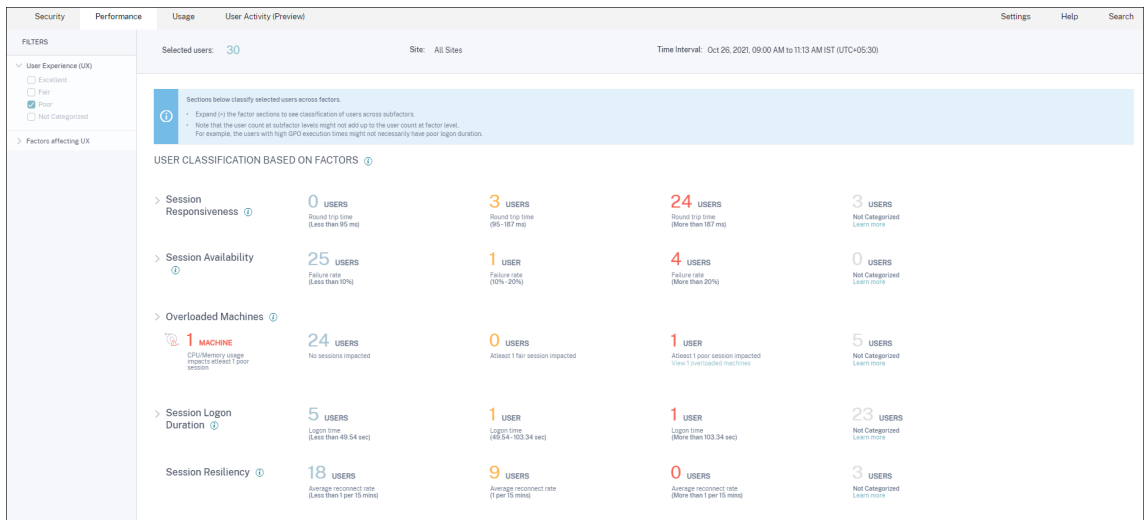
## ユーザーエクスペリエンス (UX) 要素ページの使用方法

ユーザーエクスペリエンスに影響するファクター指標を詳しく調べるには、UX ダッシュボードの「優れている」、「普通」、「悪い」カテゴリのいずれかをクリックします。

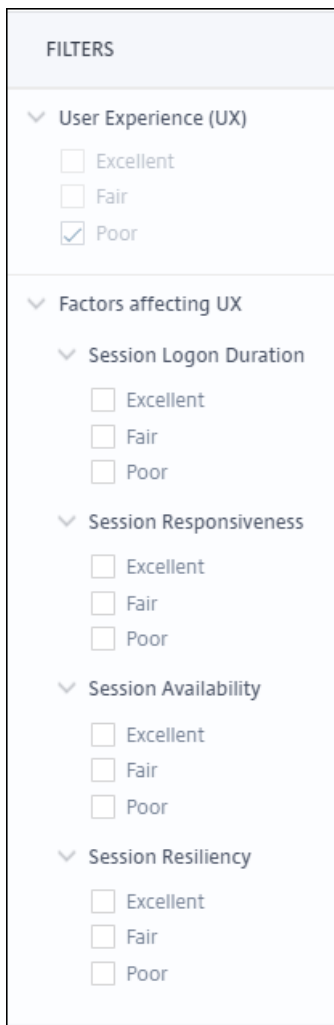
- この環境では、過去 2 時間に 21 人のユーザーが優れたエクスペリエンスを持ち、39 人のユーザーが公平で、30 人のユーザーがエクスペリエンスが低いというシナリオを考えてみましょう。30 人のユーザーがユーザーエクスペリエンスの低下に直面している理由を理解するには、[User Experience] ダッシュボードで 30 という数字をクリックします。



2. [ユーザーエクスペリエンス (UX) の要因] 画面には、過去 2 時間におけるすべてのサイトのユーザーエクスペリエンスの低下に影響する要因のドリルダウンが表示されます。



3. 左側のパネルには、ユーザーエクスペリエンスと要因の選択フィルターが表示されます。



「選択したユーザー」番号をクリックして、特定のユーザーセットの「セルフサービス検索」ページにアクセスします。

- UX ファクターページのセクションでは、選択したユーザーを、セッションの可用性、セッションの応答性、セッションの回復力、セッションログオン時間、および過負荷のマシンなどの要素に基づいてさらに分類します。各ファクターセクションを展開 (> をクリック) して、それぞれのサブファクターのエクスペリエンスに基づくユーザー分類を表示します。ファクターは、ファクターの経験が低いユーザーの数に基づいてソートされます。
- 全体的なユーザーエクスペリエンス分類は、因子レベルのユーザー数と一致しない場合があります。また、1 つ以上の要素にわたるエクスペリエンスの低下は、必ずしも全体的なユーザーエクスペリエンスの低下を意味するとは限りません。
- 同様に、個々のサブファクターレベルのユーザーカウントは、ファクターレベルのユーザー数に加算されない場合があります。たとえば、GPO が高いユーザーは、他のサブファクターでのユーザーエクスペリエンスが優れているため、必ずしもログオン操作が悪いとは限りません。
- ファクターレベルとサブファクターレベルでのユーザーの分類は、全体的なユーザーエクスペリエンスの低下の正確な原因を特定し、トラブルシューティングするのに役立ちます。
- 未分類のユーザーについては、「[未分類の指標](#)」の記事を参照してください。

## セッションログオン期間

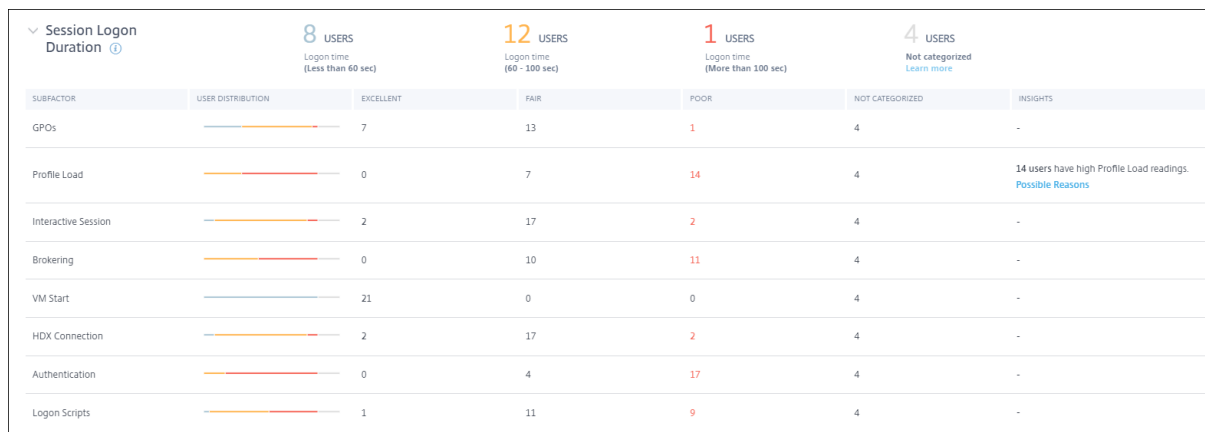
セッションログオン期間は、セッションの起動にかかった時間です。これは、ユーザーが Citrix Workspace アプリから接続した時点から、アプリまたはデスクトップが使用できる状態になるまでの期間として測定されます。このセクションでは、セッションログオン時間の測定値に基づいてユーザーを分類します。エクスペリエンスを「優良」、「公平」、「不良」に分類するためのログオン期間のしきい値は、動的に計算されます。セッションログオン期間の動的しきい値の詳細については、「[動的しきい値](#)」の項を参照してください。

SUBFACTOR	USER DISTRIBUTION	8 USERS Login time (Less than 60 sec)		12 USERS Login time (60 - 100 sec)		1 USERS Login time (More than 100 sec)		4 USERS Not categorized <a href="#">Learn more</a>	
		EXCELLENT	FAIR	POOR	NOT CATEGORIZED	INSIGHTS			
GPOs		7	13	1	4	-			
Profile Load		0	7	14	4	14 users have high Profile Load readings. <a href="#">Possible Reasons</a>			
Interactive Session		2	17	2	4	-			
Brokering		0	10	11	4	-			
VM Start		21	0	0	4	-			
HDX Connection		2	17	2	4	-			
Authentication		0	4	17	4	-			
Logon Scripts		1	11	9	4	-			

、選択したユーザー・セットの実際のパフォーマンス係数の測定値を表示する「セルフ・サービス」画面が表示されます。

セッションログオン時間は、複雑な起動シーケンスの個々のフェーズを表すサブファクタに分割されます。セッションログオン期間ドリルダウン・テーブルの各行は、セッションの起動中に発生する個々のフェーズのユーザー分類を

表します。これは、特定のユーザーログオン問題のトラブルシューティングと特定に役立ちます。



各サブファクターエクスペリエンスに関連する「優秀」、「公正」、「不良」カテゴリのユーザー数が表示されます。この情報を使用して、ログオン期間の延長に寄与している可能性のある特定のサブファクタフェーズを分析します。

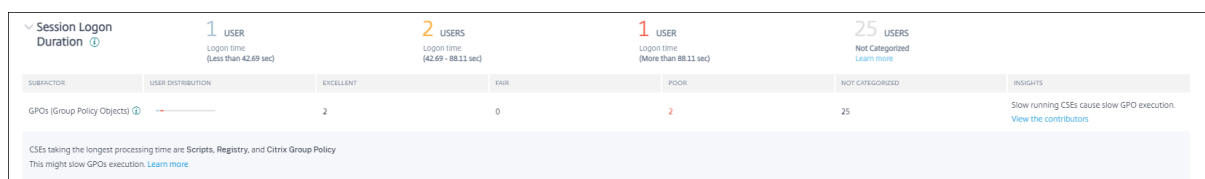
たとえば、GPO でエクスペリエンスの低下に直面しているユーザー数が最も多い場合は、これらのユーザーに適用可能な GPO ポリシーを確認して、ログオン時間のエクスペリエンスを向上させます。

最後の [未分類] 列には、選択した期間に特定のサブファクター測定を使用できないユーザーの数が表示されます。具体的な理由は、個々のサブファクタの説明で詳しく説明されています。

## GPO

GPO は、ログオン中にグループポリシーオブジェクトを適用するのにかかる時間です。GPO の測定は、仮想マシンでグループポリシー設定が構成され、有効になっている場合にのみ使用できます。

**GPO Insights** には、選択した期間中に処理時間が最も長い環境内のクライアント側拡張機能が表示されます。インサイトを表示するには、[セッションログオン期間] サブファクタテーブルの **[GPO]** の **[\*\* インサイト]** 列にある [寄稿者の表示 \*\*] リンクをクリックします。GPO Insights は、GPO の実行経験が低いユーザーセッションの分析に基づいています。



クライアント側拡張 (CSE) は、クライアントコンピュータにグループポリシーを実装するダイナミックリンクライブラリ (DLL) です。処理時間が長い CSE は GPO の実行時間を長くし、CSE 処理を最適化すると、ユーザーの全体的なセッションログオンエクスペリエンスが向上します。

CSE の平均実行時間は、CSE に適用されるポリシーの数とタイプによって異なります。CSE の処理時間を改善するには、次のポイントを使用します。

- **フォルダリダイレクト:** CSE の実行時間は、リダイレクトされるフォルダの数と各フォルダの内容によって異なります。システムは、フォルダーのリダイレクトのたびに適用される待機を構成できます。フォルダーの数を最適化して、CSE の実行時間を短縮します。
- **ドライブマッピング:** ログオンスクリプトは、存在しないターゲットサーバーにドライブをマップしようとするため、実行時間が長くなります。サーバーのアドレスが正しく、使用可能であることを確認します。

GPO インサイトに示されているように、処理時間が最も長い CSE に関連付けられたポリシーを確認および調整します。さらに、不要なものは削除することを検討してください。

### プロファイルのロード

プロファイルのロードは、ログオン期間の最も重要なフェーズの 1 つです。これは、レジストリハイブ (NTUser.dat) とユーザーファイルなど、ユーザーのプロファイルをロードするのにかかる時間です。プロファイルの読み込み時間を最適化すると、全体的なログオン時間のエクスペリエンスを向上させることができます。

プロファイル負荷測定は、仮想マシン上のユーザーに対してプロファイル設定が構成されている場合にのみ使用できます。

**[Profile Load]** の **[Insights]** 列には、プロファイルのロード時間が長くなる要因であるプロファイルサイズに関するインサイトが表示されます。これは、大きなプロファイルサイズの影響を受ける可能性が高いユーザーを識別します。



[ 関連の表示 ] リンクをクリックして、ユーザーの平均プロファイルサイズを確認します。平均プロファイルサイズは、過去 30 日間に優れた公平なプロファイル読み込み経験を持つユーザーのプロファイルサイズを使用して計算されます。このプロファイルサイズは、最適であると識別されます。プロファイルサイズが平均より大きいユーザーは、プロファイルのロード時間が短くなる可能性があります。

[ 分析の表示 (View analysis) ] をクリックして、プロファイルサイズが平均より大きいユーザーのリストを表示します。このビューには、各ユーザーの最新の既知のプロファイルサイズと平均プロファイルサイズが表示されます。ファセットを使用してこのデータをさらにフィルター処理し、プロファイルサイズが大きく、ログオン時間が低いユーザーを表示します。

ユーザーの詳細を展開して特定のパフォーマンスメトリックを表示し、エクスペリエンスが低下した理由をさらにトラブルシューティングします。

これらのインサイトを使用して、プロファイル内の大きなファイルを減らすようユーザーに推奨します。

プロファイルサイズの測定値または平均プロファイルサイズが使用できない場合、インサイトは表示されません。

- プロファイルサイズを測定するには、マシンに Citrix Profile Management がインストールされている必要があります。
- プロファイルサイズの測定は、マシンバージョン 1912 以降でサポートされています。
- 過去 30 日間に公平で優れたプロファイル読み込み経験を持つユーザーのプロファイルサイズの測定値を使用して、平均プロファイルサイズを計算します。この期間に使用できるデータポイントがない場合、インサイトは導出されません。
- プロファイル負荷インサイトは、プロファイルサイズがプロファイルの読み込みが遅い原因である場合に導出されます。プロファイルに複数のプロファイルファイルが存在すると、プロファイルの読み込みが遅くなることもあります。

#### 対話型セッション

ユーザープロファイルが読み込まれた後、キーボードとマウスのコントロールをユーザーに「引き渡す」のにかかった時間。通常、ログオンプロセスのすべてのフェーズで最も長い期間です。

#### 仲介

ユーザーに割り当てるデスクトップを決定するのににかかった時間。

#### 仮想マシンの起動

セッションでマシンの起動が必要な場合、これは仮想マシンの起動にかかった時間です。この測定は、電源管理されていないマシンでは使用できません。

#### HDX コネクション

エンドポイントから仮想マシンへの HDX 接続の設定に必要な手順を完了するのににかかった時間。

#### 認証

リモートセッションへの認証を完了するのににかかった時間。

#### ログオンスクリプト

ログオンスクリプトの実行にかかった時間です。この測定値は、セッションにログオンスクリプトが構成されている場合にのみ使用できます。

## セッションの応答性

セッションが確立されると、セッション応答性係数は、アプリまたはデスクトップの操作中にユーザーが経験する画面の遅延を測定します。セッションの応答性は、ICA ラウンドトリップ時間（ICA RTT）を使用して測定されます。ICA ラウンドトリップ時間（ICA RTT）は、ユーザーがキーを押してからグラフィカルな応答が表示されるまでの経過時間を表します。

ICA RTT は、サーバーとエンドポイントマシンのネットワークにおけるトラフィック遅延の合計と、アプリケーションの起動にかかった時間として測定されます。ICA RTT は、実際のユーザーエクスペリエンスの概要を示す重要な指標です。

エクスペリエンスを「優良」、「公平」、「不良」に分類するためのセッション応答性のしきい値は、動的に計算されます。セッション応答性の動的しきい値の詳細については、「[動的しきい値](#)」の項を参照してください。

SUBFACTOR	USER DISTRIBUTION	Session Responsiveness			
		EXCELLENT	FAIR	POOR	NOT CATEGORIZED
Data Center Latency		0	18	3	4
WAN Latency		0	21	0	4
Host Delay		0	8	13	4

セッション応答性ドリルダウンは、セッションの ICA RTT 測定値に基づくユーザーの分類を表します。これらの数値をクリックすると、そのカテゴリのメトリックにドリルダウンします。セッション応答性に優れたユーザーは反応性の高いセッションを持っていましたが、セッションの応答性が低いユーザーはセッションの遅れに直面しました。

### 注:

ICA RTT の測定値はアプリとデスクトップから取得されますが、サブファクターの測定値はオンプレミスの Citrix Gateway から取得されます。したがって、サブファクター値は、ユーザーが構成済みのオンプレミスの Citrix Gateway を介してアプリまたはデスクトップに接続している場合のみ使用できます。パフォーマンスのために Citrix Analytics で NetScaler Gateway を構成する手順については、「[Gateway データソース](#)」を参照してください。さらに、L7 遅延しきい値を設定する必要があります。詳細については、「[L7 レイテンシーしきい値処理](#)」を参照してください。

さらに、これらの測定値はセッションでも使用できますが、

- NSAP が有効なマシンから起動
- 新しい CGP (Common Gateway Protocol) セッション、および再接続されたセッションではありません。

これらの測定値は、ユーザーが NetScaler Gateway サービスを介して接続している場合は使用できません。

セッション応答性ドリルダウンテーブルの行は、サブファクター測定におけるユーザー分類を表します。各サブファクターについて、各カテゴリのユーザー数が [優秀]、[公平]、および [不良] 列に表示されます。この情報は、ユーザーエクスペリエンスの低下の一因となっている特定のサブファクターを分析するのに役立ちます。

たとえば、Data Center Latency で記録された Poor Users の最大数は、サーバー側のネットワークに問題があることを示しています。

最後の [未分類] 列には、選択した期間中に特定のサブファクタ測定を使用できないユーザーの数が表示されます。

次のサブファクタは、セッションの応答性に寄与します。ただし、レイヤ 4 までの ICA RTT のサブファクタのみが測定可能であるため、ICA RTT の合計はサブファクタメトリックの合計ではありません。

- **データセンターの遅延:** このサブファクタは、NetScaler Gateway からサーバーまでの遅延を測定したものです。Data Center Latency が高い場合は、サーバーネットワークの速度が遅いために遅延が発生していることを示します。
- **WAN 遅延:** このサブファクタは、仮想マシンからゲートウェイまでのレイテンシーを測定したものです。WAN レイテンシーが高い場合は、エンドポイントマシンネットワークの動作が遅いことを示します。WAN 遅延は、ユーザがゲートウェイから地理的に離れているときに増加します。
- **ホスト遅延:** このサブファクタは、サーバ OS による遅延を測定します。ICA RTT が高く、データセンターと WAN のレイテンシーが低く、ホストレイテンシーが高い場合は、ホストサーバー上のアプリケーションエラーを示します。

サブファクターのいずれかで経験不足に直面しているユーザーの数が多いと、問題の場所を理解するのに役立ちます。レイヤ 4 遅延測定を使用して、この問題をさらにトラブルシューティングできます。これらの遅延メトリックは、パケット損失、順不同パケット、重複確認応答、または再送信を考慮しません。このような場合、レイテンシーは増加する可能性があります。

ICA RTT の計算について詳しくは、「[NetScaler Insight での ICA RTT の計算方法](#)」を参照してください。

NetScaler Gateway のオンボーディングについて詳しくは、「[Gateway データソース](#)」を参照してください。

## セッション可用性

セッションの可用性は、失敗率に基づいて計算されます。試行されたセッション接続の合計数に対する、失敗したセッション接続の割合です。

セッション可用性エクスペリエンスは、セッション失敗率に基づいて次のように分類されます。

**優秀:** 故障率は 10% 未満です。優れたセッション可用性係数は、ユーザーがアプリまたはデスクトップに正常に接続して使用できることを示します。

**公正:** 故障率は 10 ~20% です。

**悪い:** 故障率が 20% を超える。セッションの可用性の経験が低いユーザーの多くは、セッションを接続して使用できないことを示しています。

セッションの起動に失敗すると、ユーザーの生産性が低下するため、全体的なユーザーエクスペリエンスを定量化する重要な要素になります。



FAILURE TYPE	NUMBER OF USERS	NUMBER OF FAILURES
Machine Failure	9	10
Client Connection Error	12	13
Unavailable Capacity	3	3
Configuration Error	3	3
License Unavailable	5	5

セッション画面の保持ドリルダウン表の行には、ユーザー数および各カテゴリの障害数に分類された障害タイプが表示されます。リストされた障害の種類を使用して、障害をさらにトラブルシューティングします。

特定された障害タイプで考えられる理由について詳しくは、「[Citrix Director 障害の理由とトラブルシューティング](#)」を参照してください。

文書。

## セッションレジリエンス

セッション復元力は、ネットワークの中断から回復するために Citrix Workspace アプリが自動再接続した回数を示します。自動再接続は、ネットワーク接続が中断されたときにセッションをアクティブに保ちます。ユーザーは、接続が回復するまでセッション画面を見ることができます。優れたセッション復元係数は、スムーズなユーザーエクスペリエンスと、ネットワークの中断による再接続の数が少ないことを示します。

自動再接続は、[セッション画面の保持] ポリシーまたは [クライアントの自動再接続] ポリシーが有効な場合に実行されます。エンドポイントでネットワークの中断が発生すると、次の自動再接続ポリシーが有効になります。

- セッション画面の保持ポリシーは、Citrix Workspace アプリがマシンへの接続を試行する場所で有効になります（デフォルトでは3分後）。
- クライアントの自動再接続ポリシーは、エンドポイントがマシンへの接続を試行する3～5分の間に有効になります。

各ユーザーについて、選択した期間の15分間隔ごとに自動再接続の数が測定されます。15分間隔のほとんどでの自動再接続の数に基づいて、エクスペリエンスは「優良」、「公平」、または「不良」に分類されます。

Session Resiliency ⓘ	21 USERS Average reconnect rate (Less than 1 per 15 mins)	0 USERS Average reconnect rate (1 per 15 mins)	0 USERS Average reconnect rate (More than 1 per 15 mins)	4 USERS Not categorized Learn more
----------------------	---	--	--	--

セッション復元エクスペリエンスは、再接続率に基づいて次のように分類されます。

**優秀:** 選択した期間の15分間隔のほとんどで、再接続はありませんでした。

**公平:** 選択した期間の15分間隔のほとんどで、再接続が1回ありました。

**不良:** 選択した期間の15分間隔のほとんどで、再接続が1回以上ありました。

## 過負荷のマシン

リソースが過負荷になると、レイテンシが長くなり、ログオン時間が長くなり、障害が発生し、ユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。**Overloaded Machines** 係数は、エクスペリエンスの低下を引き起こす過負荷のリソースを可視化します。

CPU スパイクが持続するか、メモリ使用量が多い、またはその両方が 5 分以上続き、選択した期間のユーザーエクスペリエンスが低下したマシンは、過負荷と見なされます。



### 注:

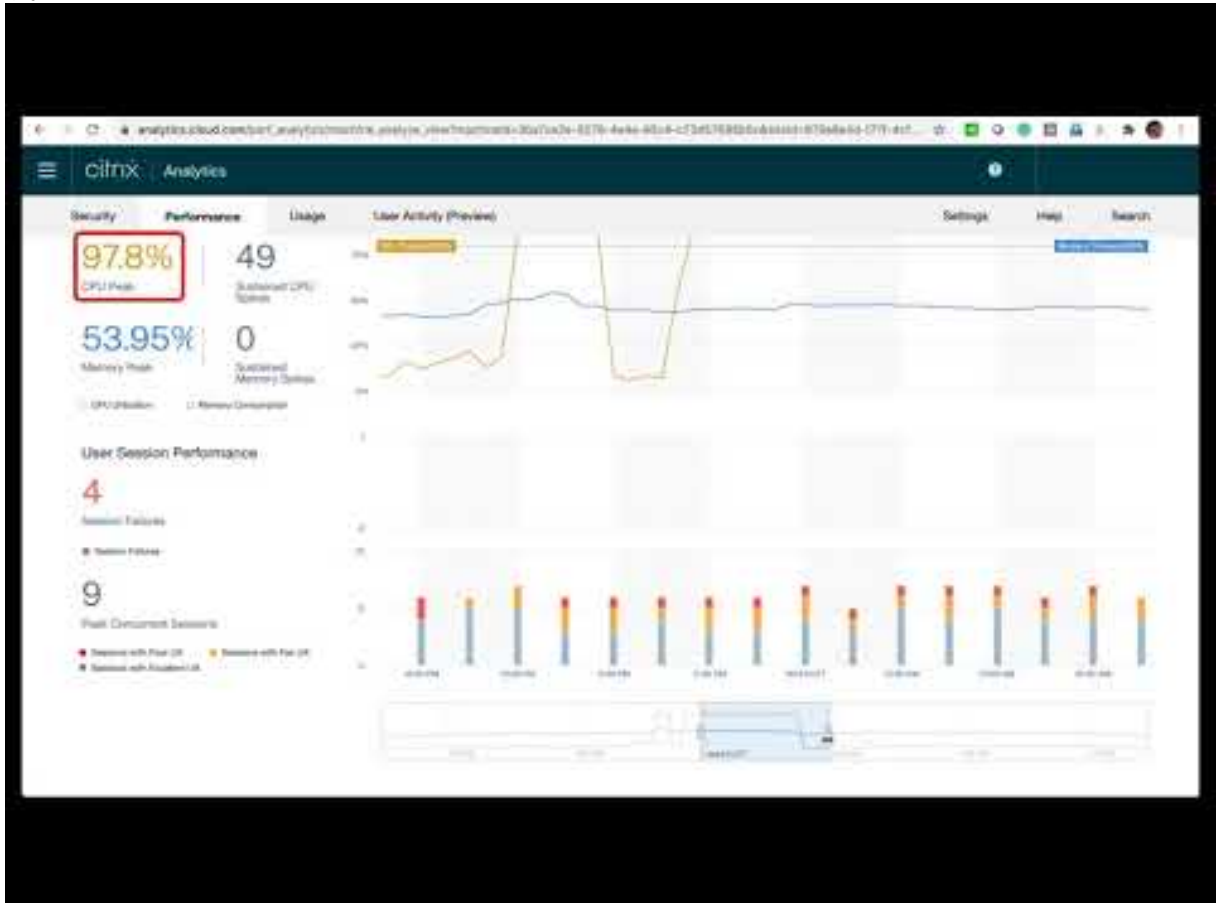
[過負荷マシン係数] セクションは、2 時間、12 時間、および 1 日の範囲でのみ使用できます。最適化のため、この機能は 1 週間と 1 か月間無効になります。

[オーバーロードされたマシン] セクションには、次のデータがあります。

- ユーザーエクスペリエンスに関係なく、CPU またはメモリの使用量が少なくとも 1 つの不良セッションに影響を与えたマシンの数。
- オーバーロードされた CPU またはメモリがセッションエクスペリエンスに与える影響によって影響を受けるユーザー数。
  - 優秀—過負荷のマシンによる影響を受けるセッションのないユーザー。
  - [公正] —過負荷のマシンの影響を受ける少なくとも 1 つの公平なセッションを持つユーザー。
  - 悪い—マシンが過負荷状態の影響を受けるセッションが少なくとも 1 つあるユーザー。
  - [分類されていない] —セッションエクスペリエンスをリソースの過負荷と関連付けることができないユーザー。
- の内訳:
  - リソースの過負荷が原因でエクスペリエンスが悪いユーザーに影響するマシンの数。
  - CPU スパイクと高いメモリ使用量によって影響を受けるエクスペリエンスの低いユーザーの数。
- 過負荷のユーザー数をクリックすると、ユーザーセルフサービスビューがフィルターされ、過負荷のリソースの影響を受けるセッションのユーザーが表示されます。

- 過負荷のマシンの数をクリックすると、マシンのセルフサービスビューがフィルタリングされ、分類に基づいて、または過負荷のリソース、CPU、またはマシンに基づいて、選択した過負荷のマシンのセットが表示されます。

次のビデオは、オーバーロードされたマシン係数を使用した典型的なトラブルシューティングシナリオを示しています。



[マシン]、[ユーザー]、および [セッション] のセルフサービスビューは、[オーバーロードされたマシン] ファセットで強化されています。マシンセルフサービスビューには、マシンの過負荷問題のトラブルシューティングに役立つ [オーバーロード CPU/メモリ] ファセットが追加されています。詳細については、セルフサービスの記事の「[過負荷のマシン](#)」を参照してください。

[マシン] セルフサービスビューからさらにドリルダウンして、特定のマシン統計を表示し、リソースの過負荷の問題をトラブルシューティングします。

### インフラストラクチャ分析

February 6, 2023

### インフラストラクチャ分析とは何ですか？

Citrix Analytics for Performance のインフラストラクチャ分析では、アプリとデスクトップサイトの主要コンポーネントのステータスに関する洞察が得られます。

- 1つのダッシュボードに複数のマシンの健全性とステータスを表示できます。
- 1つのサイトでマシンの分析を表示することも、すべてのサイトでまとまりのあるビューを取得することもできます。
- 選択した単一セッションまたはマルチセッション OS デリバリーグループ全体の分析を表示できます。
- 可用性とパフォーマンスに基づいて、一定期間のマシンの使用状況の傾向を表示できます。

このデータにより、お客様は容量管理に関するより詳細な情報に基づいた意思決定を行い、サイトの分析とリスク評価を実施できます。そのため、重大な障害を最小限に抑え、サイトの利用状況とパフォーマンスを最適化するために、事前に必要な措置を講じることができます。

[マシンの可用性] には、シングルセッションおよびマルチセッション OS マシンに関する情報が表示されます。環境全体のマシンの現在の可用性を表示できます。選択したサイトおよびデリバリーグループ全体で、使用可能な状態と使用できない状態のマシンの分布を確認できます。

マシンの集約状態も、選択した時間間隔でセッションの可用性とともにプロットされます。

マシンのパフォーマンスは、マルチセッション OS マシンのパフォーマンスに関する情報のみを提供します。

カスタム時間選択フィルタを使用して、特定の期間におけるマシンの可用性とマシンのパフォーマンスを表示できます。

### インフラストラクチャダッシュボードにアクセスする方法

インフラストラクチャダッシュボードを表示するには、次の手順を実行します。

1. Citrix Cloud にログオンし、クラウド顧客を選択します。
2. Citrix Analytics サービススタイルで、[管理] をクリックします。
3. Citrix Analytics サービスが開き、[パフォーマンス] タブをクリックします。
4. [インフラストラクチャー] タブをクリックします。

### インフラストラクチャダッシュボードの使用方法

インフラストラクチャダッシュボードには、サイト全体に展開されたマシンの詳細なステータスが表示されます。

管理者は、組織のサイトをほとんど管理および監視していない場合、インフラストラクチャダッシュボードを使用して、すべてのサイトのデリバリーグループにわたるマシンの可用性とパフォーマンスに関する洞察を得ることができます。この情報は、インフラストラクチャの意思決定をプロアクティブに行い、ユーザーエクスペリエンスを向上させると同時に、最適な使用率とインフラストラクチャコスト削減を追跡するのに役立ちます。

## 現在のマシンの可用性

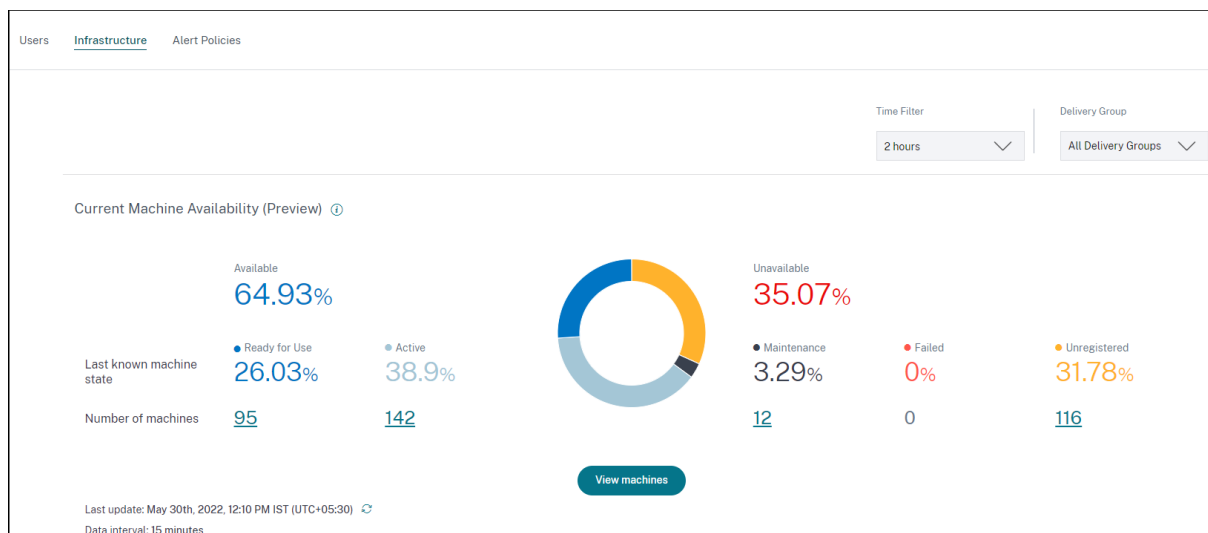
注:

現在のマシンの可用性はプレビュー中です。

[現在のマシンの可用性] パネルには、過去 15 分間のマシンの可用性が表示されます。マシン数の割合は、[使用可能/使用不可] カテゴリの下に、状態ごとに表示されます。

このサービスは他の要因にも依存するため、マシンの可用性によってサービスの可用性が保証されるわけではないことに注意してください。この情報は、セッションを提供するプロビジョニングされたマシンの可用性を判断するのに役立ちます。

最後に認識された各マシンの状態におけるマシン数とパーセンテージが表示されます。マシン数には、カタログにはあるがデリバリーグループにまだ割り当てられていないマシンは含まれません。マシン数をクリックすると、[マシンセルフサービス] ページが開きます。このビューには、特定の状態のマシンと、過去 15 分間の各マシンの詳細が表示されます。



使用可能なマシン: 選択したサイトとデリバリーグループで、過去 15 分間に利用可能だったマシンの割合を表示できます。使用可能なマシンは次の状態です。

- 使用可能 (シングルセッションマシンおよびマルチセッションマシン): これらのマシンにはアクティブなセッションがありません。マシンは正常な状態です。
- アクティブ (シングルセッションおよびマルチセッション): この状態では、マシンには少なくとも 1 つのアクティブなセッションがあります。アクティブ状態の単一セッション OS マシンでは、新しいセッションを起動できません。マルチセッション OS マシンでは、マシンの容量に応じて新しいセッションを起動できます。アクティブなマシン数には、すべてのセッションが切断されたマシンも含まれます。

使用できないマシン: 選択したサイトとデリバリーグループで、過去 15 分間に利用できなかったマシンの割合を表示できます。この情報を使用して、環境全体でマシンの使用率を最適化できます。使用できないマシンは次の状態です。

- 未登録: マシンはブローカーサービスに登録されていません。
- 失敗: マシンの起動に失敗しました。
- メンテナンス: マシンはメンテナンスモードで、新しい接続は許可されていません。これらは正常な状態で登録され、現在メンテナンス中のマシンです。登録されていないマシンは、未登録のマシンとしてカウントされます。

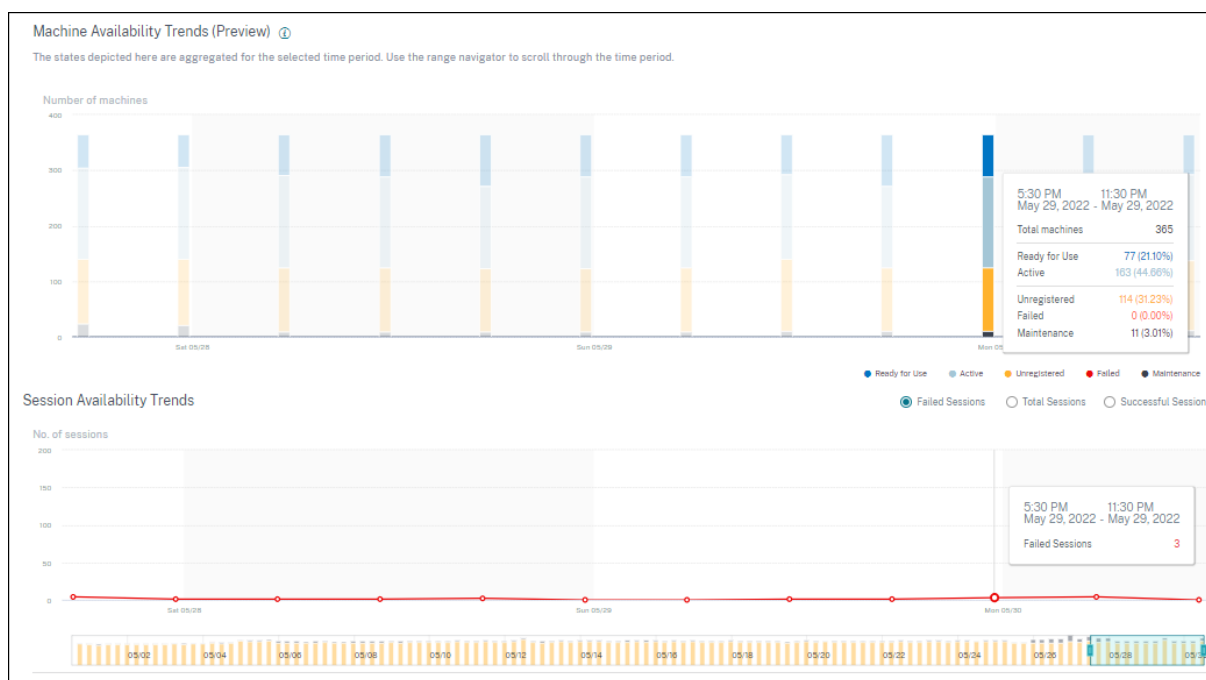
[マシンの表示] をクリックすると、環境内のすべてのマシンが表示される [マシン] セルフサービスページが表示されます。詳細については、「[マシンのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

#### マシンの可用性とセッションの可用性の傾向

注:

マシンの可用性の傾向はプレビュー中です。

[マシンの可用性] の傾向には、選択した期間にわたってプロットされたマシンの総状態が表示されます。マシンの状態は、[使用可能]、[アクティブ]、[メンテナンス]、[未登録]、[失敗] の中から、最も好ましくない状態の順に集約されます。



グラフ上の特定のセクションからドリルダウンして、[マシンセルフサービス] ビューで特定の状態のマシンの詳細を表示できます。[セッションの可用性] の傾向では、選択した期間にプロットするセッションを [成功]、[失敗]、[合計] から選択できます。

1 か月と 1 週間の期間のトレンドは、6 時間の精度でプロットされます。タイムナビゲーターを使用して、3 ~7 日間の範囲で 1 か月間のマシンとセッションの可用性の傾向を拡大できます。

タイムナビゲーターには、マシンの可用性の傾向も反映されます。これにより、使用できないマシンが多数存在する期間を特定できるため、[マシンの可用性の傾向] で必要な期間を簡単にナビゲートしてズームインできます。

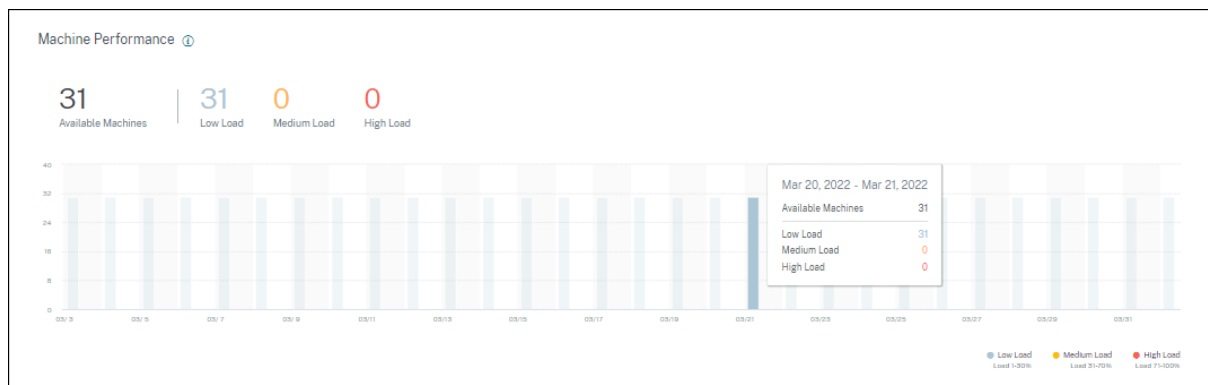
マシンとセッションの可用性の傾向に関する同期ツールヒントを使用して、使用できないマシンと失敗したセッションとの相関関係を把握できます。

マシンのトラブルシューティング 登録解除されたマシンや障害が発生したマシンは、次の理由で使用できなくなる可能性があります。

- マシンが Delivery Controller と通信できない。
- ブローカーサービスで、セッション準備リクエストの作成中に問題が発生します。
- マシンがセッション準備要求を受け付けない原因となったネットワークの問題。
- マシンが Delivery Controller に登録しようとする、タイムアウトが発生します。
- セッション起動のためにマシンの電源がオンになっていない可能性があります。
- Delivery Controller は、エンドユーザーからの接続を準備するためにマシンに要求を送信しますが、マシンは要求を積極的に拒否します。
- Delivery Controller は、セッションの起動時に、ポリシー設定やセッション情報などの必要な構成データをマシンに送信しません。
- マシンがデリバリーグループから削除されます。
- マシンは登録されていません。
- マシンは電源を使用できない状態です。
- マシンに内部問題が発生している。
- マシンが Cloud Connector または Delivery Controller に接続して登録できない。
- マシンの電源がオフになっているか、シャットダウンされている。

### マシン パフォーマンス

[マシンのパフォーマンス] パネルには、負荷に基づいてマシンの分布が表示されます。



この情報は、マルチセッション OS マシンでのみ使用できます。選択した期間、サイト、デリバリーグループの負荷評価基準指標（高、中、低など）に基づいて分類された、使用可能な状態のマシンの数を表示できます。

グラフには、選択した期間における高負荷、中負荷、低負荷のカテゴリに基づいてプロットされたマシンが表示されます。棒グラフにカーソルを合わせると、特定の時点で使用可能なマシンの詳細なステータスが表示されます。一定期間のマシン全体の負荷分散の傾向を監視できます。

マシンの負荷評価基準インデックスは、セッション数、CPU など、有効になっている個々のインデックスの最大値に、他の有効なインデックスの平均の 5% を加えた値です。負荷評価基準インデックスに基づいて、Windows Server OS マシンを配信するサーバー間で負荷管理を構成できます。詳細については、「[負荷管理ポリシーの設定](#)」を参照してください。

マシン負荷は次のように分類されます。

- 高負荷:70% 以上荷を積みます
- 中程度の負荷:30% から 70% 間の負荷
- 低負荷: 30%未満の負荷

負荷評価基準インデックスの計算方法については、ナレッジセンターの記事 [CTX202150](#)を参照してください。

## コネクタ統計

December 7, 2023

[コネクタ統計] ページには、過去 24 時間における選択したコネクタのリソース消費量の包括的なビューが表示されます。この情報により、管理者は、コネクタでの CPU、メモリ、または帯域幅の使用率が高いことと、セッション全体にわたるセッション障害およびエクスペリエンスとを関連付けることができます。

このページには、仮想アプリおよびデスクトップ環境の Gateway POP までのコネクタから計算された合成レイテンシが表示されます。この情報は、最適なセッションエクスペリエンスを実現するために最も近いゲートウェイ PoP を選択して設定するのに役立ちます。

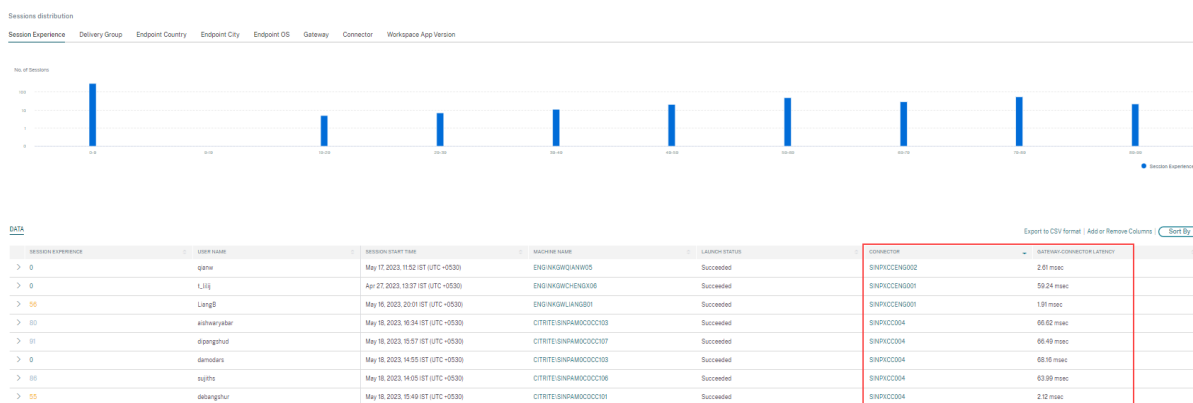
注:

Rendezvous プロトコルを使用して接続されたセッションでは、コネクタ統計情報は使用できません。これは、ランデブープロトコルにより、マシンが Citrix Cloud Connector をバイパスして、Citrix Cloud コントロールプレーンに直接かつ安全に接続できるためです。詳しくは、「[Rendezvous プロトコル](#)」を参照してください。

[コネクタ統計] ページへのアクセス

[セッション] の [セルフサービス] ビューで、コネクタ名のリンクをクリックします。

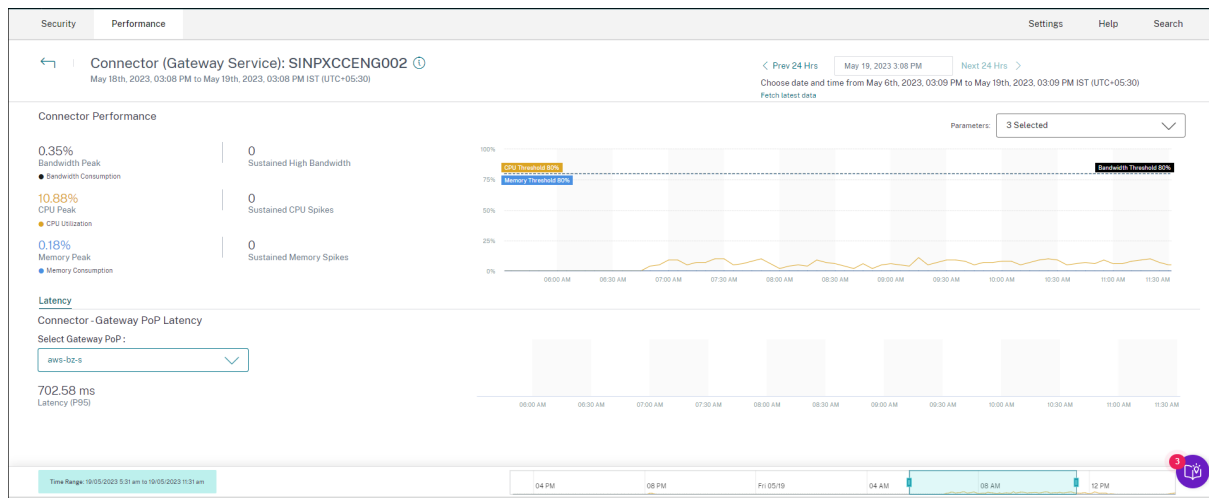




## [コネクタ統計] ページの使用

[コネクタ統計 (Connector Statistics)] ページには、コネクタリソース（帯域幅、CPU、メモリ）の使用統計が1つのビューで表示されます。これにより、コネクタリソースの使用パターンと、待ち時間が長く、セッションパフォーマンスが低下する状況とを相互に関連付けることができます。

コネクタからゲートウェイ POP までのレイテンシ値は、最も近いゲートウェイ PoP を選択して設定し、最適なセッションエクスペリエンスを実現するのに役立ちます。



[コネクタ統計] ページには、デフォルトで過去 24 時間のデータが表示されます。ただし、過去 14 日間のデータは利用できます。別の 24 時間の期間を選択するには、カレンダーを使用します。選択した時刻から過去 24 時間のデータが表示されます。

## コネクタパフォーマンス

コネクタリソースの使用状況を定義する主要パラメータが表示されます。[CPU]、[帯域幅]、[メモリ] から、表示するパラメータを選択できます。

- **Bandwidth Peak** は、過去 24 時間におけるコネクタの最大帯域幅消費を表します。
- 持続的高帯域幅は、帯域幅の消費が帯域幅しきい値の 80% を超え、5 分以上持続した回数を表します。
- **CPU Peak** は、過去 24 時間におけるコネクタの最大 CPU 使用率を表します。
- 持続的な **CPU** スパイクは、CPU 使用率が CPU しきい値の 80% を超え、5 分以上持続した回数を表します。
- **Memory Peak** は、過去 24 時間の最大メモリ消費量を表します。
- 持続メモリスパイクは、メモリ消費がメモリしきい値の 80% を超え、5 分以上持続した回数を表します。

コネクタで消費される各メトリックのピークパーセンテージが、利用可能な 24 時間にわたって 5 分単位でプロットされます。この Connector Performance トレンドは、管理者がコネクタのリソース消費量が多いため、セッション障害と低遅延の問題を関連づけるのに役立ちます。

コネクタパフォーマンスの傾向は、デフォルトの 4 時間枠でプロットされます。24 時間範囲内の他のウィンドウに対応するデータを表示するには、時間ナビゲーションバーを移動して別の時間範囲を選択します。6 時間枠でズームインまたはズームアウトして、選択した時間範囲に対応するイベントを表示できます。

## 遅延

コネクタ-ゲートウェイ PoP レイテンシは、仮想アプリおよびデスクトップ環境で選択したゲートウェイ PoP について計算された合成レイテンシの平均値を表します。

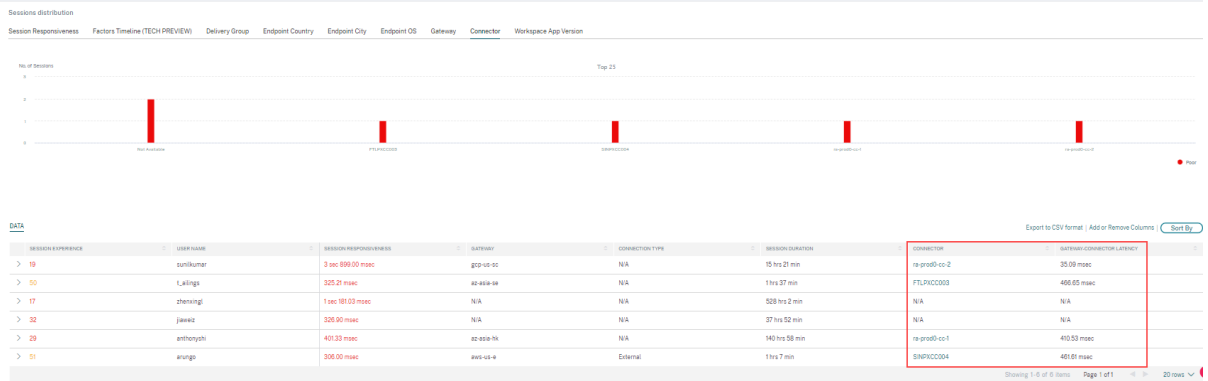
## 一般的なユースケース

Connector Statistics ビューを使用すると、コネクタのリソース消費量が多いためセッションの障害やレイテンシが高くなっているかどうかを確認できます。

ユーザーエクスペリエンスダッシュボードで、セッションの応答性が悪いセッションをクリックします。



[セッションセルフサービス] ビューに、セッションの応答性が低いセッションの詳細が表示されます。



**Connector** ピボットを使用すると、さまざまなコネクタ間で応答性の低いセッションの分布を確認できます。[列の追加または削除] リンクをクリックして、[コネクタ] 列と [ゲートウェイコネクタ] 列をビューに追加します。コネクタリンクをクリックして、[コネクタ統計] ビューを開きます。



このビューは、コネクタでリソースを大量に消費しているインスタンスを特定し、応答性の低下を引き起こす可能性があるかどうかを把握するのに役立ちます。

レイテンシータブのコネクタ-ゲートウェイ PoP レイテンシの値は、仮想アプリケーションおよびデスクトップ環境内の選択したゲートウェイ POP について計算された合成レイテンシの平均値を示します。この情報は、最適なセッションエクスペリエンスを実現するために最も近いゲートウェイ PoP を選択して設定するのに役立ちます。

## セッション詳細

December 7, 2023

[Session Details] ページには、選択したセッションのパフォーマンス・メトリックの全体像が表示されます。セッション期間中、包括的なセッションの詳細とセッションパフォーマンスに影響する要因が表示されます。このビューでは、ICARTT、セッション再接続、帯域幅メトリック、ネットワーク遅延、エンドポイントネットワークメトリックなどのセッション要因を可視化できます。これらの因子は、選択した期間のセッションスコアとともにプロットされ

ます。[Session Details] ビューは、利用可能な帯域幅とネットワーク遅延が ICARTT とセッションスコアに与える影響を相互に関連付けるのに役立ちます。

注:

- エンドポイントネットワークのメトリックを表示するには、Windows バージョン 7 2108 以降の Citrix Workspace アプリを実行しているエンドポイントが必要です。
- 帯域幅とネットワーク遅延のメトリックを表示するには、Citrix DaaS 上で Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2112 以降を実行しているマシンが必要です。
- Monitoring **Service** が帯域幅や遅延統計などのマシン関連のパフォーマンス指標を収集できるようにするには、Analytics 用の VDA データ収集ポリシーをマシンで許可に設定する必要があります \*\*。詳細については、「[Analytics のデータ収集に関するポリシー](#)」を参照してください。

## [セッションの詳細] ページへのアクセス

セッションのセルフサービスビューから「セッションの検査」リンクをクリックして、「セッション詳細」ページを開きます。

SESSION EXPERIENCE	USER NAME	DELIVERY GROUP NAME	SESSION START TIME	MACHINE NAME	ENDPOINT CITY (LAST KNOWN)	LAUNCH STATUS	CONNECTOR	ENDPOINT IP	ENDPOINT NAME
N/A	Inspect session gauavg	Remote PC-Miami	Mar 5, 2021, 21:39 IST (UTC+05:30)	ENG\FTLGAURAVG-TEMP	N/A	Succeeded	N/A	127.0.0.1	N/A
81	Inspect session fielic	CVA/CVA.CORE	Nov 16, 2023, 09:22 IST (UTC+05:30)	CITRITE\FTLPAM000C205	Margate	Succeeded	FTLPKCC003	192.168.7.90	fielic-mac

Inspect session	
Note: Metrics shown are aggregated for the selected time period.	
O/P Bandwidth Utilization (Avg): 0.59 % (TECH PREVIEW)	Application: Remote Desktop Client
Authentication: 62 ms	Brokerage: 67 ms
Connection Type: N/A	Data Center Latency: N/A
Endpoint Country (Last Known): United States	Endpoint Link Speed (Avg): N/A
Endpoint OS: Macintosh	Endpoint Throughput Incoming (Avg): N/A
Endpoint Throughput Outgoing (Avg): N/A	Gateway: az-us-cc
Gateway-Connector Latency: 58.84 ms	GPU: 1 second 992 ms
HDX Connection: N/A	Host Delay: N/A
I/P Bandwidth Consumed (Avg): 253 Bps (TECH PREVIEW)	Interactive Sessions: 10 seconds 640 ms
ISP: comcast	Launch Type: ICA
Legon Scripts: N/A	Machine Address: N/A
Network Interface Type: N/A	Network Latency (Avg): 8778 ms (TECH PREVIEW)
O/P Bandwidth Available (Avg): 3.05 MBps (TECH PREVIEW)	O/P Bandwidth Used (Avg): 21.99 KBps (TECH PREVIEW)
Profile Load: 31 seconds 341 ms	Session Duration: 1 hour 31 minutes
Session End Time: Nov 16, 2023, 10:53 IST (UTC+05:30)	Session Logon Duration: 50 seconds 23 ms
Session Resiliency: 0	Session Responsiveness: 100 ms
Session State (Last Known): Terminated	Session Type: Application
Site Name: cloudstate	VM Start: 0 ms
WAN Latency: N/A	Workspace App Version: 23.01.117

## [セッションの詳細] ページの使用

セッション詳細ページには、ICARTT、セッション再接続、ネットワーク遅延、帯域幅、エンドポイントネットワークメトリックなどのセッション統計が 1 つのビューに表示されます。この情報は、セッションのパフォーマンスとこれらの要因を関連付けるのに役立ちます。



[セッション統計] ページには、セッション期間の最大 72 時間のデータが表示されます。

セッションスコアおよびその他のセッションパフォーマンスとファクターのメトリックチャートでは、セッションが切断された時間が考慮されます。この考慮事項により、全体的なセッションスコアと関連するメトリックがセッションのパフォーマンスを正確に表すことができます。セッションが切断されている期間は、すべてのグラフとツールチップに表示されます。

## セッション属性

主なセッション属性は次のように表示されます。

- ユーザー名
- セッションステータス
- セッション所要時間
- ログオン期間
- デリバリーグループ
- サイト
- セッションが開始されたマシン。マシン名のリンクをクリックすると、対応する [マシン統計] ページが表示されます。
- ISP
- エンドポイントリンク速度 (平均)
- エンドポイントの場所

## セッションパフォーマンス

ここに表示されるセッション・パフォーマンスを定義する主なパラメータは次のとおりです。

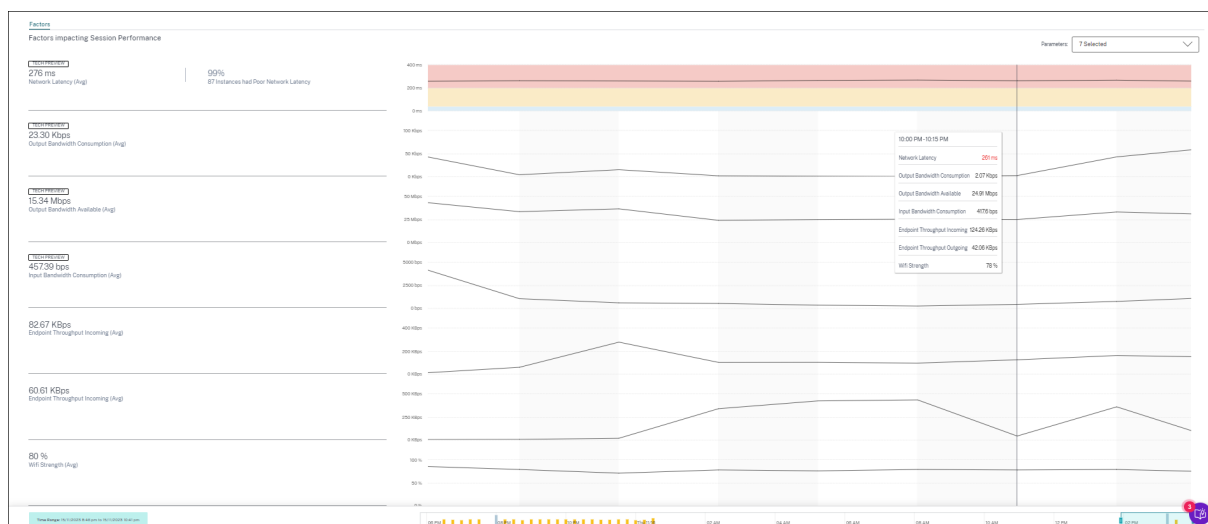
- セッションスコア、ICARTT 測定、およびセッション再接続の平均測定値

- セッションスコアの低下、ICARTT の高、および再接続率の高さを経験したセッション期間のパーセンテージ値
- セッションスコアが低く、ICARTT が高く、再接続率が高くなった（15 分間）インスタンスの数
- セッション期間中、5 分単位でプロットされたセッションスコア、ICARTT、およびセッション再接続の平均値。

グラフは、個々の要因のパフォーマンスを示すために色分けされています。表示するパラメータは、[セッションスコア]、[ICARTT]、[セッション再接続] から選択できます。

## 係数 (プレビュー)

このセクションには、セッションのパフォーマンスに影響する帯域幅、ネットワーク遅延、エンドポイントスループット係数の測定値が表示されます。ネットワーク遅延、出力帯域幅消費量、使用可能な出力帯域幅、入力帯域幅消費量、WiFi 信号強度、エンドポイントスループット入力、およびエンドポイントスループット発信の平均値が表示されます。メトリクスはすぐに使用でき、特定の構成は必要ありません。



メトリクスは、15 分単位の精度でセッション期間にわたってプロットされます。このセクションでは、表示するパラメータを選択できます。これらのグラフは、要因が優良だったか、中程度だったか、悪かったかを示すために色分けされています。

すべてのトレンドは、デフォルトの 4 時間枠でプロットされます。セッション期間中に他のウィンドウに対応するデータを表示するには、タイムナビゲーションバーを移動して別の時間範囲を選択します。6 時間枠でズームインまたはズームアウトして、選択した時間範囲に対応するイベントを表示できます。

帯域幅、ネットワーク遅延、エンドポイントスループットのメトリクスとトレンドは、個々のパラメーターのパフォーマンスに関するセッションパフォーマンスの分析に役立ちます。これは、セッションのパフォーマンスに影響する可能性のある特定の要因を特定するのに役立ちます。

## 一般的なユースケース

[Session Details (セッションの詳細)] ビューを使用して、セッションパフォーマンスの低下を引き起こす可能性のある特定の要因をトリアージできます。選択した期間に開始されたセッションに関するすべての詳細が、詳細ビューに表示されます。

1. [ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードの [セッションの応答性] セクションの [不良セッション] 番号から開始できます。
2. [セッションセルフサービス] ビューに、セッションの応答性が低いセッションの詳細が表示されます。
3. セッションを表示する要素として [セッションの応答性] を選択します。ピボットとして [係数タイムライン] を選択します。グラフには、出力帯域幅の使用量、ネットワーク遅延、および ICARTT に基づくセッションの分布が表示されます。
4. 表形式ビューで、選択したセッション行を展開すると、セッションに関連するすべてのメトリックが表示されます。帯域幅、遅延、エンドポイントスループットのメトリクスがここに表示されます。
5. セッションスコアをクリックして [セッションの詳細] ビューを開きます。必要な間隔でビューを分析し、セッションエクスペリエンスの低下を引き起こす要因を特定します。
6. グラフを使用して、セッションエクスペリエンスの低下の原因となっている可能性のある要因を特定します。
7. 全体のスループット消費量をエンドポイントのリンク速度および帯域幅消費量と比較すると、ユーザーが帯域幅を大量に消費するアプリケーションを HDX チャンネルの外部で実行していて、セッションエクスペリエンスが低下している可能性があるかどうかを確認できます。
8. WiFi 信号強度の低下によってセッションエクスペリエンスが低下したかどうかを確認できます。

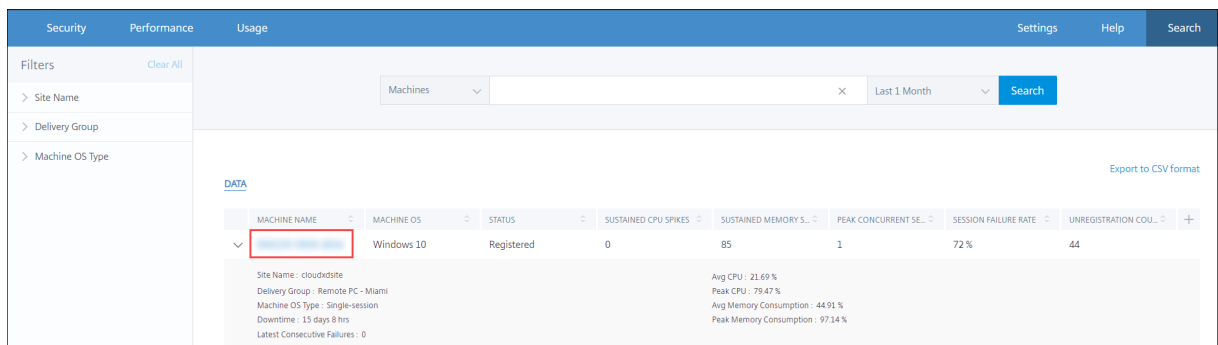
## マシン統計

February 14, 2024

[Machine statistics] ページには、過去 24 時間の選択したマシンでのリソース消費とセッションエクスペリエンスの包括的なビューが表示されます。この情報は、管理者がアプリケーションおよびデスクトップ環境内のマシン全体で、CPU またはメモリの使用率が高いことと、セッション障害およびエクスペリエンスとを関連付けるのに役立ちます。管理者は、高いリソース消費の原因となっているプロセスを表示し、マシンの状態のタイムラインビューを取得できます。この機能は、環境内のマシンに関する重要なパラメータを細かく切り分け、非効率性を簡単に特定するのに役立ちます。

### [マシン統計] ページへのアクセス

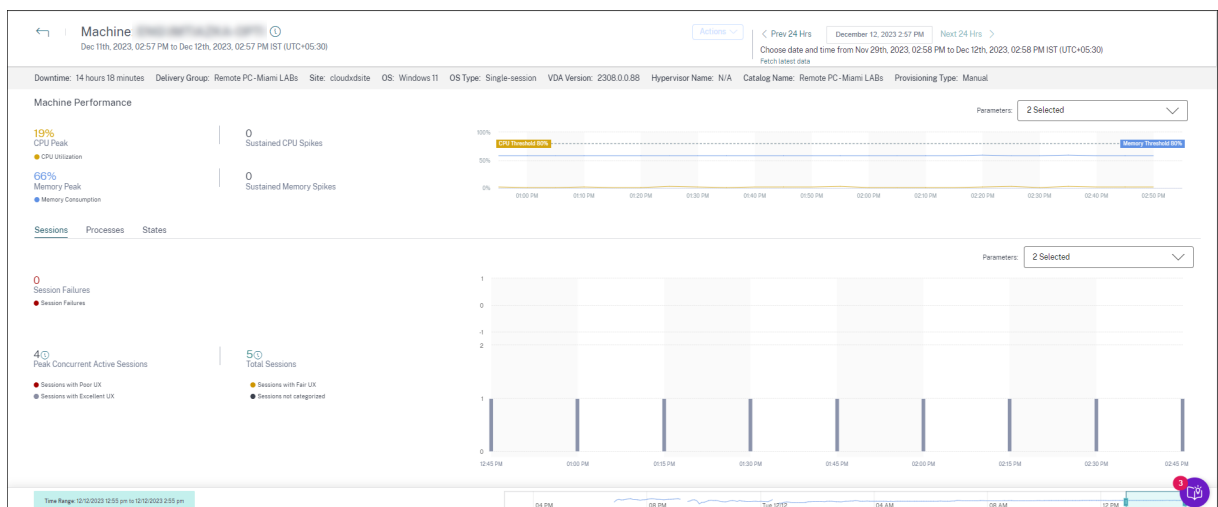
[マシン] の [セルフサービス] ビューでマシン名のリンクをクリックします。



## 【マシン統計】 ページの使用

[マシン統計] ページには、マシンとセッションのパフォーマンス統計が同じビューに表示されます。このビューは、マシンリソースとその使用パターンを分析し、マシンリソースがパフォーマンスの低下のボトルネックになっているかどうかを把握するのに役立ちます。

デフォルトでは、[マシンの統計] ページには、過去 24 時間のデータが表示されます。ただし、過去 14 日間のデータは利用できます。別の 24 時間の期間を選択するには、カレンダーを使用します。選択した時刻から過去 24 時間のデータが表示されます。



## マシン属性

主要なマシン属性が表示されます。

- マシンのデリバリーグループ、サイト、OS タイプ、OS、VDA バージョン、ハイパーバイザー、カタログ、Provisioning タイプが表示されます。
- ダウンタイムは、過去 24 時間にマシンが **Unregistered**、**Failed**、または **Powered off** 状態にあった期間を秒単位で示します。



### マシンパフォーマンス統計

マシンのパフォーマンスを定義する主要なメトリックが表示されます。

- **CPU** ピークは、過去 24 時間におけるマシンの最大 CPU 使用率を表します。
- 持続的な **CPU** スパイクは、CPU 使用率が CPU しきい値の 80% を超え、5 分以上持続した回数を表します。
- **Memory Peak** は、過去 24 時間の最大メモリ消費量を表します。
- 持続メモリスパイクは、メモリ消費がメモリしきい値の 80% を超え、5 分以上持続した回数を表します。
- 過去 24 時間のデフォルトの 4 時間ウィンドウにおけるマシンパフォーマンスの傾向は、CPU 使用率とメモリ消費量が 5 分単位でプロットされたことを示します。

### セッションパフォーマンス統計

主要なセッションパフォーマンス関連のメトリックが表示されます。

- 過去 24 時間にマシンで発生したセッション障害。
- セッション障害の傾向には、過去 24 時間のデフォルトの 4 時間のウィンドウについてプロットされたセッション障害数が表示されます。
- ピーク同時アクティブセッション数は、過去 24 時間にマシン上で確立された同時セッションの最大数を表します。
- 合計セッション数は、選択した期間中にマシン上でアクティブだったセッションの総数を表します。合計セッション数をクリックすると、セッションセルフサービスビューが開き、対応するセッションセットが表示されます。セッションの詳細ビューからセッションメトリックをさらに掘り下げて調べることができます。
- ユーザー・セッション・パフォーマンスのトレンドは、セッション・エクスペリエンスに基づくセッションの分類を「優良」、「公平」、「不良」として示し、直近 24 時間のデフォルトの 4 時間枠でプロットされます。

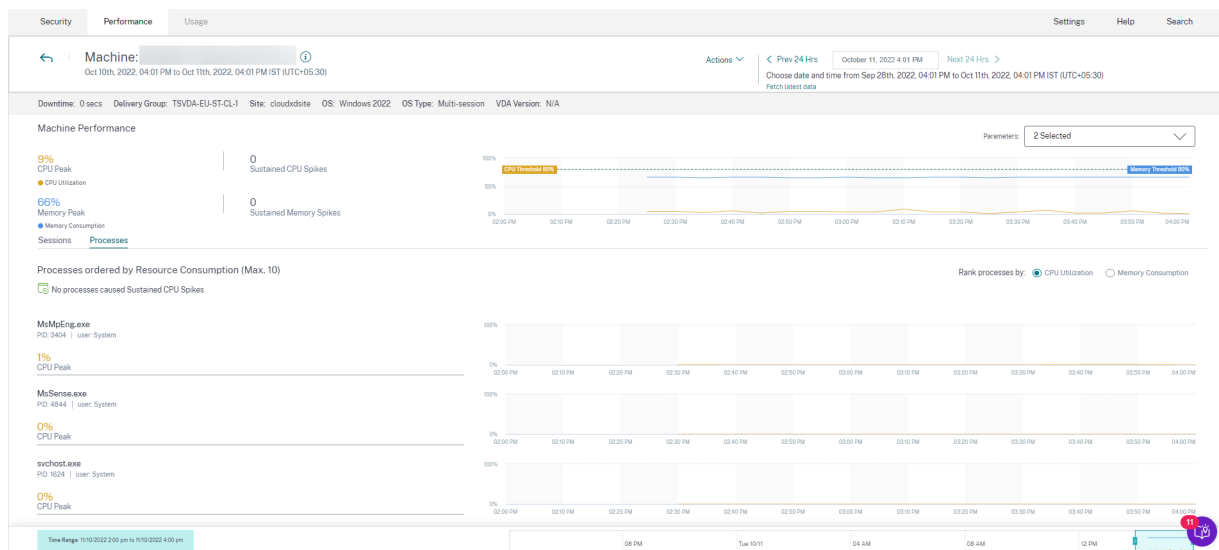
セッション障害番号、セッション障害を表示するグラフのバー、および分類されたセッション数をクリックすると、セッションセルフサービスビューにセッションが表示されます。

Machine Statistics は、マシンとマシン上で実行されているセッションに関連する問題の優先順位付けと修正に必要なすべてのマシン関連のメトリックを表示する包括的なビューです。

### リソースを消費する上位プロセス

[プロセス] タブをクリックすると、選択した期間にマシンで実行されているリソースを大量に消費するプロセスが表示されます。この情報を表示するには、Citrix Studio でプロセス監視ポリシーを有効にする必要があります。この機能は、クラウドサイトとオンプレミスサイトのマルチセッション OS マシンとシングルセッション OS マシンで使用できます。

**CPU** 使用率またはメモリ消費量ごとにランク付けされたプロセスを表示するように選択できます \*\*。



最大 10 個の最もリソースを消費するプロセスが、選択したとおりに CPU またはメモリピークの割合で表示されます。これらは、対応するマシンでの高いリソース消費と一致する持続的な CPU またはメモリスパイクを引き起こしたプロセスです。選択した期間にメモリや CPU の急上昇がない場合でも、リソースを最も消費しているプロセスが表示されます。

グラフには、選択した期間におけるプロセス別の CPU 使用率またはメモリ消費がプロットされます。これにより、プロセスによるリソース消費とマシンのセッション障害を関連付けることができます。

プロセスの可視性は、クラウドサイトとオンプレミスサイト上のマルチセッション OS マシンとシングルセッション OS マシンで利用できます。この機能を使用するには、Citrix **Studio** でプロセス監視ポリシーを有効にする必要があります。このポリシーは、デフォルトでは無効になっています。マシン上で実行されているプロセスを Performance Analytics で表示するには、これを明示的に有効にする必要があります。

## Create Policy

- 1 Select Settings
- 2 Assign Policy To
- 3 Summary

Select Settings
(All Versions) ▼
All Settings ▼
process ✕

Settings 0 selected
 View selected only

- > Enable monitoring of application failures  
 Computer setting - Virtual Delivery Agent Settings\Monitoring  
 Not Configured (Default: Application faults only) Select
- > Enable process monitoring  
 Computer setting - Virtual Delivery Agent Settings\Monitoring  
 Not Configured (Default: Prohibited) Select
- > Enable Profile management  
 Computer setting - Profile Management\Basic settings  
 Not Configured (Default: Disabled) Select
- > Excluded groups  
 Computer setting - Profile Management\Basic settings  
 Not Configured (Default: Disabled) Select

Next
Cancel

詳しくは、「[監視のポリシー設定](#)」を参照してください。

注:

- オンプレミスサイトの場合、**Citrix Virtual Apps and Desktops** バージョン **2203** 以降を実行しているマシンがサポートされます。
- プロセスデータは Citrix Analytics for Performance にのみ有効にし、Director には必要な場合にのみプロセスデータを有効化することをお勧めします。Director へのプロセスデータフローを有効にした場合のおおよそのストレージ消費量の詳細については、「[プロセスデータ](#)」を参照してください。

次の PowerShell コマンドレットを使用して、プロセスデータのフローを制御します。

- プロセスのデータフローを Citrix Analytics for Performance にのみ有効にし、Director には送信しないようにする (推奨)

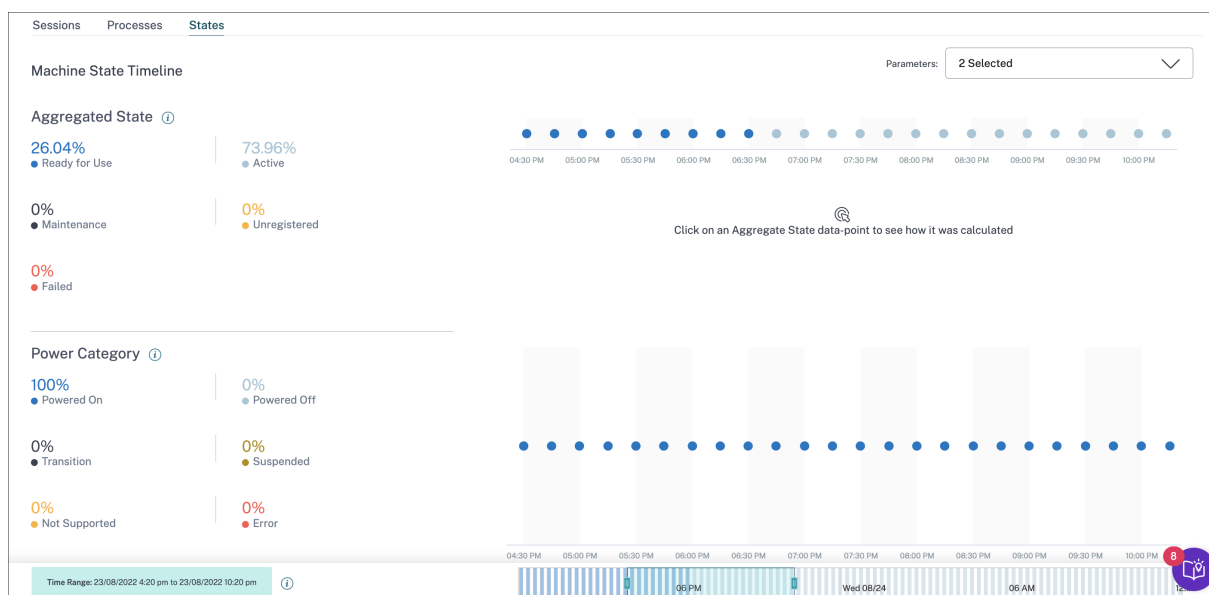
```
Set-MonitorConfiguration SendProcessDataToCASAndSkipDatabase $true
```

- Citrix Analytics for Performance と Director の両方にプロセスデータフローが流れるようにするため。

```
Set-MonitorConfiguration -SendProcessDataToCASAndDatabase $true
```

## マシン状態の可視性

[マシン統計] ページに、マシンの状態に関する情報が表示されるようになりました。**States** タブには、過去 24 時間のマシン集約状態とマシン電源カテゴリのタイムラインが表示されます。プロットは 15 分間隔で行われます。この機能は、環境内のマシンに関する重要なパラメータを細かく切り分け、非効率性を簡単に特定するのに役立ちます。



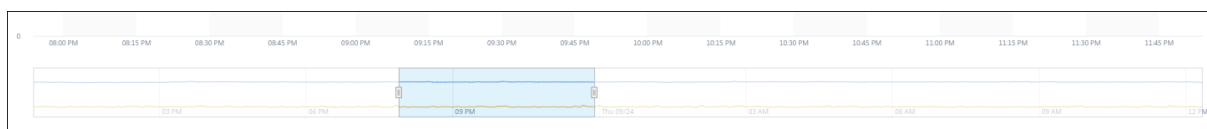
集計ステータデータポイントをクリックして、その計算方法を確認します。集約された状態がプロットされた結果となった、マシン状態とメンテナンスモードの実際の値の内訳が表示されます。これは、時間の経過に伴うマシンの状態の変化を把握するのに役立ちます。障害タイプと登録解除の理由は、マシンの問題のデバッグに役立ちます。電力カテゴリのデータポイントにカーソルを合わせると、マシンの実際の電源状態が表示されます。

### 時間ナビゲーションバー

タイムナビゲーションバーには、デフォルトの4時間枠でプロットされた次のグラフがあります。

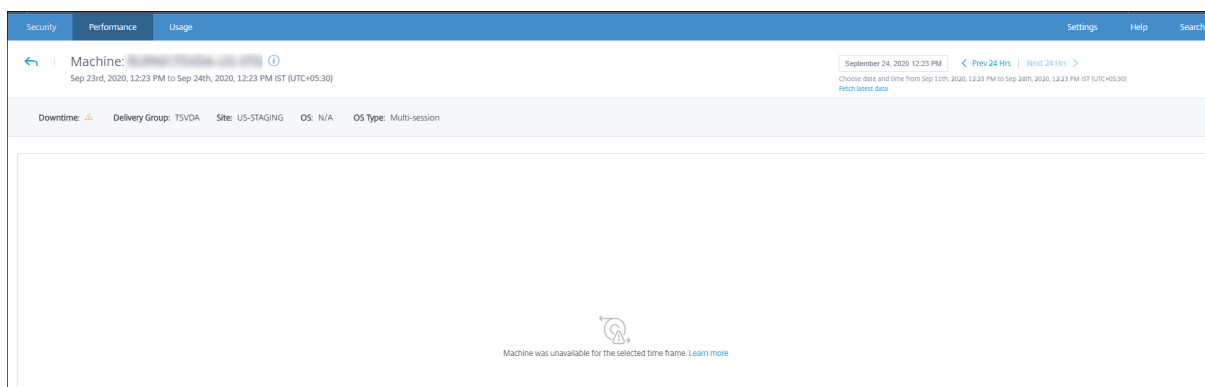
- マシンとユーザーセッションのパフォーマンスの傾向は、[セッション] タブまたは [プロセス] タブでプロットされます。
- マシンアグリゲートステータスのトレンドは、ステータスタブを開いているときにプロットされます。

これにより、トレンドの概要を把握し、関心のある時間範囲を拡大できます。24時間範囲内の他のウィンドウに対応するデータを表示するには、時間ナビゲーションバーを移動して別の時間範囲を選択します。2～8時間のウィンドウにズームインまたはズームアウトして、選択した時間範囲に対応するイベントを表示できます。



### 使用上の注意

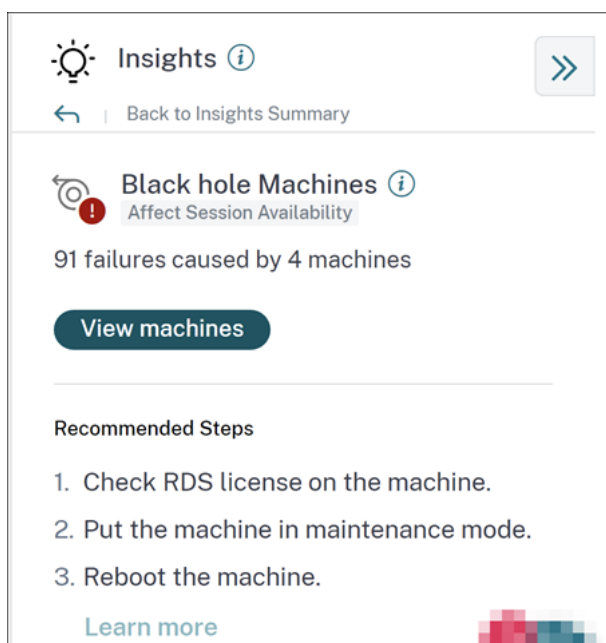
- マシンのダウンタイムにより、マシンのパフォーマンストレンドのプロットが中断される可能性があります。
- サイトがパフォーマンス分析にオンボーディングされる前に、オンプレミスの Virtual Apps and Desktops 環境のマシンがマシンカタログに追加されている場合、マシンの OS 情報が [マシンの統計] ビューに表示されないことがあります。回避策として、サイトのオンボーディング後にマシンカタログにマシンを追加します。
- オンプレミスの Virtual Apps and Desktops 環境のマシンの統計は、Performance Analytics へのオンボーディングが開始されてから 24 時間以内で使用できます。
- [マシンパフォーマンス] の傾向は、マシンが **Unregistered**、**Failed**、**Powered off** ステータスの間、またはデリバリーグループから削除されている間は利用できません。統計は、マシンが使用可能だった期間のみ使用できます。
- マシンが **Active** または **Ready for Use** の状態になかった理由を特定するには、「状態」タブにあるマシン集約状態の傾向を示す点線グラフをクリックします。



## 【マシン統計】ビューの一般的な使用例

[Machine statistics] ビューには、マシンを包括的にトラブルシューティングするための情報が表示されます。ユーザーエクスペリエンスダッシュボードから開始する一般的なユースケースで、このビューの使用方法を理解しましょう。

ユーザーエクスペリエンスダッシュボードの [障害インサイト] パネルには、3 回以上連続してセッションが失敗したブラックホールマシンのリストが表示されます。



ブラックホールマシンのリンクをクリックすると、マシンベースのセルフサービスビューが表示されます。このビューには、ダウンタイム、ピーク CPU、およびピークメモリなど、ブラックホールマシンに関連するすべてのメトリックが一覧表示されます。

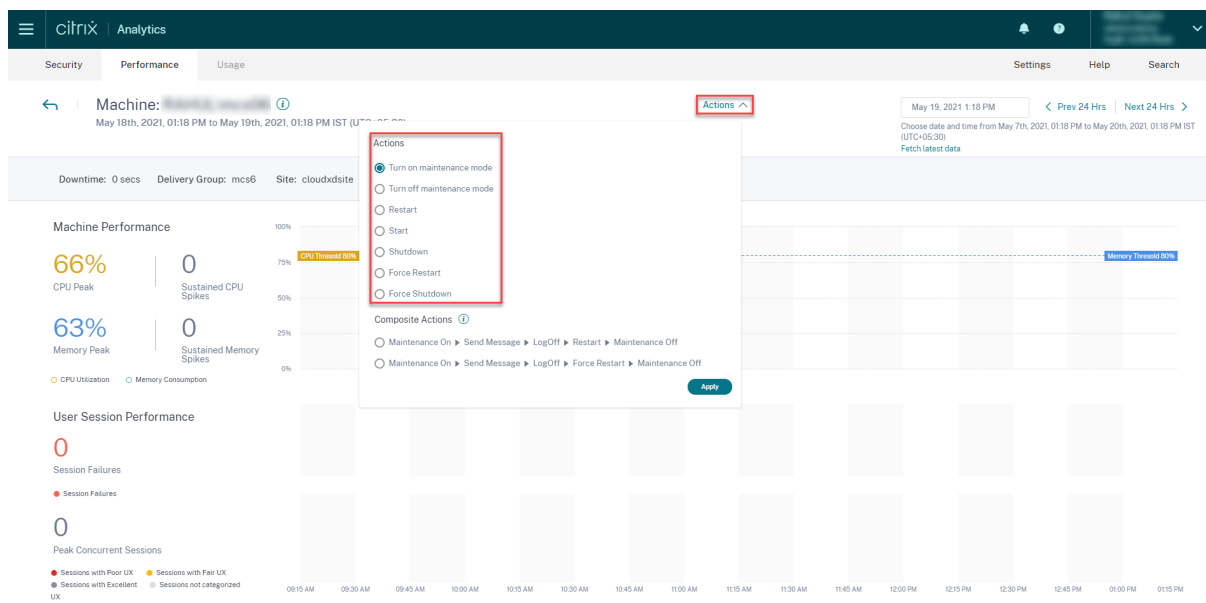
# Citrix Analytics for Performance

The screenshot shows the Citrix Analytics for Performance interface. At the top, there are tabs for Security, Performance, and Usage, along with Settings, Help, and Search. A filters sidebar on the left includes Site Name, Delivery Group, and Machine OS Type. The main area displays a table of machine data with columns: MACHINE NAME, MACHINE OS, STATUS, SUSTAINED CPU SPIKES, SUSTAINED MEMORY S., PEAK CONCURRENT SE., SESSION FAILURE RATE, and UNREGISTRATION COU.. The first row shows a machine with OS Windows 10, Status Registered, 0 Sustained CPU Spikes, 85 Sustained Memory, 1 Peak Concurrent Session, 72% Session Failure Rate, and 44 Unregistration Counts. A red box highlights the MACHINE NAME column. Below the table, there is a 'DATA' section with a 'Export to CSV format' link and a summary of machine statistics: Site Name: cloudordsite, Delivery Group: Remote PC - Miami, Machine OS Type: Single-session, Downtime: 15 days 8 hrs, Latest Consecutive Failures: 0, Avg CPU: 21.69%, Peak CPU: 79.47%, Avg Memory Consumption: 44.91%, and Peak Memory Consumption: 97.14%.

[マシン] のセルフサービスビューでマシン名をクリックすると、[マシン統計] ページが表示されます。このページには、同じ時間範囲でプロットされたマシン、セッションパフォーマンス、およびプロセスリソースのパラメータが表示されます。この情報を使用して、セッション障害時のリソース使用量を比較し、リソースのクラッシュが障害の原因である可能性についての洞察を得ることができます。

The screenshot shows the 'Machine' page in Citrix Analytics for Performance. The page title is 'Machine' and the subtitle is 'Dec 11th, 2023, 02:57 PM to Dec 12th, 2023, 02:57 PM IST (UTC+05:30)'. The page displays various performance metrics and charts. On the left, there are summary cards for: CPU Peak (19%), CPU Utilization (66%), Memory Peak (66%), Sustained CPU Spikes (0), Sustained Memory Spikes (0), Session Failures (0), Peak Concurrent Active Sessions (4), and Total Sessions (5). The main area contains two charts: a line chart for 'CPU Utilization' and a bar chart for 'Session Failures'. The CPU Utilization chart shows a peak of 100% at 01:00 PM on Dec 11th. The Session Failures chart shows a peak of 5 at 01:00 PM on Dec 11th. The page also includes a 'Time Range' selector at the bottom, set to '12:00:00 PM to 12:00:00 PM'.

## マシンアクションと複合アクション



## マシンアクション

マシンアクションは、クラウド上の Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) サイトの電源管理対象マシンで使用できます。フル管理者アクセス権を持つ管理者は、マシン上で次のアクションを実行できます。

- メンテナンスモードをオンにする
- メンテナンスモードをオフにする
- マシンを再起動する
- マシンを起動する
- マシンのシャットダウン
- マシンを強制的に再起動する
- マシンの強制シャットダウン

注:

[マシンアクション] オプションは、すべてのマシンに対して表示されます。ただし、MCS または電源管理されたマシンでのみ機能します。

オンプレミスサイトでホストされているマシンでは、[マシンアクション] が無効になります。

**マシンアクションの一般的な使用例** マシンアクションは、ユーザーエクスペリエンスの低下を解決するのに役立ちます。

メモリ使用量が多いためにマシンが影響を受ける場合は、[マシンのセルフサービス] ビューで問題の正確な性質を理解できます。

マシンのセルフサービスビューには、OS、メモリスパイクの数、および一定期間における CPU スパイクが表示され

まず、個々のマシンをクリックすると、[Machine Statistics] ページでリソースとセッションエクスペリエンスの相関関係を確認できます。ここでは、サンプルスクリーンショットを示します。



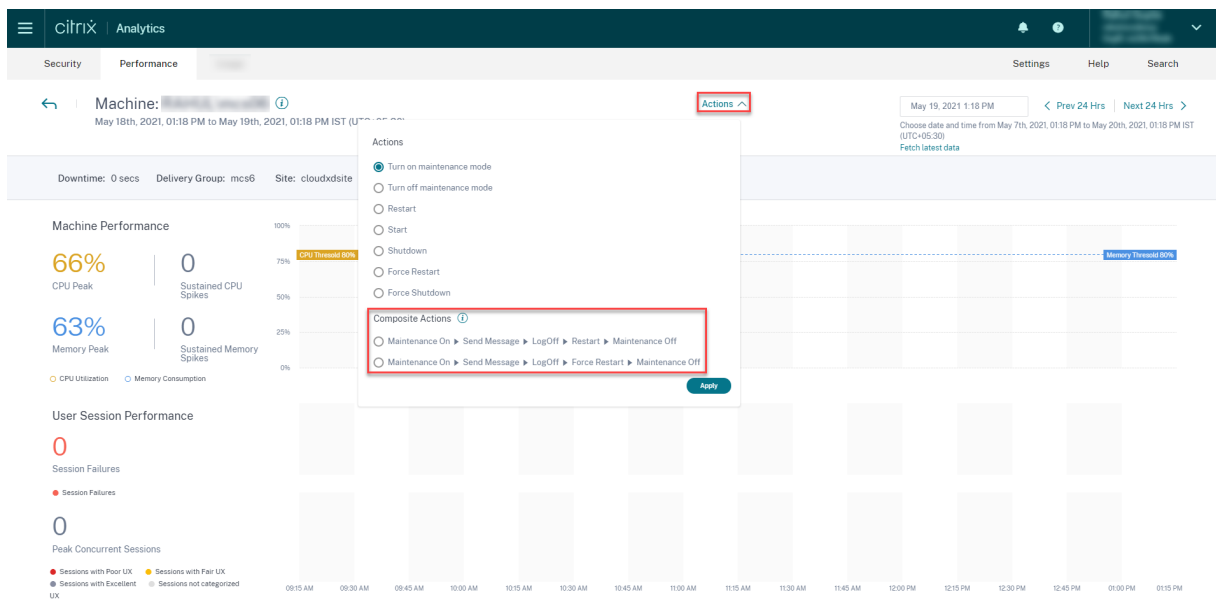
完全な管理者は、このマシンでこれ以上の接続やセッションが許可されないように、マシンをメンテナンス状態にすることができます。その後、コンピュータを再起動するか、その他のトラブルシューティング手順を実行してメモリを解放できます。

これらの操作はすべて、Web Studio または Citrix Director に移動する代わりに、[マシン統計] ビューから実行できます。

### コンポジットアクション

複合アクションは、[Machine Statistics] ビューからワンクリックで一連のマシンアクションを実行するのに役立ちます。

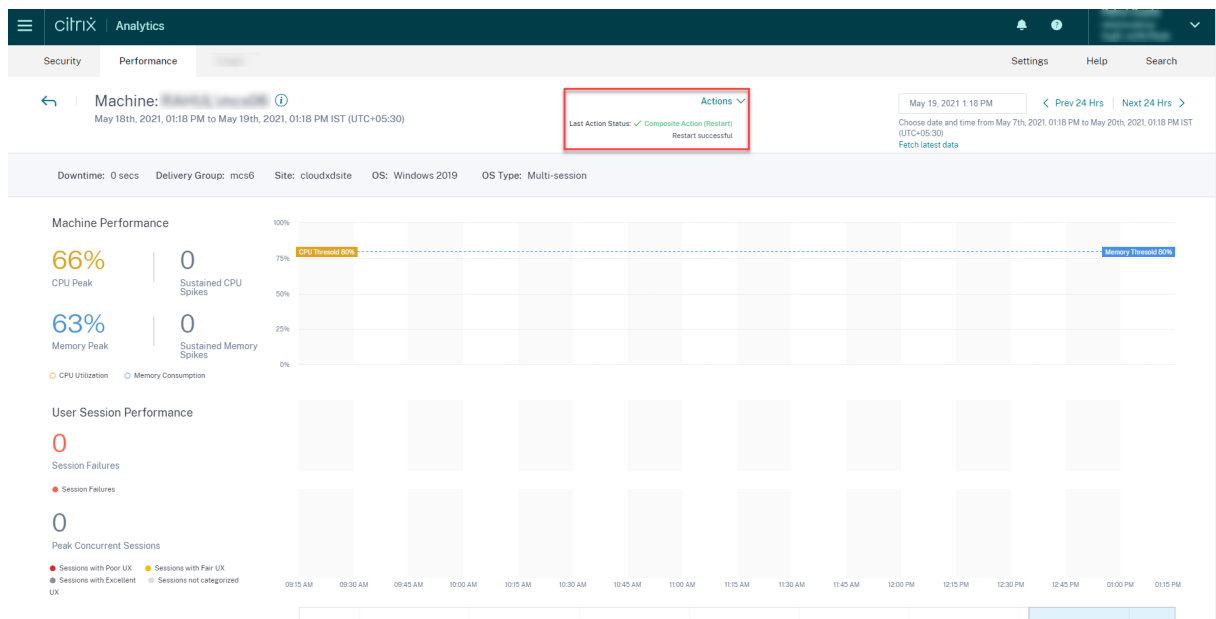




次の2つのコンポジットアクションシーケンスのいずれかを使用できます。

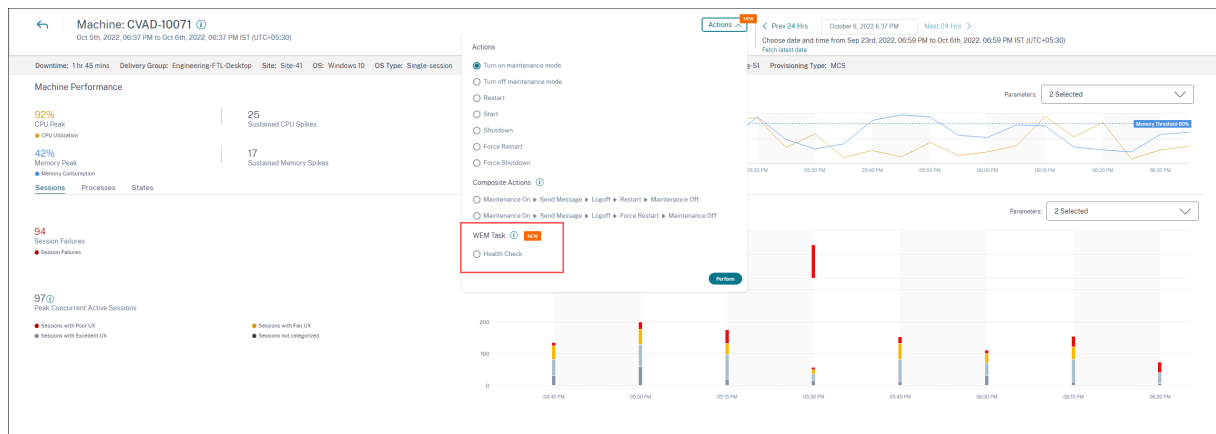
- メンテナンスオン > メッセージの送信 > ログオフ > 再起動 >> メンテナンスオフ \*\*
  1. マシンをメンテナンスオンモードに移行します。
  2. マシンにログインしているすべてのユーザーに再起動警告メッセージを送信します。
  3. 30分のタイムアウトを待つか、すべてのユーザーがログオフするのを待ちます。
  4. マシンを再起動してください。
  5. マシンをメンテナンスオフモードに移行します。
- メンテナンスオン > メッセージの送信 > ログオフ > 強制再起動 > メンテナンスオフ
  1. マシンをメンテナンスオンモードに移行します。
  2. マシンにログインしているすべてのユーザーに再起動警告メッセージを送信します。
  3. 30分のタイムアウトを待つか、すべてのユーザーがログオフするのを待ちます。
  4. マシンを強制的に再起動します。
  5. マシンをメンテナンスオフモードに移行します。

アクションの全体的なステータスと個々のステップのステータスは、アクションリンクの下に表示されます。



### WEM タスクヘルスチェック

パフォーマンス分析からマシンで WEM ヘルスチェックを実行できます。Workspace Environment Management (WEM) は、デスクトップを最適化して最高のユーザーエクスペリエンスを実現するのに役立つユーザー環境管理ツールです。



WEM タスク -> ヘルスチェックアクションを選択します。このアクションは、WEM Cloud Health Check クリプトを実行して、マシンの可用性に関する情報を取得します。この機能により、マシンの構成、接続、またはポリシーに関する一般的なマシンの問題の原因を Performance Analytics 内で簡単に根本的に解決できます。

WEM Cloud Health Check アクションの全体的なステータスが表示されます。スクリプトが正常に実行されると、レポートへのリンクが表示されます。このリンクをクリックすると、WEM Cloud Health Check の結果を含む詳細なレポートが開き、それらを修正するために実行できるアクションは Performance Analytics にも表示されます。

### WEM Health Check Report ✕

Jul 19th, 2022, 07:21 PM IST (UTC+05:30)

Details
Raw Data

Machine Name  
CVAD-100261

Machine Type  
VDA

Extended Data

ISSUE	FIX
<p><span style="color: green;">●</span> <b>VDA software installation status</b> The Virtual Delivery Agent software installation on the following machine(s) is not functioning correctly. This issue can occur if the software was not installed correctly or does not support the current OS version on the machine. <b>**We verified:**</b> <b>-**[Passed]**</b> The VDA installation image path exists. <b>-**[Passed]**</b> The VDA installation key registry exists.</p>	
<p><span style="color: green;">●</span> <b>VDA domain membership verification</b> The domain membership of the following VDA(s) cannot be confirmed. This issue can occur if: * The VDA did not join the domain correctly. * DNS name resolution might not be working. * The domain controller can't be reached. * There is no trust relationship between the VDA and the domain controller. * A restart is required for the VDA due to Windows Update. <b>&lt;br&gt;</b>The VDA must be joined successfully to the domain so the VDA can register with the Site. If the VDA can't register with the Site, users cannot access the applications and desktops that the VDA hosts. <b>**We verified:**</b> <b>-**[Passed]**</b> The Local DNS name has been set. <b>-**[Passed]**</b> The Computer Domain and Role has been set.</p>	
<p><input type="radio"/> <b>VDA communication ports availability</b> TCP port 80 is unavailable and in use by OccupyProcesses. This port is required for BrokerAgent.exe. If this port is blocked or in use by another application, the VDA cannot register with the Site. If this happens, users might not be able to log on and access their applications and desktops.</p>	
<p><span style="color: green;">●</span> <b>Citrix Desktop Service status</b> The Citrix Desktop service is not running, properly installed, registered on the machine, or the service permissions might not be set correctly. This issue can occur if the service is not started or the system Event Log has traces of service related issues. If the Citrix Desktop Service is not present or running, the VDA can't register with the Site, preventing users from accessing their applications and desktops. <b>**We verified:**</b> <b>-**[Passed]**</b> All VDA services are running. <b>-**[Passed]**</b> The Event Log doesn't contain errors or warnings.</p>	
<p><span style="color: green;">●</span> <b>Windows Firewall configuration</b> Port BlockPorts blocked by firewall. The following Windows Firewall rules are not enabled on the VDA: * Inbound agent connections on TCP port 80 * Outbound Broker connections on TCP port 80 (default) <b>&lt;br&gt;</b></p>	
<p><span style="color: red;">◆</span> <b>VDA communication status with Delivery Controllers</b> The following VDA(s) can't communicate with the Delivery Controllers in the Site. This issue can occur if: * There are network issues preventing communication between the VDA and Delivery Controllers. * The VDA or Delivery Controllers have incorrect DNS settings. * Active Directory OU-based discovery of Delivery Controllers is not configured correctly. * Delivery Controller host names in the ListOfDDCs do not resolve correctly. * Delivery Controller host names in the ListOfDDCs and the Windows Hosts file are incorrect or misspelled. * The Delivery Controllers are not reachable on configured ports. <b>&lt;br&gt;</b>The VDA must be able to communicate with the Delivery Controllers so the VDA can register with the Site. If the VDA can't register with the Site, users can't access the applications and desktops that the VDA hosts. <b>**We verified:**</b> <b>-**[Passed]**</b> DDC connection by registry settings.</p>	<p>To resolve this issue, see [CTX227388] (<a href="https://support.citrix.com/article/CTX227388">https://support.citrix.com/article/CTX227388</a>)</p>

Close

注:

WEM タスクは、WEM へのフルアクセスと有効な権限を持つクラウド管理者だけが利用できます。

WEM タスクヘルスチェックの詳細については、Workspace Environment Management ドキュメントの [スクリプトタスク](#) 記事を参照してください。

## 該当なしまたは分類されていないメトリック

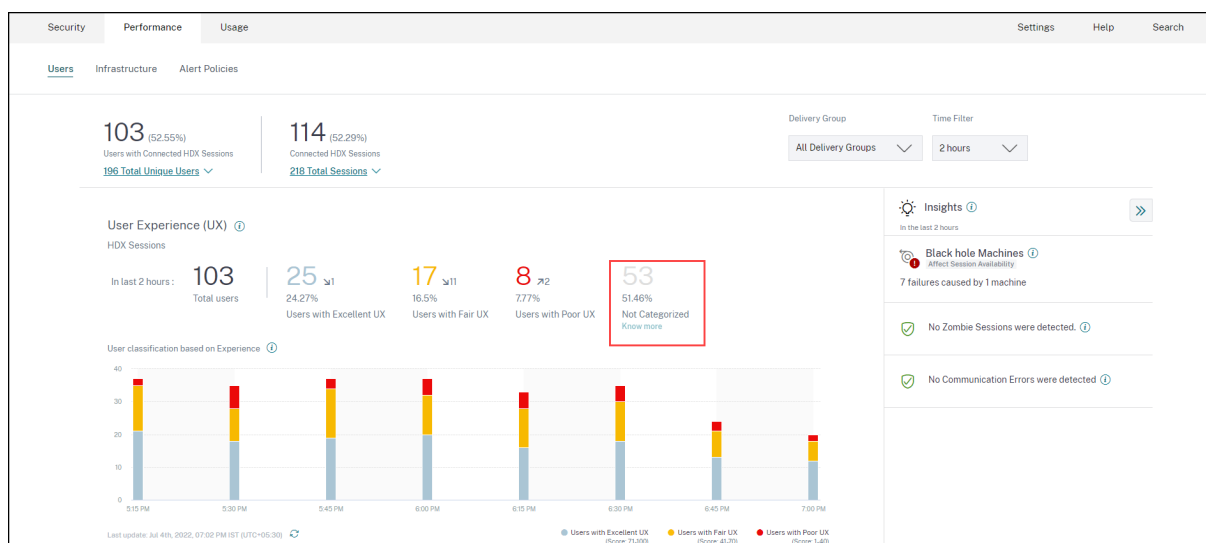
June 18, 2024

ユーザーエクスペリエンスダッシュボードと UX ファクターページには、特定のファクターやサブファクターに関し

「優秀」、「普通」、「不良」の 카테고リーに分類されていないユーザーやセッションが含まれている場合があります。さらに、UX ファクターとセルフサービスには、N/A 測定値が利用できなかったか、特定のワークフローにメトリクスが適用されないことを示す値を持つメトリクスを含めることができます。

これは、製品の計測に関する問題、またはネットワーク接続の問題が原因で発生することがあります。また、特定の設定上の問題や依存関係により、値が分類されない場合もあります。

### ユーザーとセッションが分類されない理由



[ユーザーエクスペリエンス] および [セッションの応答性] トレンドの [未分類] 分類の下にある [詳細情報] リンクをクリックして、特定のユーザーとセッションが分類されない主な理由を表示します。

## Users Not Categorized ✕

Users were not categorized due to one or more of the following reasons:

REASON	ACTION
EUEM service not active	<a href="#">Check service status</a>
Unsupported CWA version	<a href="#">Check CWA version</a>
Unsupported VDA version	<a href="#">Check VDA version</a>
UPM service not active	<a href="#">Check service status</a>

For more information on other reasons, click [Learn more](#).

- **EUEM** サービスがアクティブではありません： UX スコアを取得してユーザー分類を行うには、Citrix EUEM サービスをインストールして実行する必要があります。**EUEM** サービスがアクティブでない場合のサービス

ステータスの確認リンクは、このドキュメントの「[Citrix EUEM および Citrix Profile Management サービスのチェック](#)」セクションにつながります。これには、Citrix EUEM サービスが実行されていないアプリやデスクトップ環境内のマシンを識別するために実行できる PowerShell コードが含まれています。

- **UPM** サービスがアクティブではありません： UX スコアを取得してユーザー分類を行うには、Citrix Profile Management サービスをインストールして実行する必要があります。**UPM** サービスがアクティブでない場合のサービスステータスの確認リンクは、このドキュメントの「[Citrix EUEM および Citrix Profile Management サービスのチェック](#)」セクションにつながります。これには PowerShell コードが含まれており、これを実行してアプリやデスクトップ環境で、Citrix Performance Management サービスが実行されていないマシンを識別できます。
- サポートされていない **CWA** バージョン： [[CWA バージョンを確認](#)] リンクをクリックすると、**CitrixWorkspace Analytics for Performance** 機能に必要な [Citrix Workspace アプリの最低限必要なバージョンがリストされた Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックス](#)
- サポートされていない **VDA** バージョン： [[VDA バージョンの確認](#)] リンクをクリックすると、[Citrix Analytics for Performance](#) 機能のマシン上で実行するために最低限必要な [Citrix Virtual Apps and Desktops](#) がリストされた [Citrix VDA バージョンマトリックス](#)が表示されます。

[セッションの応答性] トレンドの [未分類] のセッション分類の下にある [[詳細情報](#)] リンクをクリックすると、次のような理由が示されます。

## Sessions Not Categorized ✕

Sessions were not categorized due to one or more of the following reasons:

REASON	ACTION
Session duration < 5 min	<a href="#">View sessions</a>
Unsupported CWA version	<a href="#">Check CWA version</a> <span style="font-size: 0.8em;">↗</span>
Unsupported VDA version	<a href="#">Check VDA version</a> <span style="font-size: 0.8em;">↗</span>
EUEM service not active	<a href="#">Check service status</a> <span style="font-size: 0.8em;">↗</span>

For more information on other reasons, click [Learn more](#).

セッションが分類されない主な理由の 1 つは、5 分未満の短いセッションでは、分類の基礎となる ICARTT のようなパフォーマンスメトリックが送信されないことです。[セッションの表示] リンクをクリックして、5 分未満のセッションを一覧表示する [セッションセルフサービス] ビューを開きます。

セッションが分類されないその他の理由は、サポートされていない CWA バージョン、サポートされていない VDA バージョン、および EUEM サービスがアクティブでないことです。

### 注記:

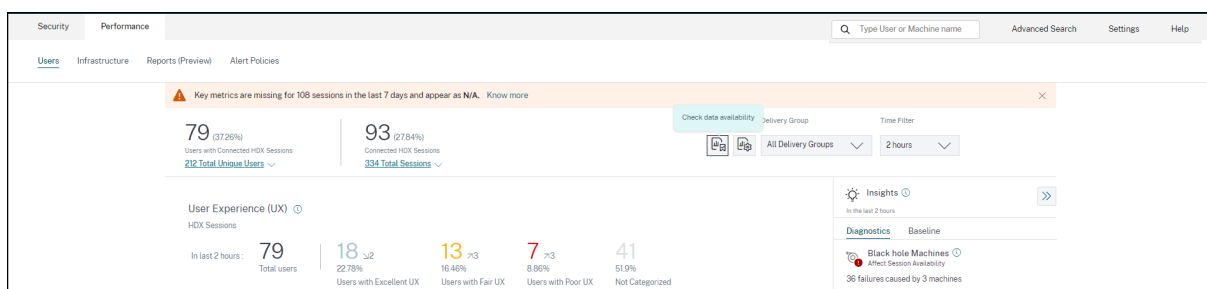
- 失敗したセッションのメトリックはすべて「N/A」と表示されます。
- 接続リリースを介して起動されたすべてのセッションは、ICA RTT およびログオン期間のメトリックが利用できないため、分類されません。

Performance Analytics ダッシュボードの特定のメトリクスとドリルダウンが N/A または Not Categorized である理由を以下に説明します。

### エンドポイントメトリクスに **N/A** 値が表示される理由

Citrix Virtual Apps and Desktops 環境を最適に分析するには、データの可用性が重要です。ロケーション、ISP、WiFi 強度、スループットなどのエンドポイントメトリックは、セッションエクスペリエンスの低下を優先順位付けするのに役立つ重要な指標です。適切な前提条件が満たされていないと、エンドポイントのメトリック値が欠落する可能性があります。

ユーザーエクスペリエンスダッシュボードには、過去 7 日間にエンドポイントメトリックが欠落しているセッションの数を示すバナーが含まれています。



「もっと知る」をクリックします。理由の詳細と、問題を解決するために実行できるアクションを含むモーダルボックスが表示されます。データ可用性アイコンをクリックしてモーダルを表示することもできます。

## Possible Reasons for Missing Key Metrics



**i** Endpoint telemetry such as Location, ISP, WiFi Signal Strength, and Throughput help in better triaging issues related to poor session experience.

### 75 sessions are missing endpoint telemetry.

Ensure that all StoreFront servers are onboarded, have data processing turned on, and the Citrix URLs are whitelisted from the endpoints. [Learn more](#)

[Review StoreFront Data Sources](#)

[Sessions missing endpoint data](#)

### 46 sessions launched from 37 endpoints run incompatible Citrix Workspace app versions.

Update the Citrix Workspace app versions on the endpoints.

[Sessions missing endpoint data](#)

[View the Citrix Workspace app version matrix](#)

### 100 sessions are missing telemetry as the endpoints run unsupported OS Platforms.

Some endpoint telemetry are supported on limited OS versions. We are working towards widening our

**Note:** Metrics that continue to show N/A values are outside the purview of this check.

- エンドポイントテレメトリが欠落する主な理由の1つは、StoreFront のオンボーディングです。StoreFront を正しくオンボーディングし、データ処理を有効にし、適切な URL を許可リストに登録する必要があります。**StoreFront** データソースを確認すると、[データソース] ページが表示されます。このページでは、Workspace アプリのデータ収集に必要な StoreFront のオンボーディングプロセスを順を追って説明します。Citrix Workspace ではオンボーディングは不要です。[エンドポイントデータが不足しているセッション] をクリックすると、StoreFront Onboarding が正しくない、または存在しないためにエンドポイントメトリックが欠落しているセッションのリストを含むセッションセルフサービスビューが開きます。
- エンドポイントテレメトリは、サポートされていない OS プラットフォームまたは互換性のない Citrix Workspace アプリバージョンを実行しているエンドポイントから起動されたセッションでは使用できません。「セッション欠落エンドポイントデータ」をクリックすると、セッションセルフサービスビューが開き、特定の理由によりエンドポイントテレメトリが欠落しているセッションのリストが表示されます。詳細については、[各機能の OS バージョンと、サポートされている Workspace アプリの必須バージョンを一覧表示するバージョンマトリックスを参照してください](#)。

N/A 値の理由を詳しく説明するツールヒントが、以下のエンドポイント関連指標のセッションセルフサービスビューで利用できるようになりました。

- Workspace App バージョン

- エンドポイントの国 (最後に確認された国)
- エンドポイントシティ (最後に知られたもの)
- エンドポイントのリンク速度 (P95)
- エンドポイント受信スループット (P95)
- エンドポイントスループット発信 (P95)
- ISP (インターネットサービスプロバイダー)

The screenshot shows the 'List of User Sessions' page. On the left, there are filter categories like Session State, Session Experience, and Endpoint OS. The main area contains a search bar with a filter expression: `Compatible-CWA-Version = "False" AND Workspace-App-Version != null AND Workspace-App-Version != "" AND Launch-Status = "Succeeded"`. Below the search bar is a table with columns: SESSION E..., USER NAME, DELIVERY G..., WORKSPAC..., ENDPOINT..., MACHINE N..., ENDPOINT CITY (LAST KN..., LAUNCH ST..., ENDPOINT IP, and ENDPOINT N... The table lists several sessions, with some having 'N/A' values. A tooltip is visible over one of the rows, stating: 'Update Citrix Workspace app version to 21.08 or later. View version matrix'.

ツールチップは、StoreFront のオンボーディングが正しくないか、サポートされていない OS プラットフォームまたは互換性のない Citrix Workspace アプリバージョンを実行しているエンドポイントから起動されたセッションが原因で、これらのメトリックの N/A 値に表示されます。セッションセルフサービスビューで利用できるメトリックの詳細については、「[セッションのセルフサービスビュー](#)」を参照してください。

#### ユーザー、ユーザーエクスペリエンススコア、セッションスコア未分類

ユーザー、ユーザーエクスペリエンススコア、セッションスコアは、選択した期間にセッション応答性またはセッションログオン時間係数のいずれかの測定値が利用できない場合、分類されないことがあります。

#### ICA RTT N/A およびセッション応答性が分類されていない

ICA RTT が N/A になると、セッション応答性に分類されないセッションが発生します。これは、次の理由により発生する可能性があります。

- エンドポイント OS は HTML5 または iOS のいずれかを実行しています。
- セッションは「失敗、切断」状態です。
- セッションが再接続されました。
- セッションは HDX プロトコルで実行されていません。
- Citrix Profile Management が実行されていません。
- エンドユーザーエクスペリエンス監視 (EUEM) サービスが実行されておらず、対応するポリシーがマシンで構成されていません。



- セッションが NetScaler Gateway バージョン 12.1 以降を介して接続されておらず、パフォーマンス向け Citrix Analytics で構成されている。詳細については、「[Gateway データソース](#)」を参照してください。
- NSAP が有効になっていないマシンからセッションが起動されます。
- セッションは新しい CGP（共通ゲートウェイプロトコル）セッションではありません。

#### ログオン期間が分類されない

- セッションは HDX プロトコルで実行されていません。
- ログオン期間を使用するには、Citrix Profile Management がマシン上で実行されている必要があります。Citrix Profile Management は、マシンイベントに基づいてログオン期間を計算し、その期間を監視サービスに転送します。リモート PC アクセスの展開が存在し、マシンのアップグレードが不要な場合は、Profile Management コンポーネント（Citrix Profile Management および Citrix Profile Management WMI プラグイン）を個別に展開できます。詳細については、ブログ「[リモート PC アクセスマシンの監視とトラブルシューティング](#)」を参照してください。

#### GPO N/A

仮想マシンでグループポリシー設定が構成または有効になっていない。

#### プロファイルロード N/A

- Citrix Profile Management がマシン上で実行されていません。
- マシンで Citrix Virtual Apps and Desktops バージョン 1912 以降が実行されていません。

#### 仮想マシンの起動 N/A

この測定は、セッションの起動中に電源管理対象マシンが起動された場合にのみ使用できます。

#### ログオンスクリプト N/A

ログオンスクリプトはセッション用に構成されていません。

#### 過負荷のマシンが分類されていない

- マシンが登録されていません
- リソースの過負荷が原因ではないセッションエクスペリエンスの低下のユーザー。

## ロケーションと **ISP N/A**

- エンドポイントは古いバージョンの Citrix Workspace アプリで実行されています。Citrix Analytics for Performance 機能に必要な Citrix Workspace アプリの最低バージョンについて詳しくは、「[Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックス](#)」を参照してください。
- セッション状態は **Failed** です。
- URL <https://locus.analytics.cloud.com/api/locateip> で通信タイムアウトが発生しました。
- IP アドレスが解決されない可能性があります。
- エンドポイントマシンの SendPublicIpAddress レジストリエントリは、IP アドレスの転送を無効にするように設定されています。
- オンプレミスのサイト展開の StoreFront サーバーが、Citrix Analytics で構成されていません。詳しくは、「[StoreFront を使用した Virtual Apps and Desktops サイトのオンボード](#)」を参照してください。

## **Workspace** アプリのバージョンまたはエンドポイント **OS** 該当なし

- エンドポイントでは、Windows バージョン 1912 以降の Citrix Workspace アプリが実行されていません。
- セッションは HDX プロトコルで実行されていません。
- セッションが失敗しました。

## 接続タイプ **N/A**

エンドポイントで Windows バージョン 20.12.0 以降の Citrix Workspace アプリが実行されていません。

## ネットワークインターフェースタイプ **N/A**

エンドポイントでは、Windows バージョン 2105 以降の Citrix Workspace アプリが実行されていません。

## 帯域幅とネットワーク遅延のメトリック **N/A**

マシンは Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2112 以降を実行していません。

**Analytics** の **VDA** データ収集ポリシーが「マシンで許可」に設定されていません。これは、モニタリングサービスが帯域幅や遅延の統計などのマシン関連のパフォーマンスメトリックを収集できるようにするために必要です。詳細については、「[Analytics のデータ収集に関するポリシー](#)」を参照してください。

## エンドポイントネットワークメトリック **N/A**

エンドポイントでは、Windows バージョン 2108 以降の Citrix Workspace アプリが実行されていません。

## Gateway サービスとコネクタ N/A

Gateway サービスとコネクタメトリックは、Gateway サービス (非 Rendezvous) と Rendezvous 1 でのみサポートされます。

負荷に基づいて分類されていないマシン

次の場合、マシンは分類されない可能性があります。

- マシンはシャットダウン、未登録、または障害状態です。
- このマシンではリソースデータを使用できません。リソース監視ポリシーがマシンで有効になっていることを確認します。詳細については、「[リソース監視を有効にする](#)」を参照してください。

## Citrix EUEM と Citrix Profile Management サービスのチェック

次の PowerShell スクリプトを実行して、Citrix EUEM および Citrix Profile Management サービスが実行されていないアプリとデスクトップ環境のマシンを特定します。サービスチェックスクリプトを実行するには、次の手順を実行します。

1. クラウド環境の場合は Cloud Connector へ、オンプレミス環境の場合は DDelivery Controller との RDP セッションを開始します。
2. 次のサービスチェック PowerShell スクリプトを実行します。このスクリプトを Cloud Connector で実行すると、ログインして顧客を選択するためのポップアップウィンドウが表示されます。

このスクリプトは、スクリプト自体と同じフォルダに 2 つの出力ファイルを生成します。

- upmnotrunning.txt には、Citrix Profile Management が実行されていないマシンの一覧を指定します。
- EUEMnotrunning.txt は、EUEM サービスが実行されていないマシンのリストを指定します。

```
1 add-pssnapin citrix*
2
3 #for more filter : https://developer-docs.citrix.com/projects/delivery-controller-sdk/en/latest/Broker/Get-BrokerMachine/
4 $dgList = @('All') #Add the delivery group names here
5
6 #Get list of machine in that environment
7 if($dgList[0] -eq 'All')
8 {
9
10     $machineList = Get-BrokerMachine
11 }
12
13 else
14 {
15
16     for($i=0; $i -lt $dgList.Length; $i++)
```

```
17     {
18
19         $machineList += Get-BrokerMachine -DeliveryGroupName $dgList[$i]
20     }
21 }
22 }
23
24
25
26 $upmNotRunning = [System.Collections.ArrayList] @()
27 $euemNotRunning = [System.Collections.ArrayList] @()
28
29 #Check for UPM and EUEM service status in machine
30 for($i=0; $i -lt $machineList.Length; $i++)
31 {
32
33     Write-Host("Machine Name : " + $machineList[$i].DNSName)
34
35     #UPM Service check
36
37     $upm = Get-Service ctxProfile -ComputerName $machineList[$i].
38         DNSName -ErrorVariable getServiceErrorUpm -ErrorAction
39         SilentlyContinue
40
41     if ($getServiceErrorUpm.Count -gt 0 -and ($getServiceErrorUpm |
42         foreach {
43             $_.FullyQualifiedErrorId -like "*NoServiceFoundForGivenName*" }
44         ))
45     {
46         Write-Warning "There is no service named UPM in
47             $machineList[$i].DNSName"
48         $upmNotRunning.Add($machineList[$i].DNSName)
49     }
50
51     elseif ($getServiceErrorUpm.Count -gt 0)
52     {
53         Write-Warning("Exception on $machineList[$i].DNSName :
54             $getServiceErrorUpm")
55     }
56
57     else
58     {
59
60         if ( -Not('Running' -eq $upm.Status))
61         {
62             Write-Host("UPM service not running on $machineList[$i
63                 ].DNSName")
64             $upmNotRunning.Add($machineList[$i].DNSName)
65         }
66     }
67 }
```

```
64     }
65
66
67
68     #EUEM Service check
69     $euem = Get-Service 'Citrix EUEM' -ComputerName $machineList[$i]
        .DNSName -ErrorVariable getServiceErrorEuem -ErrorAction
        SilentlyContinue
70
71     if ($getServiceErrorEuem.count -gt 0 -and ($getServiceErrorEuem
        | foreach {
72 $_.FullyQualifiedErrorId -like "*NoServiceFoundForGivenName*" }
73 ))
74     {
75
76         Write-Warning "There is no service named Citrix EUEM in
        $machineList[$i].DNSName"
77         $euemNotRunning.Add($machineList[$i].DNSName)
78     }
79
80     elseif ($getServiceErrorEuem -gt 0)
81     {
82
83         Write-Warning("Exception on $machineList[$i].DNSName :
        $getServiceErrorEuem")
84     }
85
86     else
87     {
88
89         if (-Not('Running' -eq $euem.Status))
90         {
91
92             Write-Host("EUEM service not running on $machineList[
        $i].DNSName")
93             $euemNotRunning.Add($machineList[$i].DNSName)
94         }
95     }
96 }
97
98
99 }
100
101
102 # Add the list of machines not having UPM or EUEM services running to a
    file
103 Out-File -FilePath .\UpmNotRunning.txt -InputObject $upmNotRunning -
    Encoding ASCII -Width 100
104 Out-File -FilePath .\EuemNotRunning.txt -InputObject $euemNotRunning -
    Encoding ASCII -Width 100
105 <!--NeedCopy-->
```

## セルフサービス検索

December 7, 2023

### セルフサービス検索とは何ですか

セルフサービス検索機能を使用すると、データソースから受信したユーザーイベントを検索してフィルタリングできます。基礎となるユーザーイベントとその属性を調べることができます。これらのイベントは、データの問題を特定し、トラブルシューティングするのに役立ちます。検索ページには、データソースのさまざまなファセット (ディメンション) と指標が表示されます。検索クエリを定義し、フィルタを適用して、定義した基準に一致するイベントを表示できます。デフォルトでは、セルフサービス検索ページには、過去 1 日のユーザーイベントが表示されます。

現在、セルフサービス検索機能は、次のデータソースで使用できます。

- [Authentication](#)
- [Gateway](#)
- [Secure Browser](#)
- [Secure Private Access](#)
- [アプリケーションとデスクトップ](#)
- [パフォーマンスユーザー、マシン、セッション](#)

また、定義したポリシーに一致するイベントに対してセルフサービス検索を実行することもできます。詳細については、[ポリシーのセルフサービス検索を参照してください](#)。

### セルフサービス検索にアクセスする方法

次のオプションを使用して、セルフサービス検索にアクセスできます。

- **トッパー:** トッパーの [ 検索 ] をクリックすると、選択したデータソースのすべてのユーザーイベントが表示されます。
- **ユーザープロファイルページのリスクタイムライン:** [ イベント検索 ] をクリックして、各ユーザーのイベントを表示します。

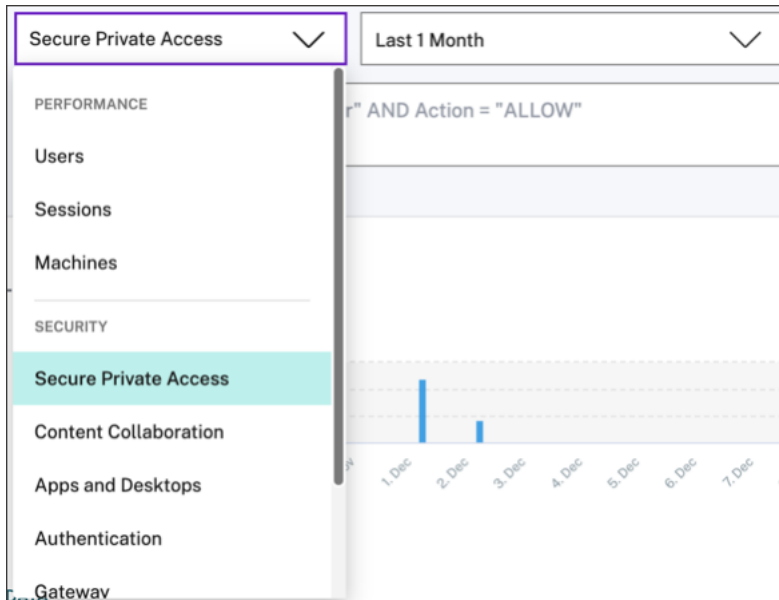
### トッパーからのセルフサービス検索

ユーザーインターフェイスの任意の場所からセルフサービス検索ページに移動するには、このオプションを使用します。

1. [ 検索 (Search) ] をクリックして、セルフサービスページを表示します。



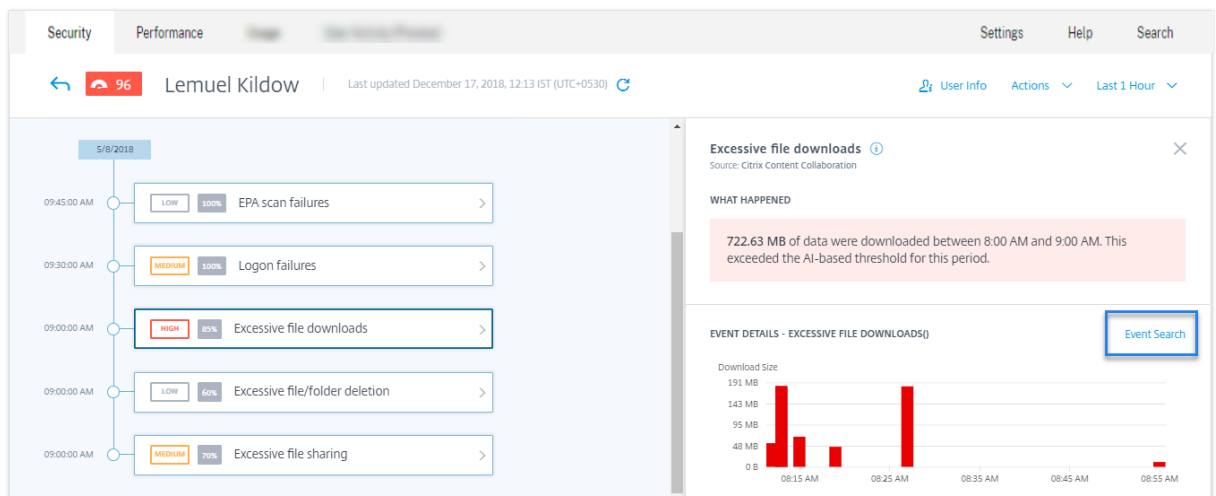
2. データソースと期間を選択して、対応するイベントを表示します。



### ユーザーのリスクタイムラインからのセルフサービス検索

リスク指標に関連付けられたユーザーイベントを表示する場合は、このオプションを使用します。

ユーザーのタイムラインからリスク指標を選択すると、右側のペインにリスク指標情報セクションが表示されます。[ イベント検索 ] をクリックして、セルフサービス検索ページで、ユーザーおよびデータソース (リスク指標がトリガーされる) に関連付けられたイベントを調べます。



ユーザーリスクタイムラインの詳細については、「[リスクタイムライン](#)」を参照してください。

## セルフサービス検索の使用方法

セルフサービス検索ページの次の機能を使用します。

- イベントをフィルタリングするファセット。
- 検索ボックスにクエリを入力し、イベントをフィルタリングします。
- 期間を選択するための時間セレクタ。
- タイムラインの詳細。イベントグラフを表示します。
- イベントデータを使用して、イベントを表示します。
- CSV形式にエクスポートして、検索イベントをCSVファイルとしてダウンロードします。
- ビジュアルサマリーをエクスポートして、検索クエリのビジュアルサマリーレポートをダウンロードします。
- イベントを複数の列で並べ替えるには、複数列でソートします。

### ファセットを使用してイベントをフィルタリングする

ファセットは、イベントを構成するデータポイントの要約です。ファセットはデータソースによって異なります。たとえば、Secure Private Access データソースのファセットは、評判、アクション、場所、およびカテゴリグループです。一方、アプリとデスクトップのファセットは、イベントタイプ、ドメイン、プラットフォームです。

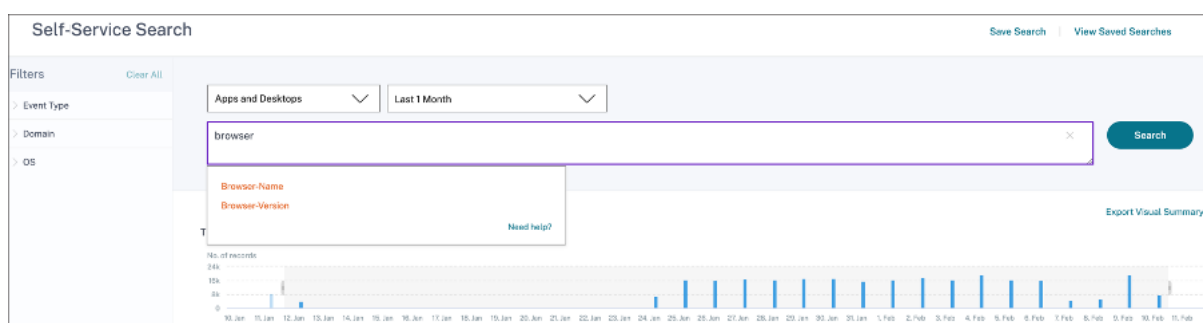
ファセットを選択して、検索結果をフィルタリングします。選択したファセットがチップとして表示されます。

各データソースに対応するファセットについては、この記事で前述したデータソースのセルフサービス検索の記事を参照してください。

### 検索ボックスで検索クエリを使用してイベントをフィルタリングする

検索ボックスにカーソルを置くと、ユーザーイベントに基づいたディメンションのリストが検索ボックスに表示されます。これらのディメンションは、データソースによって異なります。ディメンションと有効な演算子を使用して、検索条件を定義し、必要なイベントを検索します。

たとえば、アプリとデスクトップのセルフサービス検索では、**Browser**ディメンションに対して次の値が取得されます。ディメンションを使用してクエリを入力し、期間を選択して、[検索]をクリックします。





特定のディメンション（Event-TypeやClipboard-Operationなど）を有効な演算子と一緒に選択すると、ディメンションの値が自動的に表示されます。推奨オプションから値を選択するか、要件に応じて新しい値を入力できます。

検索クエリでサポートされる演算子 検索クエリで次の演算子を使用して、検索結果を絞り込みます。

演算子	説明	例	出力
=	検索ディメンションに値を割り当てます。	User-Name : John	ユーザー John のイベントを表示します。
~	検索ディメンションに値を割り当てます。	User-Name = John	ユーザー John のイベントを表示します。
~	類似した値を持つイベントを検索します。	User-Name ~ test	類似のユーザー名を持つイベントを表示します。
""	値をスペースで区切って囲みます。	User-Name = "John Smith"	ユーザー John Smith のイベントを表示します。
< >	リレーショナル値を検索します。	Data Volume > 100	データボリュームが 100 GB を超えるイベントを表示します。
AND	指定した条件が真であるイベントを検索します。	User-Name : John AND Data Volume > 100	データボリュームが 100 GB を超えるユーザー John のイベントを表示します。
!~	指定した一致するパターンについてイベントをチェックします。この NOT LIKE 演算子は、イベント文字列のどこにも一致するパターンを含まないイベントを返します。	ユーザー名! ~ ジョン	John、John Smith、または一致する名前「John」を含むユーザー以外のユーザーのイベントを表示します。

演算子	説明	例	出力
!=	イベントで、指定した文字列が正確にチェックされません。この NOT EQUAL 演算子は、イベント文字列のどこにも正確な文字列を含まないイベントを返します。	国!= 米国	米国以外の国のイベントを表示します。
*	指定した文字列に一致するイベントを検索します。現在、*演算子は次の演算子、:、=および!=でのみサポートされています。検索結果では大文字と小文字が区別されます。	<p>User-Name = John*</p> <p>User-Name = John</p> <p>User-Name = *Smith</p> <p>ユーザー名:John*</p> <p>ユーザー名:John</p> <p>ユーザー名:*Smith</p> <p>ユーザー名! = ジョン *</p> <p>ユーザー名! = * スミス</p>	<p>John で始まるすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p> <p>John を含むすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p> <p>Smith で終わるすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p> <p>John で始まるすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p> <p>John を含むすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p> <p>Smith で終わるすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p> <p>John で始まるすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p> <p>Smith で終わらないすべてのユーザー名のイベントを表示します。</p>

演算子	説明	例	出力
IN	検索ディメンションに複数の値を割り当てて、1つ以上の値に関連するイベントを取得します。注：現在、この演算子は、アプリとデスクトップ -Device ID、 Domain、 Event-TypeおよびUser-Nameのディメンションで使用できます。 この演算子は、文字列値にのみ適用されます。	ユーザーネーム IN (ジョン、ケビン)	ジョンまたはケビンに関連するすべてのイベントを見つける。
NOT IN	検索ディメンションに複数の値を割り当てて、指定した値を含まないイベントを検索します。注：現在、この演算子は、アプリとデスクトップ -Device ID、 Domain、 Event-TypeおよびUser-Nameのディメンションで使用できます。 この演算子は、文字列値にのみ適用されます。	User-Name NOT IN (John, Kevin)	John と Kevin 以外のすべてのユーザーのイベントを検索します。

演算子	説明	例	出力
IS EMPTY	ディメンションの NULL 値または空の値をチェックします。この演算子は、 <b>App-Name</b> 、 <b>Browser</b> 、 <b>Country</b> などの文字列タイプのディメンションでのみ機能します。 <b>Upload-File-Size</b> 、 <b>Download-File-Size</b> 、 <b>Client-IP</b> などの非文字列 (数値) タイプのディメンションには使用できません。	Country IS EMPTY	国名が利用できない、または空である (指定されていない) イベントを検索します。
IS NOT EMPTY	ディメンションの NULL 値でない値または特定の値がないかどうかをチェックします。この演算子は、 <b>App-Name</b> 、 <b>Browser</b> 、 <b>Country</b> などの文字列タイプのディメンションでのみ機能します。 <b>Upload-File-Size</b> 、 <b>Download-File-Size</b> 、 <b>Client-IP</b> などの非文字列 (数値) タイプのディメンションには使用できません。	Country IS NOT EMPTY	国名が利用可能または指定されているイベントを検索します。
OR	どちらかまたは両方の条件に該当する値を検索します。	(ユーザー名 = <b>John</b> * またはユーザー名 = * <b>Smith</b> ) および イベントタイプ = 「 <b>Session.Logon</b> 」	<b>John</b> で始まる、または <b>Smith</b> <b>Session.Logon</b> で終わるすべてのユーザー名のイベントを表示します。

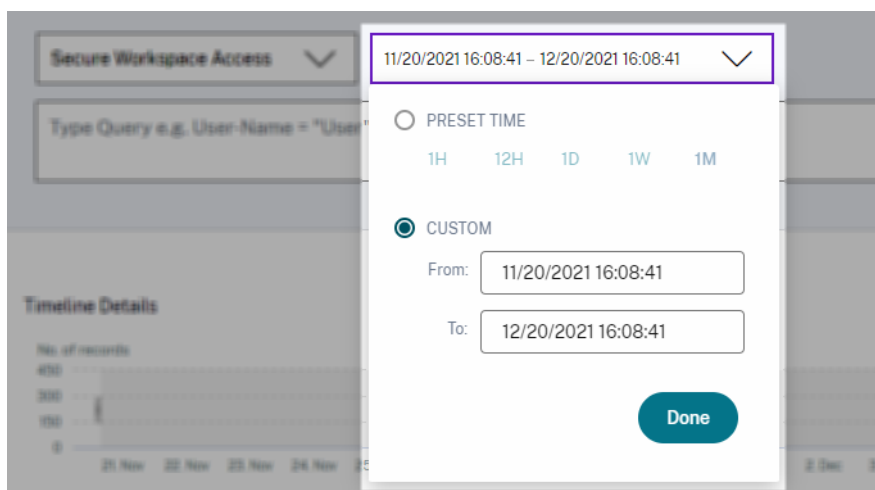
## 注

**NOT EQUAL** 演算子では、クエリーのディメンションの値を入力するときに、データ・ソースのセルフ・サービス検索ページで使用可能な正確な値を使用します。寸法値では、大文字と小文字が区別されます。

データソースの検索クエリを指定する方法の詳細については、この記事で前述したデータソースのセルフサービス検索の記事を参照してください。

## イベントを表示する時間を選択

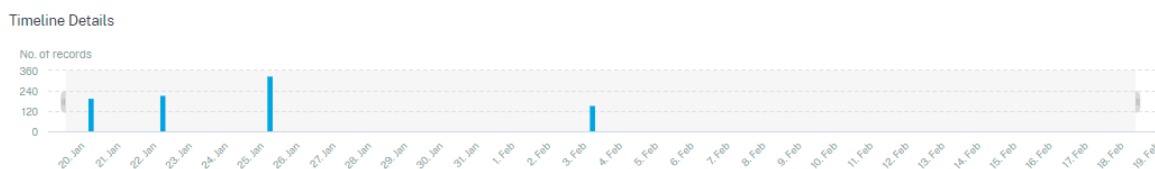
プリセット時間を選択するか、カスタムの時間範囲を入力して [ 検索 (Search) ] をクリックしてイベントを表示します。



## タイムラインの詳細を表示する

タイムラインには、選択した期間のユーザーイベントがグラフィカルに表示されます。セレクトアバーを移動して時間範囲を選択し、選択した時間範囲に対応するイベントを表示します。

この図は、アクセスデータのタイムラインの詳細を示しています。



## イベントを見る

ユーザーイベントに関する詳細情報を表示できます。**DATA** テーブルで、各列の矢印をクリックして、ユーザーイベントの詳細を表示します。

この図は、ユーザーのアクセスデータに関する詳細を示しています。

DATA Export to CSV format | Add or Remove Columns | Sort By

	TIME	USER NAME	URL	CATEGORY GROUP	REPUTATION	ACTION
>	Jan 20, 7:38:49 PM	amash@smarttools.com	www.gstatic.com	Computing and Internet	Clean Access	BLOCK
>	Jan 20, 7:38:49 PM	amash@smarttools.com	www.gstatic.com	Computing and Internet	Clean Access	BLOCK
∨	Jan 20, 7:38:49 PM	amash@smarttools.com	www.gstatic.com	Computing and Internet	Clean Access	BLOCK

Client IP: 138.205.85

City: Amsterdam

User Agent: Mozilla/5.0 (X11; Linux x86\_64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/85.0.4183.102 Safari/537.36 CWABrowser

Operating System: Linux

Response: 0

Content Category: Not Available

Domain: Not Available

Upload: 664

Client Port: 261

Country: Netherlands

Browser: Chrome

Device: Other

Request: GET

Response Len: 0

Content Type: Not Available

Category: Content Delivery Networks and Infrastructure

Download: 0

列を追加または削除する イベントテーブルの列を追加または削除して、対応するデータポイントを表示または非表示にすることができます。以下を実行します：

1. [列の追加または削除] をクリックします。

DATA Export to CSV format | Add or Remove Columns | Sort By

	TIME	USER NAME	URL	CATEGORY GROUP	REPUTATION	ACTION
>	Feb 3, 7:53:10 PM	amash@smarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
>	Feb 3, 7:53:09 PM	amash@smarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
>	Feb 3, 7:53:08 PM	amash@smarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
>	Feb 3, 7:53:07 PM	amash@smarttools.com	www.gstatic.com	Computing and Internet	Clean Access	BLOCK
>	Feb 3, 7:53:07 PM	amash@smarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
>	Feb 3, 7:53:06 PM	amash@smarttools.com	depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW

2. リストからデータ要素を選択または選択解除し、「更新」をクリックします。

### Add/Remove Columns ✕

**Current Columns**

- TIME
- USER NAME
- URL
- CATEGORY GROUP
- REPUTATION
- ACTION

---

**Add Columns**

- DOMAIN
- CATEGORY
- UPLOAD
- DOWNLOAD

**Update**

リストからデータポイントを選択解除すると、対応する列がイベントテーブルから削除されます。ただし、ユーザーのイベント行を展開すると、そのデータポイントを表示できます。たとえば、リストから **TIME** データポイントを選択解除すると、**TIME** 列がイベントテーブルから削除されます。時間レコードを表示するには、ユーザのイベント行を展開します。

USER NAME	URL	CATEGORY GROUP	REPUTATION
s	/Control/Ping	Computing & Internet	Clean Access
Client IP: Not Available Client Port: Not Available City: Malvern Country: United States User Agent: Not Available Browser: Other Device: Other Operating System: Other Request: GET Response: Not Available Response Len: Not Available Content Category: Not Available Content Type: Not Available Time: Jun 24 11:56 AM Domain: Not Available Category: Computing & Internet Upload: 597 B Download: 202 B			

イベントを **CSV** ファイルにエクスポートする

検索結果を CSV ファイルにエクスポートし、参照用に保存します。[ **CSV 形式にエクスポート (Export to CSV format)** ] をクリックしてイベントをエクスポートし、生成された CSV ファイルをダウンロードします。**CSV** 形式へのエクスポート機能を使用して、**10** 万行をエクスポートできます。

TIME	USER NAME	URL	CATEGORY GROUP	REPUTATION	ACTION
> Feb 3, 7:53:10 PM	winahgsmarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
> Feb 3, 7:53:09 PM	winahgsmarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
> Feb 3, 7:53:08 PM	winahgsmarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
> Feb 3, 7:53:07 PM	winahgsmarttools.com	www.gstatic.com	Computing and Internet	Clean Access	BLOCK
> Feb 3, 7:53:07 PM	winahgsmarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
> Feb 3, 7:53:06 PM	winahgsmarttools.com	depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW

ビジュアルサマリーを書き出す

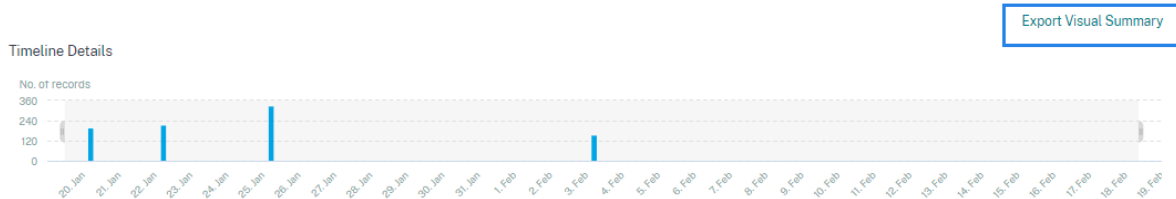
検索クエリのビジュアルサマリーレポートをダウンロードし、他のユーザー、管理者、またはエグゼクティブチームとコピーを共有できます。

ビジュアルサマリーをエクスポートをクリックして、ビジュアルサマリーレポートを PDF としてダウンロードします。レポートには、次の情報が含まれています。

- 選択した期間のイベントに対して指定した検索クエリ。
- 選択した期間のイベントに適用したファセット（フィルタ）。
- 選択した期間の検索イベントのタイムラインチャート、棒グラフ、グラフなどの視覚的なサマリー。



データソースの場合、データが棒グラフ、タイムラインの詳細などのビジュアル形式で表示される場合にのみ、ビジュアルサマリーレポートをダウンロードできます。それ以外の場合、このオプションは使用できません。たとえば、アプリとデスクトップ、セッションなどのデータソースのビジュアルサマリーレポートをダウンロードして、データをタイムラインの詳細と棒グラフとして表示できます。Users や Machines などのデータソースの場合、データは表形式でのみ表示されます。したがって、ビジュアルサマリーレポートをダウンロードすることはできません。



### 複数列の並べ替え

並べ替えは、データの整理に役立ち、可視性を高めます。セルフサービス検索ページで、ユーザーイベントを 1 つ以上の列で並べ替えることができます。列は、ユーザー名、日付と時刻、URL などのさまざまなデータ要素の値を表します。これらのデータ要素は、選択したデータソースによって異なります。

複数列の並べ替えを実行するには、次の操作を行います。

1. [並べ替え] をクリックします。

TIME	USER NAME	URL	CATEGORY GROUP	REPUTATION	ACTION
> Feb 3, 7:53:10 PM	arimah@smarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW
> Feb 3, 7:53:09 PM	arimah@smarttools.com	adsbb.depositfiles.com	Business and Industry	Malicious Access	ALLOW

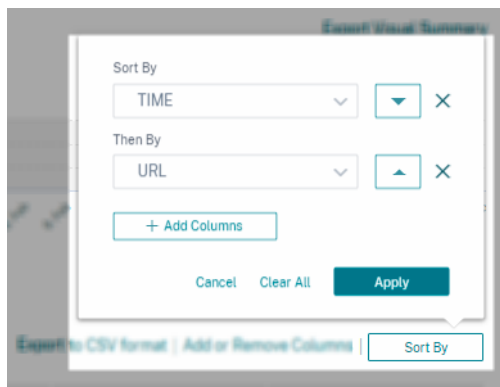
2. [並べ替え基準] リストから列を選択します。
3. 列内のイベントを並べ替えるには、昇順 (上矢印) または降順 (下矢印) の並べ替え順序を選択します。
4. [+ 列の追加] をクリックします。
5. [次の項目] リストから別の列を選択します。
6. 列内のイベントをソートするには、ソート順として、昇順 (上矢印) または降順 (下方向エラー) を選択します。

注

最大 6 つの列を追加して、並べ替えを実行できます。

7. [適用] をクリックします。
8. 上記の設定を適用しない場合は、[キャンセル] をクリックします。選択した列の値を削除するには、「すべてクリア」 (**Clear All**) をクリックします。

次の例は、Secure Private Access イベントに対する複数列のソートを示しています。イベントは、時刻 (新しい順)、URL (アルファベット順) の順にソートされます。



または、**Shift** キーを使用して複数列の並べ替えを実行することもできます。**Shift** キーを押しながら列見出しをクリックして、ユーザーイベントを並べ替えます。

### セルフサービス検索を保存する方法

管理者は、セルフサービスクエリを保存できます。この機能により、分析やトラブルシューティングで頻繁に使用するクエリを書き換える時間と労力を節約できます。次のオプションは、クエリーとともに保存されます。

- 適用された検索フィルタ
- 選択したデータソースと期間

セルフサービスクエリを保存するには、次の手順を実行します。

1. 必要なデータソースと期間を選択します。
2. 検索バーにクエリを入力します。
3. 必要なフィルターを適用します。
4. [検索を保存] をクリックします。
5. カスタムクエリを保存する名前を指定します。

(注

) クエリ名が一意であることを確認します。それ以外の場合、クエリは保存されません。

6. 検索クエリレポートのコピーを自分や他のユーザーに定期的送信する場合は、【電子メールレポートのスケジュール] ボタンを有効にします。詳細については、「検索クエリのメールをスケジュールする」を参照してください。
7. [保存] をクリックします。

保存した検索を表示するには、次の手順に従います。

1. [保存された検索の表示] をクリックします。
2. 検索クエリの名前をクリックします。

保存した検索を削除するには:

1. [保存された検索の表示] をクリックします。
2. 保存した検索クエリを選択します。
3. [保存された検索条件を削除] をクリックします。

	NAME	DATA SOURCE	CREATOR	CREATED ON	LAST USED
> <input checked="" type="checkbox"/>	Apps and Desktops_self_service_...	Apps and Desktops		Nov 11, 2020	Nov 11, 2020
> <input type="checkbox"/>	Users_kunal naithani_2020-Nov-...	Users		Nov 10, 2020	Nov 10, 2020
> <input type="checkbox"/>	Apps and Desktops_HP_2020-Oc...	Apps and Desktops		Oct 22, 2020	Nov 10, 2020
> <input type="checkbox"/>	<script>alert(1)</script>	Apps and Desktops		Oct 22, 2020	Nov 10, 2020

1 Search Selected Remove saved search

保存済み検索を変更するには、次の操作を行います。

1. [保存された検索の表示] をクリックします。
2. 保存した検索クエリの名前をクリックします。
3. 要件に基づいて、検索クエリまたはファセットの選択を変更します。
4. [検索の更新] > [保存] をクリックして、変更した検索を同じ検索クエリ名で更新して保存します。
5. 変更した検索を新しい名前で保存する場合は、下矢印をクリックし、[新しい検索として保存] > [名前を付けて保存] をクリックします。

検索を新しい名前に置き換えると、検索は新しいエントリとして保存されます。置換時に既存の検索名を保持すると、変更された検索データが既存の検索データを上書きします。

#### 注

- クエリの所有者のみが、保存された検索を変更または削除できます。
- 保存した検索リンクアドレスをコピーして、他のユーザーと共有することができます。

#### 検索クエリのメールをスケジュールする

メール配信スケジュールを設定することで、検索クエリレポートのコピーを自分や他のユーザーに定期的に送信できます。

このオプションは、検索クエリレポートに棒グラフ、タイムラインの詳細などのビジュアル形式のデータが含まれている場合のみ使用できます。そうしないと、メール配信をスケジュールできません。たとえば、[アプリとデスクトップ]、[セッション]などのデータソースの電子メールをスケジュールして、タイムラインの詳細と棒グラフとしてデータを表示できます。UsersやMachinesなどのデータソースの場合、データは表形式でのみ表示されます。したがって、メールをスケジュールすることはできません。

検索クエリの保存中にメールをスケジュールする

検索クエリの保存中に、電子メール配信スケジュールを次のように設定します。

1. [検索の保存] ダイアログボックスで、[電子メールレポートのスケジュール] ボタンを有効にします。

[Save Search](#) | [View Saved Searches](#)

**Save Search** ×

Name your Search

Schedule email report

Send to

abc@citrix.com xyz@citrix.com ▼

Set up schedule

Date

Time

Repeats

2. 受信者の電子メールアドレスを入力または貼り付けます。

注

メールグループはサポートされていません。

3. メール配信の日付と時刻を設定します。
4. 配信頻度（毎日、毎週、または毎月）を選択します。
5. [保存] をクリックします。

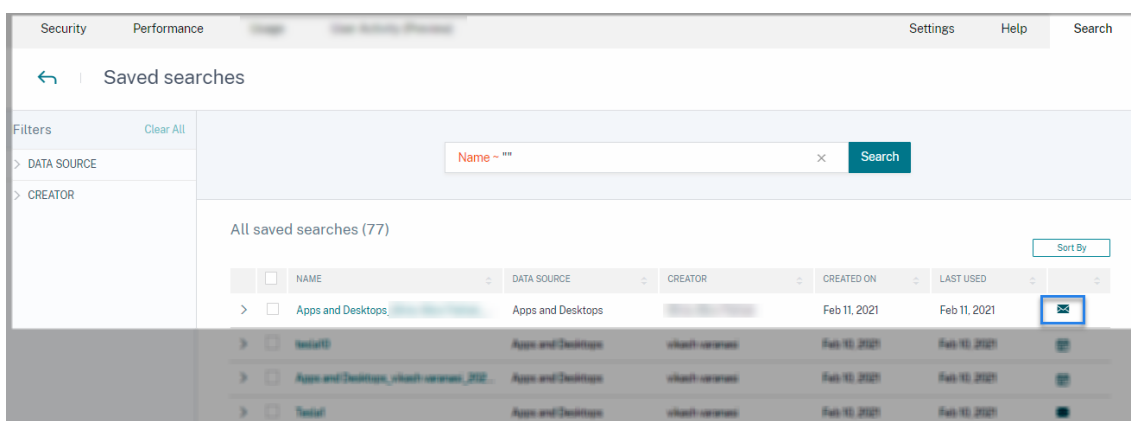
すでに保存されている検索クエリのメールをスケジュールする

以前に保存した検索クエリの電子メール配信スケジュールを設定する場合は、次の操作を行います。

1. [保存された検索の表示] をクリックします。
2. 作成した検索クエリに移動します。[このクエリを電子メールで送信] アイコンをクリックします。

注

保存した検索クエリの電子メール配信をスケジュールできるのは、クエリの所有者だけです。



3. [電子メールレポートをスケジュールする] ボタンを有効にします。
4. 受信者の電子メールアドレスを入力または貼り付けます。

注

メールグループはサポートされていません。

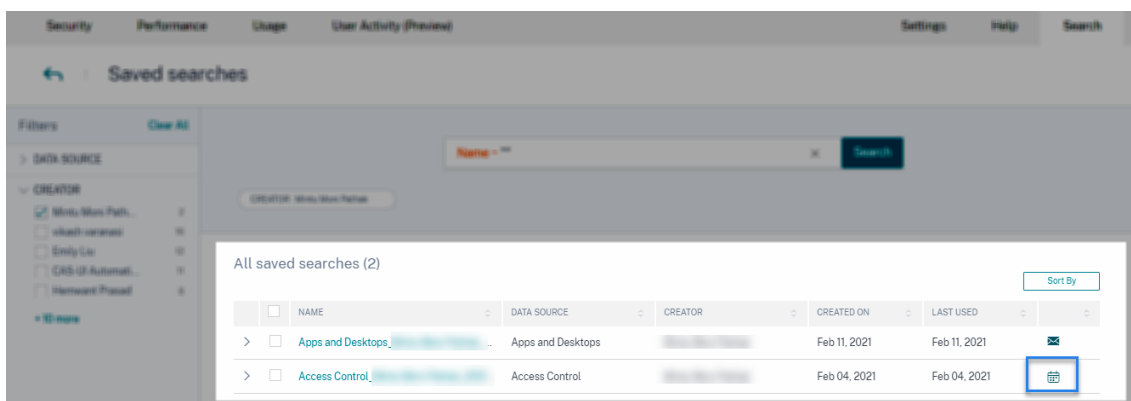
5. メール配信の日付と時刻を設定します。
6. 配信頻度（毎日、毎週、または毎月）を選択します。
7. [保存] をクリックします。

検索クエリのメール配信スケジュールを停止する

1. [保存された検索の表示] をクリックします。
2. 作成した検索クエリに移動します。[メール配信スケジュールの表示] アイコンをクリックします。

注

保存した検索クエリの電子メールスケジュールを停止できるのは、クエリの所有者だけです。



3. [電子メールレポートのスケジュール] ボタンを無効にします。
4. [保存] をクリックします。

#### メールコンテンツ

受信者は、「Citrix Cloud-通知 < donotreplynotifications@citrix.com >」から検索クエリレポートに関する電子メールを受信します。レポートは PDF ドキュメントとして添付されます。メールは、[電子メールレポートのスケジュール] 設定で定義した一定の間隔で送信されます。

検索クエリレポートには、次の情報が含まれています。

- 選択した期間のイベントに対して指定した検索クエリ。
- イベントに適用したファセット (フィルタ)。
- タイムラインチャート、棒グラフ、検索イベントのグラフなどの視覚的なサマリー。

#### フルアクセス管理者および読み取り専用アクセス管理者の権限

- フルアクセス権を持つ Citrix Cloud 管理者は、[検索] ページで使用できるすべての機能を使用できます。
- 読み取り専用アクセス権を持つ Citrix Cloud 管理者の場合、[検索] ページでは次のアクティビティのみを実行できます。
  - データソースと期間を選択して、検索結果を表示します。
  - 検索クエリを入力し、検索結果を表示します。
  - 他の管理者の保存済み検索結果を表示します。
  - ビジュアルサマリーをエクスポートし、検索結果を CSV ファイルとしてダウンロードします。

管理者の役割について詳しくは、「[Citrix Analytics の管理者の役割の管理](#)」を参照してください。

## セルフサービス検索によるパフォーマンス

February 14, 2024

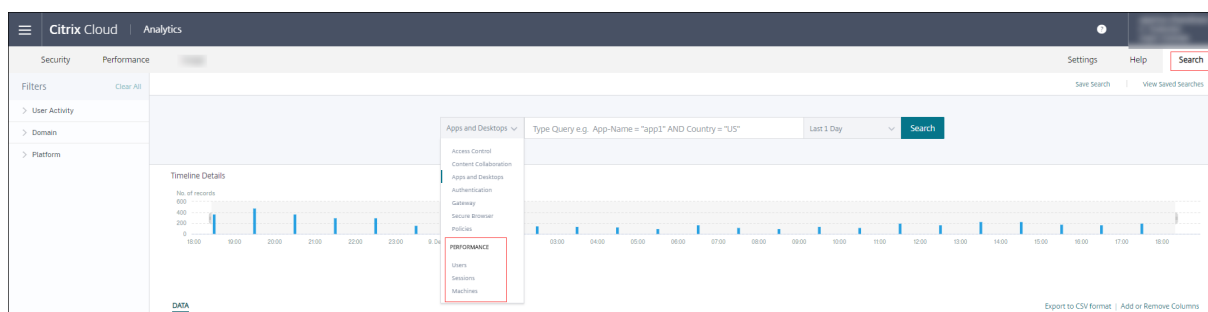
セルフサービス検索では、Citrix Analytics for Performance によって収集されたユーザー、セッション、およびマシンに関連する主要業績評価指標に関する洞察が得られます。セッションの応答性、ログオン期間、セッション起動試行、セッション失敗回数などのパフォーマンスメトリックが、選択に基づいてソートおよびフィルタリングされたユーザー、マシン、またはセッションについて表示されます。

セルフサービスページには、Citrix Analytics のメインの [検索] メニューからアクセスできます。

### 注:

セルフサービス検索の使用方法、検索クエリの電子メールのスケジュール設定など、セルフサービス機能の詳細については、「[セルフサービス検索](#)」を参照してください。

セルフサービスページでパフォーマンス関連のイベントを表示するには、検索バーのリストから [パフォーマンス] で [ユーザー]、[セッション]、または [マシン] を選択し、期間を選択して [検索] をクリックします。



ユーザーエクスペリエンスダッシュボードとユーザーエクスペリエンス (UX) ファクターページでユーザー、セッション、またはマシン番号をそれぞれクリックすると、特定のユーザー、セッション、およびマシンベースのセルフサービスページも表示されます。

検索バーを使用してクエリを入力し、結果をフィルタリングできます。左側のペインのファセットを使用して検索を絞り込むこともできます。表示されるユーザー、セッション、またはマシンのセットは、選択基準に基づいています。

The screenshot shows the 'List of Users' interface in Citrix Analytics for Performance. The left sidebar contains several filter categories:

- User Experience:** Fair (218), Not Available (18), Excellent (1).
- Factors affecting User Experience:**
  - Session Logon Duration:** Fair (204), Poor (20), Excellent (8), Not Available (5).
  - Session Reliability:** Excellent (232), Not Available (5).
  - Session Responsiveness:** Fair (232), Not Available (5).
  - Session Resiliency:** Excellent (232), Not Available (5).
- Site Name:** cloudxdsite1 (129), cloudxdsite0 (108).

The main data table has the following columns: USER EXPERL., USER NAME, TOTAL SESSL., SESSIONLO..., BROKERING, VM START, HDX CONNE..., AUTHENTICA..., PROFILELO..., GPOS, LOGON SCR., INTERACTIV..., and a '+' icon. The table contains 10 rows of data, with the first row showing 0 user experiences and 1 total session.

イベントをフィルタリングするファセットを選択

左側のペインのファセットを使用してデータをフィルタリングします。Citrix Analytics for Performance に関連するファセットの一部は次のとおりです。



Filters
Clear All

**▼ User Experience**

<input type="checkbox"/> Fair	313
<input type="checkbox"/> Not Categoriz...	65
<input type="checkbox"/> Excellent	30
<input checked="" type="checkbox"/> Poor	26

**▼ Factors affecting User Experience**

**▼ Session Logon Duration**

<input type="checkbox"/> Fair	264
<input type="checkbox"/> Excellent	117
<input type="checkbox"/> Poor	40
<input type="checkbox"/> Not Catego...	13

**▼ Session Availability**

<input type="checkbox"/> Excellent	410
<input checked="" type="checkbox"/> Poor	13
<input type="checkbox"/> Fair	11

**▼ Session Responsiveness**

<input type="checkbox"/> Fair	294
<input type="checkbox"/> Poor	123
<input type="checkbox"/> Not Catego...	13
<input type="checkbox"/> Excellent	4

**▼ Session Resiliency**

<input type="checkbox"/> Fair	211
<input type="checkbox"/> Poor	171
<input type="checkbox"/> Excellent	39
<input type="checkbox"/> Not Catego...	13

**▼ Site Name**

<input type="checkbox"/> Olympus	118
<input type="checkbox"/> Dryads	117
<input type="checkbox"/> Hesperides	114
<input type="checkbox"/> Nereids	85

**▼ Location**

**▼ Endpoint Country**

<input type="checkbox"/> US	264
<input type="checkbox"/> India	255
<input type="checkbox"/> China	247
<input type="checkbox"/> Not Availa...	52

**▼ Endpoint City**

<input type="checkbox"/> Florida	181
<input type="checkbox"/> Houston	167
<input type="checkbox"/> Mumbai	128
<input type="checkbox"/> Hong Kong	118

## セッションステート

セッションセルフサービスビューでは、セッションの状態に基づいて次の値の中からセッションを選択できます：

- 不明
- Connected
- 接続解除
- 終了しました
- 準備セッション
- Active
- 再接続中
- 非仲介セッション
- その他
- 保留中

## ユーザーエクスペリエンス

「優秀」、「公正」、「不良」のユーザーエクスペリエンスに基づいてユーザーを検索します。ユーザーエクスペリエンススコアは、セッション応答性またはセッションログオン時間係数の測定値が選択した期間に使用できない場合、「分類なし」になります。この場合、ユーザーエクスペリエンススコアとセッションエクスペリエンススコアは、セルフサービス検索結果に「N/A」と表示されます。

The screenshot shows the 'List of Users' interface. On the left, there are filter sections. The 'User Experience' section has 'Not Categorized' selected with a count of 65. Below it, 'Factors affecting User Experience' includes 'Session Logon Duration' and 'Session Availability'. The main data table has columns for 'USER EXPERIENCE' and 'USER NAME'. The first row shows 'N/A' in the 'USER EXPERIENCE' column, which is highlighted with a red box. A mouse cursor is visible over the table.

Filter Category	Filter Option	Count
User Experience	Fair	313
	<b>Not Categorized</b>	<b>65</b>
	Excellent	30
	Poor	26
Factors affecting User Experience	Session Logon Duration	
	Fair	264
	Excellent	117
	Poor	40
	Not Categorized	13
	Session Availability	
	Excellent	410
	Poor	13
	Fair	11
	Table Column	USER EXPERIENCE
Table Row 1	N/A	
Table Row 2	N/A	
Table Row 3	N/A	
Table Row 4	N/A	
Table Row 5	N/A	
Table Row 6	N/A	
Table Row 7	N/A	

## セッションエクスペリエンス

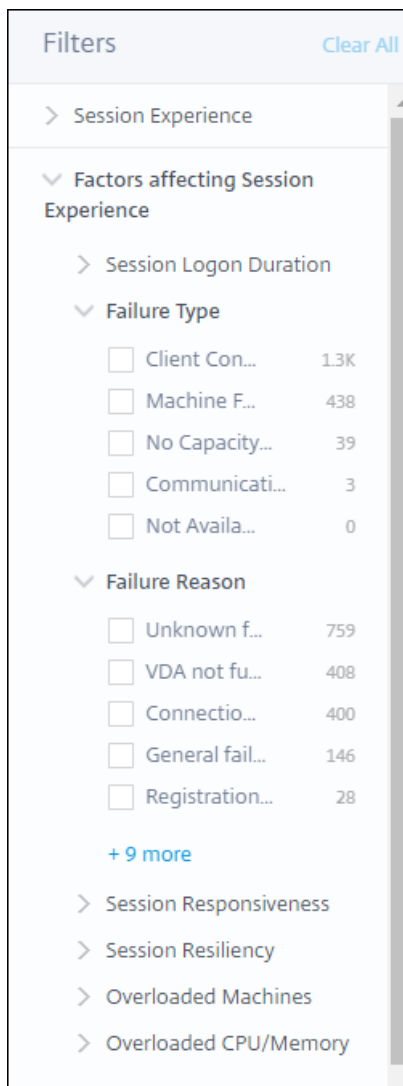
セッションエクスペリエンスが「優秀」、「公平」、または「不良」に基づいてセッションを検索します。セッションの応答性またはセッションログオン期間係数の測定値が選択した期間に使用できない場合、セッションエクスペリエンススコアは「分類なし」になります。この場合、セルフサービス検索結果に「セッションエクスペリエンススコア」が「N/A」と表示されます。

## ユーザーエクスペリエンスに影響する要因

セッションログオン時間、セッションの応答性、セッションの可用性、セッションの復元性など、ユーザーエクスペリエンスに影響を与える個々の要因に基づいて、ユーザー、セッション、およびマシンを検索します。

## 障害の種類と理由

「セッション」セルフサービスビューでは、「失敗タイプ」と「障害の理由」ファセットが、セッションの可用性のパフォーマンス要因を表します。



[失敗の種類] では、[マシン障害]、[クライアント接続失敗]、[通信失敗] など、セッション障害の種類に基づいてフィルタリングできます。Failure Reason は、マシンが機能しない、登録がタイムアウトしたなど、セッション障害の理由に基づいてフィルタリングします。

Failure Reason		
<input type="checkbox"/>	Unknown failure	759
<input type="checkbox"/>	VDA not functional	408
<input type="checkbox"/>	Connection timeout	400
<input type="checkbox"/>	General failure	146
<input type="checkbox"/>	Registration timeout	28
<input type="checkbox"/>	VDA unavailable	25
<input type="checkbox"/>	VDA not contactable	18
<input type="checkbox"/>	VDA is already in use	14
<input type="checkbox"/>	Endpoint to Machine Communication ...	2
<input type="checkbox"/>	Gateway to Machine Communication e...	1
<input type="checkbox"/>	Session refused	1
<input type="checkbox"/>	Set configuration failed	1
<input type="checkbox"/>	Ticketing failed	1
<input type="checkbox"/>	Not Available	0

**OK**

オーバーロードされたマシンと **CPU/メモリ**

オーバーロードファセットは、CPU およびメモリリソースの負荷に基づいてマシン、ユーザー、およびセッションをフィルタリングするのに役立ちます。

Factors affecting Session Experience	
>	Session Logon Duration
>	Failure Type
>	Failure Reason
>	Session Responsiveness
>	Session Resiliency
Overloaded Machines	
<input type="checkbox"/>	Excellent 232
<input type="checkbox"/>	Not Categori... 44
<input type="checkbox"/>	Fair 1
>	Overloaded CPU/Memory

Overloaded Machines は、マシンリソースの過負荷度に基づいてフィルタリングを提供します。

オーバーロードされた CPU/メモリは、CPU またはメモリが過負荷を引き起こしたかどうかに基づいてフィルタリングを提供します。

## エンドポイント OS

セッションの起動元のエンドポイントマシンで実行されているオペレーティングシステムに基づいてセッションを検索します。このパラメータは、同じ OS を実行しているすべてのエンドポイントに共通する問題を特定するのに役立ちます。**Windows** バージョン **1912** 以前の **Citrix Workspace** アプリを実行しているエンドポイントでは、**OS** 情報は「**N/A**」と表示されます。

## Workspace App バージョン

セッションが起動されたエンドポイントマシンの Workspace アプリケーションバージョンに基づいてセッションを検索します。このパラメータは、特定の Workspace アプリバージョンに固有の問題を特定するのに役立ちます。**Windows** 版 **Citrix Workspace** アプリバージョン **1912** 以前を実行しているエンドポイントでは、ワークスペースアプリのバージョン情報が「**N/A**」と表示されます。

## デリバリーグループ

マシンが属するデリバリーグループに基づいて、ユーザー、セッション、およびマシンをフィルタリングします。

## サイト名

サイトに基づいてユーザー、セッション、およびマシンをフィルター処理します。

## 位置情報

エンドポイントの国または都市の場所に基づいてユーザーとセッションを検索できるようになりました。ロケーションファセットは、レイテンシー関連の問題を特定の場所に切り分けるのに役立ちます。

User Experience		Users																																																										
Factors affecting User Experience		Type Query e.g. Poor-Sessions > 10 AND User-Name =...																																																										
Site Name		Last 1 Day																																																										
<b>Location</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Endpoint Country                             <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> United States 108</li> <li><input type="checkbox"/> Not Available 104</li> <li><input type="checkbox"/> India 33</li> <li><input type="checkbox"/> United Kingdo... 32</li> <li><input type="checkbox"/> Not Available 33</li> <li>+10 more</li> </ul> </li> <li>Endpoint City                             <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> Not Available 109</li> <li><input type="checkbox"/> Bengaluru 38</li> <li><input type="checkbox"/> Fort Lauderdale... 35</li> <li><input type="checkbox"/> Cambridge 33</li> <li><input type="checkbox"/> Not Available 33</li> <li>+45 more</li> </ul> </li> </ul>						<b>DATA</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>USER EXPERIENCE</th> <th>USER NAME</th> <th>ENDPOINT COUNTRY (LAST KNOWN)</th> <th>TOTAL SESSIONS</th> <th>EXCELLENT SESSIONS</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>&gt; 34</td> <td></td> <td>India</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>&gt; N/A</td> <td></td> <td>N/A</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>&gt; N/A</td> <td></td> <td>N/A</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>&gt; 78</td> <td></td> <td>United States</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>&gt; 86</td> <td></td> <td>N/A</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>&gt; 87</td> <td></td> <td>United States</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>&gt; 73</td> <td></td> <td>United States</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>&gt; 48</td> <td></td> <td>Australia</td> <td>15</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>&gt; 64</td> <td></td> <td>N/A</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>					USER EXPERIENCE	USER NAME	ENDPOINT COUNTRY (LAST KNOWN)	TOTAL SESSIONS	EXCELLENT SESSIONS	> 34		India	2	0	> N/A		N/A	1	0	> N/A		N/A	1	0	> 78		United States	1	1	> 86		N/A	3	3	> 87		United States	1	1	> 73		United States	1	1	> 48		Australia	15	5	> 64		N/A	1	0
USER EXPERIENCE	USER NAME	ENDPOINT COUNTRY (LAST KNOWN)	TOTAL SESSIONS	EXCELLENT SESSIONS																																																								
> 34		India	2	0																																																								
> N/A		N/A	1	0																																																								
> N/A		N/A	1	0																																																								
> 78		United States	1	1																																																								
> 86		N/A	3	3																																																								
> 87		United States	1	1																																																								
> 73		United States	1	1																																																								
> 48		Australia	15	5																																																								
> 64		N/A	1	0																																																								
Protocol																																																												

位置情報は、エンドポイントマシンによって Citrix Analytics に安全に送信されるパブリック IP アドレスから抽出されます。組織でオンプレミスの StoreFront 展開環境を使用している場合は、Citrix Workspace アプリが Citrix Analytics にイベントを送信できるように StoreFront サーバーを構成できます。[StoreFront を使用した Virtual Apps and Desktops サイトのオンボード](#)で説明されている手順に従います。

エンドポイントマシンの Citrix Workspace アプリからの IP アドレスの送信を無効にするには、**SendPublicIpAddress** レジストリエントリを **false** に設定します。詳しくは、[Windows 向け Citrix Workspace アプリのドキュメントの「Citrix Analytics サービスの機能強化」](#)を参照してください。

注:

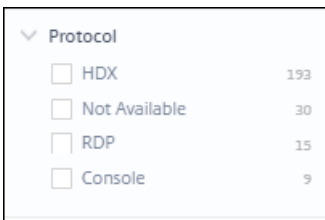
エンドポイントがイントラネット内で動作している、閉じた顧客環境の場合は、<https://locus.analytics.cloud.com/api/locateip> エンドポイントが URL にアクセスできることを確認します。

エンドポイントの場所は、次の理由により **Not Available** または **N/A** になります。

- セッションを起動できませんでした。
- URL <https://locus.analytics.cloud.com/api/locateip> で通信タイムアウトが発生しました。
- エンドポイントマシンの **SendPublicIpAddress** レジストリエントリは、IP アドレスの転送を無効にするように設定されています。
- オンプレミスのサイト展開の StoreFront サーバーが、Citrix Analytics で構成されていません。
- Windows 向け Citrix Workspace アプリのバージョンは 1912 年より前です。Citrix Workspace アプリのバージョンマトリックスの記事で、他の OS でサポートされている Citrix Workspace アプリのバージョンを参照してください。

### セッションプロトコル

プロトコルファセットは、セッションのプロトコル (HDX、コンソール、RDP) に基づいてユーザーとセッションをフィルタリングするのに役立ちます。



Protocol	Count
<input type="checkbox"/> HDX	193
<input type="checkbox"/> Not Available	30
<input type="checkbox"/> RDP	15
<input type="checkbox"/> Console	9

このファセットには、セッションの現在のプロトコルのみが表示され、サポートされているすべてのセッションプロトコルはリストされません。

### 接続タイプ

[Connection Type] ファセットを使用して、エンドポイントがマシンに直接接続されているか、ゲートウェイ経由

で接続されているかに基づいてセッションをフィルタリングします。接続タイプファセットには次の要素があります。

- 内部—ゲートウェイなしで直接接続する場合
- 外部—ゲートウェイ経由の接続用

接続の詳細は、Windows 用の Citrix Workspace アプリバージョン 20.12.0 以降を実行しているエンドポイントで確認できます。他のすべてのエンドポイントでは、[接続タイプ] は [N/A] と表示されます。

このファセットは、ゲートウェイに関連する問題を簡単に特定し、トラブルシューティングするのに役立ちます。

### マシン OS タイプ

このファセットは、マシンベースのセルフサービスビューで使用できます。特定のマシン OS タイプに検索を絞り込むのに役立ちます。

### 起動タイプ

このファセットは、セッションのセルフサービスビューで、セッションを ICA ベースまたはリースされた接続として分類して表示します。接続リースを介して起動されたセッションの数を調べるのに役立ちます。

### 集約されたステート

このファセットはマシンベースのセルフサービスビューで利用でき、マシンの集約状態に基づいて検索を絞り込むのに役立ちます。集約状態は、使用可能、アクティブ、メンテナンス、未登録、失敗の順で、マシンが最も好ましくない状態を表します。

### ロード

ロードファセットはマシンベースのセルフサービスビューで使用でき、マシンの負荷に基づいて検索を絞り込むのに役立ちます。高負荷、中負荷、低負荷のマシンを選択できます。マシンがシャットダウン、未登録、または障害状態にある場合、またはマシンのリソースデータを使用できない場合は、マシンが分類されない場合があります。



## ユーザーのセルフサービス検索

USER EXPERIENCE	USER NAME	ENDPOINT COUNTRY (LAST KNOWN)	TOTAL SESSIONS	EXCELLENT SESSIONS	FAIR SESSIONS	POOR SESSIONS
79		India	1	1	0	0

Endpoints City (Last Known): Bangalore  
 Session Responsiveness: 56.25 msec  
 Data Center Latency: N/A  
 Session Login Duration: 31.89 sec  
 VM Start: 0.00 sec  
 Authentication: 0.33 sec  
 CPU: 4.25 sec  
 Interactive Session: 0.66 sec  
 Failure Count: 0  
 Average Profile Size: 236.99 MB

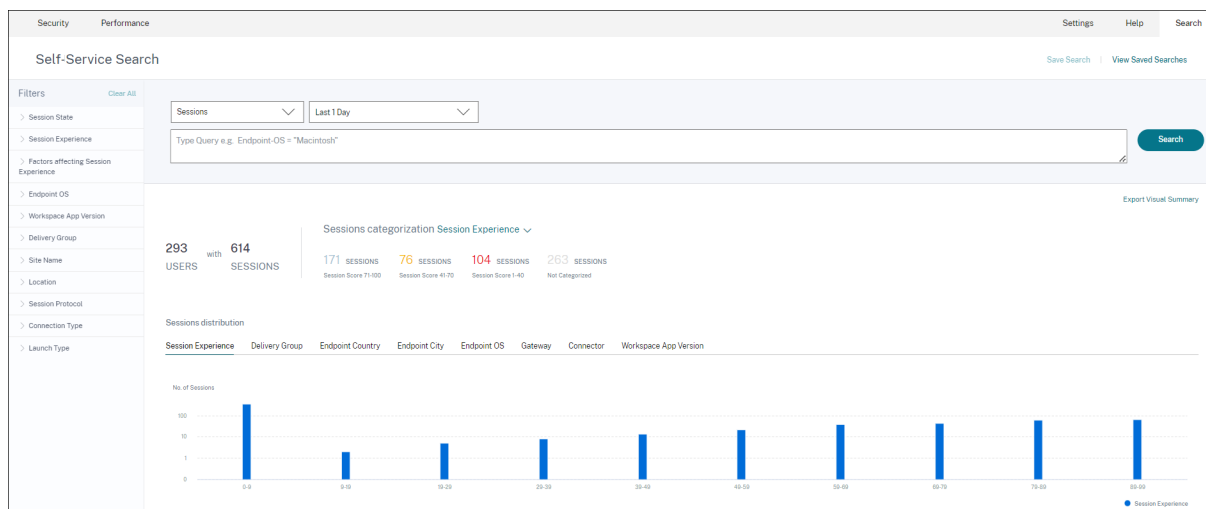
Session Freshness: 1  
 WAN Latency: N/A  
 Host Delay: N/A  
 Bandwidth: 0.22 sec  
 RDP Connection: 25.52 sec  
 Profile Load: 0.23 sec  
 Login Scripts: 0.76 sec  
 Search Response Count: 0  
 Profile Size Last Known: 407.33 MB

ユーザーベースのセルフサービスページは、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードとドリルダウンページのユーザー分類番号をクリックすると表示されます。また、Citrix Analytics の [検索] メニューから [ユーザーベースのセルフサービス] ビューにアクセスすることもできます。[検索] タブのサービスのリストで、[パフォーマンス] セクションの [ユーザー] を選択します。

このビューには、次のようなユーザーに関連する重要なパフォーマンス・メトリックが表示されます。

- **Total Sessions:** ユーザーが正常に起動したセッションの数。
- **起動試行回数:** ユーザーがセッションの起動を試みた回数。
- **失敗数:** 確立に失敗したセッションの数。
- **ユーザーエクスペリエンス:** ユーザーが起動したすべてのセッションで計算された全体的なユーザーエクスペリエンススコア。
- **セッションの分類:** 優良、公正、貧弱に分類されるユーザーセッション。
- **ファクターとサブファクターメトリクス:** ユーザーエクスペリエンスに影響を与える主要業績評価指標。
- **エンドポイントの国 (最後に知られた) およびエンドポイントの国 (最後に知られた):** 前回の既知の場所。
- **プロファイルの読み込み:** ユーザーのプロファイルの読み込みにかかった時間。
- **プロファイルサイズ (前回既知の):** プロファイルサイズの最後に測定された値。
- **平均プロファイルサイズ:** 選択した期間の平均プロファイルサイズ。

## セッションのセルフサービス検索



セッションベースのセルフサービスは、ダッシュボードのセッション分類番号をクリックすると利用できます。Citrix Analytics の [検索] メニューからセッションベースのセルフサービスビューにアクセスすることもできます。[検索] タブのサービスのリストで、[パフォーマンス] セクションの [セッション] を選択します。

## セッションのセルフサービスビューのビジュアルサマリー

ビジュアル・サマリーは、セッション・セルフ・サービス・テーブル内の生データをグラフとして表示し、セッション・パフォーマンスの可視性を向上させます。

[ビジュアルサマリー] グラフには、選択した基準に基づいてセッションの分類が表示されます。さらに、特定のパラメーターを軸にしたセッション分布を表示するように選択できます。これは、ピボットに関連するセッションパフォーマンスの問題を特定するのに役立ちます。

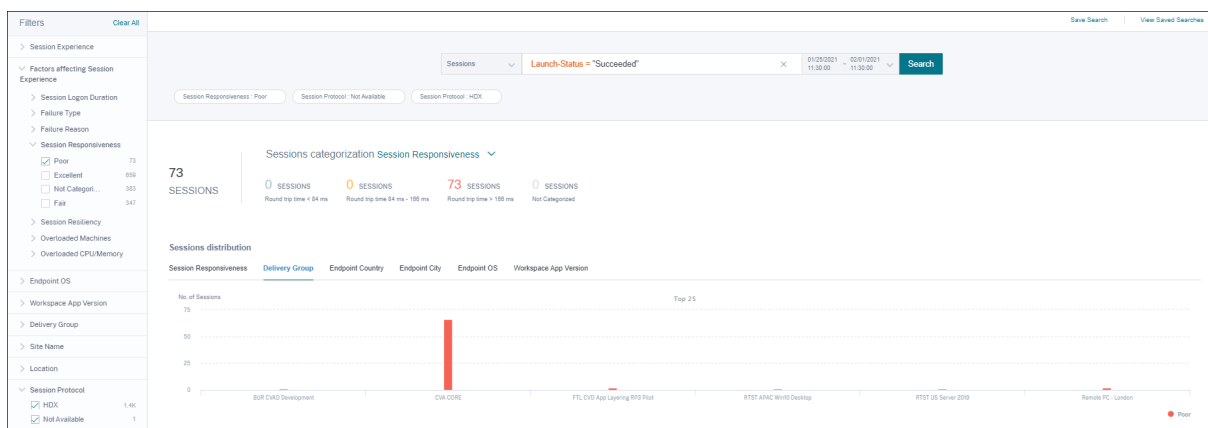
ビジュアライゼーションを使用して、データのパターンを特定し、特定のセッションパフォーマンスの問題をトラブルシューティングします。

ファクタータイムライン (プレビュー) Factors Timeline ピボットは、[\*\*セッションの応答性] カテゴリの [セッションセルフサービス] ビューの [セッション分布 \*\*] セクションに追加されます。このピボットを使用して、出力帯域幅の使用率の低さ、ネットワークレイテンシーの低さ、および ICARTT の低さに基づいてセッションを分析できます。

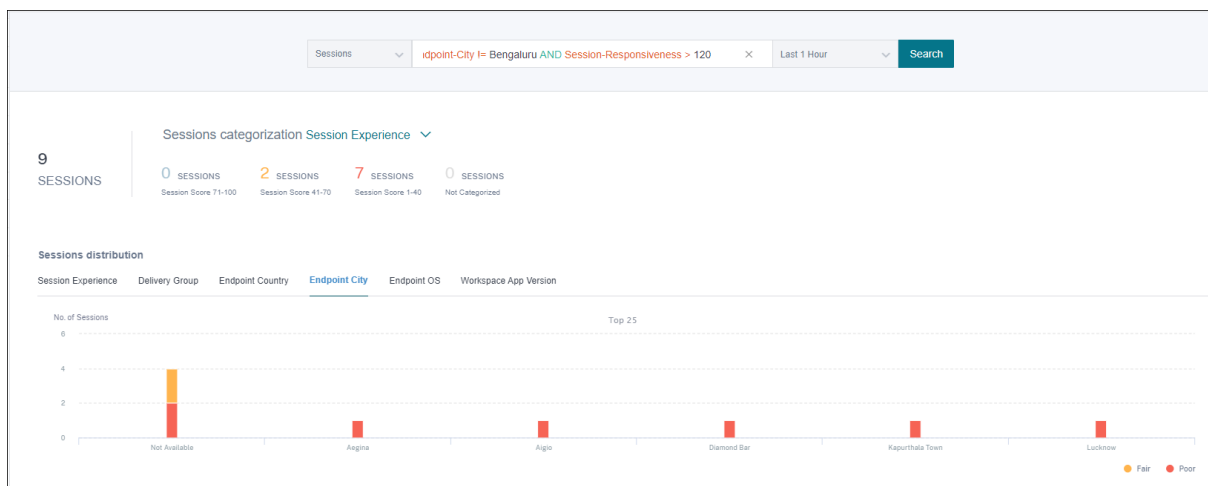
ユースケース-ダッシュボードからビジュアルサマリーにアクセスする [ビジュアルサマリー] グラフを使用して、[ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードに表示されるセッションログオン時間またはセッション応答性の低いセッションのトラブルシューティングを行うことができます。

セッション応答性グラフで問題のあるセッション数をクリックすると、セッションセルフサービスビューに「ビジュアルサマリー」グラフが表示されます。ビジュアルサマリーチャートには、選択した期間のセッション応答性別に分類されたセッションが表示されます。これは、ICA RTTが高かった特定の時間間隔を識別するのに役立ちます。

さらに、デリバリーグループ、エンドポイントの国、エンドポイントの都市、エンドポイント OS、コネクタ、ゲートウェイ、ワークスペースのバージョンからピボットを選択して、セッションの分布をプロットします。たとえば、デリバリーグループのピボットを選択すると、デリバリーグループに基づいてセッションがプロットされます。このグラフを使用して、特定のデリバリーグループのセッションの ICA RTT が高いかどうかを識別します。ビジネスクリティカルなアプリケーションを提供するデリバリーグループからのセッションのパフォーマンスは、ビジュアルサマリーを使用して簡単に監視できます。



ユースケース-[検索]メニューを使用したビジュアルサマリーへのアクセス カスタム検索クエリの結果は、セッションセルフサービスビューで視覚化できます。[検索] タブで、[パフォーマンス] セクションの [セッション] を選択します。検索クエリを入力し、[検索] をクリックします。結果のビジュアライゼーションをさらにカスタマイズするには、セッションの分類と配布基準を選択します。



前の例は、セッション応答性が低く、Bengaluruに位置していないセッションを返すクエリを示しています。エンドポイントシティをさらにピボットすると、セッションの ICA RTT が高い他のロケーションを可視化できます。

この機能は、レポート作成に特に役立ちます。クエリを保存して再利用することもできます。

## 表形式データ

このセッションセルフサービスビューには、セッションに関連する重要なパフォーマンスメトリックが表形式で表示されます。行を展開すると、セッション状態に関連するセッションメトリックが表示されます。選択した時間間隔中にセッションが切断状態だった場合、切断されたセッションには適用されない応答性と帯域幅に関連するセッションメトリックは表示されません。失敗したセッションでは、失敗の理由とタイプが表示され、セッションが失敗した理由を判断しやすくなります。セッション状態に関係のないテーブルに追加された列は、すべて「-」として表示されます。

SESSION EXPERIENCE	USER NAME	DELIVERY GROUP NAME	SESSION START TIME	MACHINE NAME	ENDPOINT CITY (LAST KNOWN)	LAUNCH STATUS	CONNECTOR	ENDPOINT IP	ENDPOINT NAME	
N/A	Inspect session	gnuravg	Remote PC-Miami	Mar 5, 2021, 21:39 IST (UTC-05:00)	ENGIFTLGAURAVG-TEMP	N/A	N/A	127.0.0.1	N/A	
01	Inspect session	fielic	CVA/CVA CORE	Nov 16, 2023, 09:22 IST (UTC+05:30)	CITRITVFTLPAAM00C0205	Margate	Succeeded	FTLPKCC003	192.168.7.90	fielic-mac

**Inspect session**

Note: Metrics shown are aggregated for the selected time period.

<p>O/P Bandwidth Utilization (%): 0.59 % (TECH PREVIEW)</p> <p>Authentication: 62 ms</p> <p>Connection Type: N/A</p> <p>Endpoint Country (Last Known): United States</p> <p>Endpoint OS: Macintosh</p> <p>Endpoint Throughput Outgoing (AVG): N/A</p> <p>Gateway Connector Latency: 98.84 ms</p> <p>HDX Connection: N/A</p> <p>I/P Bandwidth Consumed (AVG): 253 Bps (TECH PREVIEW)</p> <p>ISP: comcast</p> <p>Login Script: N/A</p> <p>Network Interface Type: N/A</p> <p>O/P Bandwidth Available (AVG): 3.65 MBps (TECH PREVIEW)</p> <p>Profile Load: 31 seconds 341 ms</p> <p>Session End Time: Nov 16, 2023, 10:53 IST (UTC+05:30)</p> <p>Session Resiliency: 0</p> <p>Session State (Last Known): Terminated</p> <p>Site Name: cloudstate</p> <p>WAN Latency: N/A</p>	<p>Application: Remote Desktop Client</p> <p>Brokerage: 67 ms</p> <p>Data Center Latency: N/A</p> <p>Endpoint Link Speed (AVG): N/A</p> <p>Endpoint Throughput Incoming (AVG): N/A</p> <p>Gateway: az-us-ec</p> <p>GRD: 1 second 992 ms</p> <p>Host Delay: N/A</p> <p>Interactive Sessions: 10 seconds 640 ms</p> <p>Launch Type: ICA</p> <p>Machine Address: N/A</p> <p>Network Latency (AVG): 8779 ms (TECH PREVIEW)</p> <p>O/P Bandwidth Used (AVG): 21.99 KBps (TECH PREVIEW)</p> <p>Session Duration: 1 hour 31 minutes</p> <p>Session Login Duration: 55 seconds 23 ms</p> <p>Session Responsiveness: 105 ms</p> <p>Session Type: Application</p> <p>VM Start: 0 ms</p> <p>Workspace App Version: 23.01.117</p>
--	---

- **セッションエクスペリエンス:** パフォーマンス要因に基づくセッションエクスペリエンススコア。
- **セッション固有のメトリック:** セッションの開始時間や起動ステータスなどのメトリック。
- **データセンターの待ち時間:** この ICARTT サブファクターは、Citrix Gateway からサーバーまで測定された遅延です。Data Center Latency が高い場合は、サーバーネットワークの速度が遅いために遅延が発生していることを示します。
- **WAN 遅延:** この ICARTT サブファクターは、仮想マシンから Gateway まで測定された遅延です。WAN レイテンシが高い場合は、エンドポイントマシンネットワークの動作が遅いことを示します。WAN 遅延は、ユーザがゲートウェイから地理的に離れているときに増加します。
- **ホスト遅延:** この ICARTT サブファクターは、サーバー OS による遅延を測定します。ICA RTT が高く、データセンターと WAN のレイテンシーが低く、ホストレイテンシが高い場合は、ホストサーバー上のアプリケーションエラーを示します。

### 注:ICARTT

サブファクターメトリクスを取得するには、L7 レイテンシーしきい値を設定します。詳細については、「[L7 レイテンシーしきい値処理](#)」を参照してください。

- **エンドポイントの都市 (最後に知られた) とエンドポイントの国 (最後に知られた):** 最後の既知の場所。
- **ワークスペースアプリのバージョンとエンドポイント OS**

- 平均プロファイルサイズ: 選択した期間の平均プロファイルサイズ。
- 接続タイプ: **internal** マシンからエンドポイントへの直接接続、**external** ゲートウェイ経由の接続用。
- ゲートウェイアドレス: 外部接続のゲートウェイアドレス。
- マシン **FQDN**: 内部接続用のポート ID を持つマシンアドレス。
- 起動ステータス: ユーザーが自発的にセッションを閉じた場合は、セッションの起動ステータスを、**Succeeded**、**Failed** または **User Terminated** として表示します。  
起動ステータスは、以下を実行しているエンドポイントでサポートされます。
  - Android 向け Citrix Workspace アプリ 20.9.0 以降
  - iOS 版 Citrix Workspace アプリ 20.8.0 以降
  - Windows 用の Citrix Workspace アプリ 20.8.0 以降

Web 上で Workspace を実行しているエンドポイントでは、起動ステータスは使用できません。

- ネットワークインターフェースタイプ: クライアントのネットワークインターフェースタイプを表示します。  
ネットワークインターフェースタイプに指定できる値は次のとおりです。
  - イーサネット
  - Wi-Fi
  - TokenRing
  - FDDI
  - PPP
  - ループバック
  - スリッパ
  - その他
  - UnknownType

2105 より前の Windows バージョンの Citrix Workspace アプリを実行しているエンドポイントの場合、このフィールドの値は該当しません。

- 帯域幅とレイテンシーのメトリック (プレビュー) 次の値が表示されます。
  - 帯域幅メトリックの平均値-消費された入力帯域幅、使用可能な出力帯域幅、使用されている出力帯域幅、
  - 出力帯域幅使用率のパーセンテージ値、および
  - ネットワーク遅延の平均値

これらのメトリックは、Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) ですぐに使用できます。

- Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2112 以降を実行しているマシンが必要です。
- Monitoring **Service** がマシン関連のパフォーマンスメトリックを収集できるようにするには、Analytics の VDA データ収集ポリシーをマシン上で許可に設定する必要があります \*\*。詳細については、「[Analytics のデータ収集に関するポリシー](#)」を参照してください。

- セッション時間: セッションの長さが表示されます。
- **[ISP]** エンドポイントでサービスを提供しているインターネットサービスプロバイダを表示します。このメトリックは、エンドポイントで Windows バージョン 1912 以降の Citrix Workspace アプリが実行されている場合に使用できます。他の OS 向け Citrix Workspace アプリでこの機能を利用できるかどうかについて詳しくは、[Workspace アプリメトリックスを参照してください](#)。
- **[コネクタ]** コネクタの名前を表示します。この列は、応答性の悪いセッションがルーティングされるコネクタを特定するのに役立ちます。コネクタはオプションの列で、**[列の追加]** または **[削除]** をクリックして **[セッション]** セルフサービスビューに追加できます。

**[コネクタ名]** リンクをクリックすると、**[コネクタ統計]** ビューが開きます。詳細については、「[コネクタ統計の記事を参照してください](#)」。

- **[ゲートウェイ]** オンプレミスの場合はゲートウェイの名前を、クラウドのお客様にはゲートウェイのポイントオブプレゼンスの名前を表示します。この情報は、応答性の悪いセッションがルーティングされるゲートウェイを特定するのに役立ちます。また、ユーザーロケーションからさまざまなゲートウェイ POP を介してルーティングされたセッションの分布を識別するのにも役立ちます。ゲートウェイはオプションの列で、「**列の追加**」または「**列の削除**」をクリックしてセッションのセルフサービスビューに追加できます。

次のいずれかの理由により、**Connector** の値が N/A になることがあります。

- コネクタイベントの受信に遅延が発生しました。
- Cloud Connector のバージョンは 16.0.0.7 より前です。

また、Cloud Connector を介したデータ処理がオンになっていることを確認します。これを行うには、**Citrix Analytics > \*\* データソースの [\*\* パフォーマンス]** タブから **[Cloud Connectors]** タイルの **[データ処理オン \*\*]** 状態を確認できます。

- ゲートウェイコネクタ遅延セッションを確立するために使用されたコネクタからゲートウェイポイントオブプレゼンスまでの遅延値を表示します。Gateway-Connector Latency はオプションの列で、**[列の追加]** または **[列の削除]** をクリックしてセッションセルフサービスビューに追加できます。
- 起動タイプ: セッションが ICA ベースか接続リースかが表示されます。この情報は、接続リースを介して起動されたセッションの数を調べるのに役立ちます。失敗の理由を使用して、Connection でリースされたセッションの起動に失敗した場合のトラブルシューティングを行うことができます。
- エンドポイントリンク速度 (**Avg**) リンク速度は、セッションエクスペリエンスの低下が低速によるものかどうかを識別するのに役立ちます。
- エンドポイント受信スループット (**Avg**) 受信した合計バイト数を表示します。
- エンドポイントスループット発信 (**Avg**) 送信された合計バイト数を表示します。

注:

エンドポイントのメトリックを使用するには、オンプレミスサイト展開環境の StoreFront サーバーが Citrix Analytics で構成されている必要があります。詳しくは、「[StoreFront を使用した Virtual Apps](#)」

「[and Desktops サイトのオンボード](#)」を参照してください。

- エンドポイント **IP** エンドポイントの IP アドレスを表示します。
- エンドポイント名: エンドポイントの IP 名を表示します。
- 障害タイプ—以下の値の中から障害の種類を示します:
  - クライアント接続失敗
  - マシン障害
  - 空き容量なし
  - 使用可能なライセンスはありません
  - 構成
  - 通信障害
  - 不明なエラー
- 障害の理由—障害の正確な理由を示します。Citrix Director の「[障害の理由とトラブルシューティング](#)」の該当する推奨手順を使用して、障害を解決できます。障害列は、ダッシュボードの失敗したセッション数から、セッションセルフサービスビューでフィルタリングされた失敗したセッションのセットに移動する場合に特に役立ちます。
- セッションタイプ—セッションがアプリケーションセッションかデスクトップセッションかを示します。
- セッション状態—以下の値の中からセッションの状態を示します:
  - 不明
  - Connected
  - 接続解除
  - 終了しました
  - 準備セッション
  - Active
  - 再接続中
  - 非仲介セッション
  - その他
  - 保留中
- セッション終了時刻—セッションが終了した時刻を示します。

セッションのセルフサービスビューから「セッションの検査」リンクをクリックして、セッションの「セッション詳細」ビューを開きます。

セッションベースのセルフサービスビューの表形式のデータは、指標が属する「優れている」、「普通」、「悪い」カテゴリを示すように色分けされています。この分類は、メトリックの個々のしきい値レベルに基づいています。しきい値は動的に計算されます。詳細については、[動的しきい値の計算方法を参照してください](#)。

## Citrix Analytics for Performance

SESSION EXPERIENCE	USER NAME	DELIVERY GROUP NAME	SESSION START TIME	MACHINE NAME	ENDPOINT CITY (LAST KNOWN)	LAUNCH STATUS
> 0		CVA CORE	May 27, 2021, 17:54 IST (UTC +...)		N/A	Failed
> 0		CVA CORE	Jun 18, 2021, 13:02 IST (UTC +...)		N/A	Failed
> 0		RemotePC-FTL Test	Jun 1, 2021, 20:51 IST (UTC +0...)		N/A	Failed
> 0		CVA CORE	Jun 10, 2021, 15:41 IST (UTC +0...)		N/A	Failed
> 0		Remote PC -London	Jun 1, 2021, 18:29 IST (UTC +0...)		N/A	Failed
> 0		Remote PC -London	Jun 7, 2021, 15:08 IST (UTC +0...)		N/A	Failed
> 0		CVA CORE	Jun 7, 2021, 07:12 IST (UTC +0...)		N/A	Failed
> 0		CVA CORE	Jun 16, 2021, 16:46 IST (UTC +...)		N/A	Failed
> 42		CVA CORE	Jun 19, 2021, 00:21 IST (UTC +...)		North Grafton	Succeeded
> 82		CVA CORE	Jun 4, 2021, 04:47 IST (UTC +0...)		Fremont	Succeeded
> N/A		CVA CORE	Jun 19, 2021, 22:57 IST (UTC +...)		Kharanitar	Succeeded
> 27		CVA CORE	Jun 2, 2021, 21:29 IST (UTC +0...)		Bengaluru	Succeeded
> 68		CVA CORE	Jun 7, 2021, 19:36 IST (UTC +0...)		Pompano Beach	Succeeded

セッションベースのセルフサービスビューで行を展開すると表示される指標にも同様の色分けが適用されます。

視覚的な色分けは、パフォーマンスの低下に寄与している要因に焦点を当て、識別するのに役立ちます。また、現在のビューに表示されるようにフィルタリングされたセッションのさまざまな要因にわたるパフォーマンスの概要も示します。

N/A 値の理由を詳しく説明するツールヒントが、次のエンドポイント関連メトリックのセッションセルフサービスビューで利用できるようになりました：

- Workspace App バージョン
- エンドポイントの国 (最後に確認された国)
- エンドポイントシティ (最後に知られたもの)
- エンドポイントのリンク速度 (P95)
- エンドポイント受信スループット (P95)
- エンドポイントスループット発信 (P95)
- ISP (インターネットサービスプロバイダー)

← | List of User Sessions Save Search | View Saved Searches

Filters Clear All

Session Protocol: HDX

SESSION E...	USER NAME	DELIVERY G...	WORKSPAC...	ENDPOINT ...	MACHINE N...	ENDPOINT CITY (LAST KN...	LAUNCH ST...	ENDPOINT IP	ENDPOINT N...
> N/A	bc2844144...	CVA/CVA C...	21.02.0.25	Windows	78fb30302...	N/A	Succeeded	N/A	f9700d91d7...
> 83	bc2844144...	CVA/CVA C...	21.02.0.25	Windows	377bf248eb...	N/A	Succeeded	N/A	f9700d91d7...
> 84	702132cfe7...	Remote PC-...	21.02.0.25	Windows			Succeeded	N/A	10aa2ed9f2...
> 71	bc2844144...	CVA/CVA C...	21.02.0.25	Windows			Succeeded	N/A	f9700d91d7...
> N/A	a1391d2477...	Remote PC-...	23.3.0.55	Windows	837ebe87b...	N/A	Succeeded	N/A	7bbd75d3d...

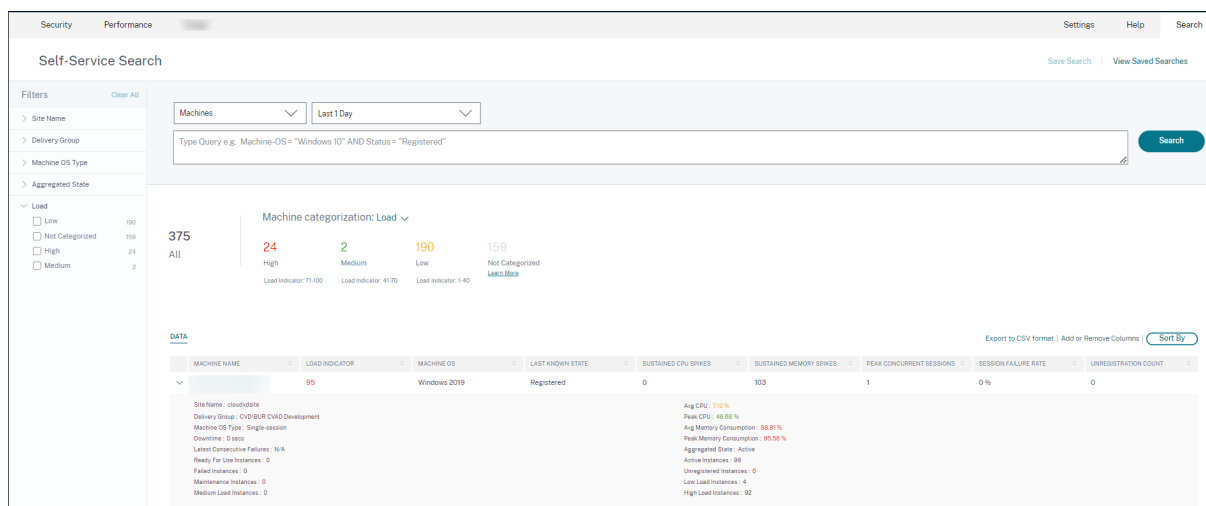
**Update Citrix Workspace app version to 21.08 or later. View version matrix**

ツールチップは、StoreFront のオンボーディングが正しくない、サポートされていない OS プラットフォームを実行しているエンドポイントから起動されたセッション、または互換性のない Citrix Workspace アプリバージョンを



実行するエンドポイントから起動されたセッションなどの理由とともに、これらのメトリックの N/A 値に表示されます。

### マシンのセルフサービス検索



マシンベースのセルフサービスビューには、Citrix Analytics の [検索] メニューからアクセスできます。[検索] タブのサービスのリストで、[パフォーマンス] セクションで、[マシン] を選択します。マシンベースのセルフサービスビューは、ブラックホールマシンからドリルダウンする場合にも使用できます。このビューにアクセスするには、[ユーザーエクスペリエンス] ダッシュボードの [障害インサイト] セクションで、[ブラックホールマシン] 番号をクリックします。

マシンのセルフサービスビューでは、可用性と負荷に基づいてマシンが分類されます。[マシン分類] ドロップダウンで、[インフラストラクチャアベイラビリティ] または [ロード] を選択します。



マシンは、可用性に基づいて次のように分類されます：

- 使用可能-アクティブなセッションがなく、正常な状態のマシン。
- アクティブ-アクティブなセッションが少なくとも 1 つあるマシン。
- メンテナンス-マシンはメンテナンスモードで、接続は受け付けられません。
- 未登録-ブローカーサービスに登録されていないマシン。

マシンは、マシンの負荷インジケータを使用して負荷に基づいて分類されます。マシンの負荷インジケータは、リソース使用率、マシン上の全体的なユーザーエクスペリエンス、およびマルチセッション OS マシンの場合にホストさ

れているセッション数に基づいて計算されます。値は、選択した期間にわたって集計されます。これにより、使用率が低い、または過負荷になっているマシンを特定できます。これにより、インフラストラクチャを最適に使用し、マシン全体のパフォーマンスを向上させるための積極的なアクションが可能になります。マシンは負荷に基づいて次のように分類されます。

- 高 (赤)-負荷インジケータが 71~100 の範囲にあるマシン
- 中 (緑) -負荷インジケータが 41~70 の範囲にあるマシン
- 低 (オレンジ) -負荷インジケータが 1~40 の範囲にあるマシン。
- 未分類-マシンがシャットダウン、未登録、または障害状態にある場合、またはマシンのリソースデータがない場合は、マシンが分類されない場合があります。

マシンのセルフサービスビューには、マシンに関連する重要なパフォーマンスメトリックが表示されます。

MACHINE NAME	LOAD INDICATOR	MACHINE OS	LAST KNOWN STATE	SUSTAINED CPU SPIKES	SUSTAINED MEMORY SPIKES	PEAK CONCURRENT SESSIONS	SESSION FAILURE RATE	UNREGISTRATION COUNT
	96	Windows 2019	Registered	0	112	1	0%	0

Site Name: cloudstate	Avg CPU: 4.23 %
Delivery Group: cloudstate	Peak CPU: 10.05 %
Machine OS Type: Single-session	Avg Memory Consumption: 95 %
Downtime: 0 seco	Peak Memory Consumption: 94.91 %
Latest Consecutive Failures: N/A	Aggregated State: Active
Ready For Use Instances: 0	Active Instances: 96
Failed Instances: 0	Unregistered Instances: 0
Maintenance Instances: 0	Low Load Instances: 3
Medium Load Instances: 0	High Load Instances: 93

- ステータス: 前回の既知のマシン状態- **Registered**、**Unregistered**、**Powered off**または**Failed**。
- 持続的な **CPU** スパイク: 選択した期間における CPU スパイクの数。各 CPU スパイクは、5 分以上の間、しきい値の 80% を超えた CPU 使用率を維持することを指します。
- 持続メモリスパイク: 選択した期間におけるメモリスパイクの数。各メモリスパイクは、5 分以上の間、しきい値の 80% を超える持続的なメモリ消費を指します。
- 最大同時セッション数: マシンで同時に実行されているセッションの数。
- 登録解除回数: 選択した期間中にマシンが未登録状態に移行した回数。
- **<Aggregated State/>** インスタンス: 集約された状態は、[使用可能]、[アクティブ]、[メンテナンス]、[未登録]、および [失敗] の順で、マシンが最も好ましくない状態を表します。<Aggregated State> インスタンスは、選択した期間中にマシンが特定の集計状態にあったインスタンスの数 (15 分間隔) を表します。列名には、使用可能インスタンス、アクティブインスタンス、メンテナンスインスタンス、未登録インスタンス、および失敗したインスタンスがあります。
- 最新の連続失敗: 直近の 5 分間の連続したセッション失敗の数。
- ダウンタイム: 選択した間隔でマシンが **Unregistered**、**Failed**、または **Powered off** 状態にあった期間 (秒)。
- 平均 **CPU**: 選択した期間の平均 CPU 使用率。
- **Peak CPU**: 選択した期間に記録された最大 CPU 使用率。
- 平均メモリ消費: 選択した期間の平均メモリ消費量。
- ピークメモリ消費: 選択した期間に記録された最大メモリ消費量。
- 負荷インジケータ: 負荷インジケータは、マシンの負荷を示すスコアです。リソース使用率、マシン上の全体的なユーザーエクスペリエンス、およびマルチセッション OS マシンの場合はホストされるセッション数に基づいて計算されます。値は、選択した期間にわたって集計されます。

- 高、中、低負荷インスタンス：マシンが高負荷（負荷インジケーター：71-100）、中負荷（負荷インジケーター：41-70）、および低負荷（負荷インジケーター：1-40）であった選択した期間のインスタンスの数。これらの指標は、特定のマシンの負荷を定量化および評価するのに役立ちます。

このビューは、管理者がユーザーエクスペリエンスの低下に寄与している特定のマシンを特定し、マシンリソースパラメータをパフォーマンス係数メトリックと関連付けるのに役立ちます。

マシンベースのセルフサービスビューでマシン名をクリックすると、マシン統計ビューが開きます。詳細については、「[マシンの統計](#)」を参照してください。

注：

メトリック、平均 CPU、および平均メモリ消費量の値は、マシンが過負荷になった期間のみで計算されます。

ユースケース-マシン負荷メトリックを使用してマシン使用量を最適化

- マシンセルフサービスビューに移動します。適切な期間を選択してください。
- 「ロード」ファセットを展開し、「低」カテゴリを選択します。選択した期間の総負荷が低いマシンが表示されます。
- 次に、[高]、[中]、[低負荷インスタンス] 列をビューに追加します。
- 高負荷インスタンスのビューをソートします。以下のスクリーンショットは、過去 1 週間に集約されたマシンの負荷が低い、負荷の高いインスタンスの数が多い場合のソートビューの最初のページを示しています。

Machine Name	Load Indicator	High Load Instances	Medium Load Instances	Low Load Instances	Total Load Instances
>	28	2028	6	23	756
>	22	1987	0	25	759
>	21	2025	0	24	719
>	26	2030	0	0	656
>	23	2154	0	19	656
>	26	1758	4	73	608
>	23	2272	0	0	607
>	25	1870	1	29	600
>	28	2326	21	3	530
>	24	1865	0	0	460
>	21	1975	17	80	460
>	22	2493	29	7	460
>	21	1345	0	0	424

、これらのマシンの全体的な負荷は低いものの、マシンはよく使用されていることを示しています。マシン名をクリックすると、マシン統計ページが表示されます。日中の使用パターンを分析して、さらに多くのマシンを環境に組み込む必要があるかどうかを判断します。

- このリストの最後の数台のマシンまでスクロールすると、総負荷が低く、負荷の高いインスタンスの数が最も少ないマシンが表示されます。

The screenshot shows the 'Self-Service Search' interface. On the left, there are filters for 'Site Name', 'Delivery Group', 'Machine OS Type', 'Aggregated State', and 'Load'. The main search area has 'Machines' selected and 'Last Month' as the time range. Below the search bar is a table with columns for 'Machine Name', 'OS Version', 'CPU Usage', 'Memory Usage', 'Network I/O', and 'Disk I/O'. The table contains several rows of data representing different machines and their performance metrics.

、マシン統計ページが表示され、使用パターンを分析できます。また、マシンが属するカタログの名前もここに表示されます。これにより、日中の特定の時間帯にシャットダウンまたは電源が入る可能性のある、最も使用頻度の低いマシンを特定してコストを削減できます。

負荷ファセットを使用してマシンの総負荷を特定し、インスタンス列を使用してその期間中のマシンの負荷パターンを識別すると、使用状況に応じてインフラストラクチャを最適化するのに役立ちます。

#### イベントをフィルタリングする検索クエリを指定する

検索ボックスにカーソルを置くと、Citrix Analytics for Performance に関連する検索候補の一覧が表示されます。検索候補を使用して、クエリを指定し、イベントをフィルタリングします。

The screenshot shows the search interface with a dropdown menu open. The dropdown menu lists several search suggestions: Authentication, Brokering, Data-Center-Latency, Excellent-Sessions, Failure-Count, Fair-Sessions, GPOs, HDX-Connection, and Host-Delay. Below the dropdown menu is a table with columns for 'USER NAME', 'FAILURE COUNT', and 'SEARCH'. The table contains several rows of data representing different users and their failure counts.

検索クエリで演算子を使用して、検索の焦点を絞り込むこともできます。有効な演算子の詳細については、「[検索ボックスで検索クエリを使用してイベントをフィルタリングする](#)」を参照してください。

たとえば、過去 1 週間に Failure-count が 5 を超えるユーザーのイベントを検索するとします。次のクエリを指定します。

1. 検索バーをクリックし、[ **Failure-Count** ] フィールドを選択します。

2. [失敗回数] をクリックし、[>] 記号を選択してから、値「5」を指定します。

3. [期間] ドロップダウンリストをクリックし、[過去 1 週間] を選択します。

USER EXPERIENCE	USER NAME	TOTAL SESSIONS	EXCELLENT SESSIONS	FAIR SESSIONS	POOR SESSIONS
> 16	[REDACTED]	12	0	1	0
> 1	[REDACTED]	4	0	0	0
> 32	[REDACTED]	6	1	1	0
> 1	[REDACTED]	12	0	0	0
> 28	[REDACTED]	30	4	3	1

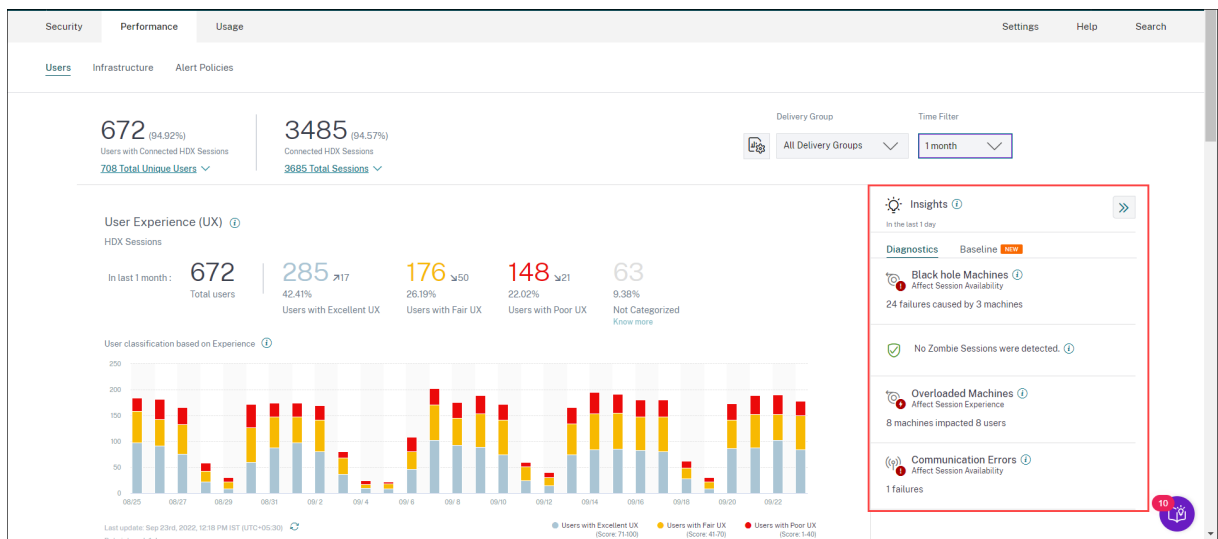
4. 検索クエリに基づいてイベントを表示するには、[検索] をクリックします。

## 識見

November 26, 2023

[ **Insights** ] パネルには、環境内のセッション障害の根本原因に関する情報が表示されます。これらのインサイトをを使用して特定の指標を深く掘り下げると、セッションの障害を迅速にトラブルシューティングして解決できます。障害インサイトは、特に管理者がセッションの可用性を向上させるのに役立ちます。これは、ユーザーエクスペリエンスを決定する重要な要素です。

これらの洞察は、ユーザー体験を積極的に監視するのに役立つように設計されています。そのため、ダッシュボードで 1 か月または 1 週間の期間が選択されている場合でも、インサイトは最長 1 日間表示されます。

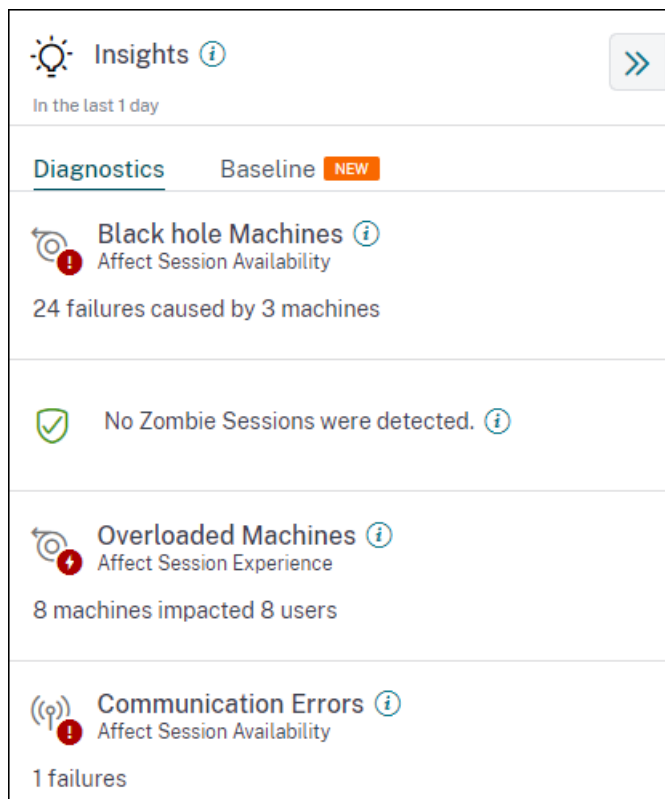


概要ペインからインサイトをクリックすると、インサイトの詳細とセルフサービスビューにドリルダウンするオプションを含むインサイトペインが表示されます。

インサイトは次の2つのカテゴリで表示されます。

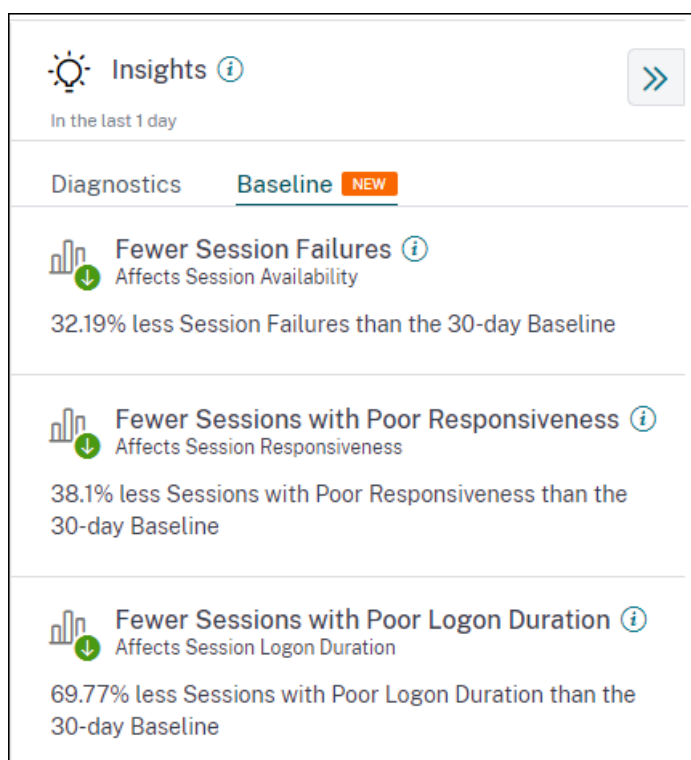
- **診断インサイト:** 診断サブペインには、サイトで発生した障害に関する重要なインサイトが表示されます。このサブペインには、ブラックホールマシン、ゾンビセッション、オーバーロードマシン、および通信エラー診断インサイトが表示されます。

展開時の各インサイトには、失敗したセッションまたはそれらをホストしているマシンへのリンクが表示されます。これにより、障害が発生したマシンまたはセッションを含むセルフサービスビューが表示されます。特定のマシン、セッション、またはコネクタをクリックして、タイムラインの詳細と詳細なメトリックを確認すると、ここからさらにドリルダウンできます。



サイト、デリバリーグループ、単一またはマルチ OS セッションマシンに関して検出された上位の障害パターンが表示されます。これらのパターンは、この問題が発生している特定のユーザーコホートが存在するかどうかを見極めるのに役立ちます。コホートが分散しているためにシステムがパターンを強調できない場合は、ドリルダウンして自己分析することをお勧めします。また、問題のトラブルシューティングと解決のために推奨されるアクションも示されています。

- **ベースラインインサイト:** ベースラインインサイトは、主要なパフォーマンス指標と過去のベースラインとの偏差を示します。これらの洞察により、主要な指標が改善しているのか、悪化しているのかを一目で確認できます。インシデント指標をすばやく特定し、環境のパフォーマンスを向上させるための積極的な対策を講じるのに役立ちます。



セッション障害の低下、セッションの応答性、およびセッションログオン時間に関するベースラインインサイトは、ベースラインサブペインに表示されます。ウィンドウには、セッション障害、セッション応答不良、セッションログオン時間が短いセッションの数が少ないか多いかが表示されます。

ベースラインは、インサイトが導き出された期間と同じ時間間隔で測定された過去 30 日間の指標の P80 値に基づいています。P80 の値は、停電などの異常な状況がベースラインを膨らませないようにするために使用されます。

たとえば、現在のタイムスタンプが 2022 年 9 月 23 日午後 02:35 で、過去 2 時間のセッション障害ベースラインインサイトを表示するように選択したとします。ベースラインは、過去 30 日間の午後 12:35 から午後 2 時 35 分までの間のセッション障害の P80 値として計算されます。

注:

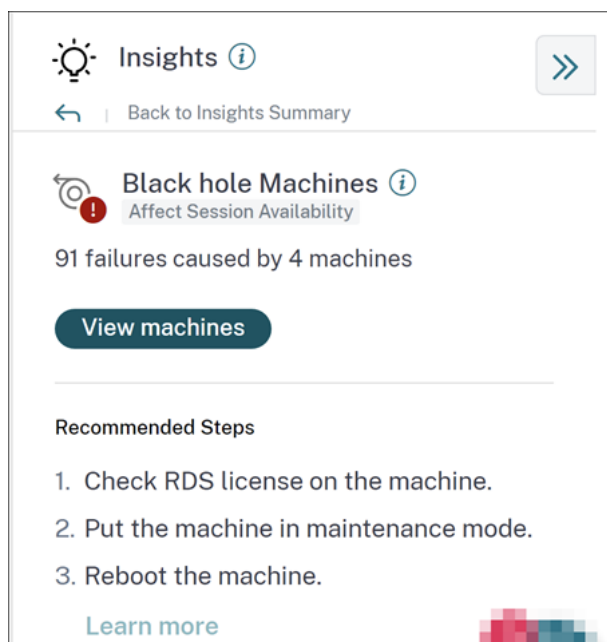
- ベースラインインサイトは、新規顧客が登録されてから 7 日後に利用できるようになります。
- アラートパラメーターを更新すると、UX ダッシュボード上の対応するインサイトの計算も変更されます。詳細については、「アラート」を参照してください。

#### 診断情報: ブラックホールマシン

環境内の一部のマシンは、登録されていて正常であるように見えますが、そのマシンに仲介されたセッションにサービスを提供できず、障害が発生する場合があります。4 回以上連続してセッション要求を処理できなかったマシンは、ブラックホールマシンと呼ばれます。これらの障害の原因は、RDS ライセンスの不足、断続的なネットワークの問題、マシンへの瞬間的な負荷など、マシンに影響を与える可能性のあるさまざまな要因に関係しています。これらの障害には、キャパシティまたはライセンスの可用性による障害は含まれません。環境にブラックホールマシンが存在



すると、セッションの失敗が増え、セッションの可用性が低下します。ブラックホールマシンのインサイトには、選択した期間中に環境内で特定されたブラックホールマシンの数が表示されます。



[マシンの表示] をクリックすると、[マシンベースのセルフサービス] ビューが開き、選択した期間中の環境内のすべてのブラックホールマシンが表示されるようにフィルタリングされます。ここでは、マシンの個々のパフォーマンスメトリックを分析して、マシンがセッション要求を受け付けられない原因を特定および理解できます。マシンベースのセルフサービスビューに表示されるパフォーマンス指標の詳細については、「マシンのセルフサービス検索」を参照してください。

さらに、マシン名をクリックすると、[Machine Statistics] ビューが開きます。このビューでは、同じ期間におけるマシンのリソースパフォーマンスパラメータとセッションパフォーマンスパラメータを関連付けることができます。詳細については、「[マシン統計ビュー](#)」の記事を参照してください。

ブラックホール数を減らすのに役立つ推奨手順が記載されています。

- RDS ライセンスのステータスを確認するには、
- マシンをメンテナンスモードにする、または
- を使用してマシンを再起動します。

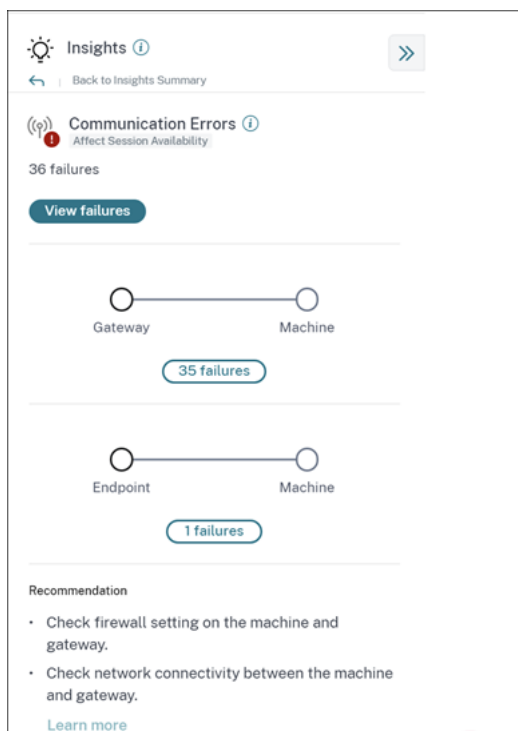
検出されたパターンセクションには、以下の基準に基づいてブラックホールマシンで検出された上位 3 つのパターンが表示されます。

- 各デリバリーグループのブラックホールマシンの数
- シングルセッションまたはマルチセッション OS を実行しているブラックホールマシンの数

ブラックホールマシンアラートの詳細については、アラート ([Alerts](#)) の記事を参照してください。

## 診断インサイト: 通信エラー

[Communication Errors] サブペインには、エンドポイント (ユーザーがセッションを起動する場所) とマシン間の通信エラーが原因で発生したセッション障害の数が表示されます。これらのエラーは、不正なファイアウォール構成またはネットワークパス上のその他のエラーが原因で発生する可能性があります。



通信エラーには、次の2つのカテゴリがあります。

- エンドポイントからマシンへ: エンドポイントとマシンの間で通信エラーが発生したセッションを一覧表示します。
- [Gateway to Machine]: ゲートウェイとマシン間で通信エラーが発生したセッションを一覧表示します。

さらに、[通信エラー] サブペインには、エラーを解決するための次の推奨事項が表示されます。

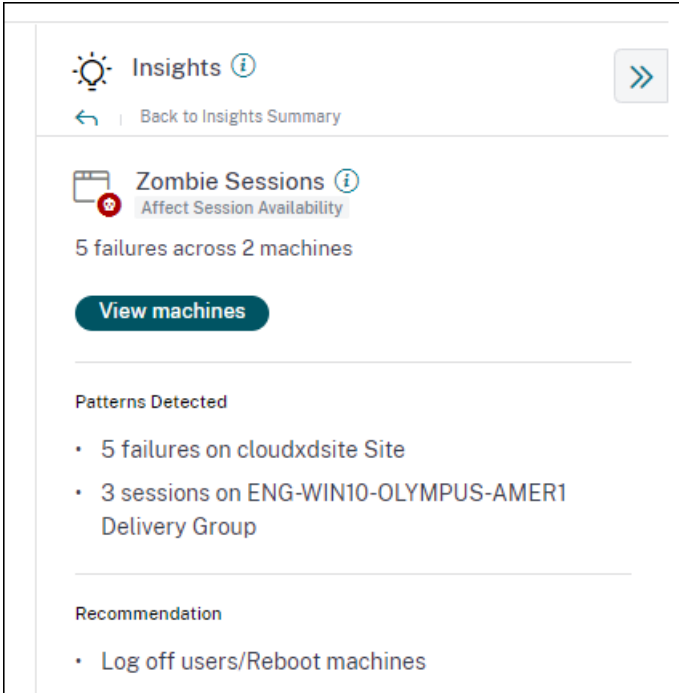
- マシンとゲートウェイのファイアウォール設定を確認します。
- マシンとゲートウェイ間のネットワーク接続を確認します。

失敗番号をクリックすると、セッションベースのセルフサービスビューが開き、選択した期間中に環境内の通信エラーが原因で失敗したセッションがすべて表示されるようにフィルタリングされます。このビューは、失敗した個々のセッションを分析し、考えられる根本原因を把握するのに役立ちます。セッションベースのセルフサービスビューに表示されるインジケータの詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

## 診断インサイト: ゾンビセッション

[Zombie Sessions] サブペインには、環境内のゾンビセッションが原因で発生したセッション障害に関する情報が

表示されます。ゾンビセッションとは、単一セッション OS マシン上で放棄されたセッションで、そのマシンでの新しいセッションの起動が失敗する原因となります。このマシンでセッションを起動しようとするたびに失敗し、「使用できない容量」エラーが表示されます。それ以降のセッションの起動は、放棄されたセッションが終了するまですべて失敗します。Zombie Sessions のインサイトは、セッションが中断されたこれらのマシンを発見し、これらの障害を積極的に軽減することを目的としています。



**Insights** ⓘ

[Back to Insights Summary](#)

**Zombie Sessions** ⓘ  
Affect Session Availability

5 failures across 2 machines

[View machines](#)

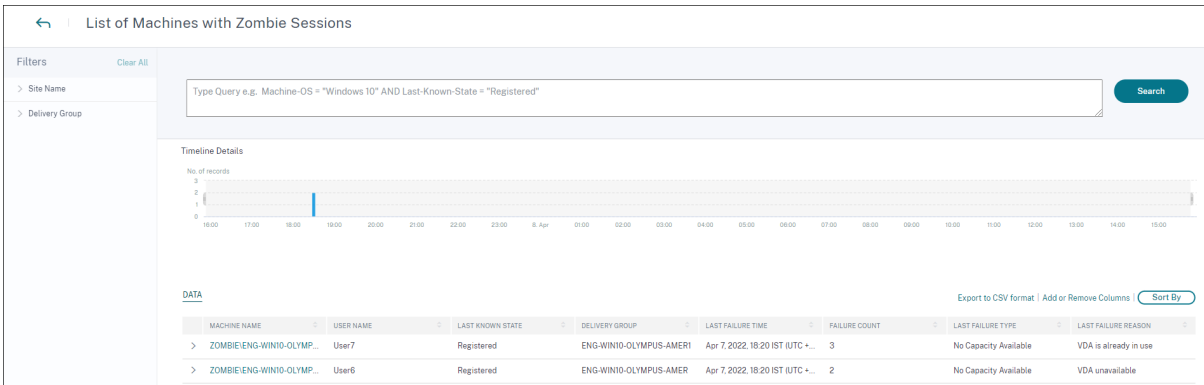
**Patterns Detected**

- 5 failures on cloudxdsite Site
- 3 sessions on ENG-WIN10-OLYMPUS-AMER1 Delivery Group

**Recommendation**

- Log off users/Reboot machines

[マシンの表示] をクリックすると、Zombie Sessions を含むマシンのリストでフィルタリングされた [セルフサービス] ビューに移動します。



[List of Machines with Zombie Sessions](#)

Filters [Clear All](#)

Site Name

Delivery Group

Type Query e.g. Machine-OS = "Windows 10" AND Last-Known-State = "Registered" [Search](#)

**Timeline Details**

No. of records

3

2

1

0

16:00 17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00 23:00 8 Apr 01:00 02:00 03:00 04:00 05:00 06:00 07:00 08:00 09:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00

**DATA** [Export to CSV format](#) | [Add or Remove Columns](#) | [Sort By](#)

MACHINE NAME	USER NAME	LAST KNOWN STATE	DELIVERY GROUP	LAST FAILURE TIME	FAILURE COUNT	LAST FAILURE TYPE	LAST FAILURE REASON
> ZOMBIE-ENG-WIN10-OLYMP...	User7	Registered	ENG-WIN10-OLYMPUS-AMER1	Apr 7, 2022, 18:20 IST (UTC +...	3	No Capacity Available	VDA is already in use
> ZOMBIE-ENG-WIN10-OLYMP...	User6	Registered	ENG-WIN10-OLYMPUS-AMER	Apr 7, 2022, 18:20 IST (UTC +...	2	No Capacity Available	VDA unavailable

ここで、**Failure Count** は、選択した間隔で発生したセッション障害の数を表します。最後の失敗タイプと理由は、ゾンビセッションを含むマシンの根本原因となる原因となります。

ゾンビセッションの警告メールは、15 分間隔で環境内でゾンビセッションを持つ新しいマシンが検出された場合に生成されます。詳細については、「セッションのセルフサービス検索」の記事「ゾンビセッションを持つマシンに対する警告」を参照してください。

### ゾンビセッションで推奨されるアクション

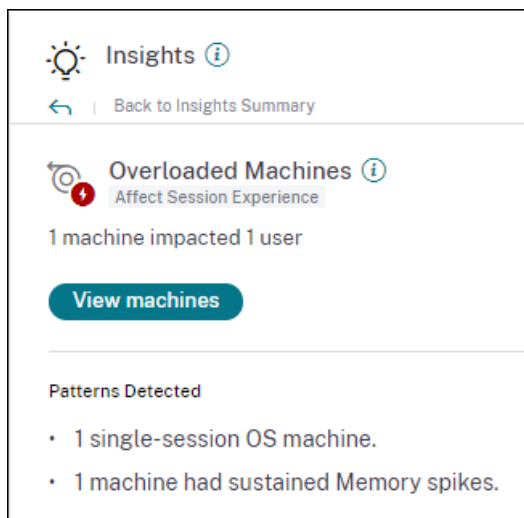
Zombie セッションを含むマシンは、ユーザーをログオフするか、再起動できます。

- Monitor for Citrix DaaS サイトを使用して、ユーザーをゾンビセッションからログアウトできます。詳しくは、「[サイト分析](#)」の記事を参照してください。
- Performance Analytics からゾンビセッションを含むマシンを再起動できます。「[マシンアクション](#)」の記事を参照してください。

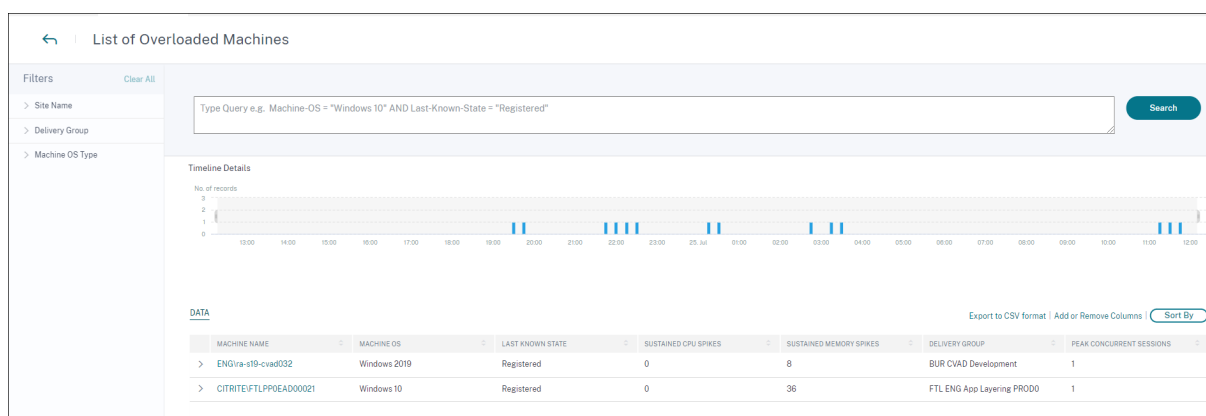
### 診断情報: 過負荷状態のマシン

オーバーロードされたマシンインサイトは、エクスペリエンスの低下を引き起こす過負荷のリソースを可視化します。CPU スパイクが持続するか、メモリ使用量が多い、またはその両方が 5 分以上続き、選択した期間のユーザーエクスペリエンスが低下したマシンは、過負荷と見なされます。環境内には、リソース使用率が高いがユーザーエクスペリエンスに影響を与えない他のマシンが存在する可能性があります。これらのマシンは、過負荷マシンとして分類されません。

過負荷状態のマシンインサイトには、選択した期間中に過負荷状態のマシンの数と、影響を受けたユーザーの数が表示されます。



「マシンを表示」をクリックすると、「オーバーロードされたマシン」の「マシン」セルフサービスページにオーバーロードされたマシンが表示されます。過負荷状態のマシンは、選択した間隔中にこれらのマシンで発生した持続メモリと CPU スパイクの数とともに一覧表示されます。



時系列グラフには、選択した時間間隔で過負荷になったマシンの数が 15 分間隔でプロットされて表示されます。さらに特定のマシンをクリックすると、[Machine Statistics] ビューが表示されます。

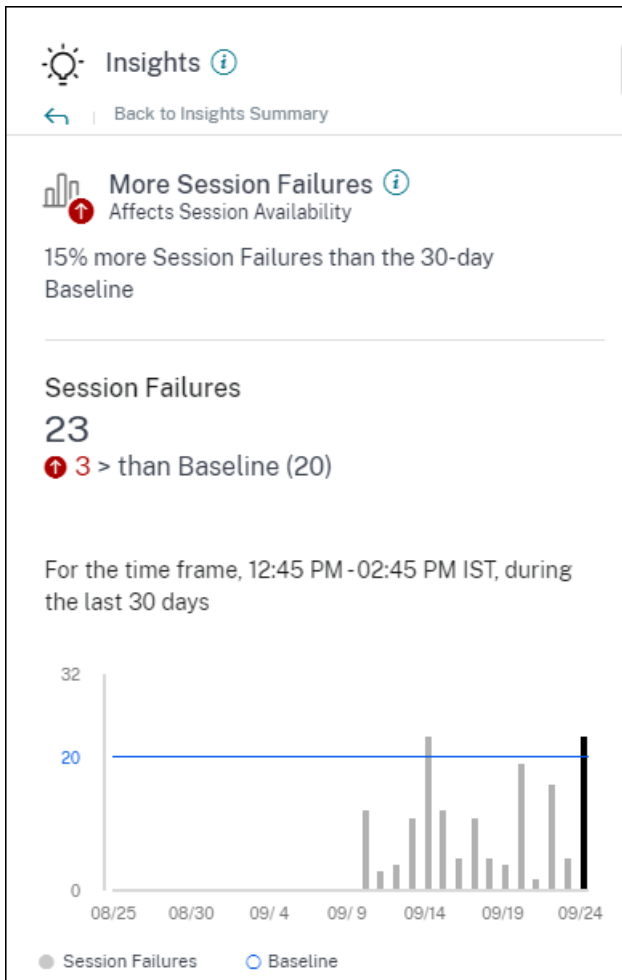
[検出されたパターン] セクションには、過負荷状態のマシンで検出された上位 3 つのパターンが、次の基準に関して表示されます。

- 各デリバリーグループの過負荷状態のマシンの数
- シングルセッションまたはマルチセッション OS を実行している過負荷のマシンの数
- メモリまたは CPU スパイクが持続する過負荷状態のマシンの数

過負荷状態のマシンアラートの詳細については、「アラート」の記事を参照してください。

#### ベースラインインサイト: セッション障害

このインサイトは、30 日間のベースライン値からのセッション障害数の偏差を示しています。ベースライン値は、同じ期間の過去 30 日間に測定されたセッション障害数の P80 値として計算されます。

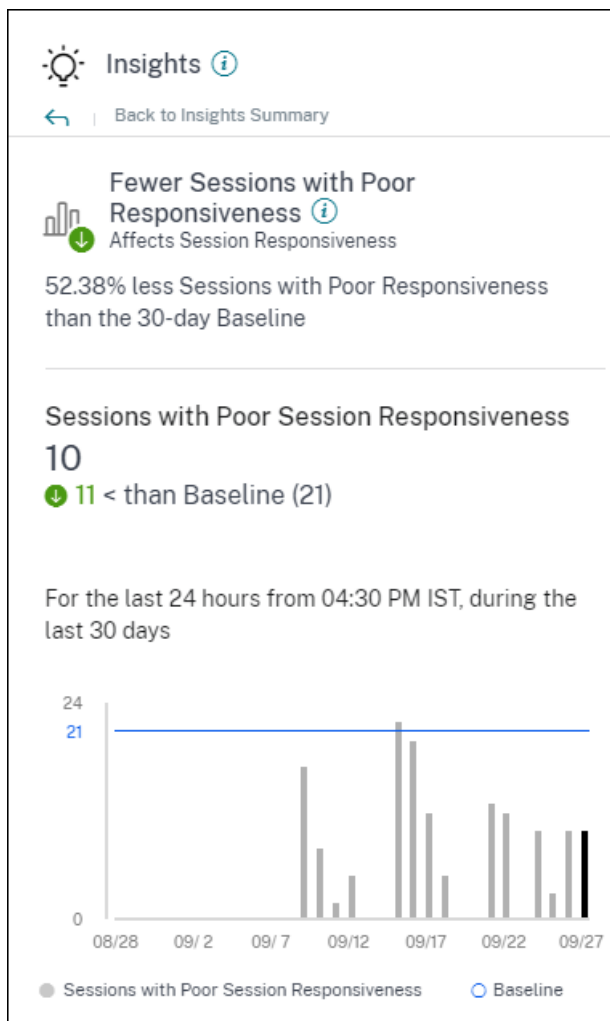


。

- ベースライン値と比較した現在のセッション失敗数の変化率
- 現在のセッション失敗数
- ベースライン値に対するセッション失敗数の増加または減少
- 過去 30 日間のベースライン値とセッション障害数を示すグラフ

#### ベースラインインサイト: セッション応答性

このインサイトは、応答性の低いセッション数が 30 日間のベースライン値から偏っていることを示しています。ベースライン値は、同じ期間の過去 30 日間に測定された応答性の低いセッション数の P80 値として計算されます。

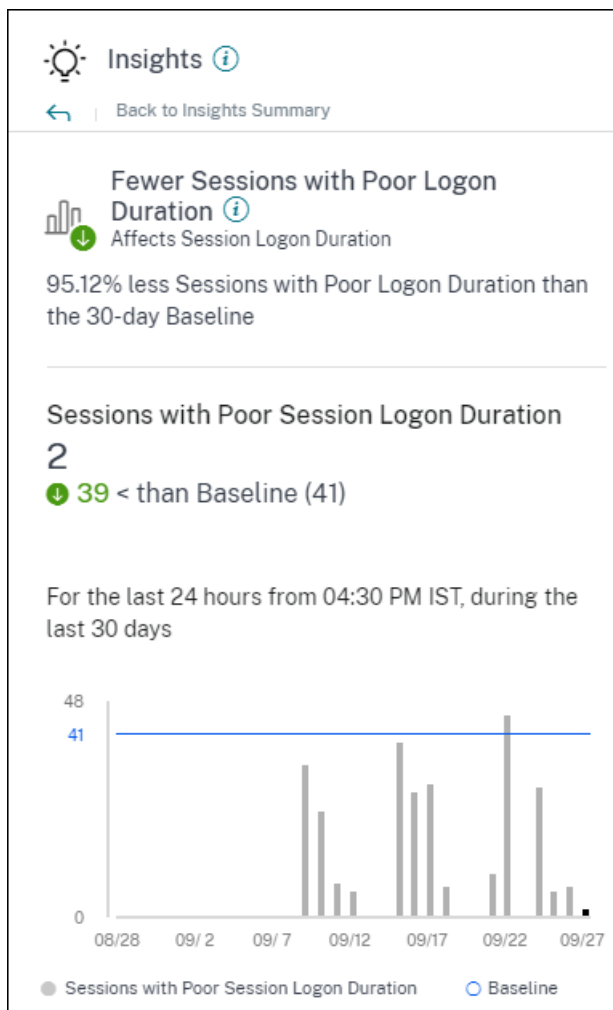


セッション応答性拡張に関するベースラインの洞察は次のことを示しています。

- ベースライン値と比較した、応答性の低い現在のセッション数の変化率。
- 応答性が低い現在のセッション数。
- ベースライン値に対する応答性の低いセッション数の増加または減少
- 過去 30 日間のベースライン値と応答性の低いセッション数を示すグラフ

#### ベースラインインサイト: セッションログオン時間

ログオン時間が短いセッションベースラインインサイトには、ログオン時間が短いセッション数と 30 日間のベースライン値との偏差が表示されます。ベースライン値は、同じ期間の過去 30 日間に測定されたログオン時間が短かったセッション数の P80 値として計算されます。



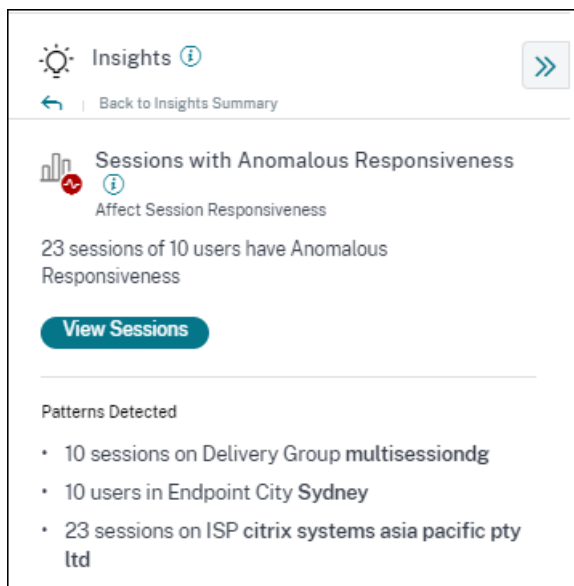
セッションログオン時間拡張に関するベースラインのインサイトでは、次のことがわかります。

- ベースライン値と比較した、現在のログオン時間が短いセッション数の変化率
- ログオン時間が短い現在のセッション数
- ベースライン値に対するログオン時間が短いセッション数の増加または減少
- 過去 30 日間のベースライン値とログオン時間が短かったセッションの数を示すグラフ

#### ベースラインインサイト: 応答性が異常なセッション

このインサイトは、30 日間のユーザー固有の応答性のベースライン値よりも応答性が高いセッションとユーザーの数を示します。ベースライン値は、同じ期間に過去 30 日間に測定された P95 ICARTT 値を使用して計算されます。



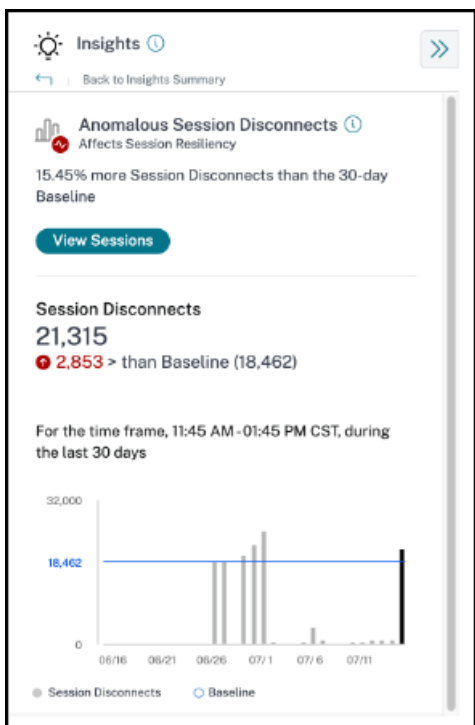


この拡張に関する洞察から、次のデータが表示されます。

- 「セッションを表示」リンクをクリックすると、選択した期間中に異常な応答を示したセッションを一覧表示するセルフサービスビューに移動します。
- デリバリーグループ、エンドポイントシティ、ISP に関して検出された上位パターンが表示されるため、問題が発生している特定のユーザーコホートを特定するのに役立ちます。

#### ベースラインインサイト: 異常なセッション切断

異常セッション切断ベースラインインサイトには、セッション切断数が 30 日間のベースライン値から逸脱していることがわかります。ベースライン値は、同じ期間の過去 30 日間に測定されたセッション切断数の P80 値として計算されます。



拡張に関するセッション切断のベースラインインサイトには、次の情報が表示されます。

- ベースライン値と比較した、現在のセッション切断数の変化率
- 現在のセッション切断数
- ベースライン値に対するセッション切断数の増加または減少
- 過去 30 日間のベースライン値とセッション切断数を示すグラフ

## アラート

April 12, 2024

Performance Analytics は、管理者が環境をプロアクティブに監視するのに役立つアラートを生成します。アラートは、ユーザーエクスペリエンスに影響を与える要因が悪化したときに生成されます。

Users Infrastructure Alert Policies

4 Alerts defined Last updated July 29, 2022, 13:20 IST (UTC+0530) [Refresh](#)

NAME	OCCURRENCE	LAST MODIFIED
Overloaded machines	111	7/11/2022
Machines with Zombie Sessions	17	4/11/2022
Session with Anomalous Latency	73	11/20/2020

Showing 1-4 of 4 items Page 1 of 1

使用可能なポリシーは、[アラートポリシー] タブに一覧表示されます。アラートはデフォルトで有効になっており、[ステータス] トグルを使用して無効にできます。Citrix Cloud アカウントへの管理者アクセス権を持たない受信者に対しても、利害関係者へのアラートメール通知を有効にできます。アラート名をクリックして、メール受信者リストを編集します。詳細については、「[メール配布リスト](#)」の記事を参照してください。

アラートメールを受信するには、Citrix Cloud の [アカウント設定] メニューからすべての受信者に対してメール通知の受信を有効にする必要があります。詳細については、「[通知](#)」の記事を参照してください。

### アラート通知の **Webhook** サポート

パフォーマンス分析から Slack や JIRA などのお好みの Webhook リスナーにアラート通知を公開できます。これにより、企業のお客様はインシデントの検出から終了までのフローを自動化できるため、パフォーマンス分析のアラート通知に対応するワークフローを簡単に推進できます。

Webhook プロファイルの作成について詳しくは、「[Webhook プロファイルの作成](#)」を参照してください。

Webhook ベースのアラート通知を設定するには:

1. [アラートポリシー] タブに移動します。

**Modify Alert**

NAME  
Black hole machines

IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET  
▼

THEN DO THE FOLLOWING  
Notify Webhook ▼

Configure Webhook

Select Webhook Profile  
Select Webhook ▼

Create Webhook Profile [↗](#)

Message Body  
Include \$Format\_Alert\_Msg to get a formatted alert message

Validate that the Webhook URL, the message format, and the header details are correct and your server is properly configured. If the test succeeds, you should receive the message on your Webhook URL.

Test Webhook

Creator: system Cancel

2. Webhook で設定するポリシーをクリックします。
3. 「アラートの変更」ページが開きます。「次に実行する」ドロップダウンリストで、必要に応じて「**Webhook** に通知」または「電子メール」または「**Webhook** に通知する」を選択します。
4. webhook プロファイルがすでに作成されている場合は、「webhook プロファイルの選択」ドロップダウンリストから正しい **webhook** を選択します。
5. 「メッセージ本文」テキストボックスに、バックエンドに保存されているテンプレート文字列を含む通常のアラートメッセージを取得するための `$Format_Alert_Msg` 文字列を入力します。たとえば、アラートメッセージを Slack に送信するには、次の形式を使用できます: { `"text": "$Format_Alert_Msg"` }。

The screenshot shows the configuration page for a Webhook alert. At the top, there is a section for 'RE-ALERT PREFERENCE' with a toggle switch set to 'Enabled'. Below this, it states 'When enabled, re-alerts are generated:' followed by two bullet points: 'if machines remain in Black hole state for longer than 24 Hrs OR' and 'if the number of Black hole machines are doubled.'

The main configuration area is titled 'THEN DO THE FOLLOWING' and has a dropdown menu set to 'Notify Webhook'. Underneath, there is a 'Configure Webhook' section with a 'Select Webhook Profile' dropdown menu showing 'test\_auto\_name\_'. There is a 'Create Webhook Profile' link. The 'Message Body' section includes the instruction 'Include \$Format\_Alert\_Msg to get a formatted alert message' and a text area containing the placeholder text '({text:" \$Format\_Alert\_Msg})'. Below the text area, there is a validation note: 'Validate that the Webhook URL, the message format, and the header details are correct and your server is properly configured. If the test succeeds, you should receive the message on your Webhook URL.' A 'Test Webhook' button is located at the bottom left of the configuration area.

On the right side, there is a 'Webhook Details' panel showing the following information:

Webhook Details	
METHOD	POST
WEBHOOK URL	https://hooks.slack.com/services/1...
Headers	
content-type	application/json
CAS_test_auto	ui_auto...

### アラートメーラーの **CSV** 添付ファイル

ブラックホールマシン、オーバーロードマシン、およびゾンビセッションのアラートメールには、影響を受けるマシンとセッションに関する情報を含む CSV ファイルが添付されています。

添付ファイルには次のデータが含まれます。

- マシン名
- サイト ID
- カタログ名
- デリバリーグループ名
- 障害数 (該当する場合、障害が発生したマシンまたはセッションの数)。

アラートメーラーの CSV 添付ファイルを使用すると、Citrix Analytics for Performance にログオンしなくても、障害が発生しているマシンやセッションを特定できます。これにより、チケットを作成して問題の迅速な解決を担当する利害関係者に転送するための自動化パイプラインを確立できます。

### デリバリーグループをアラートの受信から除外

アラート通知の受信から除外するデリバリーグループを指定できるようになりました。未使用のデリバリーグループまたはテスト目的で作成されたデリバリーグループをアラートプロセスから削除できます。デリバリーグループを除外することで、アラートの疲労を軽減し、アラートの関連性を高めることができます。

## アラートパラメータのカスタマイズ

アラートポリシーは、デフォルトのパラメータ値で事前に構築されています。アラートパラメータを変更して、環境により適したものにすることができます。

アラートポリシー名をクリックして、[アラートの変更] ウィンドウを開きます。リストされているパラメータの値を、環境に合わせて変更してください。それ以降のアラート通知は、カスタム条件に基づいて生成されます。

The screenshot shows the configuration for an alert named "Overloaded machines". The condition is defined as follows:

- IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET (with a "Reset conditions to default" link)
- Machines: CPU Utilization is Greater than 80% (Impacts the Insights)
- OR
- Machines: Memory Consumption is Greater than 80% (Impacts the Insights)
- AND
- Machines: Impacted is Greater than 0

RE-ALERT PREFERENCE is set to Enabled. A note states: "When enabled, re-alerts are generated every hour for multi-session and every day for single-session machines:"

- If at least one poor session exists AND
- CPU Utilization OR Memory Consumption > 80%

### 注:

アラートパラメーターを更新すると、UX ダッシュボード上の対応するインサイトの計算も変更されます。

再アラートがサポートされているアラートでは、再アラート設定を制御することもできます。再アラートプリファレンスが「有効」に設定されていて、再アラートプリファレンスで指定された条件が維持されている場合、アラート通知は再送信されます。

カスタマイズされたアラートは、環境との関連性が高く、異常を簡単に特定するのに役立ち、プロアクティブな監視の信頼性が高くなります。

## ゾンビセッションのあるマシンのアラート

ゾンビセッションのあるマシンアラートメールは、ゾンビセッションのある新しいマシンが環境内で 15 分間隔で検出されると生成されます。

「ゾンビセッションのあるマシン」アラートのアラート条件をカスタマイズできます。

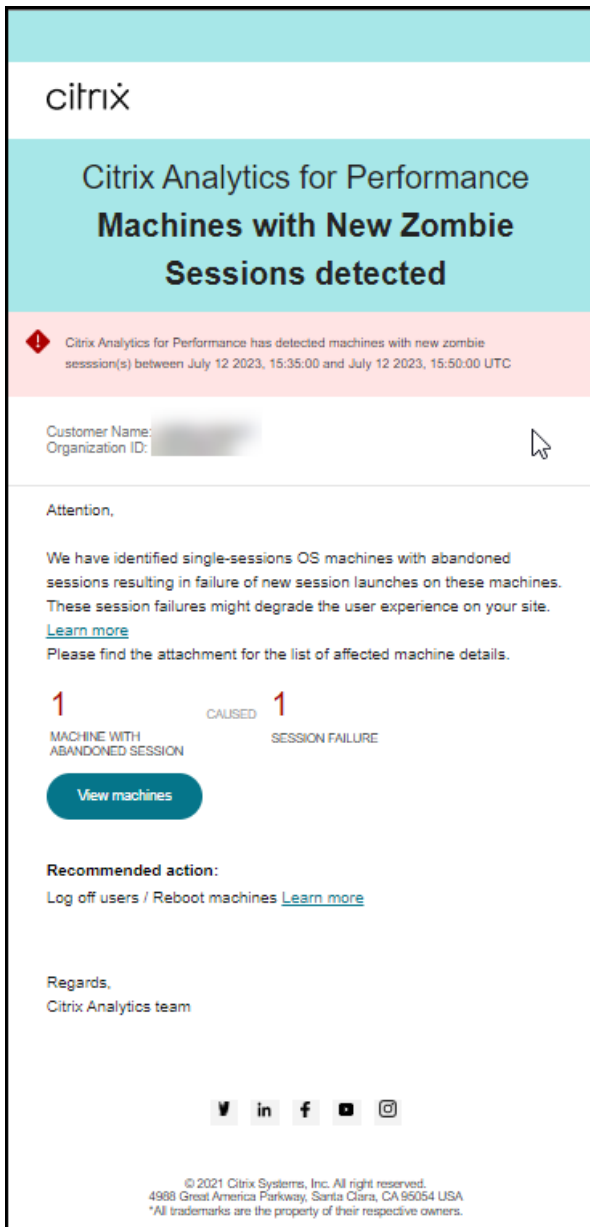
NAME

Machines with Zombie Sessions

IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET [Reset conditions to default](#)

Machines: Impacted is Greater than 0

ゾンビセッションが発生しているマシンの数と、ゾンビセッションが原因で発生したセッション障害の詳細を含む電子メールアラートが管理者に送信されます。メーラー内の数字は、直近の 15 分間隔のものです。



「メーラーでマシンを表示」をクリックすると、ゾンビセッションのあるマシンのセルフサービスビューに、セッションが中止されたシングルセッションマシンが表示されます。このビューには、メーラーごとに 15 分間隔が反映され

まず、タイムナビゲーターを使用して、より大きな時間枠を選択します。

同じマシンでの再アラートは、同じ放棄されたセッションが最初に検出されてから 24 時間以上同じマシンで継続する場合にのみ行われます。このアラートの再アラート設定を無効に設定することはできません。

### 異常なレイテンシのあるセッションのアラート

異常な遅延は、セッションエクスペリエンスが低下する主な原因です。異常レイテンシーアラートは、セッションのレイテンシー値に著しい偏差がある場合に管理者に役立ちます。プロアクティブアラートは、管理者がセッションの応答性が低い特定のユーザーを特定するのに役立ちます。

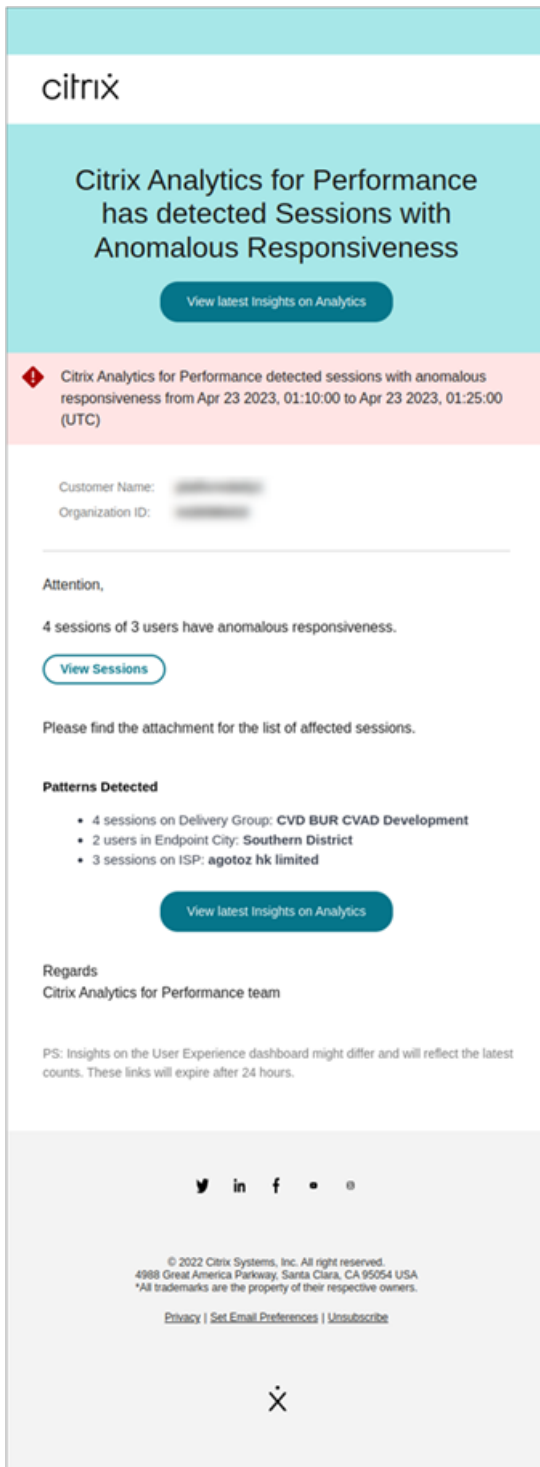
異常遅延のあるセッションアラートのアラート条件をカスタマイズできます。

The screenshot shows the configuration for an alert named "Session with Anomalous Latency". Under the heading "IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET", there are two conditions connected by an "AND" operator. The first condition is "Sessions: Responsiveness Baseline Deviation" is "Greater than" 40%. The second condition is "Sessions: Impacted" is "Greater than" 0.

パラメーターを更新すると、応答性が異常なセッションのベースラインインサイトの計算が変更されます。

このアラートは、セッション・レイテンシーの測定値がユーザーの 30 日間のベースライン値から逸脱しているセッション数とユーザー数を示します。ユーザー固有のベースラインは、過去 30 日間に測定された P95 ICARTT 値を使用して計算されます。





アラートメールには、指定された期間に異常な応答に直面したセッション数とユーザー数が表示されます。「セッションを表示」をクリックすると、セッションのセルフサービスページに異常応答のセッションが一覧表示されます。

**Patterns Detected** セクションには、以下の基準に基づいて、応答が異常なセッションで検出された上位 **3** つのパターンが表示されます。

- 各デリバリーグループで応答が異常なセッションの数
- 各エンドポイントシティで異常な応答を示したユーザーの数
- 各 ISP で応答が異常なセッションの数

「アナリティクスで最新のインサイトを表示」リンクをクリックすると、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードが開き、インサイトパネルに最新の統計が表示されます。特定のセッションのロケーション、ICARTT、ISP、帯域幅、および遅延のメトリックを分析して、問題の根本原因を特定します。セッションベースのセルフサービスビューで利用できる指標の詳細については、「[セッションのセルフサービス検索](#)」を参照してください。

### 過負荷のマシンに対する警告

CPU スパイクが持続する、またはメモリ使用率が高くなる、あるいはその両方で 5 分以上持続し、選択した間隔でユーザーエクスペリエンスが低下したマシンは、過負荷状態と見なされます。

Overload Machines アラートのアラート条件と再アラート設定をカスタマイズできます。

NAME

Overloaded machines

IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET [Reset conditions to default](#)

Machines: CPU Utilization is Greater than 80 %  
Impacts the Insights

OR

Machines: Memory Consumption is Greater than 80 %  
Impacts the Insights

AND

Machines: Impacted is Greater than 0

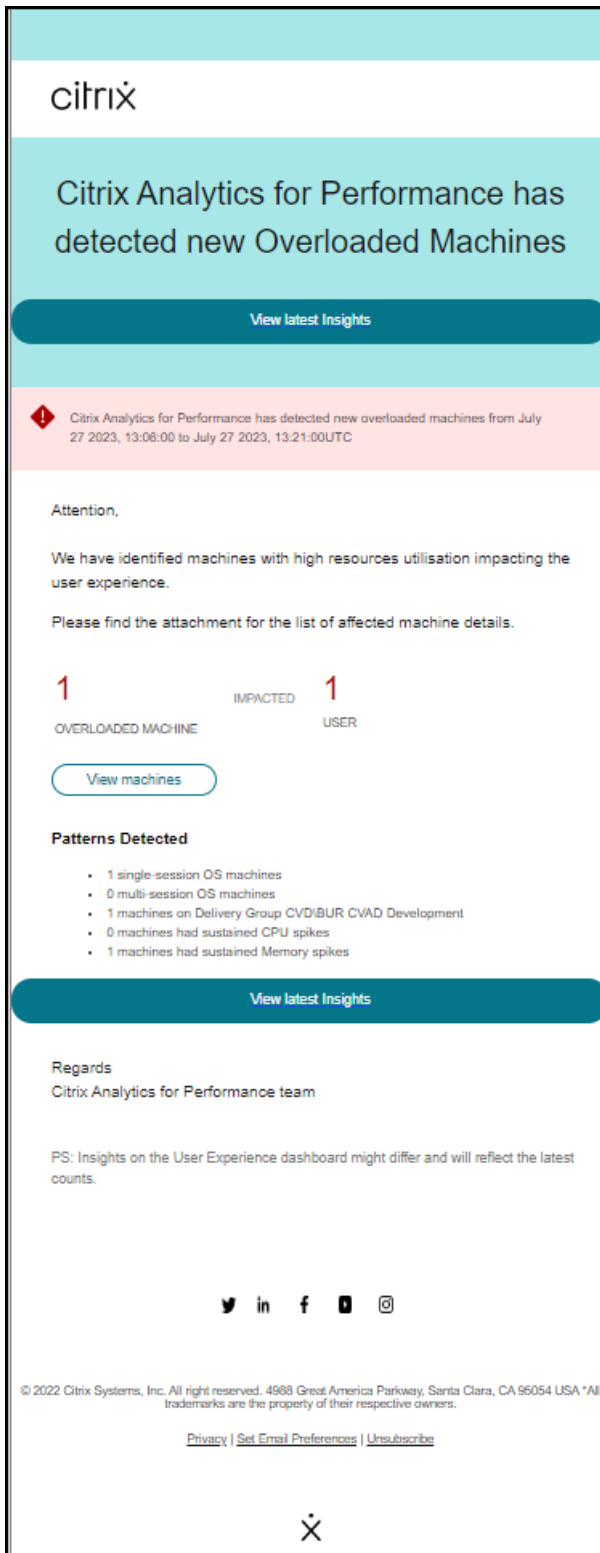
RE-ALERT PREFERENCE

Enabled

When enabled, re-alerts are generated every hour for multi-session and every day for single-session machines:

- If at least one poor session exists AND
- CPU Utilization OR Memory Consumption > 80%

過負荷状態のマシンが 15 分間隔で環境内で検出されると、過負荷マシンのアラートメールが管理者に送信されます。



マシンが過負荷状態のままの場合、再警告メールが生成され、

- シングルセッションマシンの場合、24 時間に 1 回、
- マルチセッションマシンの場合、セッションスコアが低い新しいセッションがある場合は初日に最大 3 回、24

時間後に 1 回まで。

警告メールには、ユーザーエクスペリエンスの低下を引き起こしている過負荷のマシンの数と、選択した期間中に影響を受けたユーザーの数が表示されます。

[マシンの表示] をクリックして、[オーバーロードされたマシン] の [マシンのセルフサービス] ページにリストされているオーバーロードされたマシンを表示します。

[検出されたパターン] セクションには、過負荷状態のマシンで検出された上位 3 つのパターンが、次の基準に関して表示されます。

- 各デリバリーグループの過負荷状態のマシンの数
- シングルセッションまたはマルチセッション OS を実行している過負荷のマシンの数
- メモリまたは CPU スパイクが持続する過負荷状態のマシンの数

「最新のインサイトを表示」リンクをクリックすると、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードが開き、インサイトパネルに最新の統計が表示されます。

パラメーターを更新すると、過負荷マシンの診断インサイトの計算が変更されます。

詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

#### ブラックホールマシンへの警告

Citrix Analytics for Performance は、15 分ごとにブラックホールマシンをスキャンし、アラートを送信して、ブラックホールマシンが原因でユーザーが直面するセッション障害を管理者がプロアクティブに軽減できるようにします。4 回以上連続してセッション要求を処理できなかったマシンは、ブラックホールマシンと呼ばれます。ブラックホール障害アラートを使用すると、管理者はブラックホールマシンが原因で発生したセッション障害を知るために Performance Analytics にログインする必要がありません。

Black Hole Machines アラートのアラート条件と再アラート設定をカスタマイズできます。

NAME  
Session Failures

IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET [Reset conditions to default](#)

Sessions: Failure Baseline Deviation is Greater than 30 %  
Impacts the Insights

AND

Sessions: Impacted is Greater than 5


RE-ALERT PREFERENCE  
 Enabled  
When enabled, re-alerts are generated:  
• if there are more Session Failures than the 30-day Baseline for longer than 1 Hour.

マシンの詳細とそれらによって引き起こされたセッション障害は、管理者への警告メールで送信されます。これらのメールを受信するには、**Black Hole Machines** アラートポリシーを有効にする必要があります。

**citrix**

## Citrix Analytics for Performance has detected New Black hole Machines

[View latest Insights on Analytics](#)

 Citrix Analytics for Performance detected new black hole machines from June 27 2023, 11:00:00 to June 27 2023, 11:15:00 UTC

Customer Name: [REDACTED]  
Organization ID: [REDACTED]

Attention,

We have identified machines in black hole state which are currently leading to multiple consecutive session failures resulting in poor user experience.

**1** BLACK HOLE MACHINE CAUSED **6** SESSION FAILURES

[View machines](#)

**Patterns Detected**

- 0 single-session OS machines
- 1 multi-session OS machines
- 1 machines on Delivery Group: **DGN-15th-June**






We recommend you to take following actions from Analytics console:

1. Check RDS license on multi-session OS machines.
2. Put the machine on maintenance mode.
3. Reboot.

[View latest Insights on Analytics](#)


Regards  
Citrix Analytics for Performance team

PS: Insights on the User Experience dashboard might differ and will reflect the latest counts.

© 2021 Citrix Systems, Inc. All right reserved. 4988 Great America Parkway, Santa Clara, CA 95054 USA \*All trademarks are the property of their respective owners.

[Privacy](#) | [Set Email Preferences](#) | [Unsubscribe](#)



[マシンの表示] リンクをクリックすると、[マシン]セルフサービスビューに移動し、15分間隔のブラックホールマシンのリストが表示されます。さらに、タイムラインビューには、過去24時間に特定されたブラックホールマシンが表示されます。

同じブラックホールマシンによるセッション障害の数が24時間以内に倍増し、再警告設定が[有効]に設定されている場合、管理者は再警告を受けます。

「最新のインサイトを表示」リンクをクリックすると、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードが開き、インサイトパネルに最新の統計が表示されます。

検出されたパターンセクションには、以下の基準に基づいてブラックホールマシンで検出された上位3つのパターンが表示されます。

- 各デリバリーグループのブラックホールマシンの数
- シングルセッションまたはマルチセッションOSを実行しているブラックホールマシンの数

パラメーターを更新すると、ブラックホールマシンのダイアグノスティックインサイトの計算が変更されます。詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

## セッション障害アラート

**Session Failures** アラートは、起動に失敗したセッションの数が30日間のベースライン値の30%以上を超え、セッション総数の5%以上が失敗した場合に生成されます。ベースライン値は、同じ期間の過去30日間に測定されたセッション障害数のP80値として計算されます。

Session Failures アラートのアラート条件と再アラート設定をカスタマイズできます。

NAME  
Session Failures

IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET [Reset conditions to default](#)

Sessions: Failure Baseline Deviation is Greater than 30 %  
Impacts the Insights

AND

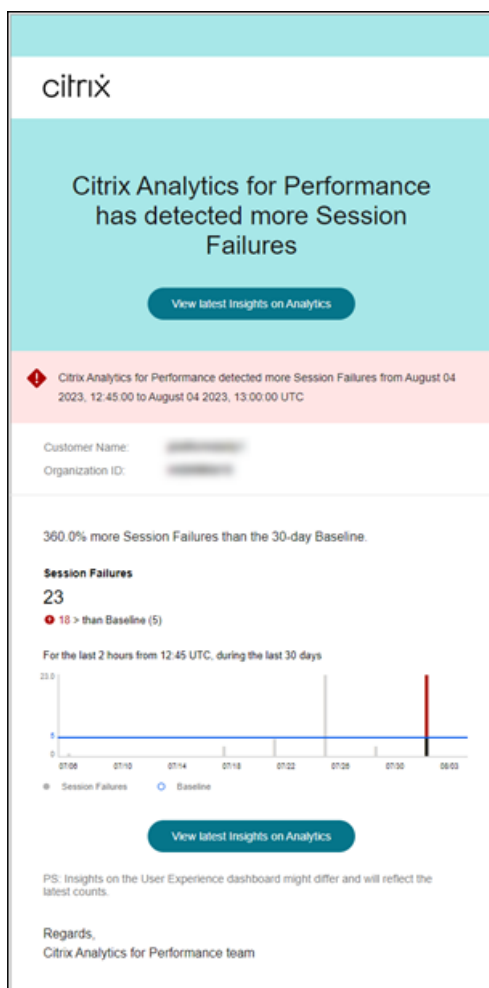
Sessions: Impacted is Greater than 5

RE-ALERT PREFERENCE  
 Enabled

When enabled, re-alerts are generated:

- if there are more Session Failures than the 30-day Baseline for longer than 1 Hour.

セッション障害アラート通知は、設定されたすべての管理者にメールで送信されます。



セッション障害アラートメールには、次の情報が表示されます。

- ベースライン値と比較した現在のセッション失敗数の変化率
- 現在のセッション失敗数
- ベースライン値に対するセッション失敗数の増加
- 過去 30 日間のベースライン値とセッション障害数を示すグラフ。

「最新のインサイトを表示」リンクをクリックすると、ベースラインインサイトパネルに最新の統計を表示するユーザーエクスペリエンスダッシュボードが表示されます。

パラメーターを更新すると、セッション障害のベースラインインサイトの計算が変更されます。詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

#### 応答性が低いセッションのアラート

応答性の低いセッション数が 30 日間のベースライン値から 30% 以上増加し、この増加がセッションの 5% 以上に影響を及ぼす場合にアラートが生成されます。ベースライン値は、同じ期間の過去 30 日間に測定された応答性の低いセッション数の P80 値として計算されます。



Sessions with Ponsiveness アラートのアラート条件と再アラート設定をカスタマイズできます。

NAME

Sessions with Poor Responsiveness

IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET [Reset conditions to default](#)

Sessions: Responsiveness Baseline Deviation  30 %  
Impacts the Insights

AND

Sessions: Impacted  5

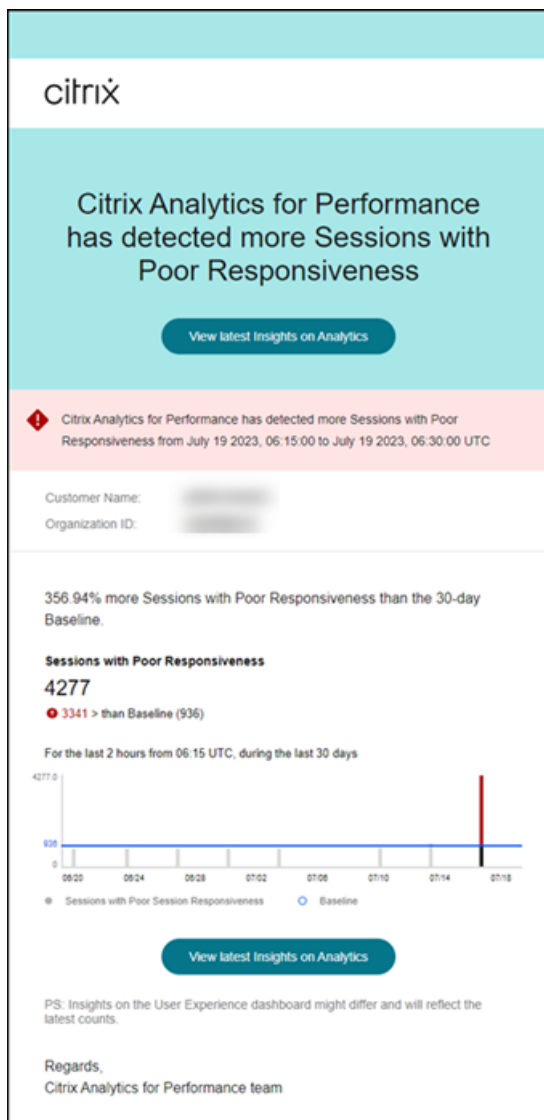
RE-ALERT PREFERENCE

Enabled

When enabled, re-alerts are generated:

- if there are more Sessions with Poor Responsiveness than the 30-day Baseline for longer than 1 Hour.

応答性が低いセッションアラート通知は、設定された管理者にメールで送信されます。



警告メールには次の情報が含まれます:

- ベースライン値と比較した、応答性の低い現在のセッション数の変化率
- 応答性の低い現在のセッション数
- ベースライン値に対する応答性の低いセッションの増加または減少
- 過去 30 日間のベースライン値と応答性の低いセッション数の傾向を示すグラフ。

「最新のインサイトを表示」リンクをクリックすると、ユーザーエクスペリエンスダッシュボードが開き、インサイトパネルに最新の統計が表示されます。

パラメーターを更新すると、応答性の低いセッションのベースラインインサイトの計算が変更されます。詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

### ログオン時間が短いセッションに関するアラート

ログオン期間が不十分なセッション数が 30 日間のベースライン値から 30% 以上増加し、この増加がセッションの 5% 以上に影響を及ぼす場合にアラートが生成されます。ベースライン値は、同じ期間の過去 30 日間に測定されたログオン時間が短かったセッション数の P80 値として計算されます。

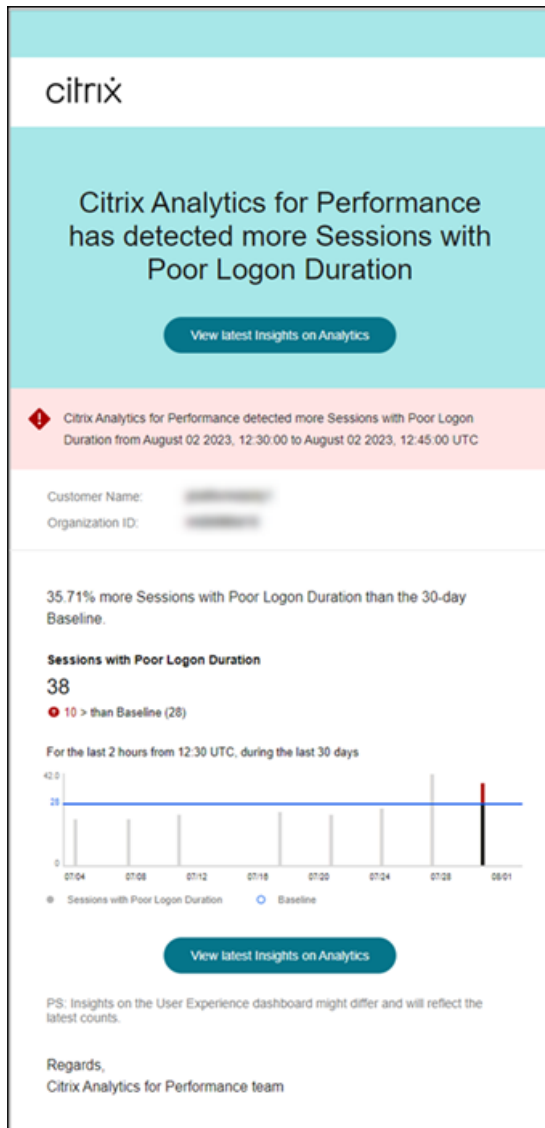
ログオン時間が短いセッションアラートのアラート条件と再アラート設定をカスタマイズできます。

The screenshot shows the configuration for an alert named "Sessions with Poor Logon Duration". The condition is set to "IF THE FOLLOWING CONDITION IS MET" with a "Reset conditions to default" link. The condition consists of two parts connected by "AND":

- Condition 1: "Sessions: Logon Duration Baseline Deviation" is "Greater than" 30% (Impacts the Insights).
- Condition 2: "Sessions: Impacted" is "Greater than" 5.

The "RE-ALERT PREFERENCE" section is "Enabled". A note states: "When enabled, re-alerts are generated: if there are more Sessions with Poor Logon Duration than the 30-day Baseline for longer than 1 Hour."

ログオン時間が短いセッションアラート通知は、設定された管理者にメールで送信されます。



ログオン時間が短いセッションの警告メールには、次の情報が表示されます。

- ベースライン値と比較した、現在のログオン期間が不十分なセッション数の変化率
- ログオン時間が短い現在のセッション数
- ベースライン値に対するログオン時間が短いセッションの増加または減少
- 過去 30 日間のベースライン値とログオン時間が短かったセッションの数を示すグラフ

「最新のインサイトを表示」リンクをクリックすると、ベースラインインサイトパネルに最新の統計を表示するユーザーエクスペリエンスダッシュボードが表示されます。

詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

### 異常なセッション切断に関するアラート

異常セッション切断アラートは、セッション切断数が **30** 日間のベースライン値から **30%** 以上増加し、この増加がセッションの **5%** 以上に影響した場合に生成されます。ベースライン値は、同じ期間の過去 30 日間に測定されたセッション切断数の P80 値として計算されます。

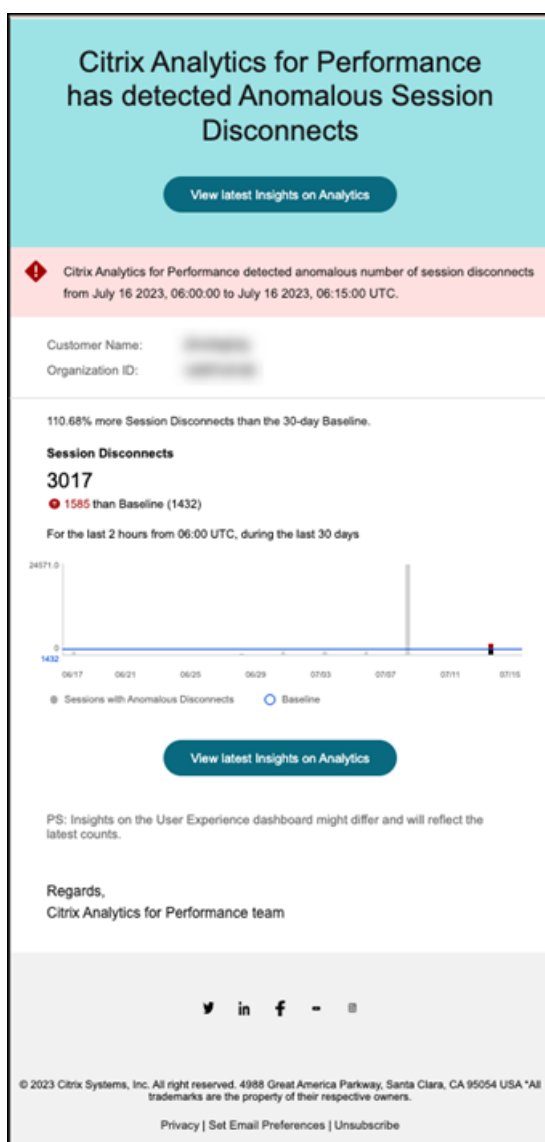
異常セッション切断アラートのアラート条件と再アラート設定をカスタマイズできます。

The screenshot shows the configuration interface for an alert named "Anomalous Session Disconnects". The alert is triggered when the following conditions are met:

- Sessions: Disconnects Baseline Deviation** is **Greater than** **30%**. This condition is noted as "Impacts the Insights".
- Sessions: Impacted** is **Greater than** **5**.

The conditions are connected by an **AND** operator. Below the conditions, the **RE-ALERT PREFERENCE** is set to **Enabled**. A note states: "When enabled, re-alerts are generated: if there are more Session Disconnects than the 30-day Baseline for longer than 1 Hour."

ログオン時間が短いセッションアラート通知は、設定された管理者にメールで送信されます。



異常なセッション切断アラートメールには、次の情報が表示されます：

- ベースライン値と比較した現在のセッション切断数の変化率
- 現在のセッション切断数
- ベースライン値に対するセッション切断数の増加
- 過去 30 日間のベースライン値とセッション切断数を示すグラフ。

「最新のインサイトを表示」リンクをクリックすると、ベースラインインサイトパネルに最新の統計を表示するユーザーエクスペリエンスダッシュボードが表示されます。

パラメータを更新すると、異常セッション切断のベースラインインサイトの計算が変更されます。詳細については、「[インサイト](#)」の記事を参照してください。

## カスタムレポート (プレビュー)

February 14, 2024

Citrix Analytics for Performance のパフォーマンス指標を使用して、カスタムレポートを作成およびスケジュールできます。カスタムレポートを使用すると、特定の関心のある情報を抽出し、データをグラフィカルに整理できます。エグゼクティブレポートを定期的に作成し、環境のパフォーマンスを経時的に分析するのに役立ちます。

Performance Analytics の [レポート] をクリックすると、現在のテナントの既存のレポートのリストが表示されます。レポート行を展開すると、レポートのプレビューが表示されます。

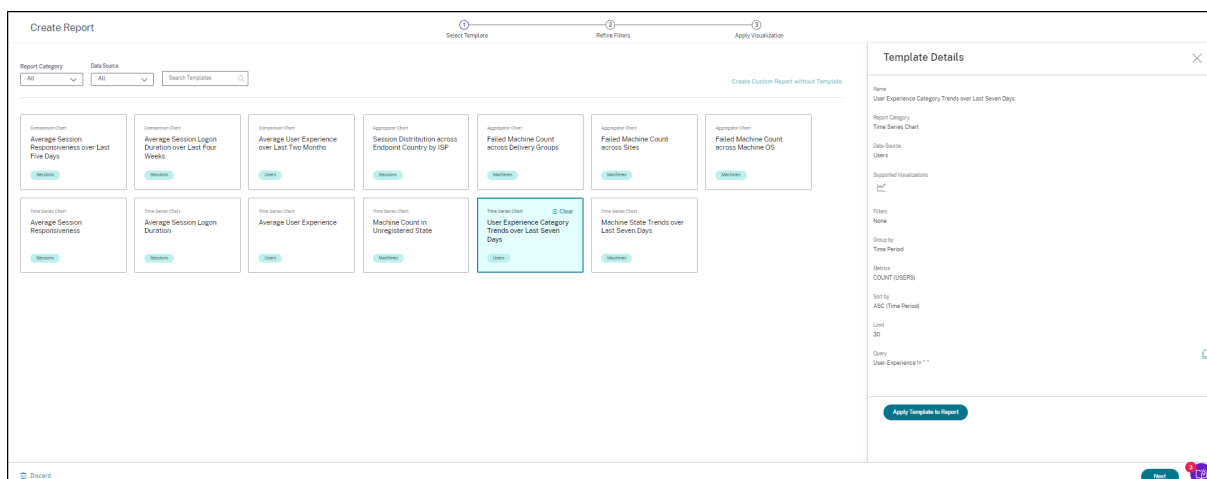
REPORT NAME	CHART TYPE	DATA SOURCE	CREATED BY	CREATED ON	ACTIONS
> [REDACTED]	Line Chart	Sessions	Me	Dec 13 2022, 7:42 PM IST	[Export] [Edit] [Delete]
> [REDACTED]	Line Chart	Users	[REDACTED]	Dec 13 2022, 4:38 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Line Chart	Users	[REDACTED]	Dec 13 2022, 4:10 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Line Chart	Users	[REDACTED]	Dec 13 2022, 4:10 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Line Chart	Sessions	[REDACTED]	Dec 13 2022, 4:10 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Line Chart	Sessions	[REDACTED]	Dec 13 2022, 4:09 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Bar Chart	Machines	[REDACTED]	Dec 13 2022, 4:09 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Bar Chart	Machines	[REDACTED]	Dec 13 2022, 4:08 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Line Chart	Machines	[REDACTED]	Dec 13 2022, 3:44 PM IST	[Export]
> [REDACTED]	Line Chart	Users	[REDACTED]	Dec 13 2022, 3:44 PM IST	[Export]

このビューを使用して、レポートに対して次のアクションを実行できます。

- 「レポートを作成」をクリックして、カスタムレポートを作成します。
- 行を展開すると、既存のカスタムレポートのプレビューが表示されます。
- レポート名をクリックすると、既存のカスタムレポートのレポートが表示されます。
- エクスポートアイコンをクリックして、既存のカスタムレポートを CSV 形式、PDF 形式、またはその両方でエクスポートします。
- 編集アイコンをクリックして、作成したレポートを編集します。
- 作成したレポートを削除するには、削除アイコンをクリックします。

### カスタムレポートの作成方法

カスタムレポートを作成するには、「レポートを作成」をクリックします。レポートの作成ページでは、テンプレートを使用するカスタムレポートを作成するか、テンプレートなしで作成するかを選択できます。



テンプレートを使用してカスタムレポートを作成するには、次の操作を行います。

1. テンプレートを選択する。次の中からレポートカテゴリを選択します。

- 時系列グラフ: このグラフは、平均セッション応答性など、特定の期間にわたる選択した指標を分析するのに役立ちます。
- 集計グラフ: このグラフは、特定の期間における特定の指標の集約値を特性（地域など）ごとにグループ化してプロットします。たとえば、ISP 別のエンドポイント国全体のセッション分布などです。さまざまな地域や ISP にわたるセッションアクティビティを理解するのに役立ちます。
- 比較グラフ: このグラフは、過去 5 日間の平均セッション応答性など、一連の期間にわたって比較した平均メトリック値をプロットします。さまざまな期間における特定の指標のパフォーマンスを理解するのに役立ちます。

2. ユーザー、セッション、またはマシンの中からデータソースを選択し、グラフ用に定義済みのテンプレートの 1 つを選択します。

- ユーザーデータソースに基づくテンプレート:
  - 過去 2 か月間の平均ユーザーエクスペリエンス
  - 平均的なユーザーエクスペリエンス
  - 過去 7 日間のユーザーエクスペリエンスカテゴリの傾向
- セッションデータソースに基づくテンプレート:
  - 過去 5 日間のセッション平均応答性
  - 過去 4 週間の平均セッションログオン時間
  - ISP によるエンドポイント国全体へのセッション分布
  - セッションの平均応答性
  - 平均セッションログオン時間
- マシンデータソースに基づくテンプレート:
  - 未登録状態のマシン数
  - デリバリーグループ全体の障害マシン数



- サイト全体での障害発生マシン数
- マシン OS 全体の障害マシン数
- 過去 7 日間のマシン状態の傾向

3. テンプレートをクリックすると、テンプレートの詳細が右側に表示されます。「テンプレートをレポートに適用」をクリックして、選択したテンプレートをレポートで使用できるようにします。
4. フィルターを絞り込む。フィルターの絞り込みページには、選択したテンプレートごとの定義済みフィルターが表示されます。必要な変更を加え、[次へ]をクリックします。




The screenshot shows the 'Create Report' workflow. Step 1 is 'Select Template', Step 2 is 'Refine Filters', and Step 3 is 'Apply Visualization'. The 'Filters' section on the left has a search bar with the query: `Launch-Status = "Succeeded" AND Session-Responsiveness > 0`. Below the filters is a table with the following data:

SESSION EXPERIENCE	USER NAME	DELIVERY GROUP NAME	SESSION START TIME	MACHINE NAME	ENDPOINT CITY (LAST KNOWN)	LAUNCH STATUS
> 99		ENT Multi Tenant MGH MVH MCL	Dec 11, 2022, 19:41 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 99		ENT Multi Tenant MGH MVH MCL	Dec 12, 2022, 13:19 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 100		ENT Multi Tenant PHS	Dec 11, 2022, 17:05 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 99		ENT Multi Tenant PHS	Dec 11, 2022, 22:10 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 93		ENT Multi Tenant PHS	Dec 11, 2022, 16:44 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 100		ENT Multi Tenant BWH	Dec 11, 2022, 20:07 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 100		ENT Multi Tenant PHS	Dec 12, 2022, 03:30 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 50		VDI Windows 10	Dec 12, 2022, 13:15 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 99		ENT Multi Tenant PHS	Dec 12, 2022, 14:10 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 99		ENT Multi Tenant MGH MVH MCL	Dec 12, 2022, 09:15 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded
> 100		ENT Multi Tenant BWH	Dec 11, 2022, 18:57 IST (UTC+0530)		N/A	Succeeded

5. ビジュアライゼーションを適用します。チャートを構成するパラメータを選択します。

### Create Report

Recommended Visualization

---

Configure Visualization

Select dimensions and metrics to create your report.

Dimension  
Time Period

Granularity  
Hour

Compare By  
Time

Time comparison only applied to preset time periods (Last 2 Hrs, Last 12 Hrs, etc.) in Step 2

Compare With  
Previous 5 time periods

Metric  
SESSION RESPONSIVENESS

Summarization  
AVG

---

Sort and Order Results

Provide options for sorting and ordering upto 1 options

Sort by  
Time Period


Order  
Ascending

---

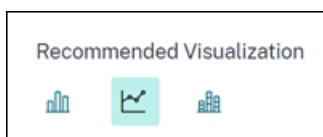
Set Limit(Optional)

Provide the maximum number of records to display on your report. For example: top 5, top 10, or top 20 data.

Enter Limit  
All data

 Discard

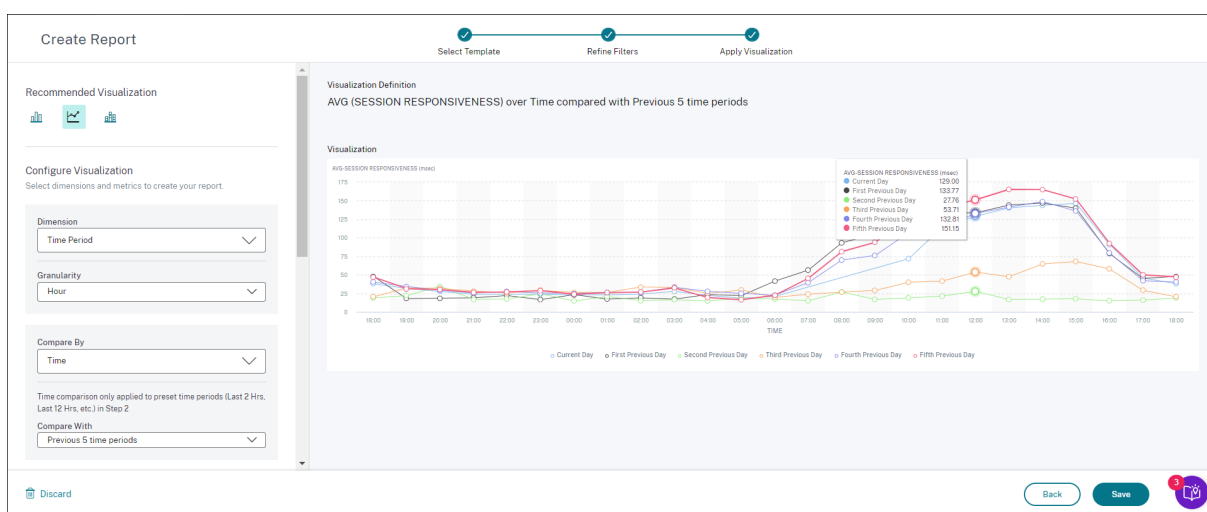
レポートの表示に使用できるビジュアライゼーションのいずれかを選択します。



- 棒グラフ: 高さが値に比例した長方形の縦棒でデータを表示します。イベントの比較に使用されます。
- 折れ線グラフ: 直線セグメントで結ばれたドットでデータを表示します。一定期間のデータ傾向を視覚化するために使用されます。
- 積み上げ縦棒グラフ: データを積み重ねた棒の形式で表示します。同じ期間の複数のデータを視覚化するために使用されます。

6. 次に、次のパラメータを使用してビジュアライゼーションを設定します。

- X軸の寸法、
- プロットの粒度、
- Y軸にプロットするメトリクス
- 指標に適用する平均やカウントなどの要約または集計
- 並べ替えと順序のオプション
- レポートに表示する最大レコード数のオプション制限です。



1. レポートを保存するには、[保存] をクリックします。レポートのタイトルを指定します。
2. 特定の日に、指定した電子メール ID と配布リストにレポートを電子メールで送信するようにスケジュールできます。さらに、これを毎日、毎週、または毎月繰り返すことを選択できます。

**Save Report** [X]

Name your report  
[Text Input] [X]

Schedule email report

Send to  
[Type Or Paste space separated emails] [v]

Set up schedule

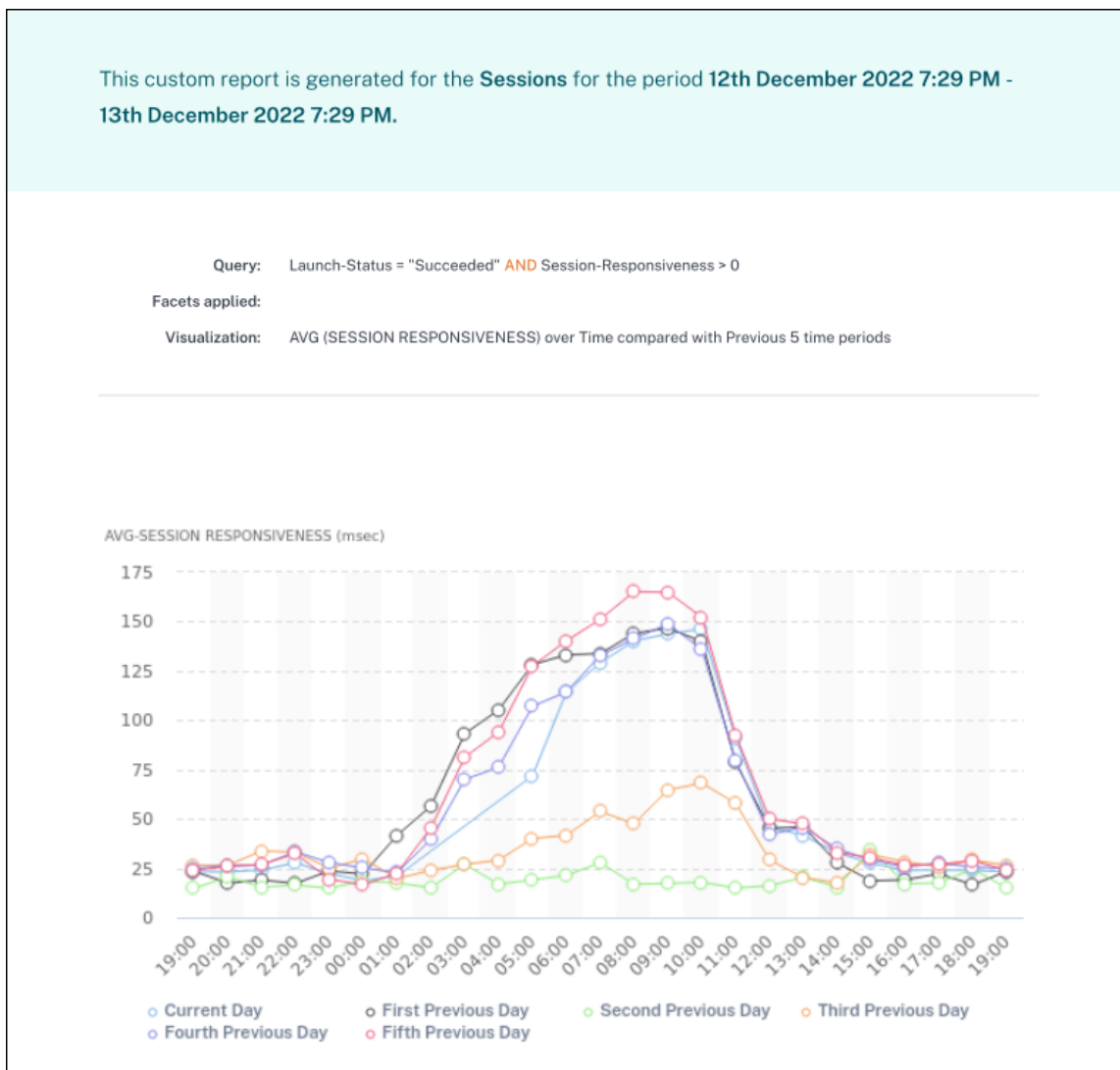
Date [Tuesday, December 13]

Time [7:30 PM] [Asia/Calcutta] [v]

Repeats [Weekly] [v]

[Cancel] [Save] [3] [Icon]

3. レポートを作成して保存すると、[レポート] ページでレポートを表示できます。保存したレポートを変更または削除することもできます。
4. エクスポートアイコンをクリックして、レポートを CSV 形式、PDF 形式、または両方の形式でダウンロードします。



定義済みのテンプレートなしでカスタムレポートを作成することもできます。「テンプレートなしでカスタムレポートを作成」リンクをクリックします。手順に従って、フィルターを定義し、視覚化を適用し、レポートを保存し、スケジュールを設定します。

## Citrix Analytics オファリング

December 7, 2023

### Citrix Analytics for Security

セキュアプライベートアクセス、Citrix Virtual Apps and Desktops、Citrix DaaS サイト、NetScaler Gateway など、顧客の接続されたデータソースから収集されたユーザーとアプリケーションの行動を照合して可視化します。

行動のあらゆる側面を追跡でき、高度な機械学習アルゴリズムを活用することで、通常の行動と悪意のある攻撃者を区別できます。これにより、内部および外部の脅威をプロアクティブに特定して管理できます。

詳細: [Citrix Analytics for Security](#)

## Citrix Analytics for Performance

Citrix Virtual Apps and Desktops Citrix DaaS サイトのハイブリッド展開全体にわたる包括的なエンドツーエンドの可視性を提供します。パフォーマンスはユーザーエクスペリエンススコアによって示されます。ユーザーエクスペリエンススコアは、シトリックスが提供する公開アプリケーション、公開デスクトップ、またはリモート PC を使用したときのユーザーエクスペリエンスを定義する履歴要因とメトリックを定量化したものです。

詳細: [パフォーマンス向け Citrix Analytics](#)

### シトリックスアナリティクス-使用状況（サポート終了）

注

:Citrix Usage Analytics のサポートが終了したため、ユーザーは利用できなくなりました。



© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).